

「甲賀市民の暮らしと地域福祉に関する意識調査」

のまとめ

平成 18 年 6 月

甲 賀 市
甲賀市社会福祉協議会

目 次

【1】調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査方法	1
3 調査票の配布及び回収結果	1
4 調査内容	1
5 集計表の見方	1
【2】集計結果の分析	2
1 回答者の基本的属性	2
1. 性別 【問1】.....	2
2. 年齢 【問2】.....	3
3. 居住している小学校区・旧町別 【問3】.....	5
4. 職業 【問4】.....	10
5. 通勤・通学先 【問5】.....	12
6. 家族構成 【問6】.....	13
7. 居住歴・居住年数 【問7】.....	16
2 暮らしの様子や地域とのかかわりについて.....	18
【問8】あなたは、ご近所で最も親しくしている人と、日頃どの程度のつきあいをされていますか。	18
【問9】あなたが日頃、生活の困りごとについて相談する相手はどなたですか。	20
【問10】あなたは、福祉に関する情報をどこから得ていますか。	23
【問11】あなたは現在、ボランティア活動に参加していますか。	26
【問12】問11でボランティア活動に「参加している」と答えた方にお聞きます。それはどのような活動ですか。活動の内容を具体的にお書きください。	28
【問13】問11で「参加している」と答えた方にお聞きます。あなたが、ボランティア活動に参加している理由として、自分の気持ちに近いと思うものすべてに○をつけてください。	29
【問14】問11でボランティア活動に「参加していない」と答えた方にお聞きます。あなたが、ボランティア活動に参加していない理由として、あてはまるものすべてに○をつけてください。	31
【問15】今後、ボランティア活動をさらに発展させるために、どのような基盤整備や活動が必要だと思いませんか。あてはまるものすべてに○をつけてください。	33

3 暮らしの課題や福祉ニーズとその対応について.....	35
【問16】あなたのお住まいの身近な地域で、次の課題について、日頃から何とかしなければなら ないと思っていますか。.....	35
【問17】あなたは、お住まいの小学校区の生活環境をどのようにお考えですか。.....	37
【問18】あなたは、地域活動への男性や女性の参加をどのようにお考えですか。.....	40
【問19】あなたは、地域において住民自身が福祉活動を推進していくにはどのようにすればよいと思 いますか。.....	41
【問20】今後、甲賀市が重点を置くべき福祉施策について、次の中からあてはまるものすべてに○ をつけてください。.....	43
4 社会福祉協議会について.....	45
【問21】あなたは、社会福祉協議会をご存知ですか。.....	45
【問22】問21で「知っている」「聞いたことはある」と答えた方におたずねします。それはどのような事 業、活動ですか。.....	47
【問23】あなたは社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。.....	50
【問24】今後、甲賀市を住みよいまちにしていくためには、どのようなことに取り組む必要があると思 いますか。あなたのご意見やご要望について、ご自由にお書きください。(自由記入).....	52
1. 自由記入の整理.....	52
2. キーワード検索による記入内容の整理.....	53
3. 意見・要望からみる課題.....	54
【 補 論 】	
補論1 開発地域に着目した分析.....	57
補論2 子育て家庭に着目した分析.....	77
補論3 団塊の世代に着目した分析.....	97
【 資 料 】	
アンケート票.....	121

【1】調査の概要

1 調査の目的

平成18年度「甲賀市地域福祉(活動)計画」を策定するにあたり、市民の暮らしや地域福祉に関する考えや意見を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的に調査を実施。

2 調査方法

- | | |
|------------|--------------------------------------|
| (1) 調査対象者 | 20歳以上の甲賀市民
(住民基本台帳に記載されている外国人を含む) |
| (2) 標本数 | 5,000 |
| (3) 抽出方法 | 住民基本台帳から等間隔に無作為抽出 |
| (4) 調査区域 | 甲賀市全域 |
| (5) 調査方法 | 郵送方式(料金受取人払いの返信用封筒を添えて郵送) |
| (6) 調査期間 | 平成17年12月1日～平成17年12月15日 |
| (7) 調査票の様式 | A4版 8ページ 中折 全24問 |

3 調査票の配布及び回収結果

- | | |
|------------|------------------------|
| (1) 調査票配布数 | 5,000件 |
| (2) 調査票回収数 | 2,018件 (うち12件は無効票) |
| (3) 有効回収数 | 2,006件 |
| (4) 有効回収率 | 40.1% |
| (5) 無効票の基準 | 無回答のもの、回答の割合が半数に満たないもの |

4 調査内容

- (1) 回答者の基本的属性
- (2) 暮らしの様子や地域とのかかわりについて
- (3) 暮らしの課題や福祉ニーズとその対応について
- (4) 社会福祉協議会について
- (5) 住みよいまちにしていくための意見・要望(自由記述)

5 集計表の見方

- (1) 集計表は、件数と全サンプル数に対する割合(%)を表示している。割合は「全体」と「除不」の二つを表示しているが、「全体」は無回答分を含む割合で、「除不」は無回答分を除いた割合である。
- (2) 標記「SA」は Single Answer(単回答)の略称であり、設問に対して単一の回答であることを示している。標記「MA」は Multiple Answer(複数回答)の略称であり、設問に対して一つ以上の回答であることを示している。

【2】集計結果の分析

1 回答者の基本的属性

1. 性別

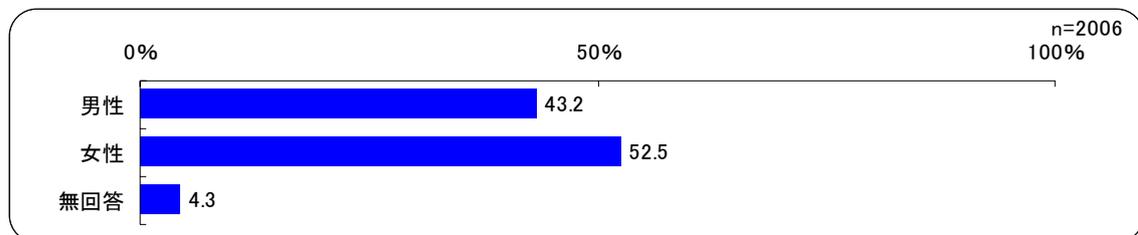
- 回答者の性別は、「男性」は866件(43.2%)、「女性」は1054件(52.5%)で、男性よりも女性の回答が多くなっている。無回答は86件(4.3%)となっている。
- 住民基本台帳人口と比較して、構成比に大きな差は見られない。したがって、本調査は、性別の点から見て市の代表的な意見を示していると考えられる。

問1 性別(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	市人口(20歳以上)	
					実数	%
1	男性	866	43.2	45.1	36,833	49.0
2	女性	1054	52.5	54.9	38,337	51.0
	無回答	86	4.3		-	-
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0		75,170	100.0

住民基本台帳人口(平成17年12月31日現在)

問1 性別



2. 年齢

- 年齢別人口は、5歳階級別で調査したが、これを「40歳未満」(若年層)、「40～64歳」(中年層)、「65～74歳」(前期高齢者層)、「75歳以上」(後期高齢者層)の4区分に再分類し、年齢4区分を分析の基本区分として用いている。
- 回答者の年齢区分は、「40～64歳」(47.1%)が半数近くを占め、次いで「40歳未満」(20.8%)、「65～74歳」(18.4%)、「75歳以上」(13.1%)の順になっている。
- 男女ともに「40～64歳」の中年層の回答が最も高く、約半数を占めている。
- 年齢構成割合を住民基本台帳人口と比較すると、「40歳未満」は回答比率が低く、「40～64歳」と「65歳以上」は高くなっている。このことから、本調査は回答者の年齢構成に偏差があり、調査結果にも反映しているといえる。

問2 年齢(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	市人口(20歳以上)	
					実数	%
1	20～24歳	72	3.6	3.6	6,076	8.1
2	25～29歳	100	5.0	5.0	6,163	8.2
3	30～34歳	118	5.9	5.9	7,055	9.4
4	35～39歳	128	6.4	6.4	5,838	7.8
5	40～44歳	166	8.3	8.3	6,098	8.1
6	45～49歳	164	8.2	8.2	6,100	8.1
7	50～54歳	189	9.4	9.5	6,474	8.6
8	55～59歳	227	11.3	11.4	7,316	9.7
9	60～64歳	199	9.9	10.0	5,396	7.2
10	65～69歳	187	9.3	9.4	4,844	6.4
11	70～74歳	183	9.1	9.2	4,767	6.3
12	75～79歳	134	6.7	6.7	4,165	5.5
13	80～84歳	73	3.6	3.7	2,635	3.5
14	85歳以上	55	2.7	2.8	2,243	3.0
	無回答	11	0.5		-	-
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0		75,170	100.0

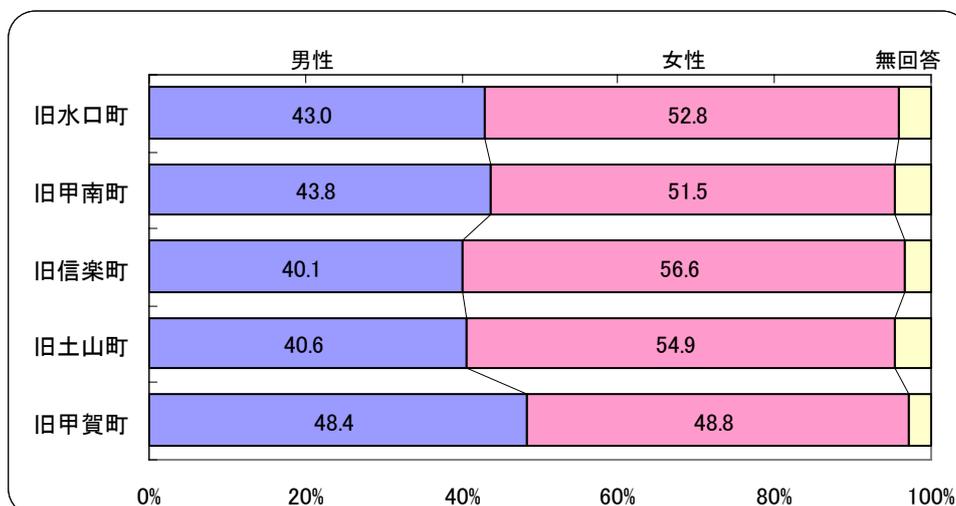
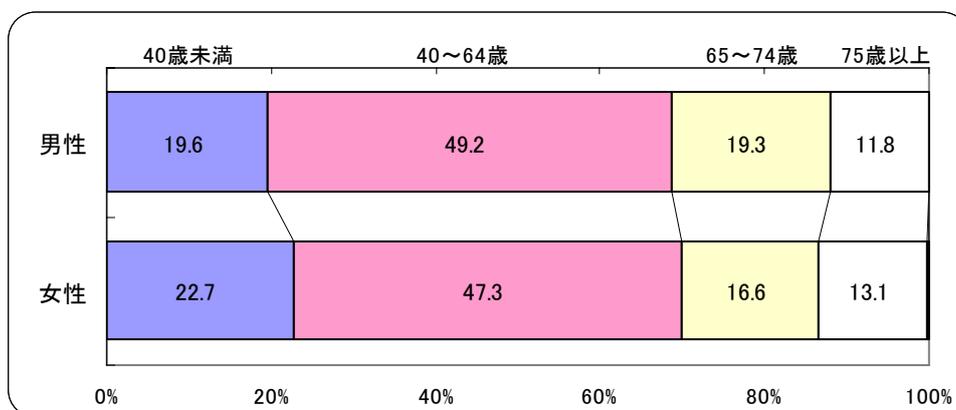
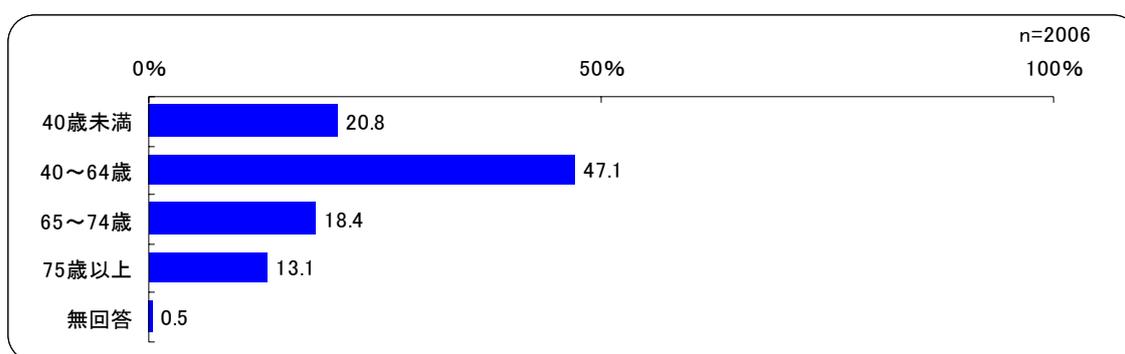
住民基本台帳人口(平成17年12月31日現在)

問2 年齢4区分(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	市人口(20歳以上)	
					実数	%
1	40歳未満(若年層)	418	20.8	21.0	25,132	33.4
2	40～64歳(中年層)	945	47.1	47.4	31,384	41.8
3	65～74歳(前期高齢者層)	370	18.4	18.5	9,611	12.8
4	75歳以上(後期高齢者層)	262	13.1	13.1	9,043	12.0
	無回答	11	0.5		-	-
サンプル数(%ベース)		2006	100.0		75,170	100.0

住民基本台帳人口(平成17年12月31日現在)

問2 年齢4区分



3. 居住している小学校区・旧町別

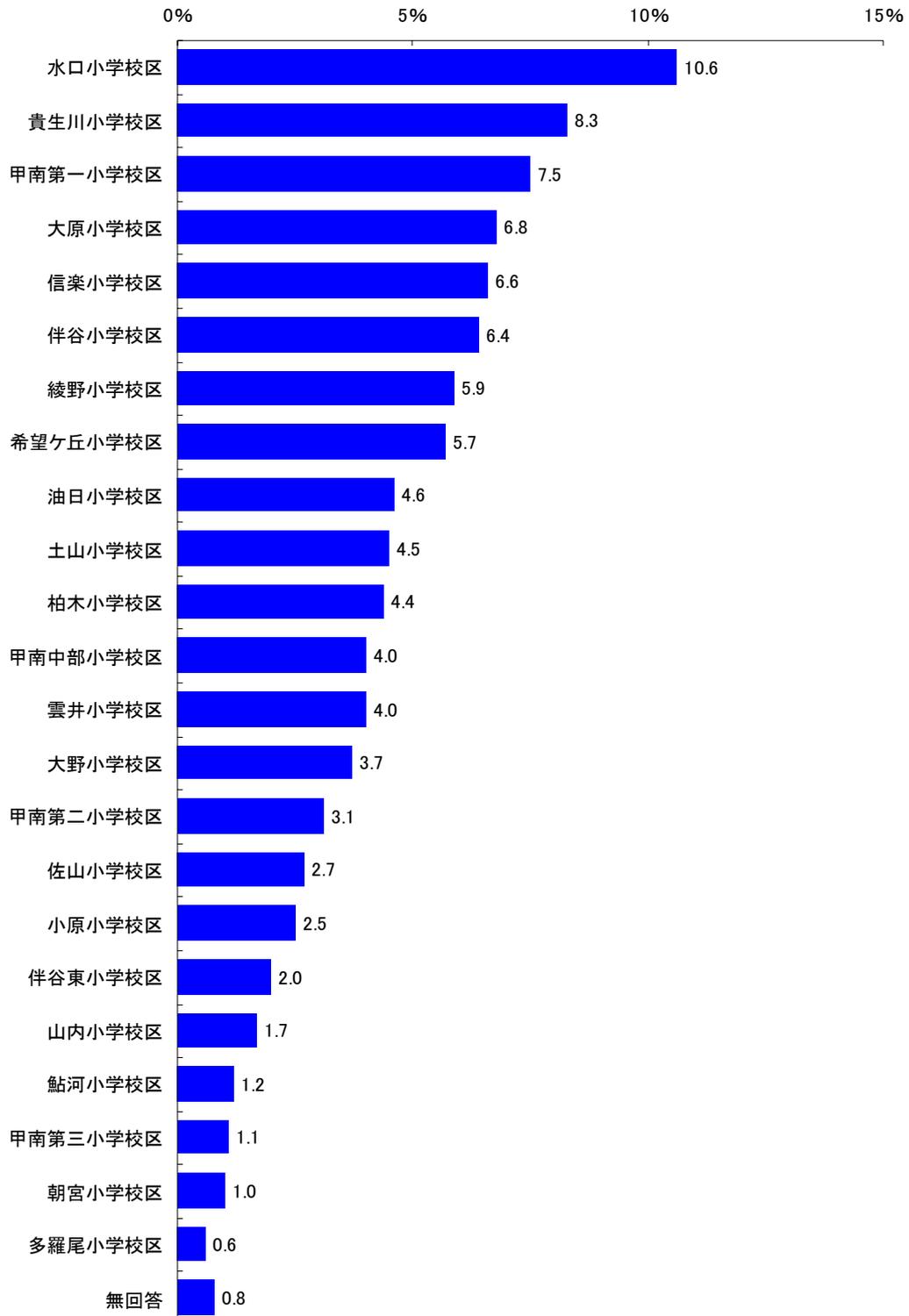
- ・ 回答者の居住地を23の小学校区別にみると、最も回答数の多い小学校区は「水口小学校区」(10.6%)であり、最も少ない小学校区は「多羅尾小学校区」(0.6%)となっている。
- ・ 小学校区を旧町別に再区分すると、「旧水口町」は37.6%、「旧甲南町」は21.4%、「旧信楽町」は14.8%、「旧土山町」は11.2%、「旧甲賀町」は14.2%であり、「旧水口町」の回答割合が最も高くなっている。
- ・ 65歳以上の構成割合をみると、「旧水口町」は28.5%、「旧甲南町」は30.1%、「旧信楽町」は31.3%、「旧土山町」は37.1%、「旧甲賀町」は37.9%となっており、「旧甲賀町」が最も高くなっている。
- ・ 旧町別人口と住民基本台帳人口の構成割合を比較すると、両者に大きな差はみられない。したがって、本調査は旧5町の代表的な意見を示していると考えられる。

問3 居住している小学校区(SA)

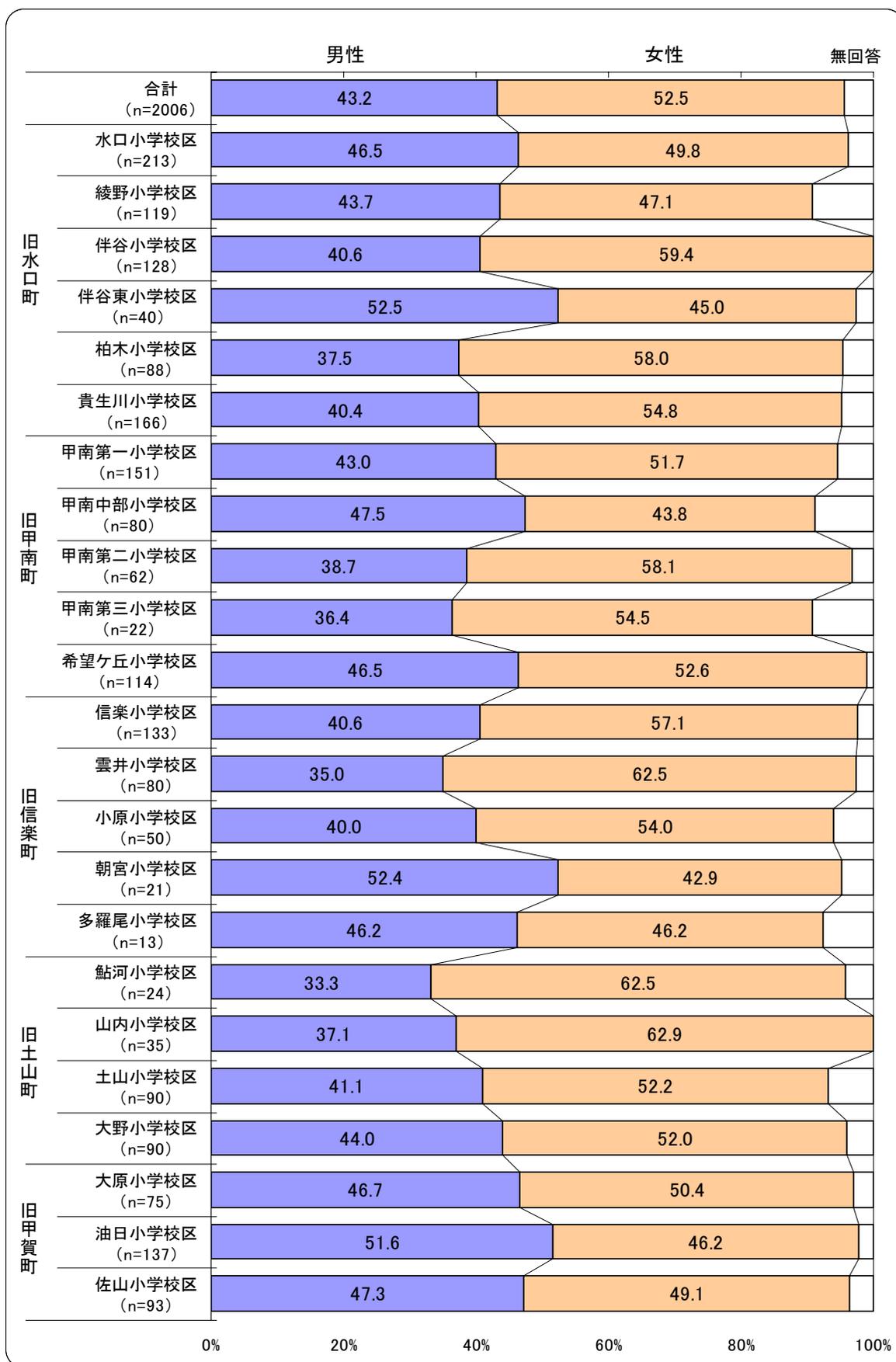
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	水口小学校区	213	10.6	10.7
2	綾野小学校区	119	5.9	6.0
3	伴谷小学校区	128	6.4	6.4
4	伴谷東小学校区	40	2.0	2.0
5	柏木小学校区	88	4.4	4.4
6	貴生川小学校区	166	8.3	8.3
7	甲南第一小学校区	151	7.5	7.6
8	甲南中部小学校区	80	4.0	4.0
9	甲南第二小学校区	62	3.1	3.1
10	甲南第三小学校区	22	1.1	1.1
11	希望ヶ丘小学校区	114	5.7	5.7
12	信楽小学校区	133	6.6	6.7
13	雲井小学校区	80	4.0	4
14	小原小学校区	50	2.5	2.5
15	朝宮小学校区	21	1.0	1.1
16	多羅尾小学校区	13	0.6	0.7
17	鮎河小学校区	24	1.2	1.2
18	山内小学校区	35	1.7	1.8
19	土山小学校区	90	4.5	4.5
20	大野小学校区	75	3.7	3.8
21	大原小学校区	137	6.8	6.9
22	油日小学校区	93	4.6	4.7
23	佐山小学校区	55	2.7	2.8
	無回答	17	0.8	
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0	

問3 居住している小学校区

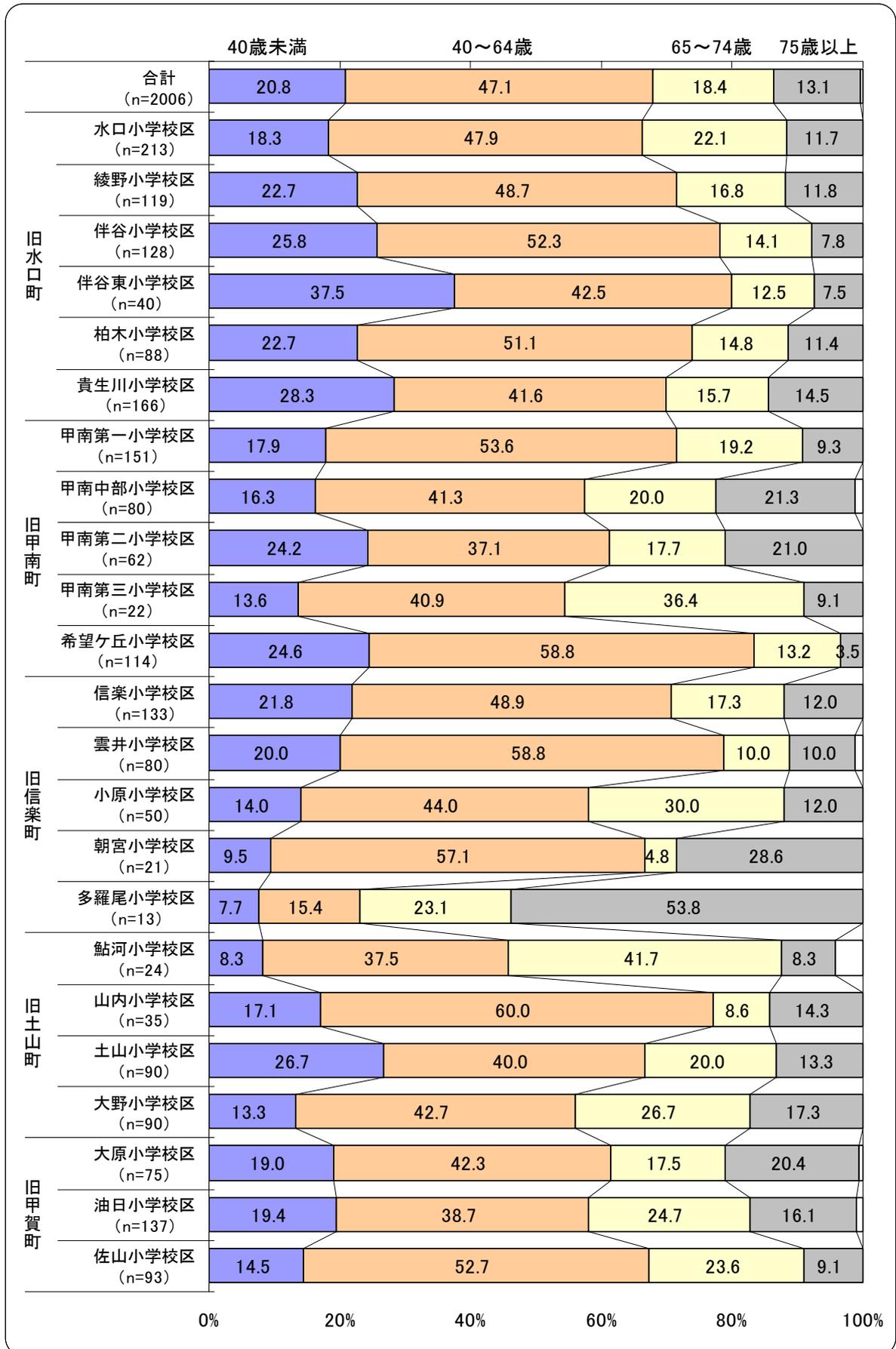
n=2006



性別



年齢4区分別

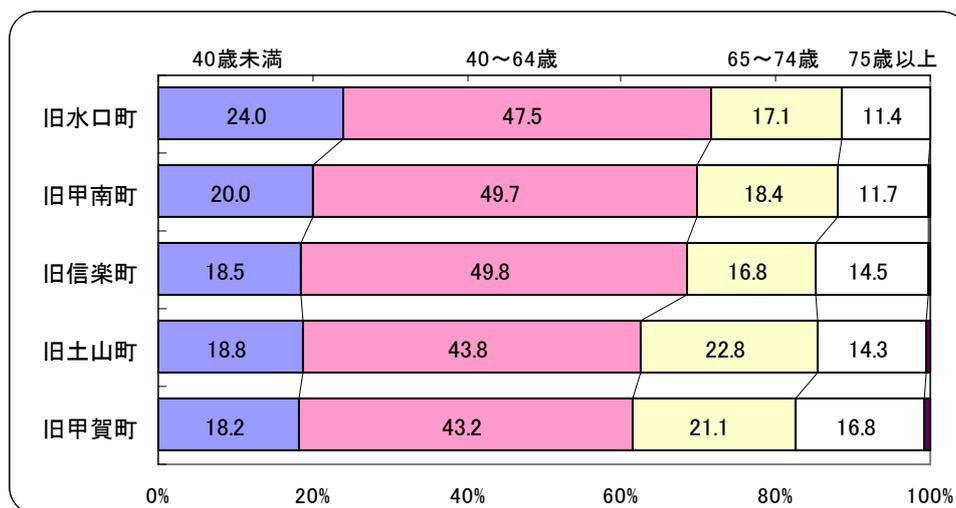
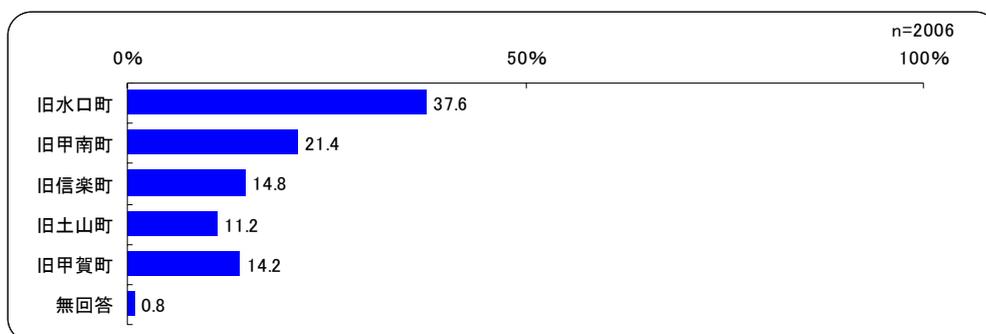


問3 旧5町(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	市人口(20歳以上)	
					実数	%
1	旧水口町	754	37.6	37.9	29,126	40.0
2	旧甲南町	429	21.4	21.6	15,848	21.8
3	旧信楽町	297	14.8	14.9	11,232	15.4
4	旧土山町	224	11.2	11.3	7,210	9.9
5	旧甲賀町	285	14.2	14.3	9,383	12.9
	無回答	17	0.8		-	-
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0		72,799	100.0

住民基本台帳人口(平成17年12月31日現在)

問3 旧5町



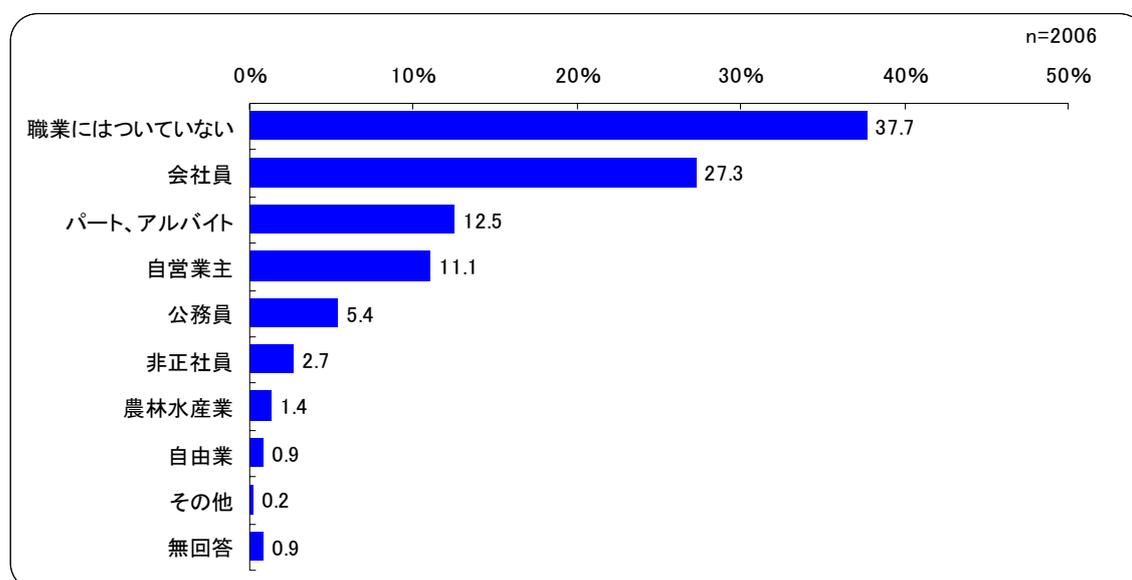
4. 職業

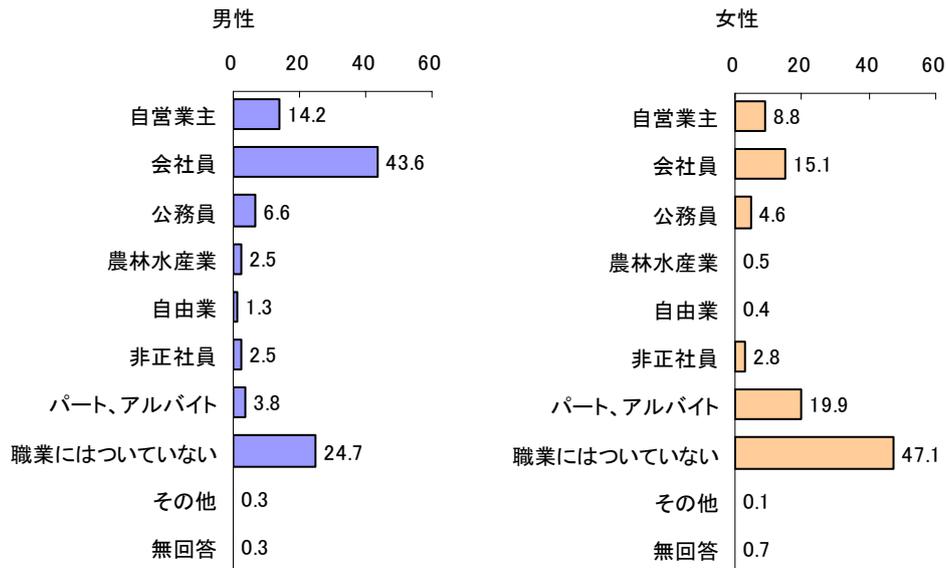
- 回答者の主な職業は、「職業にはついていない」(37.7%)が最も高く、次いで「会社員(民間の勤め人・団体の勤め人)」(27.3%)、「パート、アルバイト」(12.5%)の順になっている。
- 性別では、男性は「会社員」(43.6%)が最も高く、女性は「職業にはついていない」(47.1%)が最も高くなっている。
- 旧町別では、すべての町において「職業にはついていない」、「会社員」の順に高くなっている。
- 「職業にはついていない」に回答した756件をみると、「無職」52.5%、「家事」43.7%、「学生」3.0%となっている。
- 「職業にはついていない」の区分をみると、男性は「無職」(88.3%)、女性は「家事」(61.7%)が高くなっている。

問4 主な職業(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	自営業主(商店主、工場主、農業経営主など)および家族従事者	222	11.1	11.2
2	会社員(民間の企業・団体の勤め人)	548	27.3	27.6
3	公務員	108	5.4	5.4
4	農林水産業	28	1.4	1.4
5	自由業(開業医、弁護士、著述業など)	18	0.9	0.9
6	非正社員(派遣社員、契約社員など)	54	2.7	2.7
7	パート、アルバイト	250	12.5	12.6
8	職業にはついていない	756	37.7	38.0
9	その他	4	0.2	0.2
	無回答	18	0.9	
サンプル数(%ベース)		2006	100.0	

問4 主な職業

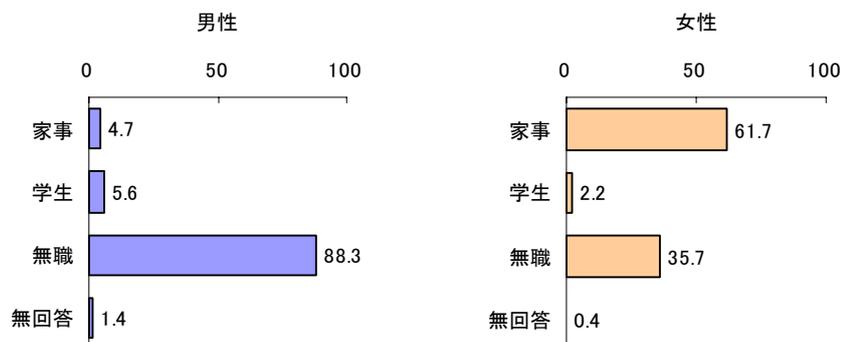
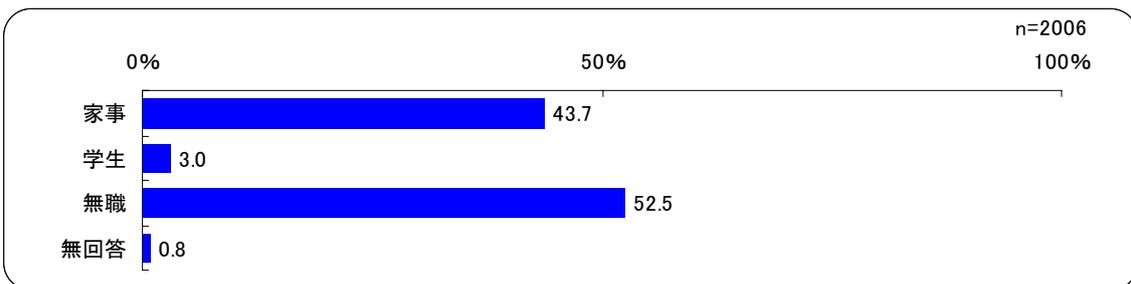




問 4-8 職業についていない人 (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	家事	330	43.7	44.0
2	学生	23	3.0	3.1
3	無職	397	52.5	52.9
	無回答	6	0.8	
	サンプル数 (%ベース)	756	100.0	

問 4-8 職業についていない人



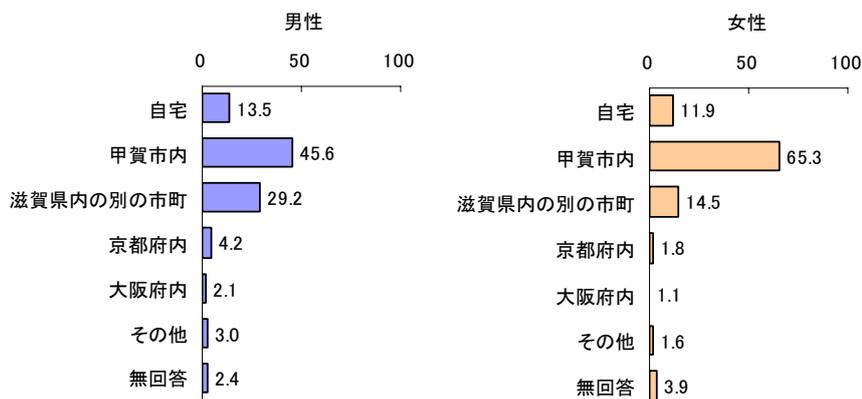
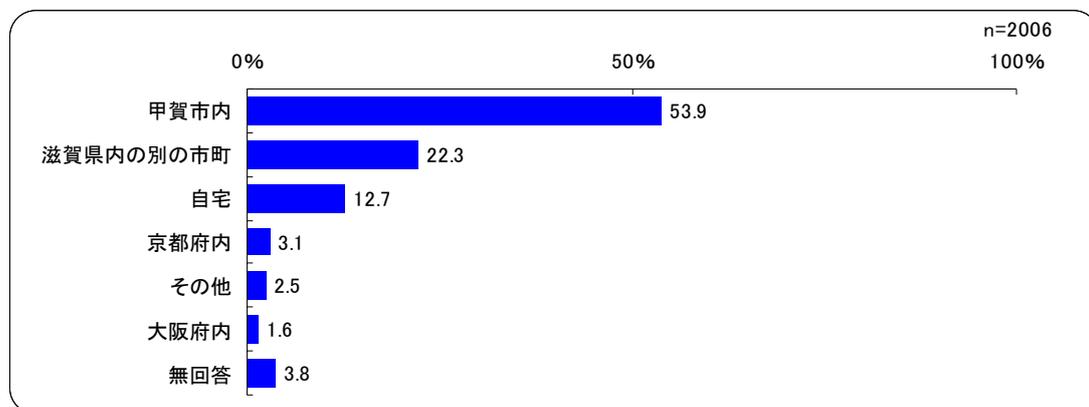
5. 通勤・通学先

- ・ 職業にはついていない人を除く回答者1,279件の主な通勤・通学先をみると、「甲賀市内」(53.9%)が最も高く、次いで「滋賀県内の別の市町」(22.3%)、「自宅」(12.7%)の順になっている。「甲賀市内」と「自宅」を合わせると66.6%になり、地元での勤務・通学が多い。
- ・ 「京都府内」や「大阪府内」の割合は低く、「その他」は、三重県、奈良県などがある。
- ・ 性別では、男性は半数近くが「甲賀市内」、約3割は「滋賀県内の別の市町」に通勤している。女性は6割以上が「甲賀市内」に通勤している。
- ・ 旧町別に見ても、市全体と同様の傾向となっている。

問5 主な通勤・通学先(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	自宅	163	12.7	13.3
2	甲賀市内	690	53.9	56.1
3	滋賀県内の別の市町	285	22.3	23.2
4	京都府内	40	3.1	3.3
5	大阪府内	20	1.6	1.6
6	その他	32	2.5	2.6
	無回答	49	3.8	
サンプル数(%ベース)		1279	100.0	

問5 主な通勤・通学先



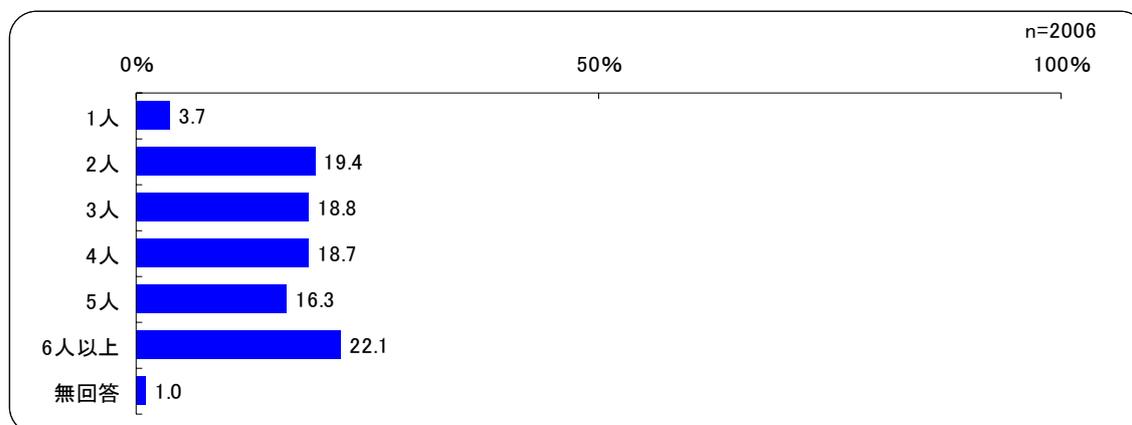
6. 家族構成

- 一緒に住んでいる家族の人数は、「6人以上」(22.1%)が最も高く、次いで「2人」(19.4%)、「3人」(18.8%)、「4人」(18.7%)の順になっている。「1人」は74人(3.7%)と比較的低い割合であるといえる。
- 一緒に住んでいる家族の構成をみると、約6割は「65歳以上の高齢者がいる家族」であり、「小学生～高校生がいる家族」は28.0%、「就学前の児童がいる家族」は14.2%となっている。高齢者のいる家族のうち、「一人暮らし高齢者」は28人(1.4%)となっている。
- 性別では、家族構成に大きな差はみられない。
- 旧町別に「65歳以上の高齢者がいる」の回答をみると、すべての町で5割以上となっている。旧甲賀町は72.6%、旧土山町は67.9%と高い割合になっている。
- 一人暮らし高齢者の基本的属性をみると、性別は、男性28.6%、女性64.3%で女性の方が多くなっている。年齢別では、65～74歳は67.9%で、75歳以上の32.1%よりも多くなっている。

問6 家族の人数(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	1人	74	3.7	3.7
2	2人	389	19.4	19.6
3	3人	378	18.8	19.0
4	4人	375	18.7	18.9
5	5人	326	16.3	16.4
6	6人以上	444	22.1	22.4
	無回答	20	1.0	
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0	

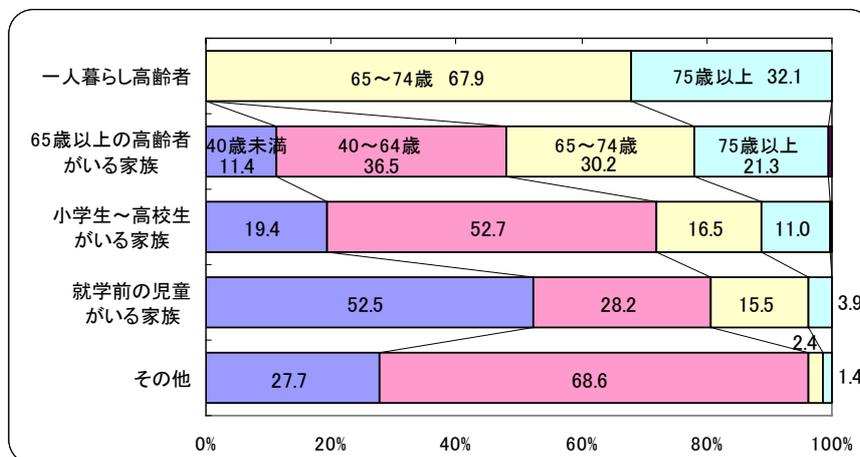
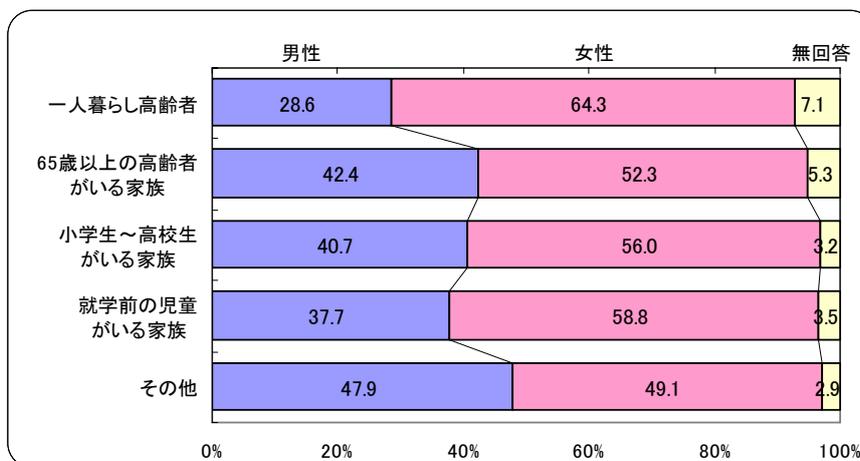
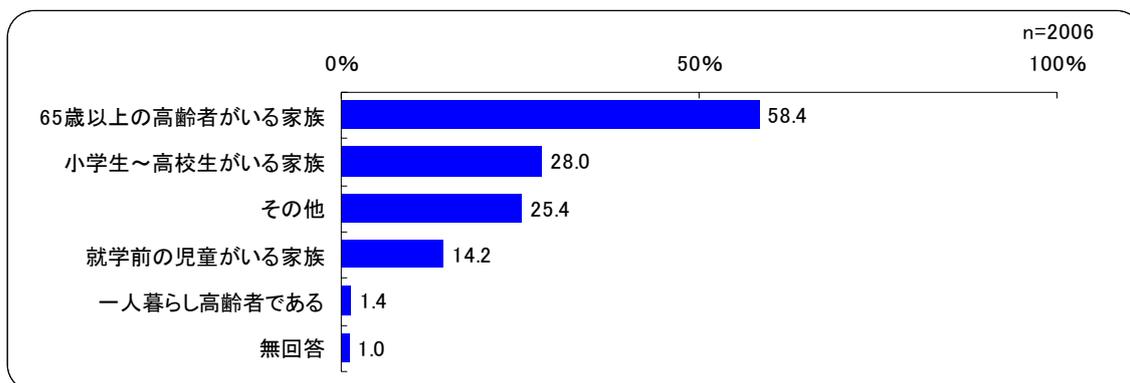
問6 家族の人数

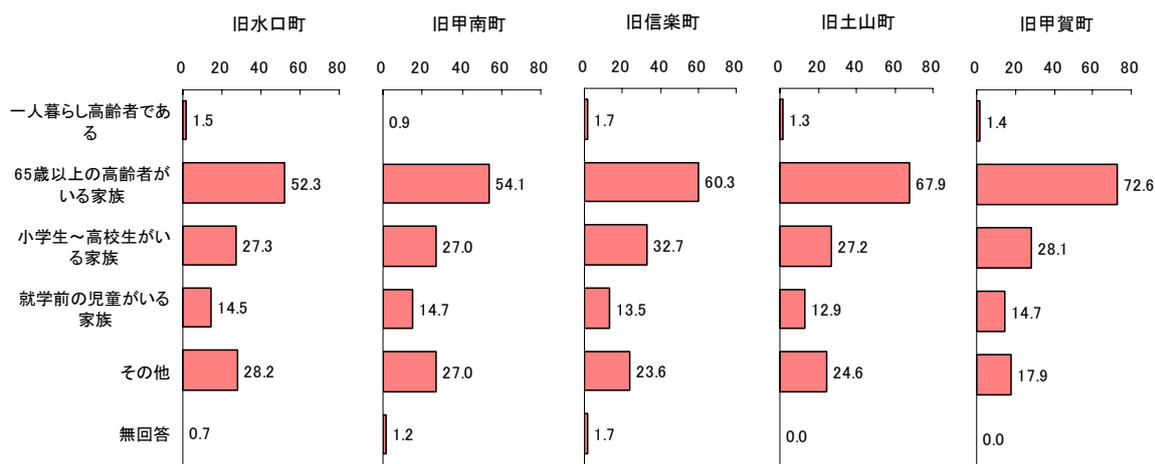


問6 家族構成(MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	一人暮らし高齢者である	28	1.4	1.4
2	65歳以上の高齢者がいる家族	1171	58.4	59.0
3	小学生～高校生がいる家族	562	28.0	28.3
4	就学前の児童がいる家族	284	14.2	14.3
5	その他	509	25.4	25.6
	無回答	21	1.0	
サンプル数(%ベース)		2006	100.0	

問6 家族構成





高齢者のいる家族について

一人暮らし高齢者比率 人口統計との比較

全国	13.8%
滋賀県	9.1%
甲賀市	6.2%
本調査	4.4%

資料:国勢調査平成12年

本調査の一人暮らし高齢者比率*1は4.4%となっている。人口統計と比較すると、甲賀市の一人暮らし高齢者比率は全国、県よりも低く、本調査はさらに低い割合になっている。

*1 = 65歳以上単身世帯人員 / 65歳以上人口

高齢者のいる家族の比率 人口統計との比較

全国	32.2%
滋賀県	33.7%
甲賀市	40.9%
本調査	58.4%

資料:国勢調査平成12年

本調査の高齢者のいる家族の比率*2は58.4%となっている。人口統計と比較すると、甲賀市の高齢者のいる家族の比率は全国、県よりも高く、本調査はさらに高い割合になっている。

*2 = 高齢者のいる世帯 / 一般世帯数

7. 居住歴・居住年数

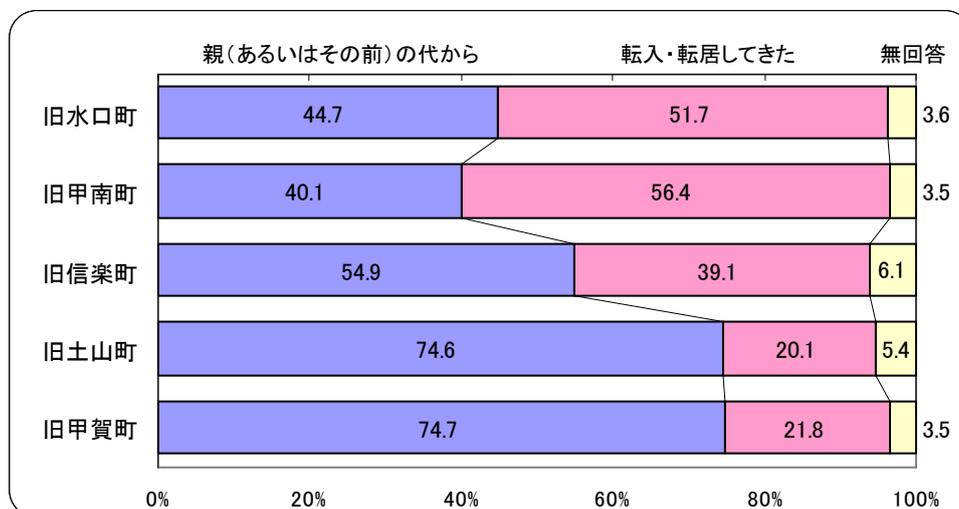
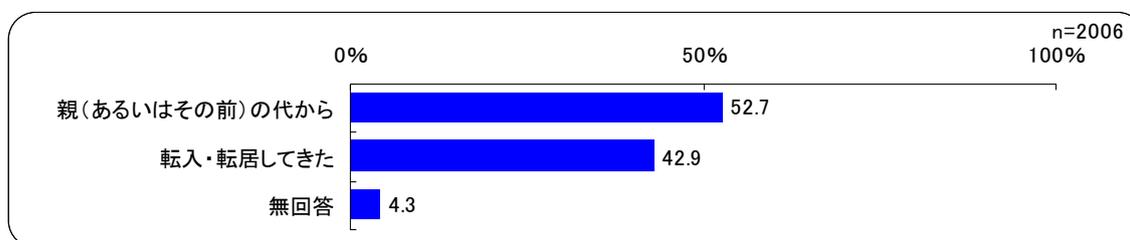
7-1 居住歴

- 現在の住まいについて、「現在の居住地にはいつからお住まいですか」の設問では、「親(あるいはその前)の代から」は52.7%、「転入・転居してきた」は42.9%となっており、「親の代から」が過半数を占めている。
- 年齢別にみると、40歳未満は「転入・転居してきた」がやや多く、40歳以上は「親の代から」が多くなっている。
- 旧町別では、旧水口町と旧甲南町は「転入・転居してきた」が多く、旧信楽町、旧土山町、旧甲賀町は「親の代から」が多くなっている。中でも旧土山町と旧甲賀町は約75%と高い割合になっている。

問 7-1 居住歴(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	親(あるいはその前)の代から	1058	52.7	55.1
2	転入・転居してきた	861	42.9	44.9
	無回答	87	4.3	
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0	

問 7-1 居住歴



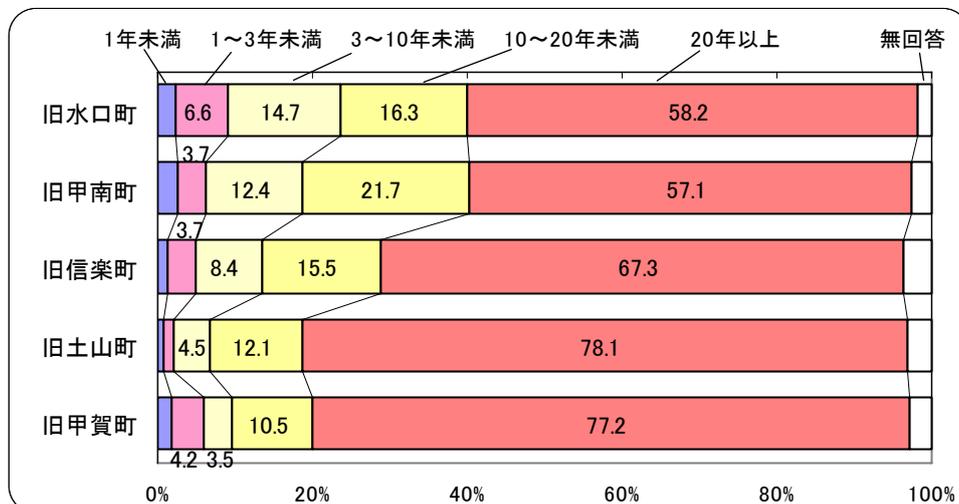
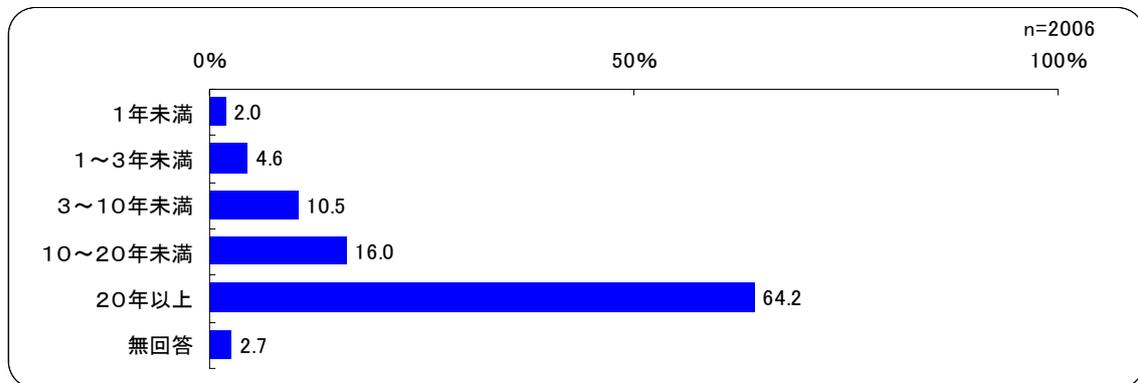
7-2 居住年数

- ・ 居住年数の設問では、64.2%が「20年以上」住んでいると回答し、次いで「10～20年未満」は16.0%、3年未満は6.6%となっている。回答者の約8割が甲賀市に10年以上住んでいる。
- ・ 旧町別に居住年数をみると、すべての町において「20年以上」が過半数を占めている。なかでも旧土山町と旧甲賀町では、「20年以上」の回答が8割近くあり、古くから住んでいる人が多い町であるといえる。

問 7-2 居住年数(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	1年未満	40	2.0	2.1
2	1～3年未満	92	4.6	4.7
3	3～10年未満	210	10.5	10.8
4	10～20年未満	321	16.0	16.5
5	20年以上	1288	64.2	66.0
	無回答	55	2.7	
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0	

問 7-2 居住年数



2 暮らしの様子や地域とのかかわりについて

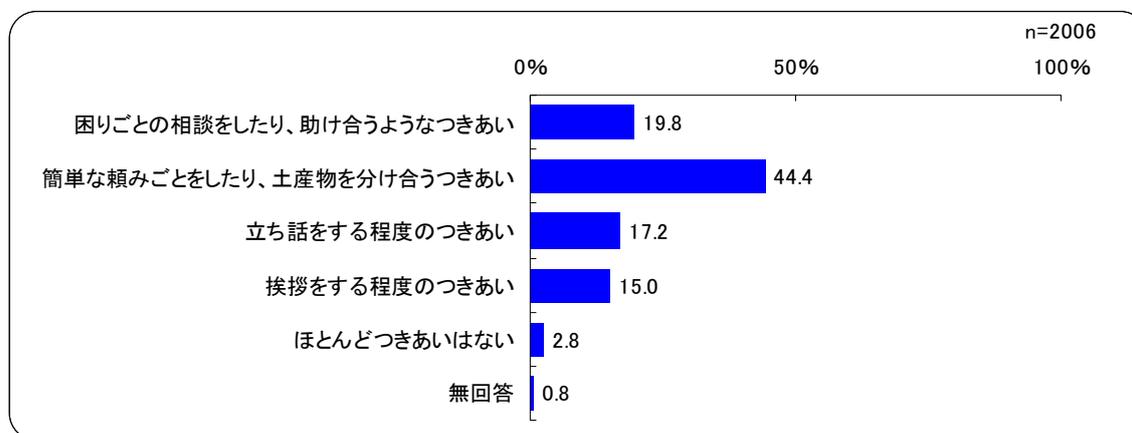
【問8】あなたは、ご近所で最も親しくしている人と、日頃の程度のつきあいをされていますか。

- ・「簡単な頼みごとをしたり、土産物を分け合うつきあい」(44.4%)が最も高く、次いで「困りごとの相談をしたり、助け合うようなつきあい」(19.8%)が高くなっている。
- ・性別にみると、最も高い回答は、男女ともに「簡単な頼みごとをしたり、土産物を分け合うつきあい」であるが、次に高い回答は、男性は「挨拶をする程度のつきあい」(18.1%)、女性は「困りごとの相談をしたり、助け合うようなつきあい」(21.9%)となっており、女性のほうが近所づきあいの程度が高いといえる。
- ・年齢別にみると、40歳以上の年齢層は「簡単な頼みごとをしたり、土産物を分け合うつきあい」が最も高くなっているが、40歳未満では、「挨拶をする程度のつきあい」が最も高くなっている。若い年齢層ほど近所づきあいの程度は低い傾向にあると考えられる。
- ・旧町別にみると、すべての町において「簡単な頼みごとをしたり、土産物を分け合うつきあい」が最も高くなっている。5町の中で旧土山町は、「困りごとの相談をしたり、助け合うようなつきあい」の回答が3割近くあり、他の町よりも近所付き合いが濃いことが伺える。
- ・「ほとんどつきあいはない」の回答は2.8%に留まっており、40歳未満が多くなっている。

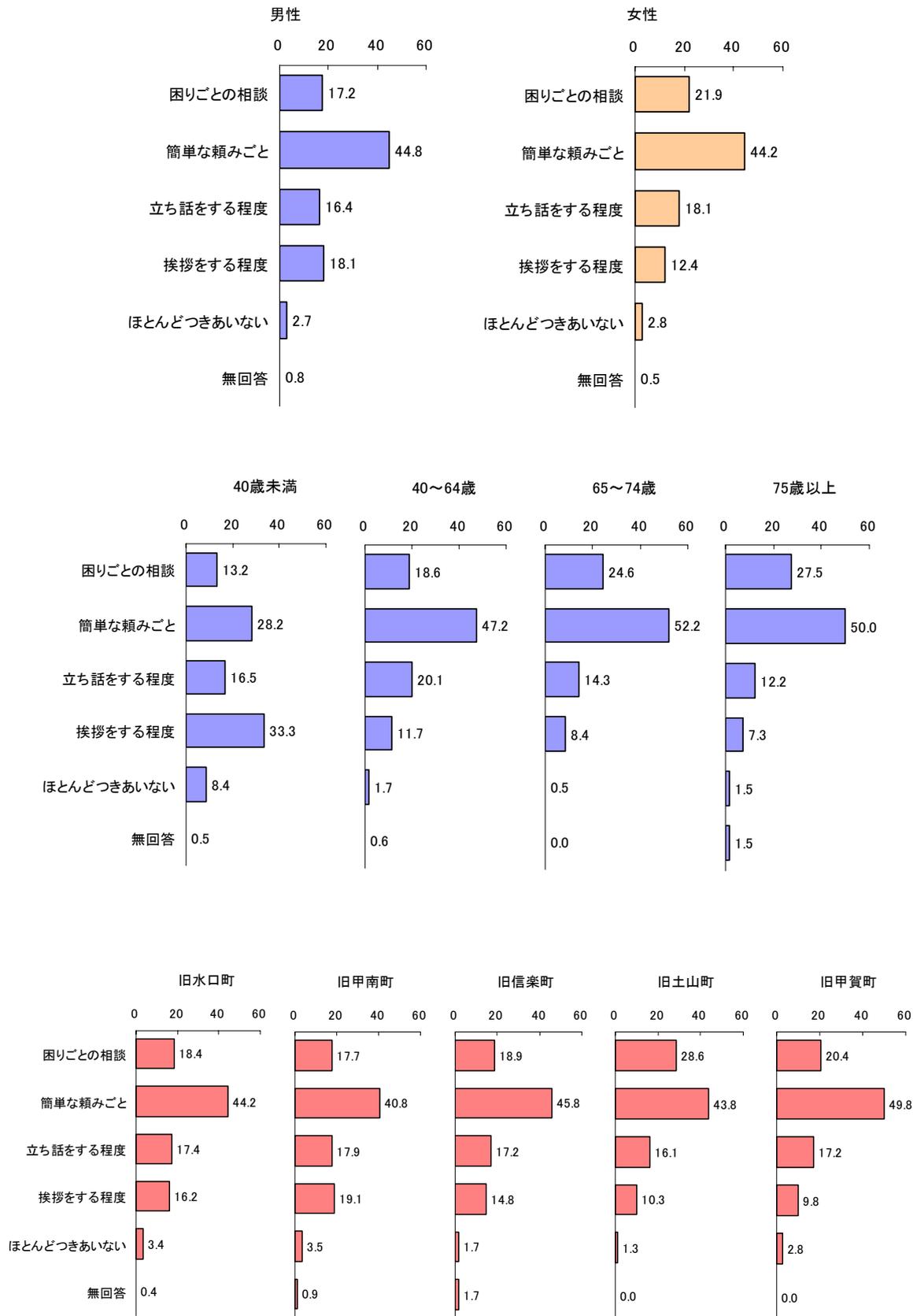
問8 近所づきあいの程度(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	困りごとの相談をしたり、助け合うようなつきあい	397	19.8	20.0
2	簡単な頼みごとをしたり、土産物を分け合うつきあい	890	44.4	44.7
3	立ち話をする程度のつきあい	345	17.2	17.3
4	挨拶をする程度のつきあい	300	15.0	15.1
5	ほとんどつきあいはない	57	2.8	2.9
	無回答	17	0.8	
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0	

問8 近所づきあいの程度



【 性・年代・旧町別 近所づきあいの程度 】



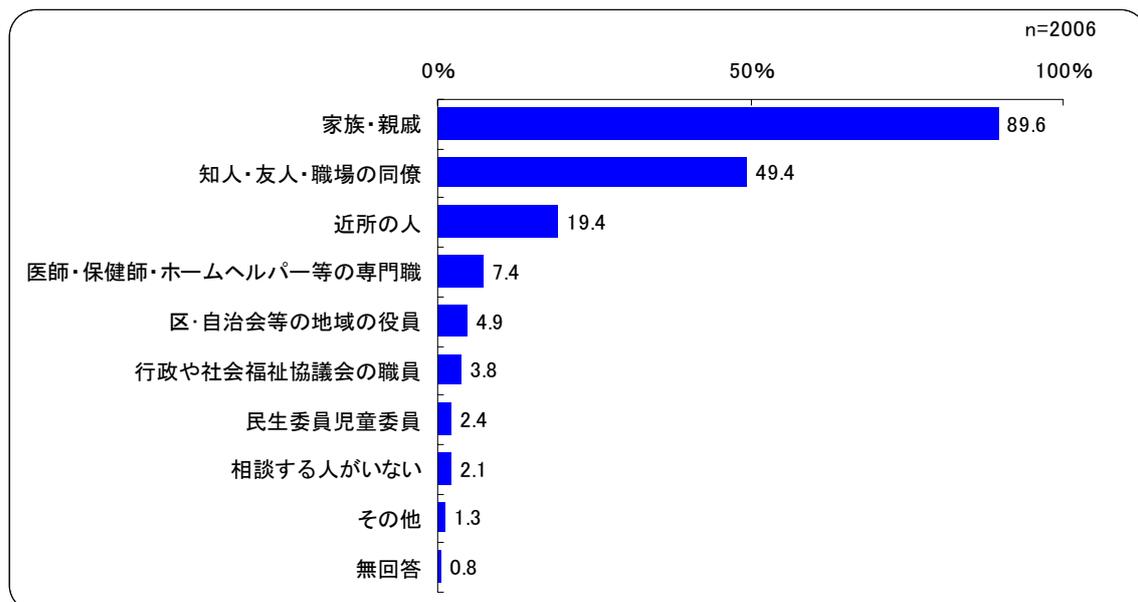
【問9】あなたが日頃、生活の困りごとについて相談する相手はどなたですか。

- ・日頃の生活の困りごとについて相談する相手は、「家族・親戚」(89.6%)が最も高く、次いで「知人・友人・職場の同僚」(49.4%)、「近所の人」(19.4%)の順になっている。
- ・「相談する人がいない」の回答は42件あり、全体の2.1%となっている。
- ・「相談する人がいない」の回答の基本的属性をみると、性別は男性、年齢は40～64歳、職業は会社員が最も多くなっている。また、家族構成は65歳以上の高齢者がいる家族が最も多く(45.2%)、近所づきあいの程度は挨拶をする程度と立ち話をする程度が多くなっている。
- ・今回の調査では、「相談する人がいない」に回答をした一人暮らし高齢者は1人であった。

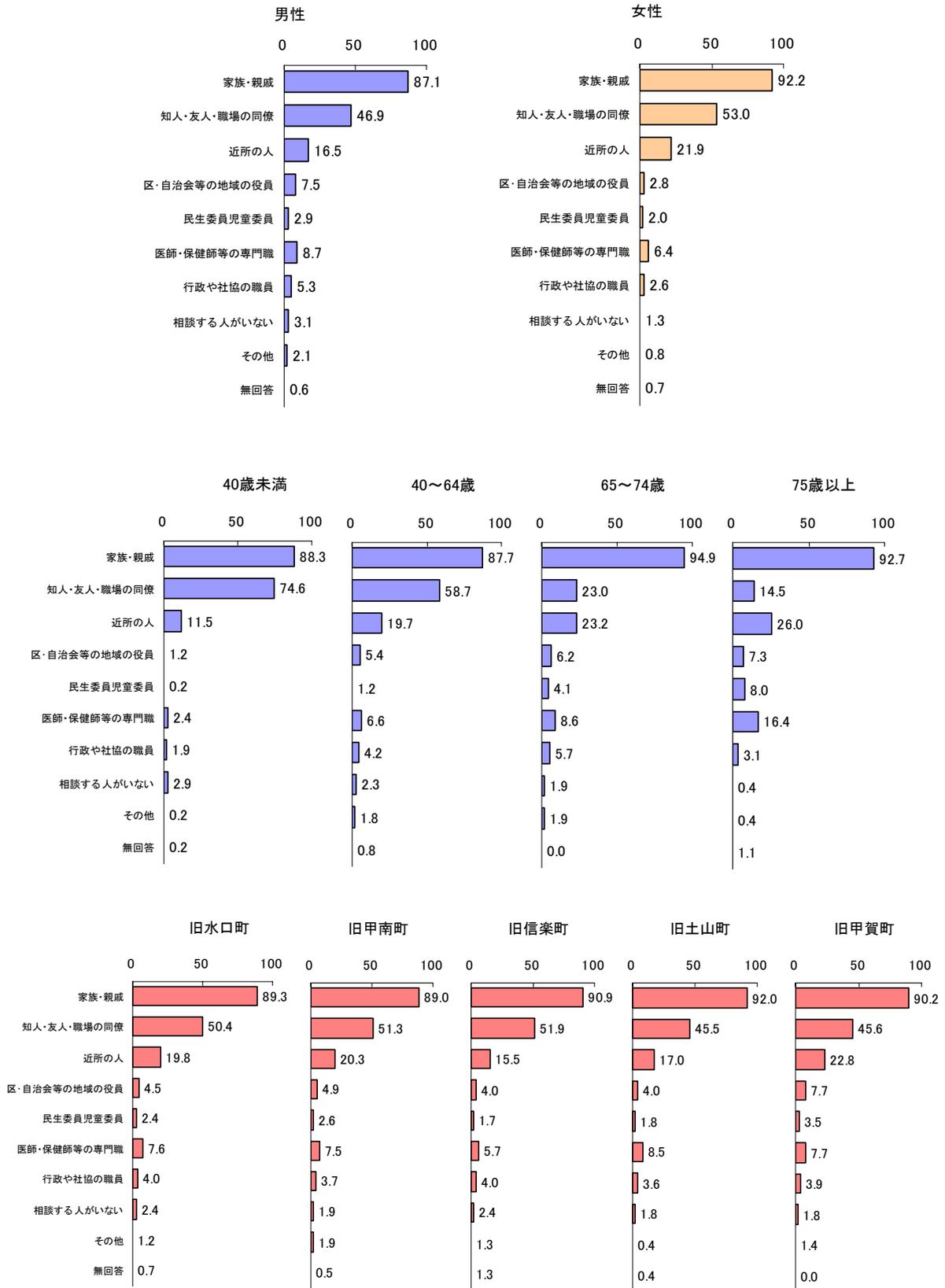
問9 困りごとの相談先(MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	家族・親戚	1798	89.6	90.4
2	知人・友人・職場の同僚	991	49.4	49.8
3	近所の人	389	19.4	19.6
4	区・自治会等の地域の役員	98	4.9	4.9
5	民生委員児童委員	48	2.4	2.4
6	医師・保健師・ホームヘルパー等の専門職	148	7.4	7.4
7	行政や社会福祉協議会の職員	77	3.8	3.9
8	相談する人がいない	42	2.1	2
9	その他	26	1.3	1.3
	無回答	17	0.8	
サンプル数(%ベース)		2006	100.0	

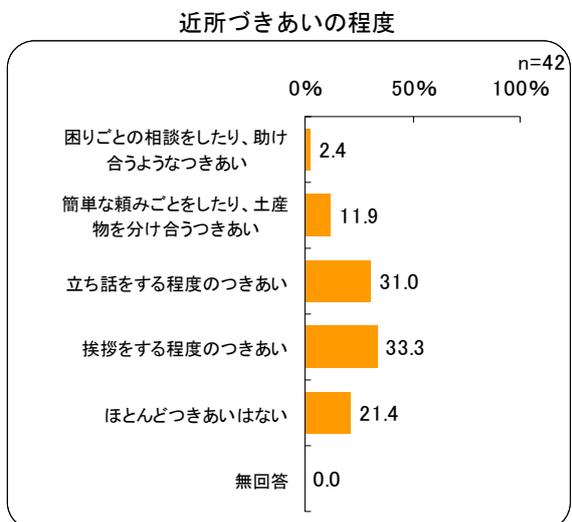
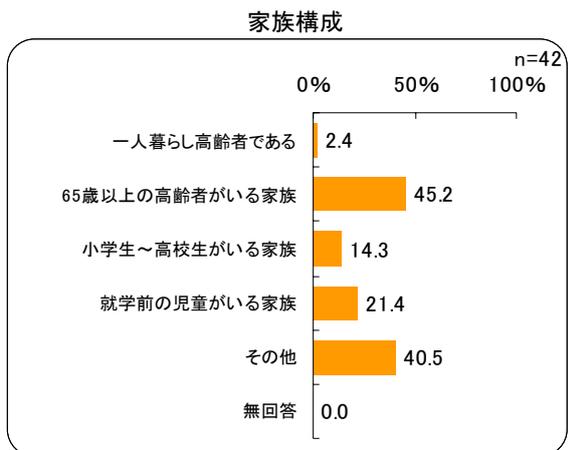
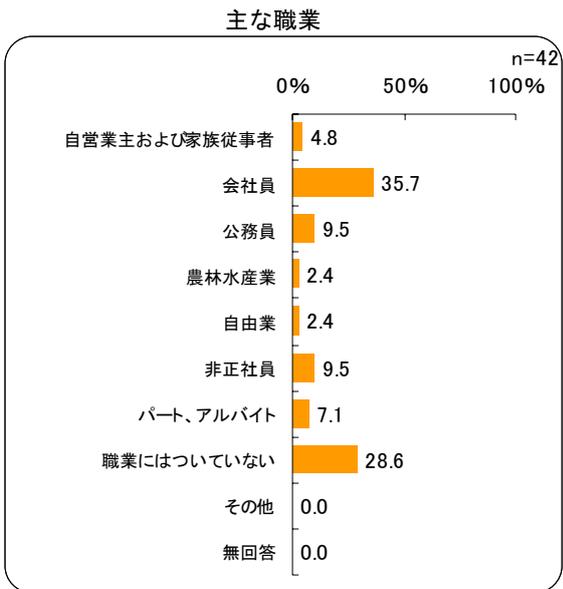
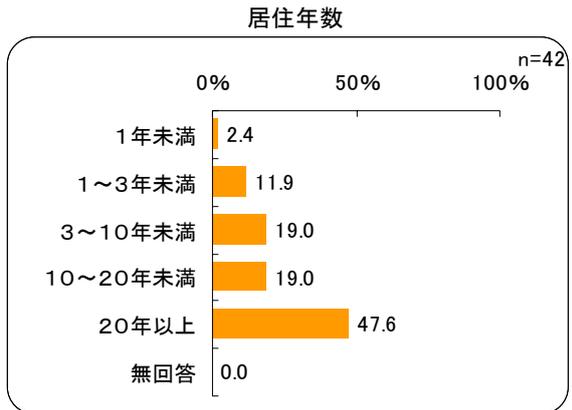
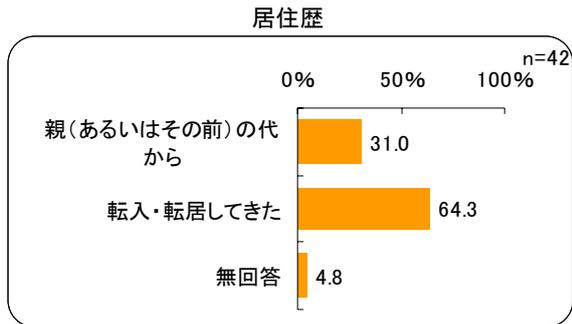
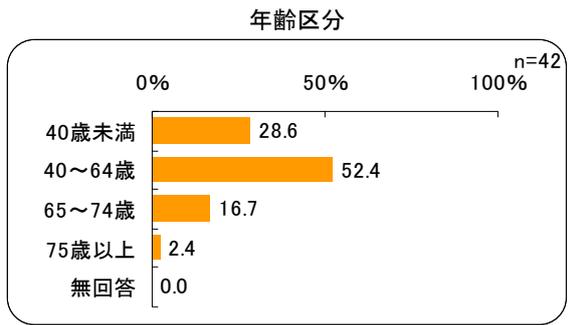
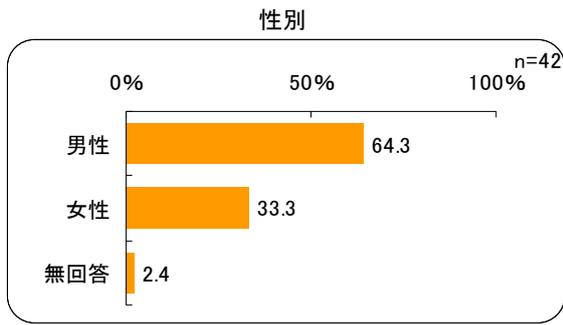
問9 困りごとの相談先



【 性・年代・旧町別 困りごとの相談先 】



「相談する人がいない」の回答



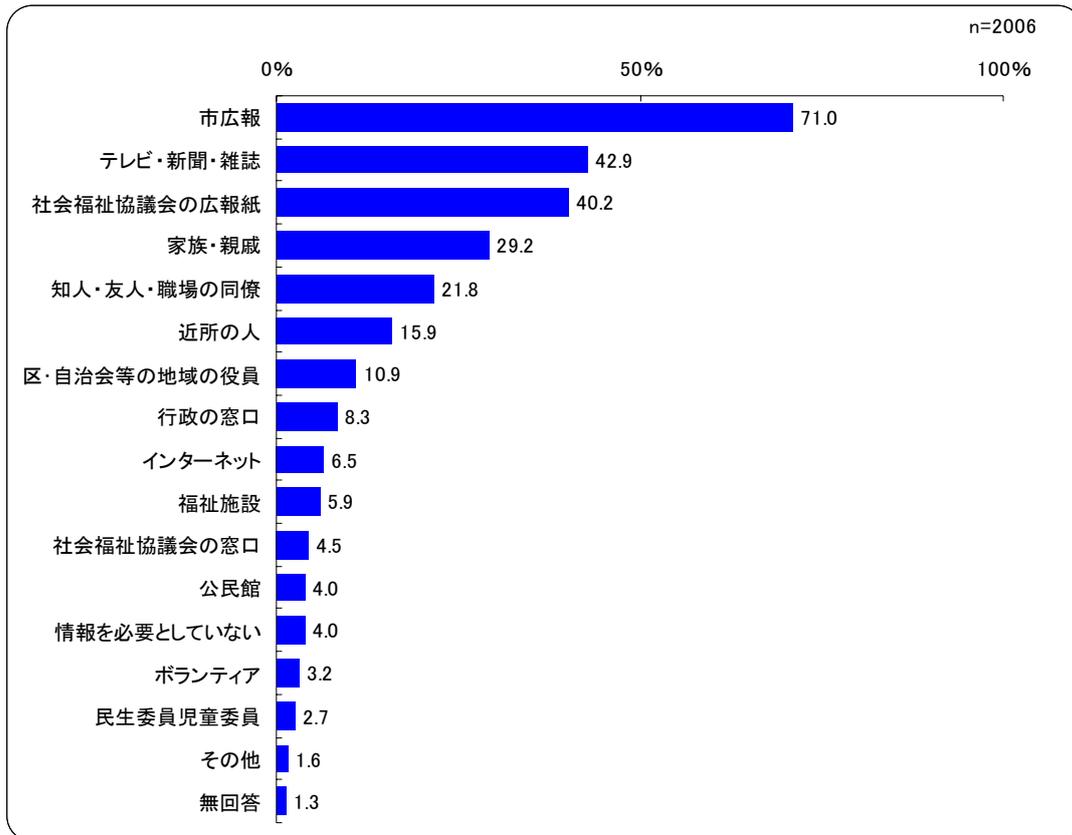
【問10】あなたは、福祉に関する情報をどこから得ていますか。

- ・福祉に関する情報の入手先は、第1位は「市広報」(71.0%)、第2位は「テレビ・新聞・雑誌」(42.9%)、第3位は「社会福祉協議会の広報紙」(40.2%)で、広報媒体が上位にあがっている。
- ・第4位から第6位は「家族・親戚」「知人・友人・職場の同僚」「近所の人」であり、身近な人を介しての情報入手が高くなっている。
- ・施設や機関の窓口はいずれも10%より低い割合となっている。
- ・性別では、回答の構成に大きな差はみられない。
- ・年齢別では、年齢が高くなるにつれて、「家族・親戚」「地域の役員」の割合が高くなっている。
- ・「社会福祉協議会の広報紙」の項目をみると、中年層と高齢者層は4割以上あるが、若年層は約2割であり、他の年齢層よりも低い割合になっている。
- ・旧町別にみると、「地域の役員」の回答が旧土山町と旧甲賀町は他の3町よりも高い割合になっている。
- ・「情報を必要としていない」の回答は4.0%あり、基本的属性をみると、性別は男性、年齢は40歳未満の回答が高くなっている。

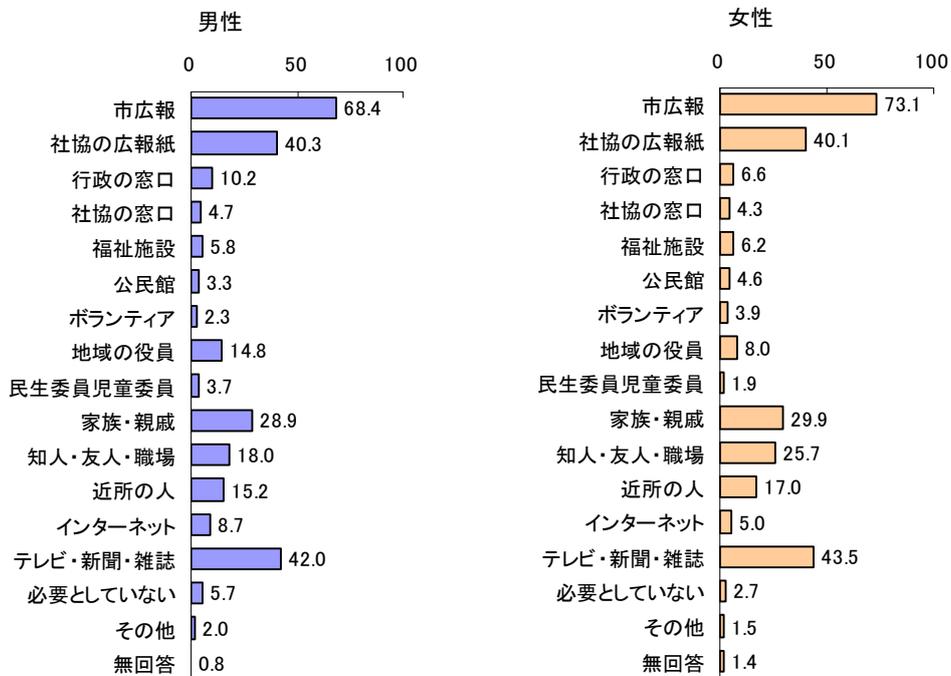
問10 情報の入手先(MA)

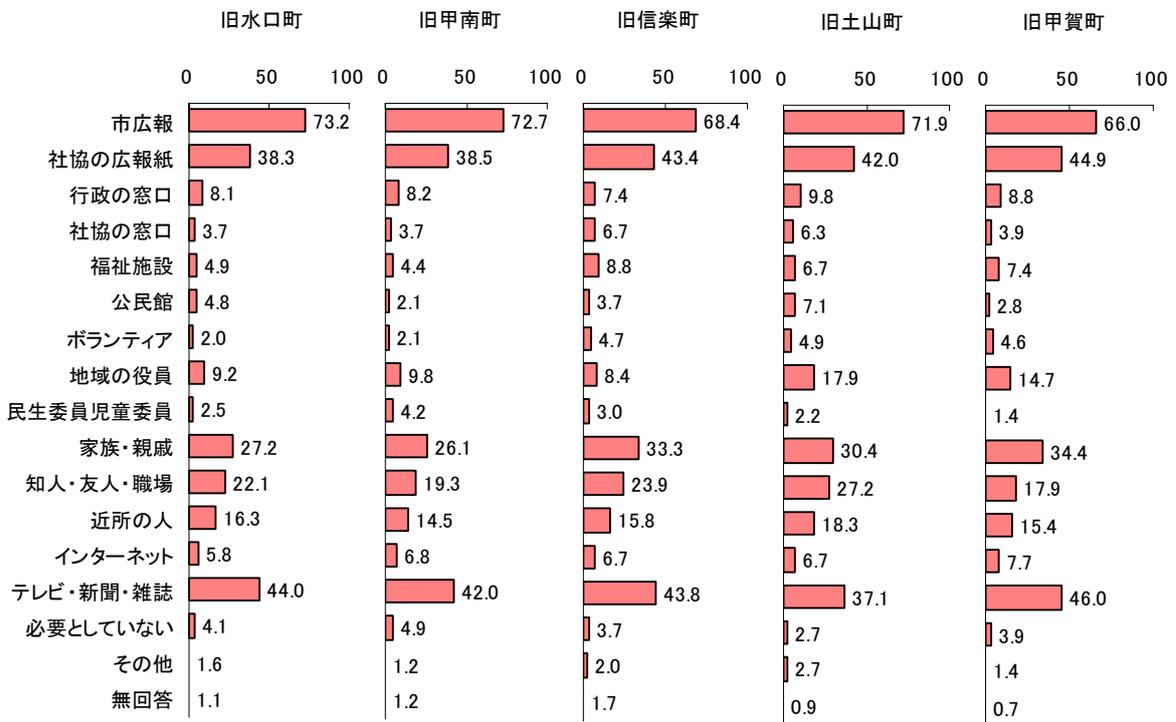
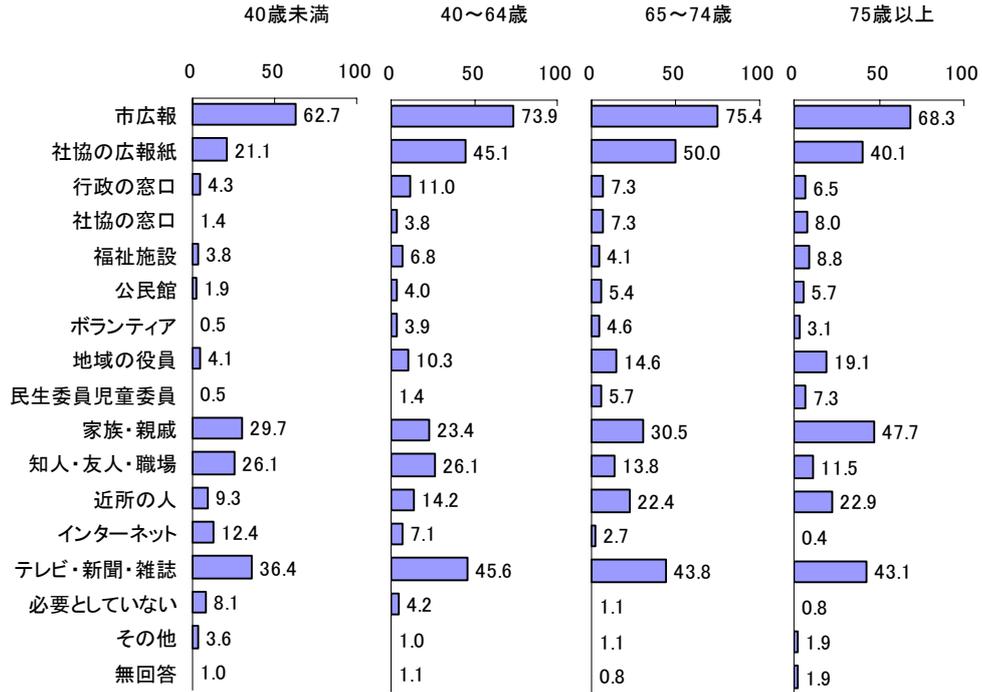
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	市広報	1424	71.0	72.0
2	社会福祉協議会の広報紙	806	40.2	40.7
3	行政の窓口	166	8.3	8.4
4	社会福祉協議会の窓口	90	4.5	4.5
5	福祉施設	118	5.9	6
6	公民館	81	4.0	4.1
7	ボランティア	64	3.2	3.2
8	区・自治会等の地域の役員	219	10.9	11.1
9	民生委員児童委員	55	2.7	2.8
10	家族・親戚	585	29.2	29.6
11	知人・友人・職場の同僚	437	21.8	22.1
12	近所の人	319	15.9	16.1
13	インターネット	130	6.5	6.6
14	テレビ・新聞・雑誌	860	42.9	43.5
15	情報を必要としていない	80	4.0	4.0
16	その他	33	1.6	1.7
	無回答	27	1.3	
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0	

問10 福祉に関する情報の入手先



【 性・年代・旧町別 福祉に関する情報の入手先 】





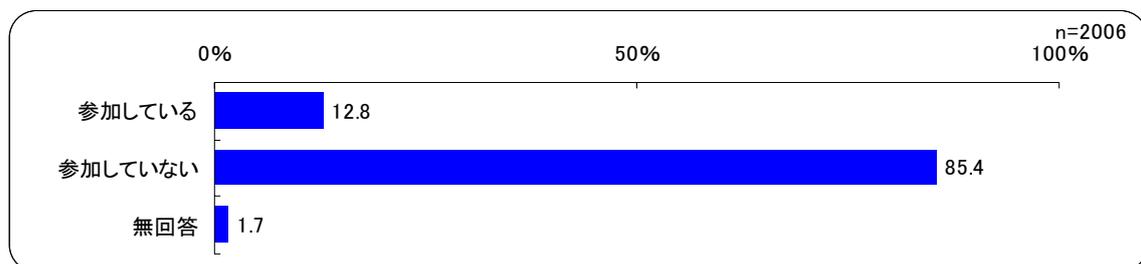
【問11】あなたは現在、ボランティア活動に参加していますか。

- ・「ボランティア活動に参加している」の回答は12.8%、「参加していない」は85.4%であり、ボランティア活動に参加していない方が8割以上を占めている。
- ・性別に参加の有無をみると、男性女性ともに1割強の参加となっている。
- ・年齢別ではボランティア活動の参加は60～74歳(17.6%)が最も多く、次いで40～64歳(13.4%)、40歳未満は1割を下回る8.6%となっている。
- ・旧町別にみると、ボランティア活動の参加は旧土山町(19.2%)が最も高い割合となっている。

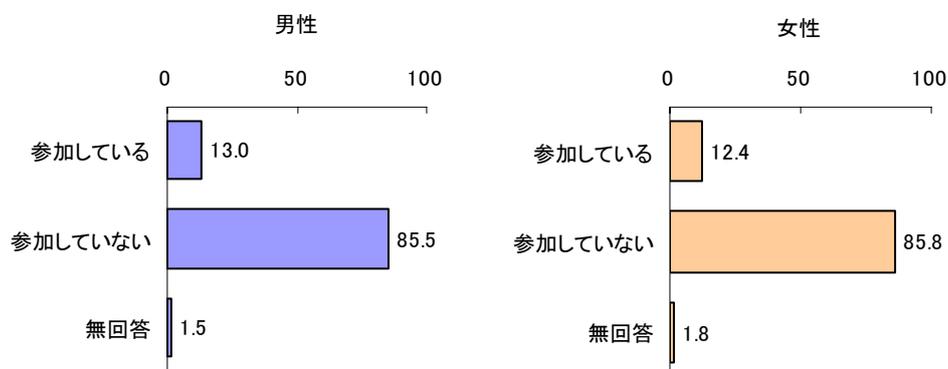
問11 ボランティアの参加(SA)

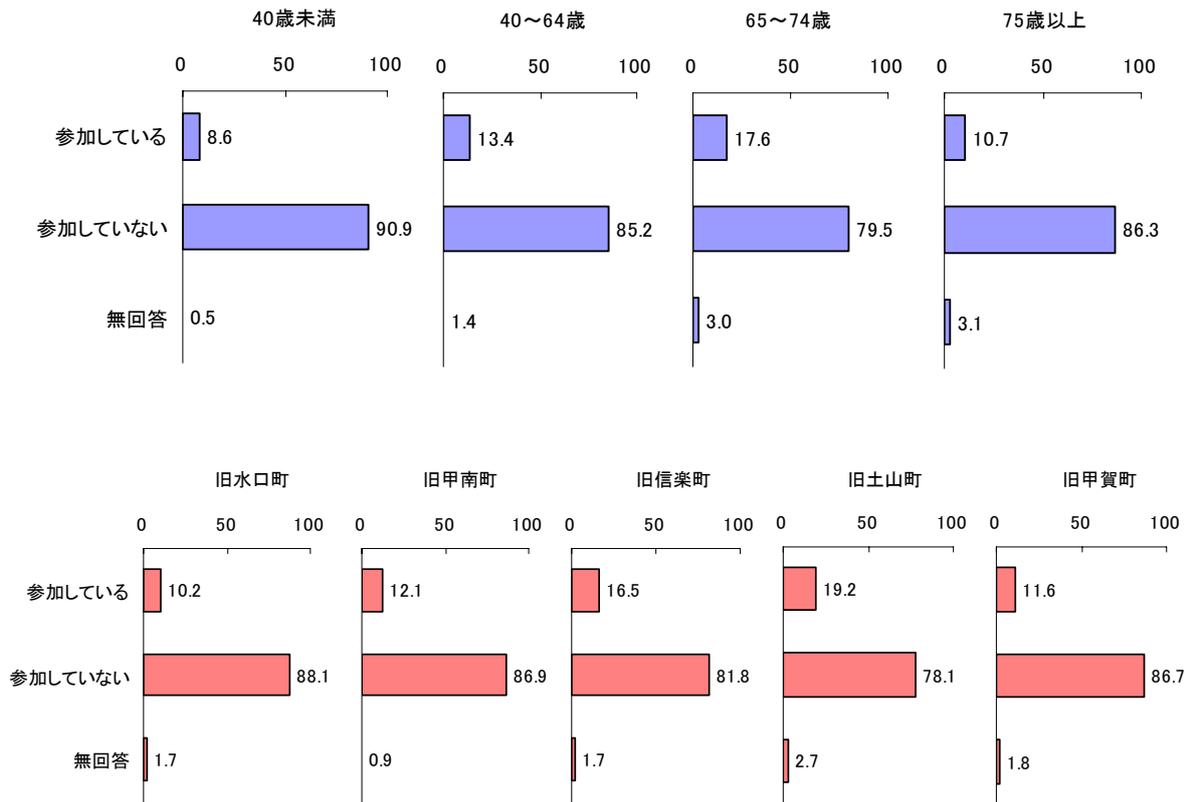
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	参加している	257	12.8	13.0
2	参加していない	1714	85.4	87.0
	無回答	35	1.7	
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0	

問11 ボランティア活動の参加

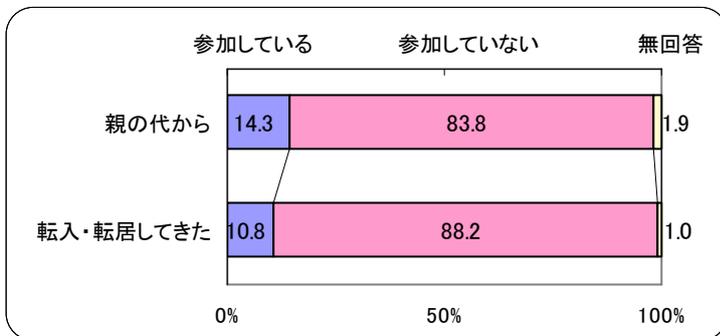


【 性・年代・旧町別 ボランティア活動の参加 】



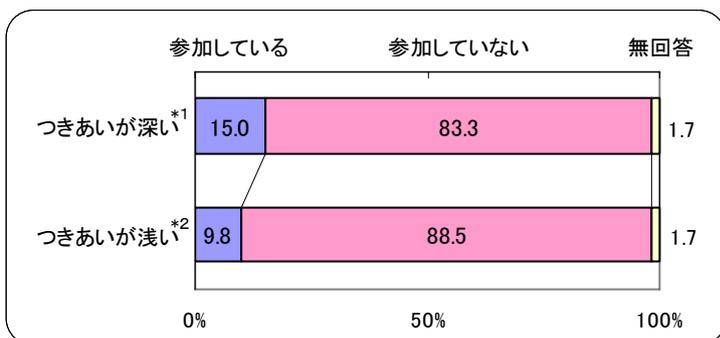


居住歴とボランティア活動



居住歴別にボランティア活動の参加の有無をみると、親(あるいはその前)の代から居住している回答者のほうがボランティア活動の参加は高い割合になっている。

近所づきあいの親密度とボランティア活動



近所づきあいの親密度別にボランティア活動の参加の有無をみると、近所づきあいが深いほうがボランティア活動の参加は高い割合になっている。

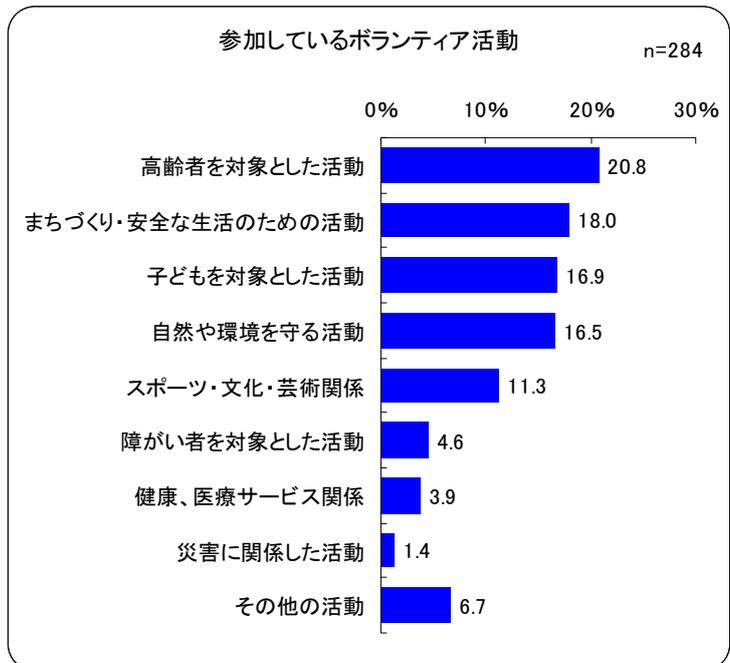
*1 「困りごとの相談をしたり、助け合うようなつきあい」+「簡単な頼みごとをしたり、土産物を分け合うつきあい」

*2 「立ち話をする程度のつきあい」+「挨拶をする程度のつきあい」

【問12】 問11でボランティア活動に「参加している」と答えた方にお聞きします。それはどのような活動ですか。活動の内容を具体的にお書きください。

- ・ ボランティアの活動内容を以下の9項目に分類したところ、最も多いボランティア活動は、「高齢者を対象とした活動」、次いで「まちづくり・安全な生活のための活動」、「子どもを対象とした活動」、「自然や環境を守る活動」の順になっている。

項目	件数
高齢者を対象とした活動	59
まちづくり・安全な生活のための活動	51
子どもを対象とした活動	48
自然や環境を守る活動	47
スポーツ・文化・芸術関係	32
障がい者を対象とした活動	13
健康、医療サービス関係	11
災害に関係した活動	4
その他の活動	19
総数	284



記入内容(抜粋)

- ・ 自治会活動。
- ・ デイサービスのお手伝い。
- ・ 手話サークルへの参加、水口町の手話サークルとの交流会など。
- ・ 各種団体に参加して奉仕作業。
- ・ 保育園児と絵を描く(1回/月)、学童と製作等(工作、絵 2回/年程度)。
- ・ 子ども体験活動に関わること(スポーツ)。
- ・ 高齢者支援の会。
- ・ 近くの草刈、溝掃除、道路清掃。
- ・ 職場で取り組むボランティア。
- ・ 飯道山^{はんどうさん}へ清掃登山など、散発的な行事。
- ・ 通学路に学校から配布された腕章をつけての児童への登下校の声かけ、交通安全指導。
- ・ 赤十字奉仕団員としての活動、各種ボランティア活動への参加。
- ・ 紫香楽^{しがらき}レディースサッカー、育友会(役員)。
- ・ 施設の行事、清掃。
- ・ 老人ホームへ CD やビデオを作成して提供。
- ・ 防犯パトロール。
- ・ 区のボランティア活動。
- ・ 自警団。

など

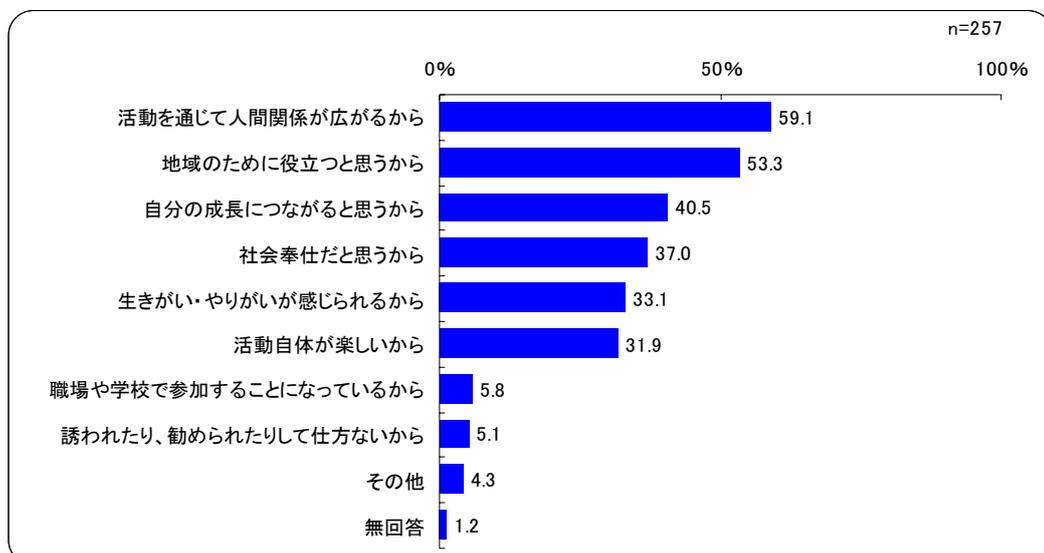
【問13】 問11で「参加している」と答えた方にお聞きします。あなたが、ボランティア活動に参加している理由として、自分の気持ちに近いと思うものすべてに○をつけてください。

- ・ ボランティア活動に参加している理由をたずねたところ、「活動を通じて人間関係が広がるから」(59.1%)が最も高く、次いで「地域のために役立つと思うから」(53.3%)、「自分の成長につながると思うから」(40.5%)の順になっている。
- ・ 「誘われたり、勧められたりして仕方ないから」の回答は5.1%と低く、自主的に参加している人が多いことが伺える。
- ・ どの年齢層においても「活動を通じて人間関係が広がるから」は高くなっているが、若年層は「自分の成長につながると思うから」、中年層は「地域のために役立つと思うから」、高齢層は「生きがい・やりがいを感じられるから」が高くなっている。このことから、若年層は「自分の成長」を動機とし、中年層は「人間関係」、高齢層は「生きがい」を重視しているといえる。

問13 参加している理由(MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	活動自体が楽しいから	82	31.9	32.3
2	生きがい・やりがいを感じられるから	85	33.1	33.5
3	活動を通じて人間関係が広がるから	152	59.1	59.8
4	自分の成長につながると思うから	104	40.5	40.9
5	地域のために役立つと思うから	137	53.3	53.9
6	社会奉仕だと思っから	95	37.0	37.4
7	誘われたり、勧められたりして仕方ないから	13	5.1	5.1
8	職場や学校で参加することになっているから	15	5.8	5.9
9	その他	11	4.3	4.3
	無回答	3	1.2	
サンプル数(%ベース)		257	100.0	

問13 参加している理由



区分		総数	問13 ボランティア活動に参加している理由（複数回答）									
			活動自体が楽しいから	生きがいややりがいを感じるから	活動を通じて人間関係が広がるから	自分の成長につながると思うから	地域のために役立つと思うから	社会奉仕だと思うから	誘われたり、勧められたりして仕方ないから	職場や学校で参加することになっているから	その他	無回答
性別	男性	113	31.9	30.1	57.5	30.1	64.6	41.6	4.4	9.7	4.4	0.9
	女性	131	32.1	32.8	58.0	46.6	42.0	32.1	6.1	3.1	4.6	1.5
年齢	40歳未満	36	36.1	22.2	58.3	44.4	41.7	25.0	8.3	8.3	8.3	-
	40～64歳	127	22.8	23.6	53.5	43.3	55.9	35.4	5.5	9.4	6.3	0.8
	65～74歳	65	33.8	47.7	69.2	32.3	55.4	44.6	3.1	-	-	3.1
	75歳以上	28	60.7	53.6	60.7	39.3	50.0	39.3	3.6	-	-	-
旧5町	旧水口町	77	32.5	36.4	55.8	48.1	49.4	31.2	5.2	3.9	2.6	-
	旧甲南町	52	26.9	34.6	53.8	32.7	46.2	42.3	3.8	3.8	7.7	3.8
	旧信楽町	49	32.7	32.7	63.3	49.0	57.1	51.0	10.2	2.0	2.0	-
	旧土山町	43	30.2	27.9	55.8	32.6	51.2	23.3	4.7	16.3	-	2.3
	旧甲賀町	33	39.4	30.3	69.7	33.3	69.7	39.4	-	6.1	9.1	-
居住歴	親(あるいはその前)の代から	151	31.1	32.5	57.0	39.1	53.6	33.8	6.6	6.6	4.6	1.3
	転入・転居してきた	93	31.2	33.3	59.1	44.1	53.8	39.8	3.2	5.4	4.3	-
家族構成	一人暮らし高齢者	5	40.0	80.0	80.0	20.0	40.0	80.0	-	-	-	-
	65歳以上の高齢者がいる家族	154	35.1	39.0	61.0	37.0	54.5	39.0	4.5	3.2	2.6	1.3
	小学生～高校生がいる家族	85	38.8	32.9	60.0	40.0	58.8	25.9	3.5	8.2	3.5	1.2
	就学前の児童がいる家族	30	30.0	30.0	63.3	43.3	53.3	40.0	3.3	6.7	3.3	3.3
	その他	72	23.6	23.6	54.2	44.4	44.4	36.1	8.3	8.3	5.6	1.4

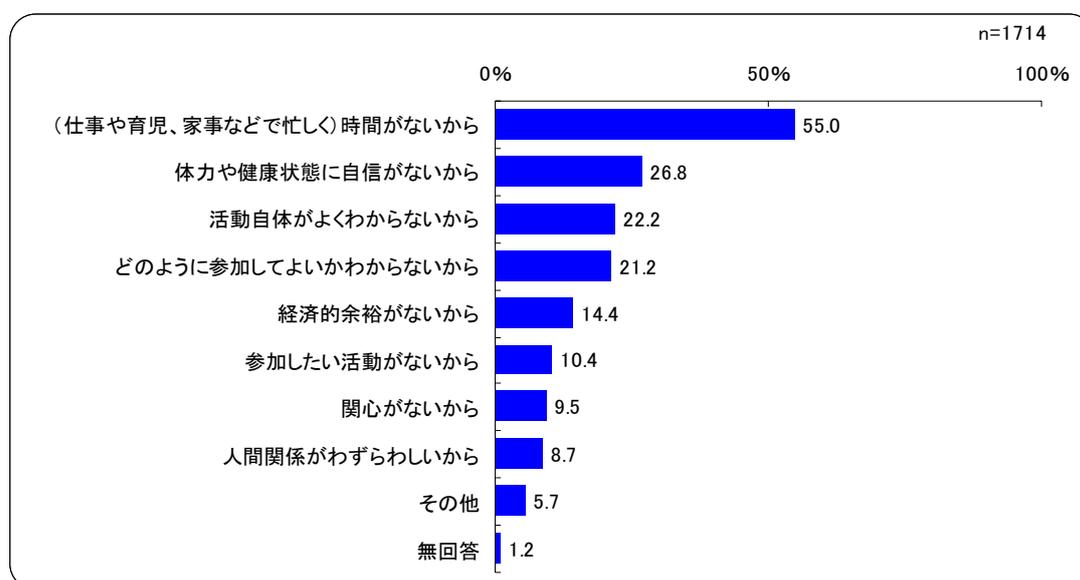
【問14】 問11でボランティア活動に「参加していない」と答えた方にお聞きします。あなたが、ボランティア活動に参加していない理由として、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ・ ボランティア活動に参加していない理由として、「(仕事や育児、家事などで忙しく)時間がないから」の回答が半数以上を占め、最も多くなっている。
- ・ 「活動自体がよくわからないから」、「どのようにして参加してよいかわからないから」の回答はともに約2割、「参加したい活動がないから」は約1割となっている。
- ・ 「関心がないから」、「人間関係がわずらわしいから」の回答は1割に満たない低い割合になっている。これらのことから、参加に対しての否定的意見は少ないが、単に情報が伝わっていないというよりもむしろ、活動者にとって魅力的な活動、意義のある活動が開発されていない現状があるといえる。

問14 参加していない理由(MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	(仕事や育児、家事などで忙しく)時間がないから	943	55.0	55.7
2	参加したい活動がないから	178	10.4	11
3	活動自体がよくわからないから	381	22.2	22.5
4	どのように参加してよいかわからないから	363	21.2	21.4
5	体力や健康状態に自信がないから	459	26.8	27.1
6	経済的余裕がないから	247	14.4	14.6
7	人間関係がわずらわしいから	149	8.7	8.8
8	関心がないから	163	9.5	9.6
9	その他	98	5.7	5.8
	無回答	20	1.2	
サンプル数(%ベース)		1714	100.0	

問14 参加していない理由



区分		総数	問14 ボランティア活動に参加していない理由（複数回答）									
			(仕事や育児、家事などで忙しく時間が ないから)	参加した 活動が ないから	活動自体 がよくわ からない から	どのよう に参加し てよいか わからな いから	体力や健 康状態に 自信がな いから	経済的余 裕がない から	人間関係 がわずら わしいから	関心がない から	その他	無回答
性別	男性	740	54.2	13.4	23.8	22.2	23.5	14.9	8.2	13.1	4.6	1.4
	女性	904	57.1	8.1	21.3	20.7	28.3	14.0	8.8	6.9	6.4	1.1
年齢	40歳未満	380	76.6	8.9	31.6	27.6	5.0	17.4	7.4	15.3	0.8	-
	40～64歳	805	66.2	10.9	24.5	24.6	18.5	18.4	11.6	10.3	4.0	0.7
	65～74歳	294	32.0	11.2	16.7	15.6	48.3	9.2	5.8	5.8	4.8	1.7
	75歳以上	226	9.3	9.3	5.8	4.9	64.6	2.2	3.1	2.2	21.2	4.0
旧5町	旧水口町	664	53.8	9.6	25.6	22.9	25.8	14.6	8.9	11.0	5.1	0.9
	旧甲南町	373	56.6	9.7	19.3	20.6	25.7	15.3	7.5	8.8	7.2	1.3
	旧信楽町	243	57.2	9.5	20.6	18.5	28.8	17.3	12.3	9.1	5.3	2.1
	旧土山町	175	51.4	14.3	22.3	23.4	26.9	11.4	6.3	8.0	6.9	1.1
	旧甲賀町	247	56.7	11.7	19.8	18.2	28.7	11.7	6.9	8.1	4.0	0.8
居住歴	親(あるいはその前)の代から	887	53.8	9.5	19.6	19.8	27.4	12.3	7.4	10.3	6.9	1.4
	転入・転居してきた	759	58.9	11.1	26.5	23.7	24.5	17.8	10.0	8.8	4.1	0.5
家族構成	一人暮らし高齢者	22	13.6	9.1	9.1	18.2	77.3	9.1	4.5	4.5	13.6	-
	65歳以上の高齢者がいる家族	986	46.2	10.1	17.7	18.0	34.8	11.7	7.2	9.1	7.5	1.7
	小学生～高校生がいる家族	466	67.4	11.4	19.7	20.2	22.5	17.4	7.7	11.4	4.7	0.6
	就学前の児童がいる家族	251	78.9	9.2	25.1	23.1	12.4	16.3	6.4	9.6	2.4	0.4
	その他	435	58.9	11.0	29.0	27.6	19.3	17.5	10.8	9.7	3.4	0.7

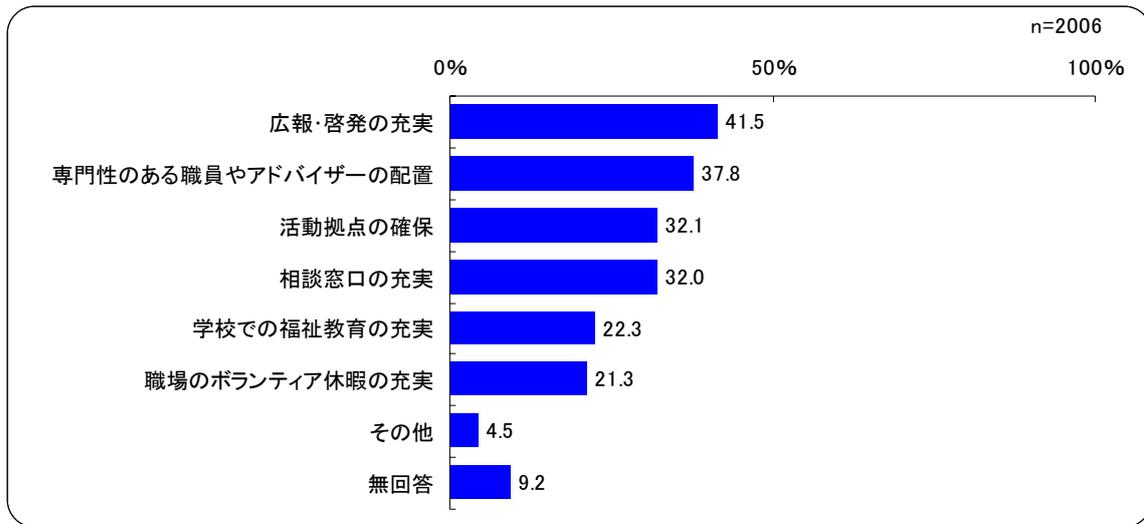
【問15】 今後、ボランティア活動をさらに発展させるために、どのような基盤整備や活動が必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ボランティア活動をさらに発展させるために必要な基盤整備や活動についてたずねたところ、「広報・啓発の充実」(41.5%)が最も高く、次いで「専門性のある職員やアドバイザーの配置」(37.8%)、「活動拠点の確保」(32.1%)、「相談窓口の充実」(32.0%)の順になっている。
- 性別にみると、男性は「広報・啓発の充実」が最も高く、女性は「専門性のある職員やアドバイザーの配置」が高くなっている。他の属性別にみても、この2項目は高い割合になっている。
- 年齢別では若年層、中年層、前期高齢者層は「広報・啓発の充実」が1位であるが、後期高齢者層は「相談窓口の充実」が最も高くなっている。
- 一人暮らし高齢者の1位は「専門性のある職員やアドバイザーの配置」、2位は「活動拠点の確保」、3位は「相談窓口の充実」となっており、他の家族構成と異なる順位となっている。
- 「活動拠点の確保」の項目をみると、年齢別では中年層が最も高く、家族構成は一人暮らし高齢者が高くなっている。

問15 今後の活動の発展のために必要なこと(MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	相談窓口の充実	642	32.0	35.3
2	専門性のある職員やアドバイザーの配置	759	37.8	41.7
3	活動拠点の確保	643	32.1	35.3
4	広報・啓発の充実	833	41.5	45.7
5	学校での福祉教育の充実	447	22.3	24.5
6	職場のボランティア休暇の充実	428	21.3	24
7	その他	91	4.5	5.0
	無回答	185	9.2	
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0	

問15 今後の活動のために必要なこと



単位: %

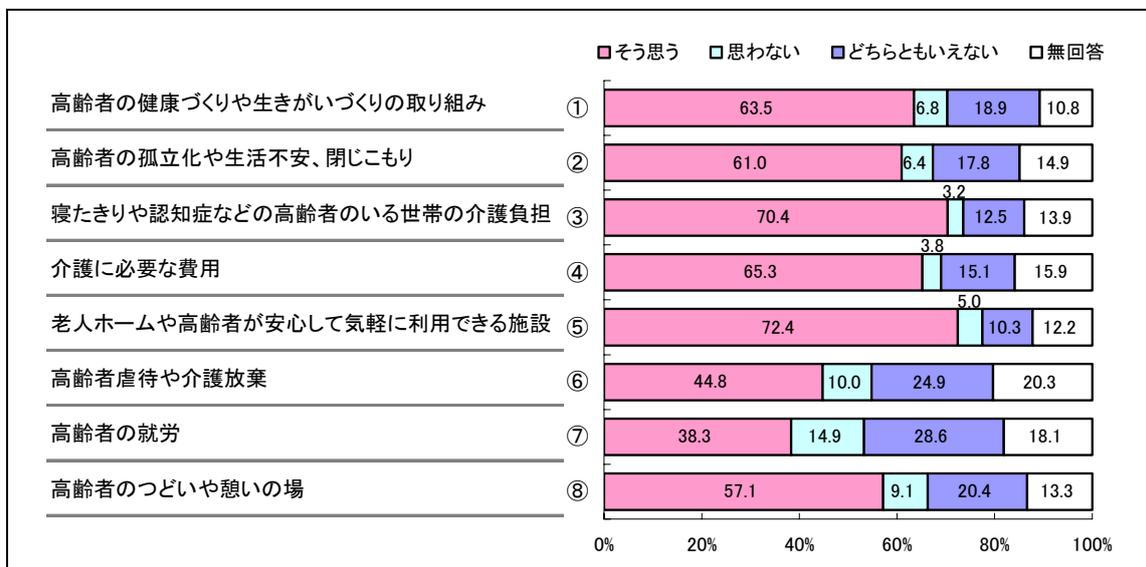
区分		総数	問15 今後、ボランティア活動をさらに発展させるために必要な基盤整備や活動 (複数回答)							
			相談窓口の充実	専門性のある職員やアドバイザーの配置	活動拠点の確保	広報・啓発の充実	学校での福祉教育の充実	職場のボランティア休暇の充実	その他	無回答
性別	男性	866	31.6	36.7	34.2	44.7	20.1	23.1	6.2	5.9
	女性	1054	32.4	39.6	30.6	39.8	24.4	20.5	3.0	11.0
年齢	40歳未満	418	23.7	36.8	32.3	50.0	32.8	34.4	5.3	1.9
	40～64歳	945	34.1	41.4	36.1	42.5	22.3	24.9	4.7	5.1
	65～74歳	370	36.8	38.1	29.5	39.2	16.8	7.3	2.4	15.9
	75歳以上	262	30.9	26.3	21.0	29.4	13.7	8.0	5.3	26.0
旧5町	旧水口町	754	32.9	38.2	32.0	43.5	23.6	23.3	4.0	8.2
	旧甲南町	429	31.0	37.1	31.7	41.0	22.8	21.4	5.4	7.7
	旧信楽町	297	31.3	39.7	31.3	38.7	22.2	18.5	5.1	10.8
	旧土山町	224	31.7	35.7	31.7	41.5	16.5	18.8	4.0	12.5
	旧甲賀町	285	32.3	38.9	34.4	41.1	22.5	21.1	3.9	9.8
居住歴	親(あるいはその前)の代から	1058	32.4	37.0	32.6	41.5	21.3	20.0	4.3	10.4
	転入・転居してきた	861	31.6	39.5	32.2	44.3	24.2	24.2	5.0	5.7
家族構成	一人暮らし高齢者	28	35.7	42.9	39.3	32.1	25.0	14.3	7.1	17.9
	65歳以上の高齢者がいる家族	1171	32.6	36.8	30.1	38.2	20.3	17.3	4.4	13.1
	小学生～高校生がいる家族	562	30.2	39.0	34.2	42.2	28.8	24.4	4.1	7.3
	就学前の児童がいる家族	284	28.2	42.6	30.6	43.3	28.9	29.2	5.6	6.3
	その他	509	33.2	39.7	35.0	48.5	22.0	24.2	3.9	3.9

= 第1位

3 暮らしの課題や福祉ニーズとその対応について

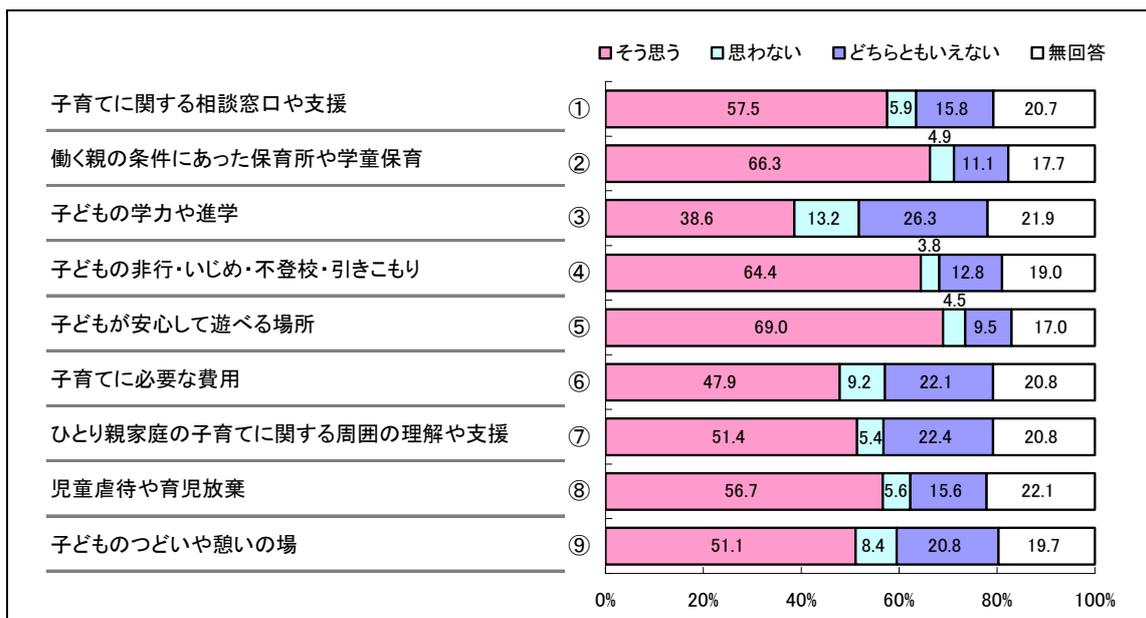
【問16】あなたのお住まいの身近な地域で、次の課題について、日頃から何とかしなければならないと思っていますか。

高齢者分野の課題



- ・ 地域で何とかしなければならない課題として「そう思う」の回答は、「老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設」(72.4%)が最も高く、次いで「寝たきりや認知症などの高齢者のいる世帯の介護負担」(70.4%)、「介護に必要な費用」(65.3%)の順になっている。
- ・ 「思わない」の回答は「高齢者の就労」(14.9%)が最も高くなっている。

児童・子育て分野の課題

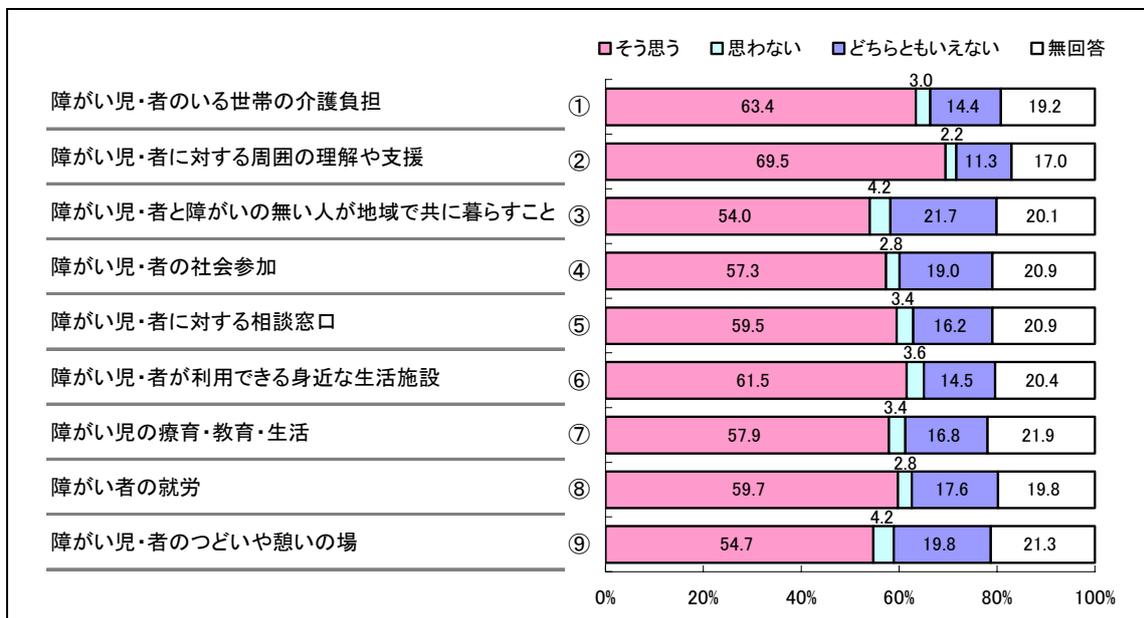


- ・ 児童・子育て分野の課題として「そう思う」の回答は、「子どもが安心して遊べる場所」(69.0%)が最も高く、次いで「働く親の条件にあった保育所や学童保育」(66.3%)、「子どもの非行・いじ

め・不登校・引きこもり」(64. 4%)の順になっている。

- ・「思わない」の回答は「子どもの学力や進学」(13. 2%)が最も高くなっている。

障がい児・者分野の課題



- ・ 障がい児・者分野の課題として「そう思う」の回答は、「障がい児・者に対する周囲の理解や支援」(69. 5%)が最も高く、次いで「障がい児・者のいる世帯の介護負担」(63. 4%)、「障がい児・者が利用できる身近な生活施設」(61. 5%)の順になっている。
- ・ すべての項目において、「そう思う」の回答が半数以上を占め、「思わない」の回答はすべて5%以下となっている。

その他、身近な地域で何とかしなければならない課題(自由記入)

(196の記入より抜粋)

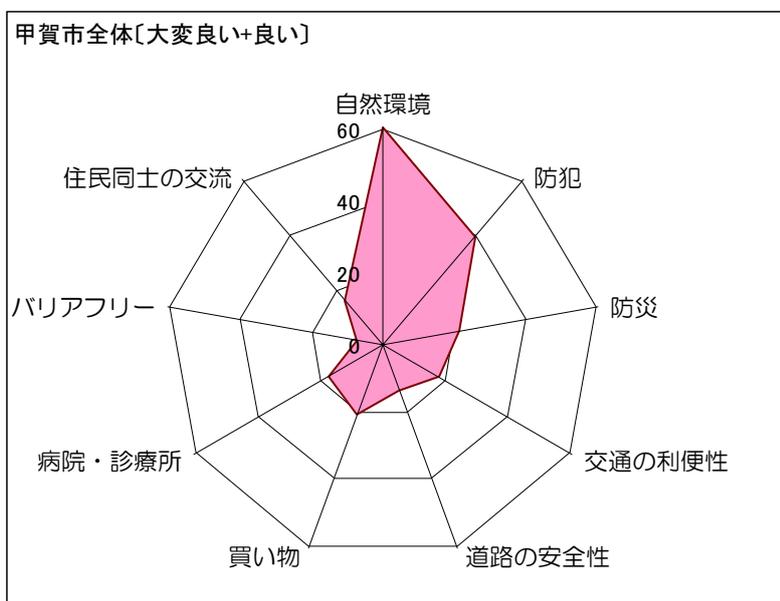
- ・ 子どもの連れ去りなどが全国的に起きている現在、健康な御老人たちや専業主婦の方々に子どもの下校時間帯に家外に出て目を光らせていただく、声かけしていただく等、協力して頂けたら良いのではないかと。それだけでもずいぶん犯罪を防げると思う。
- ・ 子どもの教育について。ゆとりにばかり着目し、子どもの頃に修得しておかなければならない知識、学習に対する姿勢、考えることの手順、他の子どもたちと論じ合う場など、将来のために養っておくべきことが伝わっていないように思える。もっとお年寄りの知恵を子ども達に伝えられる工夫や、お年寄りや若者が熱心に物事に取り組む姿勢などを目にする機会を幼い頃に与えるのが重要だと思う。
- ・ 私の住んでいる所でも、少子化が急激に進んでおり、高齢者ばかりの家が増える事が考えられ、近所づきあいの大切さを今から認識している。祭やボランティア活動を通じ、生きがいや互いのコミュニケーションが大切だと思う。
- ・ 高齢者と高齢者、児童と児童、障がい児・者と障がい児・者という繋がりより、高齢者と児童など、互いに相違する関係の人達が集うことを活発にすれば相互理解も深まり、世代間、健常者と障がいを持つ方の溝が少しずつ狭まると思う。
- ・ それぞれを別の課題としてとらえず、たとえば、一つの施設で高齢者・児童・障がい者が互いに利用できる様な「集いや憩いの場」があればいいと思う。

【問17】あなたは、お住まいの小学校区の生活環境をどのようにお考えですか。

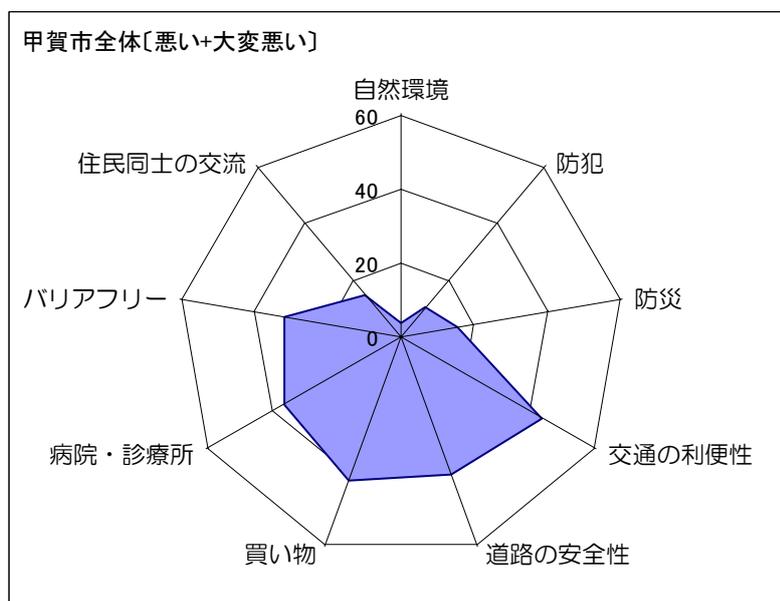
単位：%

項目	大変良い	良い	ふつう	悪い	大変悪い	無回答
① 自然の豊かさ	21.2	38.9	31.4	3.3	0.3	4.9
② 防犯(犯罪の少なさ)	7.6	31.4	44.3	8.9	1.2	6.5
③ 防災(防災組織や避難所)	3.8	17.4	55.0	12.8	2.0	9.0
④ 交通の利便性	3.6	13.9	33.6	32.0	11.5	5.5
⑤ 道路の安全性・歩きやすさ	2.4	10.7	41.5	31.1	8.2	6.2
⑥ 買い物の便利さ	3.9	16.5	33.2	30.0	11.5	5.0
⑦ 病院・診療所の利用し易さ	3.4	13.4	41.4	26.1	9.8	5.8
⑧ 公的施設等のバリアフリー	1.0	6.1	50.0	25.4	6.4	11.1
⑨ 住民同士のふれあいや交流	2.3	13.5	63.2	12.6	2.5	6.0

<生活環境の評価 レーダーチャート>



- ・ 回答者が住んでいる小学校区の生活環境について、5段階の評価をたずねたところ、9項目のうち「自然の豊かさ」の評価が最も良い評価となっている。その他の項目はすべて「ふつう」が最も高くなっている。
- ・ 「大変良い」と「良い」の回答割合を足し、レーダーチャートに表したところ、「自然の豊かさ」と「防犯」の数値は高く、「道路の安全性」と「公的施設等のバリアフリー」は低くなっている。

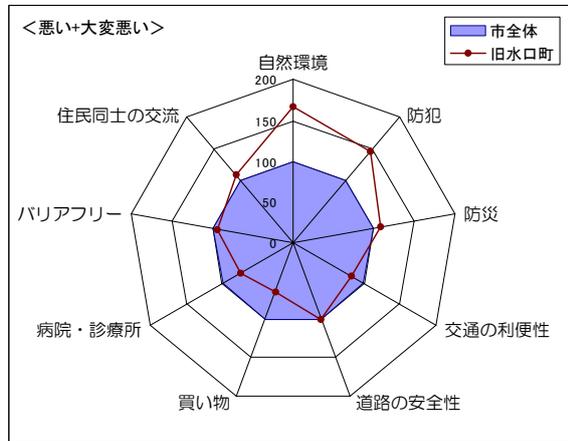
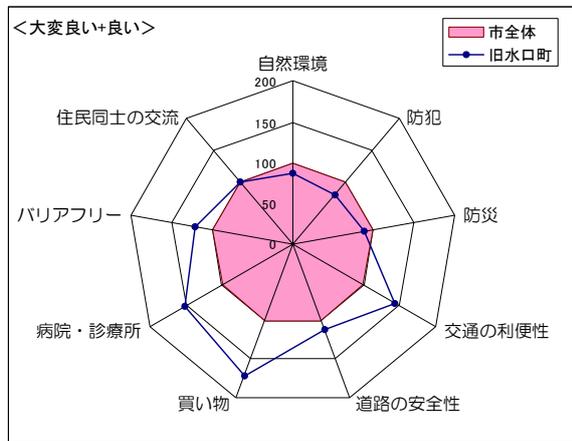


- ・ 「悪い」と「大変悪い」を足した数値をレーダーチャートに表すと、「交通の利便性」、「道路の安全性」、「買い物の便利さ」「病院・診療所の利用し易さ」が高くなっている。
- ・ 良い評価、悪い評価、双方のレーダーチャートの形から、生活環境の良いところや改善すべき課題が見えてくる。

<旧5町別にみた生活環境の評価> 市全体を100として換算

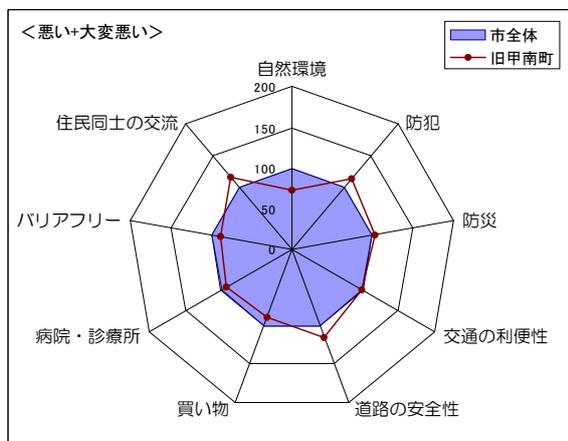
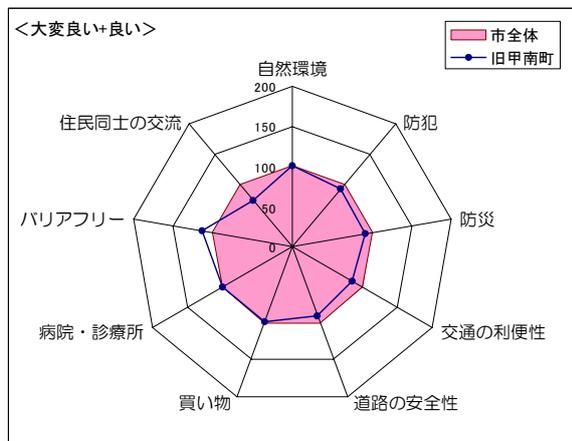
以下の図は、市全体の評価を100として換算し、旧町別の評価を示したレーダーチャートである。市全体と比較することによって、各町の生活環境を視覚的に捉えることができる。

旧水口町



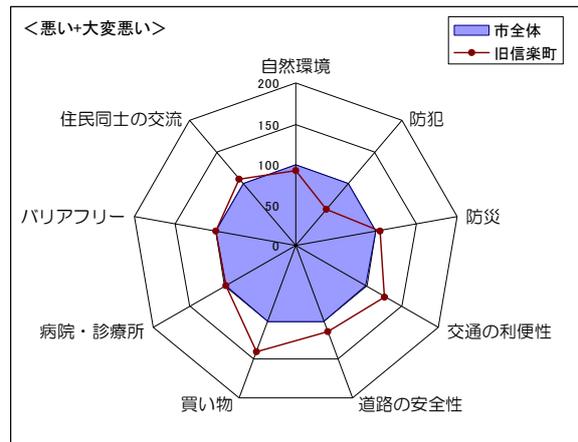
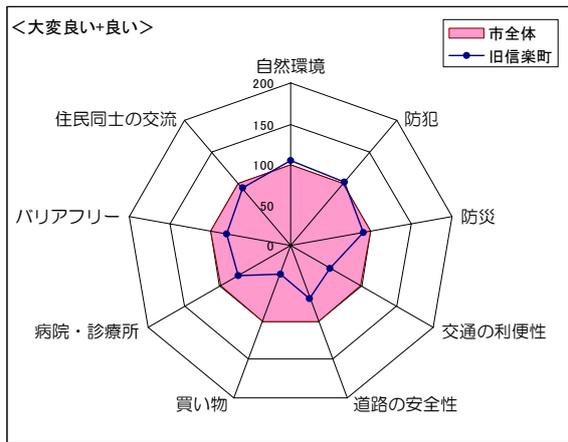
旧水口町は、市全体と比較して「買い物の便利さ」、「交通の利便性」、「病院・診療所の利用し易さ」の評価は高いが、「自然の豊かさ」や「防犯」の評価は低くなっている。

旧甲南町



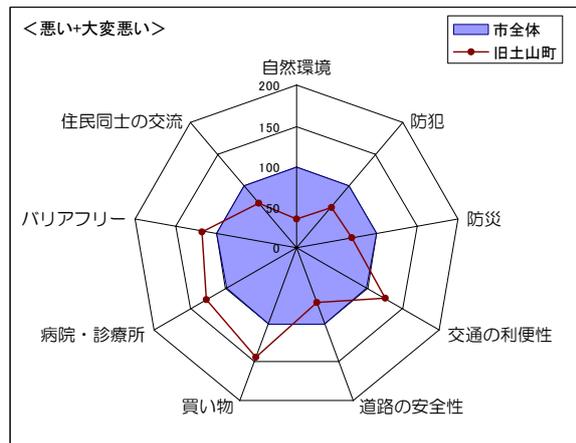
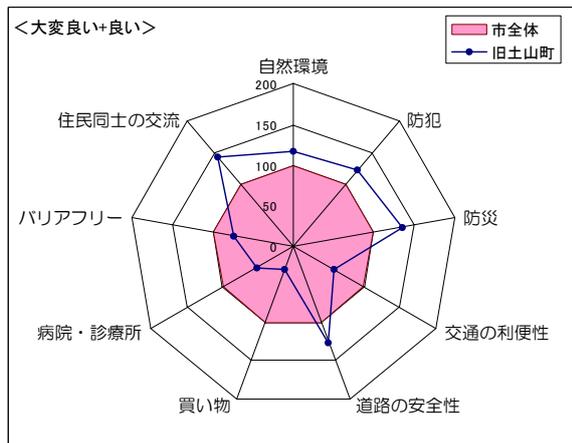
旧甲南町は、市全体と類似した形になっているが、「住民同士のふれあいや交流」はやや低くなっている。

旧信楽町



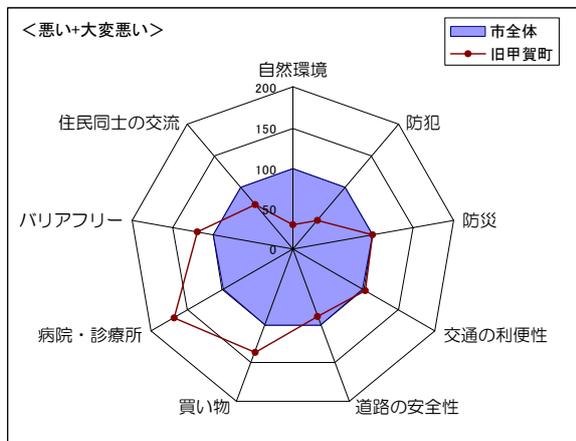
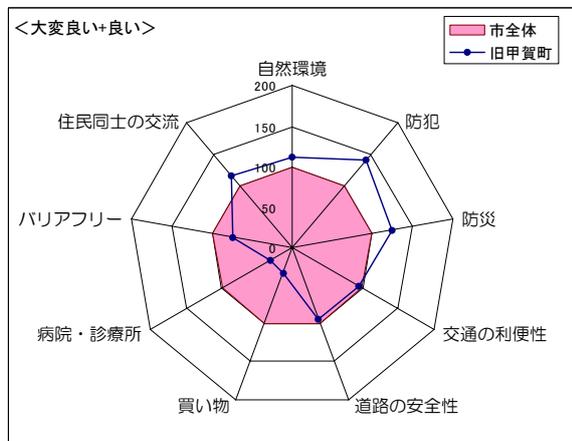
旧信楽町は市全体とほぼ同じ評価、あるいは低い評価となっている。「買い物の便利さ」、「交通の利便性」、「道路の安全性」が改善すべき課題であるといえる。

旧土山町



旧土山町は、「住民同士のふれあいや交流」、「防犯」、「防災」は市全体よりも高い評価になっているが、「買い物の便利さ」、「病院・診療所の利用し易さ」、「交通の利便性」の評価は低くなっている。

旧甲賀町



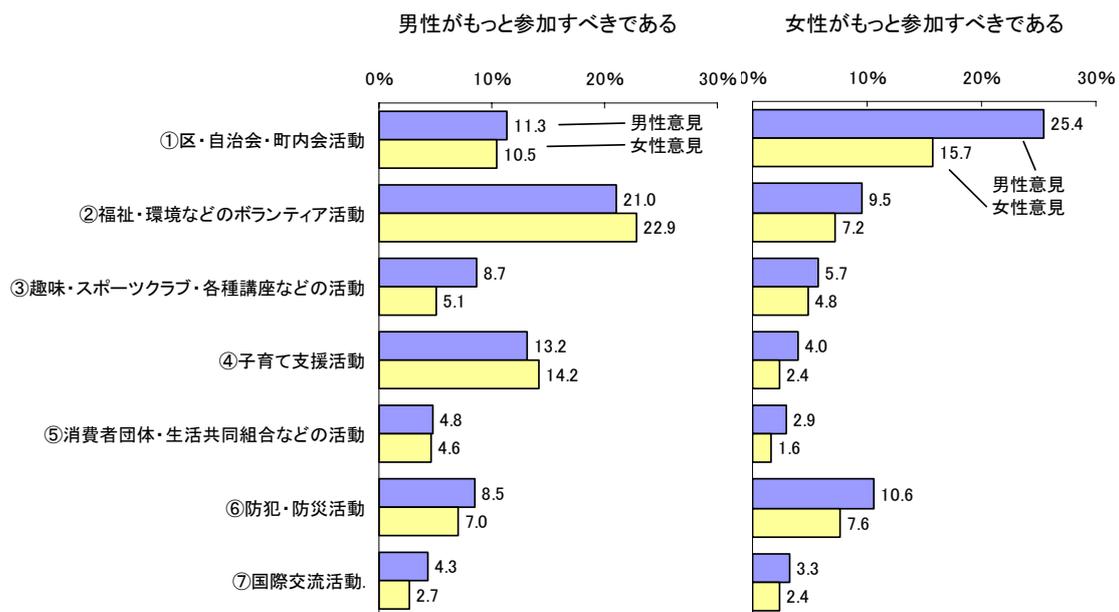
旧甲賀町は、市全体と比較して「防犯」、「防災」の評価が高くなっている。「病院・診療所の利用し易さ」、「買い物の便利さ」、「公的施設等のバリアフリー」の評価は低くなっている。

【問18】あなたは、地域活動への男性や女性の参加をどのようにお考えですか。

- ・「男性がもっと参加すべきである」の項目をみると、「②福祉・環境などのボランティア活動」(21.7%)が最も高く、次いで「子育て支援活動」(13.7%)が高くなっている。
- ・「女性がもっと参加すべきである」の項目を見ると、「区・自治会・町内会活動」(20.0%)が最も高くなっている。
- ・「①区・自治会・町内会活動」の項目では、性別による意見の差が見られた。「男性がもっと参加すべき」はほぼ同じ割合であるが、「女性がもっと参加すべき」では男性は25.4%、女性は15.7%で10ポイント近く差が開いている。
- ・③～⑦の項目に関しては「無回答」が多くなっていることから、こうした地域活動への参加の仕方として、男女といった性別についての関心自体が低いのではないかと考えられる。
- ・以上のことから、地域活動の種類によって、男女の住み分けがあることがわかる。

単位：%

項目	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
① 区・自治会・町内会活動	11.0	20.0	44.2	19.3	7.4
② 福祉・環境などのボランティア活動	21.7	8.2	31.6	31.8	9.7
③ 趣味・スポーツクラブ・各種講座などの活動	6.6	5.2	20.9	14.5	54.6
④ 子育て支援活動	13.7	3.2	12.7	16.3	55.0
⑤ 消費者団体・生活共同組合などの活動	4.6	2.2	16.8	21.1	55.6
⑥ 防犯・防災活動	7.8	9.1	15.7	14.6	54.8
⑦ 国際交流活動	3.4	2.8	13.2	26.3	55.1



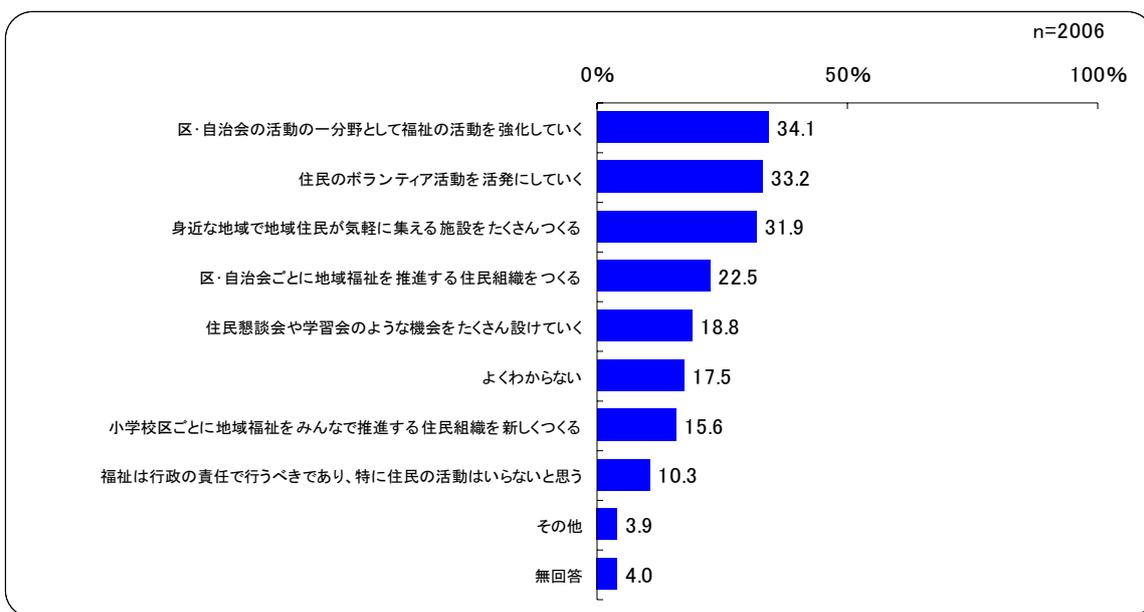
【問19】あなたは、地域において住民自身が福祉活動を推進していくにはどのようにすればよいと思いますか。

- ・地域において住民自身が福祉活動を推進していくために必要なことをたずねたところ、「区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく」(34.1%)、「住民のボランティア活動を活発にしていく」(33.2%)、「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設をたくさんつくる」(31.9%)が上位にあがっている。
- ・年齢別にみると、若年層は「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設をたくさんつくる」が最も高く、中年層は「住民のボランティア活動を活発にしていく」、高齢者層は「区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく」が高くなっている。年齢が上がるにつれて、区・自治会による福祉活動を重視しているといえる。
- ・家族構成別にみると、高齢者がいる家族と小学生～高校生がいる家族は「区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく」が高く、就学前児童がいる家族は「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設をたくさんつくる」が高くなっている。一人暮らし高齢者は「住民のボランティア活動を活発にしていく」が最も高くなっている。
- ・旧町別に「住民のボランティア活動を活発にしていく」の項目をみると、旧土山町(43.3%)と旧信楽町(37.0%)は高く、旧水口町(28.9%)は低くなっており、地域差があることがわかる。
- ・「福祉は行政の責任で行うべきであり、特に住民の活動はいらないと思う」の回答は約1割となっている。この項目を旧町別にみると、旧水口町(12.6%)が最も高く、最も低い町は旧甲賀町(7.7%)であった。以上のことから、転入者の多い地域では、福祉は行政の責任で行うべきと考える傾向があるといえる。

問19 住民自身が福祉活動を推進していくために必要なこと(MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	住民のボランティア活動を活発にしていく	666	33.2	34.6
2	区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく	684	34.1	35.5
3	区・自治会ごとに地域福祉を推進する住民組織をつくる	452	22.5	23.5
4	小学校区ごとに地域福祉をみんなで推進する住民組織を新しくつくる	312	15.6	16.2
5	住民懇談会や学習会のような機会をたくさん設けていく	378	18.8	19.6
6	身近な地域で地域住民が気軽に集える施設をたくさんつくる	639	31.9	33.2
7	福祉は行政の責任で行うべきであり、特に住民の活動はいらないと思う	207	10.3	10.7
8	その他	79	3.9	4.1
9	よくわからない	351	17.5	18.2
	無回答	80	4.0	
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0	

問19 住民活動を推進するために必要なこと



単位: %

区 分		総数	問19 今後、地域において住民自身が福祉活動を推進していくために必要なこと（複数回答）									
			住民のボランティア活動を活発に していく	区・自治会の活動の一分野として 福祉の活動を強化して いく	区・自治会 ごとに地域 福祉を推進 する住民組 織をつくる	小学校区ご とに地域福 祉をみんな で推進する 住民組織を 新しくつくる	住民懇談会 や学習会 のような機 会をたく さん設 けていく	身近な地域 で地域住 民が気軽 集える施 設をたく さんつ くる	福祉は行政 の責任で 行うべき であり、 特に住 民の活 動は いらぬ と思 う	その他	よくわ から ない	無回 答
性別	男性	866	33.4	38.1	26.7	18.8	20.0	27.5	13.2	4.5	15.8	2.7
	女性	1054	33.3	31.1	19.4	13.4	18.8	35.1	8.1	3.4	18.0	4.6
年齢	40歳未満	418	23.0	23.4	13.6	12.4	16.3	33.5	9.1	5.3	20.8	1.9
	40～64歳	945	36.3	34.4	24.2	14.8	17.4	30.5	11.6	3.7	15.0	2.5
	65～74歳	370	37.0	40.0	26.8	20.5	24.3	34.9	10.0	2.4	14.6	5.1
	75歳以上	262	33.2	42.4	24.8	16.8	21.0	30.2	7.6	3.8	24.4	10.7
旧5町	旧水口町	754	28.9	33.4	20.8	15.4	18.4	32.9	12.6	3.6	17.6	3.1
	旧甲南町	429	32.6	32.6	22.6	16.1	20.3	33.1	9.8	4.7	17.9	1.6
	旧信楽町	297	37.0	38.7	21.2	15.5	19.2	31.3	8.8	4.0	13.1	7.7
	旧土山町	224	43.3	31.3	26.8	17.9	19.6	31.3	8.5	3.1	19.2	4.5
	旧甲賀町	285	34.4	36.5	26.0	13.3	17.2	28.8	7.7	3.2	19.6	4.9
居住歴	親(あるいはその前)の代から	1058	35.5	36.4	25.1	16.1	18.1	30.6	9.5	3.7	17.8	4.4
	転入・転居してきた	861	30.9	31.8	19.5	14.9	19.7	33.6	11.6	3.9	17.2	2.6
家族構成	一人暮らし高齢者	28	39.3	32.1	14.3	28.6	25.0	32.1	7.1	-	10.7	7.1
	65歳以上の高齢者がいる家族	1171	35.2	38.8	24.9	16.7	18.4	31.8	9.1	4.0	17.8	5.4
	小学生～高校生がいる家族	562	31.9	32.9	22.4	18.0	15.7	30.8	9.3	4.6	15.5	4.1
	就学前の児童がいる家族	284	28.2	25.0	14.4	18.7	16.9	34.9	8.1	6.0	19.0	3.2
	その他	509	34.4	30.8	22.0	12.8	20.8	31.2	12.4	3.1	17.5	2.4

■ = 第1位

【問20】 今後、甲賀市が重点を置くべき福祉施策について、次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

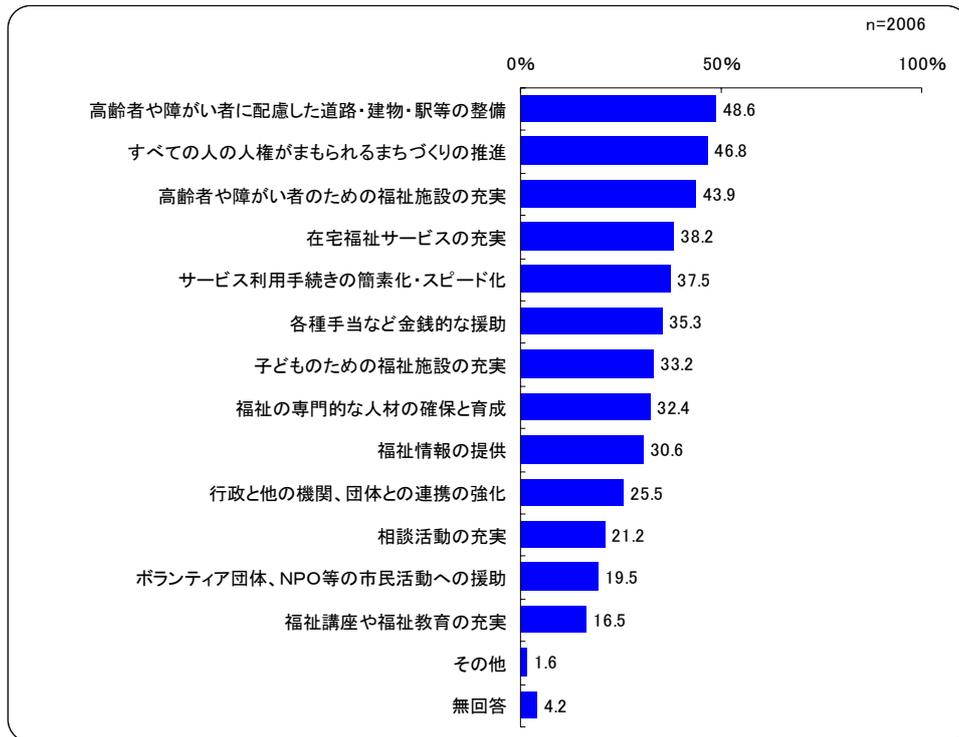
- ・ 今後、甲賀市が重点を置くべき福祉施策は、「高齢者や障がい者に配慮した道路・建物・駅等の整備」(48.6%)、「すべての人の人権がまもられるまちづくりの推進」(46.8%)、「高齢者や障がい者のための福祉施設の充実」(43.9%)の回答が上位にあがっている。
- ・ 回答の第1位を性別にみると、男性は「高齢者や障がい者に配慮した道路・建物・駅等の整備」、女性は「すべての人の人権がまもられるまちづくりの推進」となっている。
- ・ 年齢、旧町、居住歴、家族構成の別に見ても、「高齢者や障がい者に配慮した道路・建物・駅等の整備」と「すべての人の人権がまもられるまちづくりの推進」の割合が高くなっている。
- ・ しかしながら若年層と就学前児童のいる家族は「各種手当など金銭的な援助」が最も高くなっている。このことから、子育てをしている若年層は、他の世代とは異なる要望があるといえる。

問20 市が重点を置くべき福祉施策(MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	すべての人の人権がまもられるまちづくりの推進	938	46.8	48.8
2	高齢者や障がい者に配慮した道路・建物・駅等の整備	975	48.6	50.7
3	高齢者や障がい者のための福祉施設の充実	880	43.9	45.8
4	子どものための福祉施設の充実	665	33.2	34.6
5	サービス利用手続きの簡素化・スピード化	753	37.5	39.2
6	ボランティア団体、NPO*等の市民活動への援助	392	19.5	20.4
7	在宅福祉サービスの充実	766	38.2	39.9
8	福祉情報の提供	614	30.6	31.9
9	相談活動の充実	425	21.2	22.1
10	行政と他の機関、団体との連携の強化	512	25.5	26.6
11	福祉の専門的な人材の確保と育成	650	32.4	33.8
12	福祉講座や福祉教育の充実	331	16.5	17.2
13	各種手当など金銭的な援助	708	35.3	36.8
14	その他	32	1.6	1.7
	無回答	84	4.2	
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0	

*NPO:「Non-Profit Organization」の略で、民間非営利活動組織(団体)。市民が自主的に組織・運営する営利を目的としない市民活動組織。

問20 市が重点を置くべき福祉施策



単位: %

区分	総数	問20 市が重点を置くべき福祉施策 (複数回答)															
		すべての人の人権がまもられるまちづくりの推進	高齢者や障がい者に配慮した道路・建物・駅等の整備	高齢者や障がい者のための福祉施設の充実	子どものための福祉施設の充実	サービス利用手続きの簡素化・スピード化	ボランティア団体、NPO等の市民活動への援助	在宅福祉サービスの充実	福祉情報の提供	相談活動の充実	行政と他の機関、団体との連携の強化	福祉の専門的な人材の確保と育成	福祉講座や福祉教育の充実	各種手当など金銭的な援助	その他	無回答	
性別	男性	866	45.3	52.9	44.3	33.0	37.6	20.9	37.2	32.8	21.1	27.8	32.2	14.5	33.7	1.6	3.0
	女性	1054	48.0	45.2	43.7	33.7	38.0	18.6	40.0	29.3	21.5	24.1	32.8	17.9	37.3	1.7	4.8
年齢	40歳未満	418	42.6	44.3	35.9	45.7	34.9	15.8	34.2	32.8	20.8	21.8	30.6	17.7	50.0	2.4	1.7
	40～64歳	945	44.2	47.7	44.3	28.4	40.3	20.4	38.8	31.2	21.0	26.5	32.9	16.0	33.5	1.4	2.6
	65～74歳	370	56.8	54.3	49.7	34.1	37.8	21.6	42.4	29.7	22.7	28.9	36.5	17.6	31.6	0.5	4.9
	75歳以上	262	48.9	51.1	47.7	29.8	31.3	19.1	36.6	27.1	20.6	23.7	27.9	15.3	24.0	2.3	12.2
旧5町	旧水口町	754	46.4	51.2	45.6	33.8	38.5	20.2	34.9	32.9	21.2	24.5	32.8	15.1	38.3	1.7	4.8
	旧甲南町	429	45.2	47.8	45.0	31.7	38.0	18.4	39.2	31.0	23.8	24.2	34.0	16.1	35.0	1.4	3.0
	旧信楽町	297	47.1	49.8	42.8	34.0	38.0	19.2	40.1	28.3	21.9	27.6	35.7	18.9	30.0	1.7	5.1
	旧土山町	224	50.4	47.8	46.0	30.8	36.2	17.0	39.3	29.0	19.6	26.3	26.3	16.1	36.6	0.4	3.1
	旧甲賀町	285	48.1	42.8	38.6	35.1	34.4	22.1	41.8	28.8	18.6	27.0	30.9	18.6	32.3	1.8	3.5
居住歴	親(あるいはその前)の代から	1058	49.0	47.3	45.1	31.9	38.7	20.5	39.4	29.1	20.1	24.8	31.1	16.2	32.9	1.8	4.2
	転入・転居してきた	861	44.8	50.3	42.6	34.8	37.3	18.7	37.7	33.7	22.5	27.3	34.3	17.2	39.8	1.4	3.0
家族構成	一人暮らし高齢者	28	57.1	60.7	57.1	32.1	35.7	17.9	28.6	32.1	25.0	28.6	35.7	21.4	17.9	-	3.6
	65歳以上の高齢者がいる家族	1171	48.2	50.3	45.4	31.7	37.5	20.6	41.8	30.7	21.3	26.2	33.0	16.5	32.7	1.6	5.3
	小学生～高校生がいる家族	562	45.6	48.8	40.6	36.7	38.6	20.6	37.4	31.7	21.4	28.5	33.5	16.0	40.2	2.0	3.7
	就学前の児童がいる家族	284	43.0	43.0	35.6	56.3	32.0	16.2	31.7	30.6	20.4	21.8	32.0	15.8	50.0	2.1	2.1
	その他	509	45.8	46.6	44.2	27.3	39.7	19.6	34.6	29.7	20.8	25.5	31.4	17.9	32.4	1.2	3.1

■ = 第1位

4 社会福祉協議会について

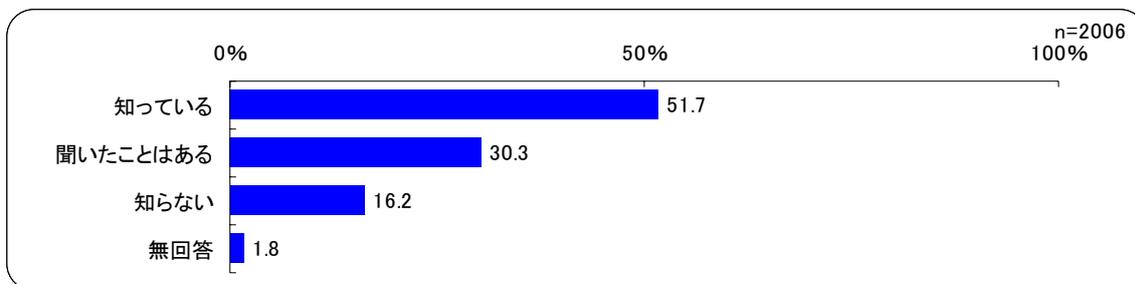
【問21】 あなたは、社会福祉協議会をご存知ですか。

- ・ 社会福祉協議会の認知度をたずねたところ、「知っている」の回答は約半数の51.7%、「聞いた事はある」は30.3%、「知らない」は16.2%となっている。
- ・ 「知っている」の回答を性別にみると、男性52.2%、女性51.5%で性差はみられない。
- ・ 年齢別では、40歳未満は「知らない」(38.3%)の回答が高く、40歳以上の年齢層は「知っている」の回答が約6割と高くなっている。若年層の認知度は低くなっている。
- ・ 旧町別では、いずれの町も「知っている」の回答が高く、中でも旧土山町は約6割あり、最も高い認知度となっている。

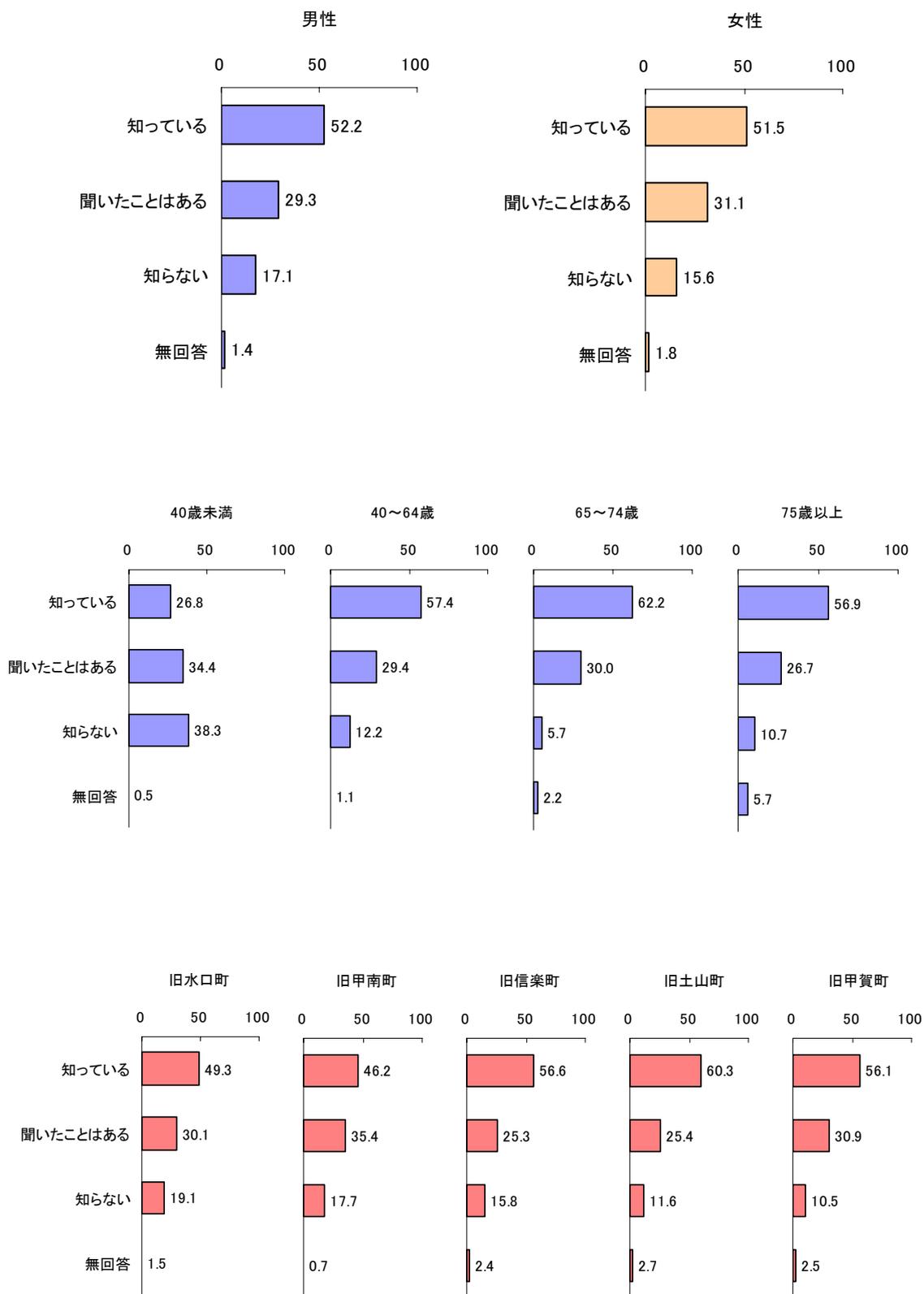
問21 社会福祉協議会の認知度(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	知っている	1038	51.7	52.7
2	聞いたことはある	607	30.3	30.8
3	知らない	324	16.2	16.5
	無回答	37	1.8	
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0	

問21 社会福祉協議会の認知度



【 性・年代・旧町別 社会福祉協議会の認知度 】



【問22】 問21で「知っている」「聞いたことはある」と答えた方におたずねします。それはどのような事業、活動ですか。

- ・ 社会福祉協議会を「知っている」、あるいは「聞いたことはある」と回答した人に、どのような事業、活動を知っているかをたずねたところ、「在宅福祉サービス関連」が最も高く、次いで「共同募金活動」、「区・自治会単位の福祉活動支援」、さらに「ボランティア推進活動」「福祉用具やその他器具の貸し出し」の順になっている。
- ・ 旧町別にみると、旧水口町と旧甲賀町は「ボランティア推進活動」が6位と全体と比べて順位が低くなっている。また、「区・自治会単位の福祉活動支援」も5位と低い順位になっている。
- ・ 「障がい者共同作業所運営事業」について障がい者共同作業所を運営している旧土山町と旧甲賀町をみると、旧甲賀町は4位であるが、旧土山町は運営しているにも関わらず8位と順位が低くなっている。
- ・ 社会福祉協議会を「知っている」と回答した人に、実際に参加あるいは利用したことのある社会福祉協議会事業・活動をたずねたところ、1位は「共同募金活動」、2位は「在宅福祉サービス関連」、3位は「区・自治会単位の福祉活動支援」、4位「ボランティア推進活動」、5位「障がい児・者支援事業」の順になっている。

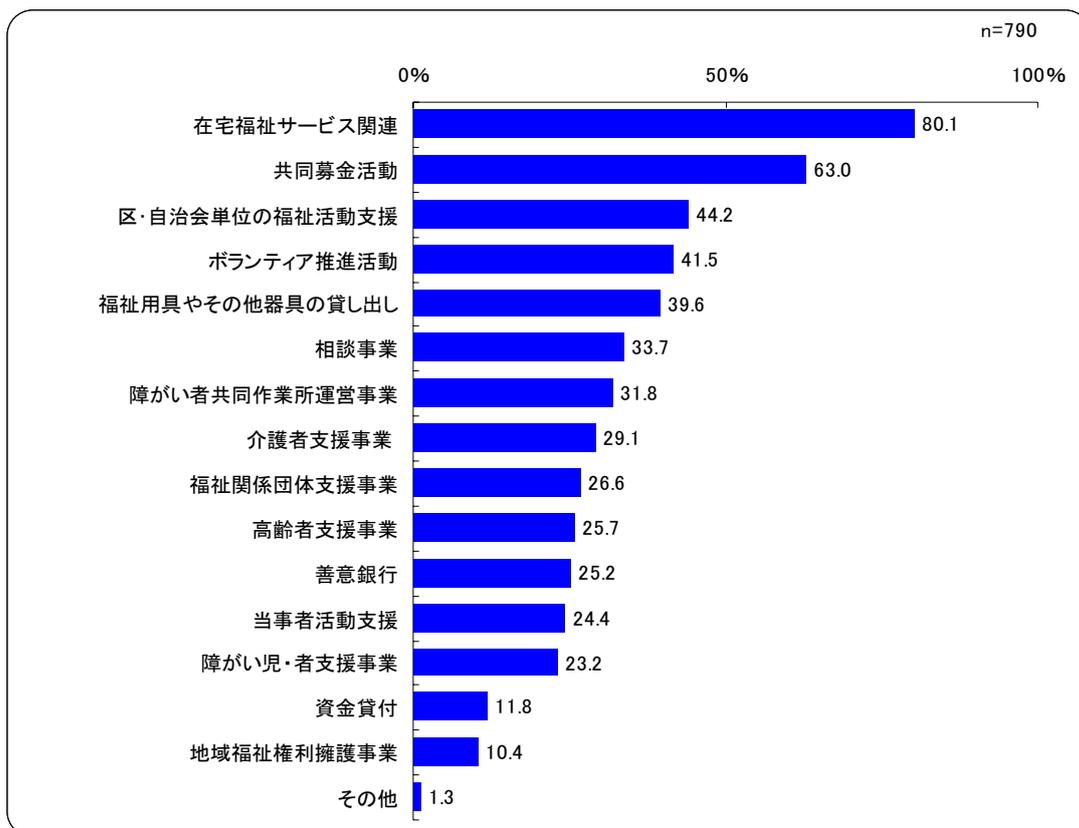
問 22-1 知っている、聞いたことがある事業、活動

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	在宅福祉サービス関連	633	38.5	80.1
2	ボランティア推進活動	328	19.9	41.5
3	区・自治会単位の福祉活動支援	349	21.2	44.2
4	資金貸付	93	5.7	11.8
5	共同募金活動	498	30.3	63.0
6	福祉関係団体支援事業	210	12.8	26.6
7	当事者活動支援	193	11.7	24.4
8	介護者支援事業	230	14.0	29.1
9	相談事業	266	16.2	33.7
10	地域福祉権利擁護事業※1	82	5.0	10.4
11	高齢者支援事業	203	12.3	25.7
12	障がい児・者支援事業	183	11.1	23.2
13	善意銀行※2	199	12.1	25.2
14	福祉用具やその他器具の貸し出し	313	19.0	39.6
15	障がい者共同作業所運営事業	251	15.3	31.8
16	その他	10	0.6	1.3
	無回答	855	52.0	
	サンプル数(%ベース)	1645	100.0	

※1 地域福祉権利擁護事業: 認知性高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が充分でない人に対して、福祉サービスの利用に関する相談・助言、必要な手続や利用料の支払いに関する支援等の事業。

※2 善意銀行: 「人に役に立つことをしたい」と思う方から『善意のお金』『善意の品物』の寄付をいただき、これらの「善意」を必要に応じて福祉のいろんな分野で有効に活用する事業。

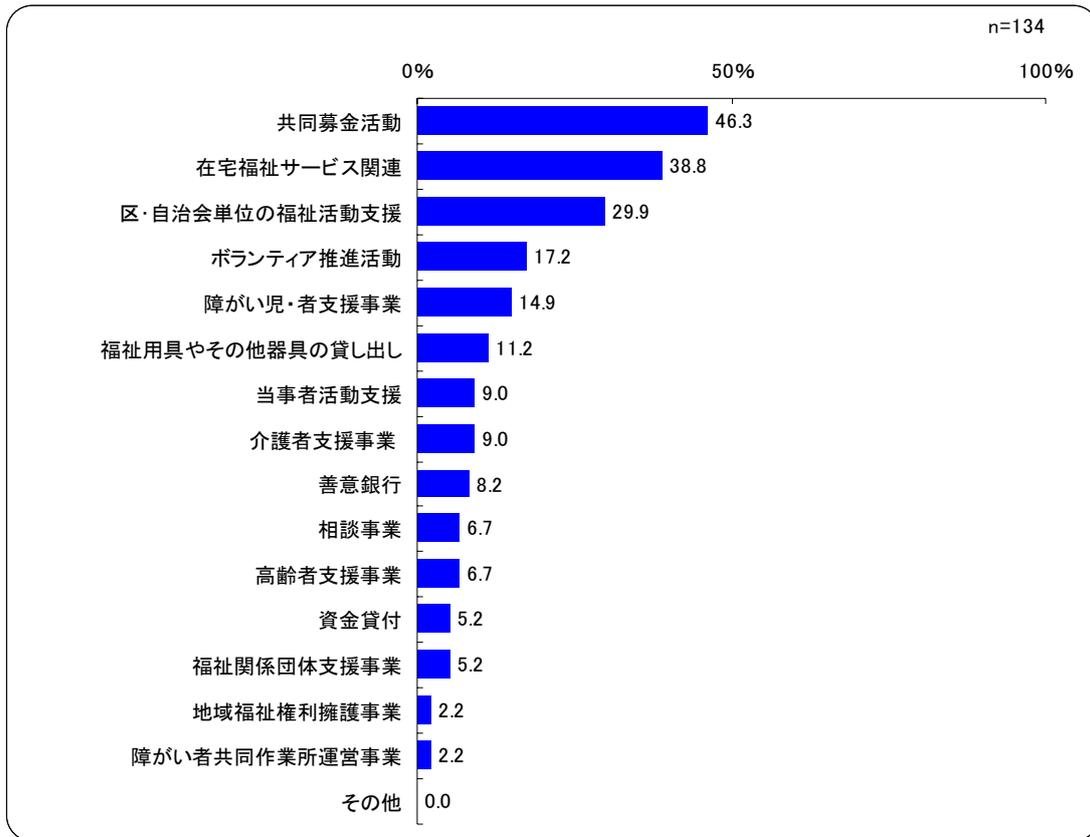
問 22-1 知っている、聞いたことがある事業、活動（無回答を除く）



単位: %

区分		総数	問22-1 知っている、聞いたことがある社会福祉協議会の事業、活動（複数回答）															
			在宅福祉サービス関連	ボランティア推進活動	区・自治会単位の福祉活動支援	資金貸付	共同募金活動	福祉関係団体支援事業	当事者活動支援	介護者支援事業	相談事業	地域福祉権利擁護事業	高齢者支援事業	障がい児・者支援事業	善意銀行	福祉用具やその他器具の貸し出し	障がい者共同作業所運営事業	その他
性別	男性	357	76.5	37.5	47.1	10.9	63.0	27.7	22.7	21.3	32.2	10.1	24.1	17.9	23.2	33.6	30.0	0.6
	女性	399	83.2	45.6	42.1	11.8	63.4	25.1	26.1	36.8	35.3	10.8	27.1	28.6	26.6	44.1	32.1	1.8
年齢	40歳未満	123	78.0	35.8	23.6	8.1	52.0	17.9	10.6	17.9	27.6	7.3	13.8	21.1	12.2	28.5	22.8	0.8
	40～64歳	403	78.7	41.7	45.9	12.2	65.3	26.8	26.3	30.0	34.0	11.4	22.6	26.3	28.5	39.0	31.3	0.7
	65～74歳	157	82.8	44.6	49.7	12.1	65.0	32.5	31.2	35.0	40.1	10.2	38.9	22.9	24.2	42.7	40.8	3.2
	75歳以上	103	85.4	43.7	54.4	14.6	65.0	28.2	24.3	31.1	31.1	10.7	33.0	14.6	29.1	51.5	31.1	1.0
旧5町	旧水口町	295	81.4	34.6	36.9	11.2	65.1	26.4	22.7	26.4	37.3	10.8	22.4	18.6	29.8	41.0	27.8	2.4
	旧甲南町	167	78.4	41.9	45.5	10.2	61.7	22.8	26.3	29.9	28.7	10.2	27.5	20.4	7.2	33.5	31.1	-
	旧信楽町	119	78.2	56.3	65.5	14.3	65.5	27.7	24.4	38.7	40.3	10.1	26.1	32.8	40.3	42.0	32.8	-
	旧土山町	87	78.2	43.7	34.5	11.5	58.6	21.8	26.4	23.0	23.0	3.4	34.5	20.7	26.4	32.2	25.3	1.1
	旧甲賀町	115	84.3	42.6	46.1	13.9	61.7	35.7	26.1	31.3	34.8	14.8	26.1	32.2	23.5	49.6	47.8	1.7
居住歴	親(あるいはその前の)代から	432	81.9	43.3	48.1	12.3	64.6	29.4	25.7	30.3	32.9	11.6	26.9	22.7	28.2	43.5	34.0	0.7
	転入・転居してきた	318	78.3	39.3	39.6	12.3	61.0	22.3	23.9	27.4	35.8	9.4	25.5	24.8	21.4	34.9	29.9	1.9
家族構成	一人暮らし高齢者	18	72.2	27.8	55.6	5.6	50.0	27.8	22.2	38.9	27.8	-	33.3	16.7	16.7	22.2	16.7	-
	65歳以上の高齢者がいる家族	491	80.7	42.8	46.6	12.6	64.0	28.9	25.9	32.2	35.0	10.4	28.7	20.8	25.7	42.8	32.4	1.4
	小学生～高校生がいる家族	239	80.8	45.6	48.5	11.3	64.4	25.5	25.1	30.1	31.8	8.8	23.8	25.1	26.4	39.3	29.3	1.3
	就学前の児童がいる家族	96	80.2	36.5	38.5	15.6	57.3	26.0	22.9	26.0	42.7	10.4	19.8	28.1	26.0	33.3	31.3	1.0
	その他	176	80.1	38.1	40.3	11.4	60.8	26.1	23.3	24.4	33.5	13.6	24.4	26.7	26.1	36.4	34.1	1.1

問 22-2 参加(利用)した事業、活動 (無回答を除く)



単位: %

区分		総数	問22-2 参加(利用)したことがある社会福祉協議会の事業、活動 (複数回答)															
			在宅福祉サービス関連	ボランティア推進活動	区・自治会単位の福祉活動支援	資金貸付	共同募金活動	福祉関係団体支援事業	当事者活動支援	介護者支援事業	相談事業	地域福祉権利擁護事業	高齢者支援事業	障がい児・者支援事業	善意銀行	福祉用具やその他器具の貸し出し	障がい者共同作業所運営事業	その他
性別	男性	54	33.3	9.3	33.3	5.6	51.9	5.6	9.3	5.6	7.4	3.7	3.7	7.4	9.3	3.7	-	
	女性	74	45.9	21.6	24.3	4.1	40.5	5.4	9.5	10.8	4.1	1.4	8.1	21.6	8.1	13.5	1.4	
年齢	40歳未満	18	27.8	11.1	16.7	5.6	27.8	-	-	5.6	5.6	-	-	27.8	5.6	5.6	-	
	40~64歳	75	40.0	24.0	29.3	4.0	46.7	1.3	10.7	6.7	5.3	1.3	4.0	16.0	9.3	13.3	2.7	
	65~74歳	25	32.0	8.0	36.0	12.0	52.0	16.0	12.0	20.0	12.0	4.0	8.0	12.0	4.0	4.0	4.0	
	75歳以上	16	56.3	6.3	37.5	-	56.3	12.5	6.3	6.3	6.3	6.3	25.0	-	12.5	18.8	-	
旧5町	旧水口町	51	25.5	15.7	39.2	-	52.9	3.9	3.9	7.8	5.9	-	7.8	11.8	7.8	11.8	2.0	
	旧甲南町	28	50.0	10.7	17.9	7.1	35.7	3.6	14.3	10.7	3.6	3.6	3.6	10.7	-	14.3	3.6	
	旧信楽町	20	55.0	20.0	40.0	5.0	50.0	-	5.0	5.0	5.0	-	5.0	15.0	10.0	5.0	-	
	旧土山町	14	57.1	35.7	21.4	14.3	42.9	21.4	21.4	14.3	7.1	7.1	-	21.4	21.4	14.3	-	
	旧甲賀町	21	28.6	14.3	19.0	9.5	42.9	4.8	9.5	9.5	14.3	4.8	14.3	23.8	9.5	9.5	4.8	
居住歴	親(あるいはその前の)代から	77	37.7	19.5	29.9	7.8	45.5	7.8	11.7	9.1	7.8	2.6	6.5	18.2	10.4	10.4	2.6	
	転入・転居してきた	51	39.2	13.7	27.5	2.0	45.1	2.0	5.9	9.8	3.9	-	5.9	11.8	2.0	9.8	2.0	
家族構成	一人暮らし高齢者	2	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	
	65歳以上の高齢者がいる家族	88	44.3	14.8	30.7	6.8	51.1	8.0	12.5	10.2	8.0	3.4	8.0	11.4	9.1	12.5	1.1	
	小学生~高校生がいる家族	38	36.8	7.9	23.7	2.6	50.0	10.5	13.2	10.5	5.3	2.6	13.2	18.4	5.3	10.5	-	
	就学前の児童がいる家族	16	18.8	12.5	18.8	18.8	37.5	-	6.3	-	12.5	-	-	18.8	12.5	6.3	-	
	その他	31	32.3	29.0	32.3	3.2	35.5	-	3.2	6.5	6.5	-	3.2	22.6	6.5	6.5	6.5	

【問23】あなたは社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。

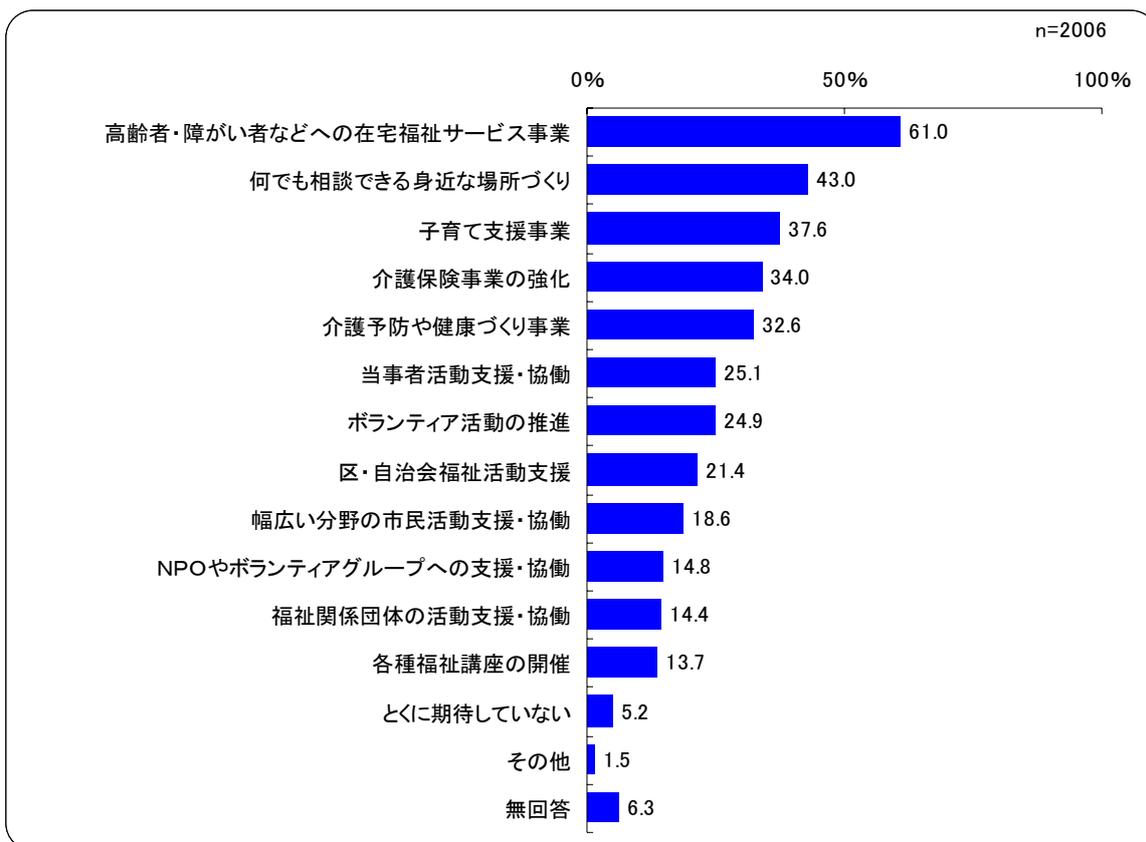
- ・社会福祉協議会の今後の活動として期待することをたずねると、「高齢者・障がい者などへの在宅福祉サービス事業」(61.0%)が約6割と最も高く、以下「何でも相談できる身近な場所づくり」(43.0%)、「子育て支援事業」(37.6%)、「介護予防や健康づくり事業」(32.6%)が続いている。
- ・「特に期待していない」の回答は5.2%あり、性別では男性、年齢では若年層がやや高い割合になっている。
- ・一人暮らし高齢者の回答順位をみると「ボランティア活動の推進」が42.9%で4位と全体と比べて高く、「介護保険事業の強化」は32.1%だが、7位と順位は低くなっている。
- ・「何でも相談できる身近な場所づくり」の項目は、性別は女性、年齢は前期高齢者層、家族構成では一人暮らし高齢者の回答が高くなっている。

問23 社会福祉協議会活動への期待(MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	高齢者・障がい者などへの在宅福祉サービス事業	1223	61.0	65.1
2	介護保険事業の強化	682	34.0	36.3
3	介護予防や健康づくり事業	654	32.6	34.8
4	子育て支援事業	755	37.6	40.2
5	ボランティア活動の推進	499	24.9	26.5
6	各種福祉講座の開催	274	13.7	14.6
7	何でも相談できる身近な場所づくり	863	43.0	45.9
8	区・自治会福祉活動支援	429	21.4	22.8
9	当事者活動支援・協働	503	25.1	26.8
10	福祉関係団体の活動支援・協働	288	14.4	15.3
11	NPOやボランティアグループへの支援・協働	297	14.8	15.8
12	幅広い分野の市民活動支援・協働	374	18.6	19.9
13	その他	31	1.5	1.6
14	とくに期待していない	105	5.2	5.6
	無回答	126	6.3	
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0	

問23 社会福祉協議会活動への期待

n=2006



単位: %

区分		総数	問23 社会福祉協議会活動への期待 (複数回答)														
			高齢者・障がい者などへの在宅福祉サービス事業	介護保険事業の強化	介護予防や健康づくり事業	子育て支援事業	ボランティア活動の推進	各種福祉講座の開催	何でも相談できる身近な場所づくり	区・自治会福祉活動支援	当事者活動支援・協働	福祉関係団体の活動支援・協働	NPOやボランティアグループへの支援・協働	幅広い分野の市民活動支援・協働	その他	とくに期待していない	無回答
性別	男性	866	59.2	33.7	31.8	36.5	26.2	13.4	39.4	24.0	24.5	14.7	15.5	20.3	2.0	6.0	6.2
	女性	1054	62.8	34.4	33.6	39.3	24.2	13.6	45.7	19.5	25.7	14.0	14.5	17.3	1.3	4.6	5.9
年齢	40歳未満	418	52.2	28.7	23.4	56.0	17.0	12.4	35.4	12.9	23.4	12.9	12.9	17.7	1.7	7.7	3.3
	40～64歳	945	62.3	34.8	31.0	33.9	26.1	13.0	41.0	19.5	25.8	12.3	15.7	18.5	1.5	5.1	5.3
	65～74歳	370	68.1	35.9	42.7	35.7	30.5	15.7	52.7	33.2	25.4	20.0	17.3	23.5	1.6	4.1	6.8
	75歳以上	262	61.1	37.4	38.9	25.6	24.8	14.9	48.9	25.6	24.4	16.4	11.8	13.7	1.5	3.4	13.0
旧5町	旧水口町	754	62.2	34.4	32.9	40.8	23.3	14.5	42.8	19.4	26.1	14.6	16.7	17.1	1.6	4.8	6.0
	旧甲南町	429	59.0	31.9	27.7	35.0	23.8	10.0	44.1	20.7	21.2	11.2	9.8	17.0	1.6	5.8	6.1
	旧信楽町	297	59.9	36.7	32.3	36.0	24.2	15.2	43.1	24.6	25.6	15.8	16.2	20.2	2.4	6.1	6.4
	旧土山町	224	63.4	33.5	35.7	35.7	27.2	16.1	47.3	22.3	24.6	14.7	14.7	20.1	1.3	4.9	5.4
	旧甲賀町	285	60.0	33.3	37.2	36.8	29.1	14.0	40.4	23.9	27.7	16.8	16.1	22.8	0.7	4.6	7.0
居住歴	親(あるいはその前)の代から	1058	62.8	34.2	34.4	38.4	26.8	13.7	41.8	22.9	26.2	15.8	15.9	18.2	1.3	5.7	5.6
	転入・転居してきた	861	59.5	33.8	29.8	37.7	22.8	13.5	43.9	19.6	24.6	12.4	13.5	19.3	1.7	4.9	6.0
家族構成	一人暮らし高齢者	28	71.4	32.1	50.0	42.9	42.9	14.3	57.1	28.6	35.7	10.7	17.9	25.0	-	-	10.7
	65歳以上の高齢者がいる家族	1171	64.0	36.3	36.2	35.1	26.6	14.0	45.2	24.7	25.9	16.1	16.1	18.4	1.3	5.0	7.2
	小学生～高校生がいる家族	562	60.9	33.5	29.0	40.4	25.3	11.9	44.0	21.4	25.3	13.9	14.8	20.3	1.4	5.5	5.7
	就学前の児童がいる家族	284	54.2	29.6	30.6	59.9	20.4	12.7	39.4	17.6	18.7	12.3	9.2	15.8	1.8	5.6	3.9
	その他	509	59.1	32.6	31.0	34.4	25.7	14.9	41.5	18.7	26.1	14.5	15.5	19.1	1.8	4.7	4.9

【問24】 今後、甲賀市を住みよいまちにしていくためには、どのようなことに取り組む必要があると思いますか。あなたのご意見やご要望について、ご自由にお書きください。(自由記入)

1. 自由記入の整理

- ・ 今後の甲賀市を住みよいまちにしていくための意見・要望をたずねたところ、747人の方から記入をいただいた(全体の37.2%)。
- ・ 性別では男性が325人、女性が392人で、男女ともに約4割の記入となっている。
- ・ 年齢別、旧町別においても、偏りのない記入となっている。

自由意見記入者の構成

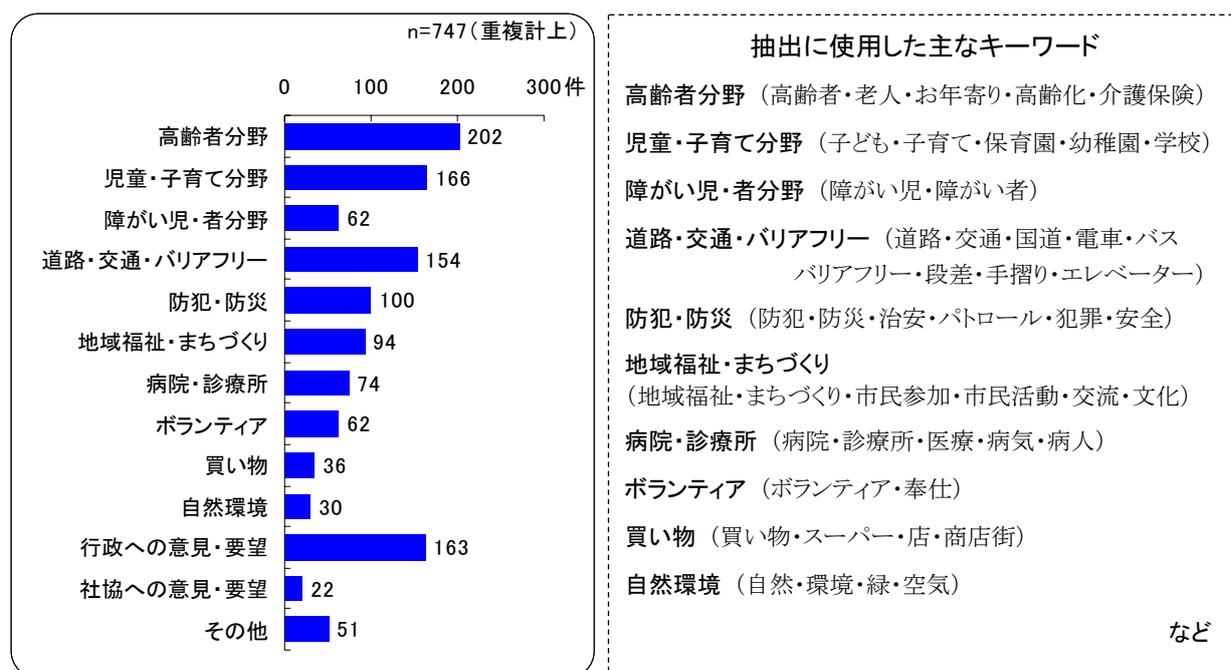
性別 年齢別	合計			男性			女性			無回答		
	件数	記入数	%	件数	記入数	%	件数	記入数	%	件数	記入数	%
40歳未満	418	166	39.7	170	63	37.1	239	97	40.6	9	6	66.7
40～64歳	945	335	35.4	426	152	35.7	499	179	35.9	20	4	20.0
65～74歳	370	148	40.0	167	72	43.1	175	70	40.0	28	6	21.4
75歳以上	262	90	34.4	102	37	36.3	138	45	32.6	22	8	36.4
無回答	11	8	72.7	1	1	100.0	3	1	33.3	7	6	85.7
合計	2,006	747	37.2	866	325	37.5	1054	392	37.2	86	30	34.9

性別 旧町別	合計			男性			女性			無回答		
	件数	記入数	%	件数	記入数	%	件数	記入数	%	件数	記入数	%
旧水口町	754	287	38.1	324	132	40.7	398	147	36.9	32	8	25.0
旧甲南町	429	165	38.5	188	68	36.2	221	92	41.6	20	5	25.0
旧信楽町	297	108	36.4	119	47	39.5	168	58	34.5	10	3	30.0
旧土山町	224	80	35.7	91	31	34.1	123	47	38.2	10	2	20.0
旧甲賀町	285	95	33.3	138	44	31.9	139	45	32.4	8	6	75.0
無回答	17	12	70.6	6	3	50.0	5	3	60.0	6	6	100.0
合計	2,006	747	37.2	866	325	37.5	1054	392	37.2	86	30	34.9

2. キーワード検索による記入内容の整理

- 自由記入の内容を、大きく①高齢者分野、②児童・子育て分野、③障がい児・者分野、④行政への意見・要望、⑤社会福祉協議会への意見・要望、⑥その他 の6つに分類した。
- 下のグラフは、747件の記入を、各分野に関するキーワードから抽出し、分類したものである。一つの記入に複数のキーワードが含まれる場合については、重複して計上されている。

キーワードによる記入内容の整理



- キーワード検索の結果、自由記述において最も多かったのは「高齢者分野」の202件で、次いで「児童・子育て分野」の166件が多くなっている。これは少子高齢社会の進行が、市民の日常生活における問題意識に反映しているものといえる。
- また、「道路・交通・バリアフリー」も154件と3番目に多く、移動手段の確保に関する問題や高齢者、障がい者等の生活における物理的な障壁が問題としてあがっているといえる。
- 「防犯・防災」や「地域福祉・まちづくり」に関してもその差は僅少であるが、いわばこの2つの項目はつながっている問題でもあり、安全、安心のまちづくりに関する問題意識が高いことが伺える。

3. 意見・要望からみる課題

(1) 安心・安全なまちづくり

最近の子どもを狙った犯罪の多発を背景に、市民の安全に対する不安は増大している。行政主導の仕組みづくりを望む声がある一方、「自分たちが何かやらねば」と考えている市民の意見が多い。甲南町希望が丘の取り組みは住民に見えやすく、住民自身が取り組む活動としての啓発ともなっている。また、警察も含めた「安全のネットワークづくり」の必要性が指摘されている。

(2) 地域でのつながりづくり

①地域でのつながりづくり

近隣のつながりの希薄さを指摘する声が多い。近所づきあいの大切さ、自治会単位でのネットワークづくり、グループづくり、そのための空間開放、「縁台」づくりや文化の伝承など様々な思いやアイデアが出されている。一方、プライバシー、個人情報保護の(過剰)反応からか、つながりづくりの難しさを指摘する声もある。また、自治会に加入していない人から、市民税を支払っているにも関わらず、広報等が届かないという「排除」状況について不満の声があげられている。

②外国人との共生

外国人に対して「仲良く生活」する方法を考える必要性(共生)を訴える意見とともに、外国人＝犯罪・不安という図式での理解や労働面に関しては「外国人を入れるな」という意見など、排除を基底とした意識をもつ市民の声もある。

外国人と共生する社会を、どう構築していくのかが問われているといえる。

(3) 住民の地域活動

身近な自治会・区での小さな単位での住民活動の大切さ、その充実・強化を望む声がある一方、地域のいわゆる「ボス支配」に不快感を示す声も出されている。また、自治会未加入者からは(2)の①で述べたように排除の仕組みがあることに対して不満の声もある。

(4) ボランティア活動

ボランティア活動の必要性や重要性については多くの声があがっている。ボランティア活動を行った時間をストックして、ボランティア活動を利用する際に引き出せる「ボランティア貯金」の提案や、「少しの時間、簡単なこと、誰でもが参加できるプログラムを提案し、心が豊かな人々の住む市(まち)づくりをする」という提案がある。市民活動の振興についても積極的な意見があった。しかし、それは「強制的になってはいけない」と指摘する声もある。経済的な余裕が少ない厳しい層からは「それどころではない」という声もあがっている。

(5) 高齢者・障がい者の社会参加

高齢者の力を活用すべき、という声とともに、ふれあいサロンの充実や身近な地域での社会参加の場づくりが必要であるという声がある。「笑って話そう」という実践の紹介もあり、プログラム検討のヒントとなる。なお、元気なときはよいが、そうでなくなった場合に参加できる場があるのか、といった不安の声

があがっている。障がい者の社会参加についての理解不足も伺える。併せて高齢者にはシルバー人材センターがあるが「ニート」に対しては就労を支援する場があるのかという問いかけもあった。

(6) 社会手段の保障、移動手手段の保障

病院の受診、日常の買い物、社会参加などあらゆる面での不便さを指摘する声は多い。(移動手手段がなくて)ふれあいサロンにも参加できないとの声もある。いくら社会参加を唱えても、それを可能にする基盤整備がないと当然、実現は不可能で、まちづくり全体の課題であるといえる。

(7) 福祉教育・人権教育

福祉教育の重要性を指摘する声とともに、市民の人権意識に関する鋭い指摘がある。この調査でも、差別を受けているという悲痛な声が上がっている。社会福祉、地域福祉と学校教育、生涯教育のそれぞれの事業や活動が共同して取り組まれることや、そのための具体的なプログラムづくりが必要であると考えられる。

(8) 情報提供・情報発信

サービスの情報提供が不十分であるという指摘がある。新聞を購読できない方がいる中、新聞折込という市の広報紙の配布方法についても、疑問の声があがっている。情報が行き渡らないということは、生活に必要なサービスの利用はもちろん、社会におけるつながりや社会参加の機会を奪われることになりかねない。すべての市民に情報が行き渡るように、行政と市民とが協働した情報提供の方法の構築が急がれる。

(9) 身近に相談できる場づくり

「誰に相談したらいいのかわからない。一人孤独に死んでいくのかな」という声全てを物語る。身近な相談の場、SOSを発信できる場所をきちんとつくり、周知することが大切であるといえる。社協においても取り組み始めた「何でも相談」をしっかりと周知していくことが必要であろう。

(10) 福祉サービスの充実

① 高齢者サービスの充実

施設整備や認知症ケア、学区単位での「宅老所」の設置等を望む声が上がっている。また、高齢者の存在、増加を積極的に評価して、施策に位置づけて考えるという提案もあった。

② 子育て支援施策の充実

少子社会といわれる中での保育所の待機問題や、一時預かり、学童保育の充実を望む声が多い。

③ 障がい児・者施策の充実

「こじか教室はなくなるのか？」という声にあるように、発達障がい児への支援を望む声がある。また、親の会といったの当事者組織の情報がなく、「孤独な時間」の苦しさ、叫びを訴える声がある(早急に対応しないといけない)。さらに就労施策の充実についての声もあげられている。

④ひとり親家庭への支援

ひとり親家庭が増加傾向にある中、施策としては後退していると指摘されている。この問題について、どう支援するのか、声をあげた方に応えるためにも、しっかりと検討しないといけない問題である。

⑤権利擁護

高齢者や障がい者に対する悪徳商法といった財産被害をはじめ、権利侵害事象が増加している。地域で安心して暮らすことのできるように、地域福祉権利擁護事業の充実や成年後見制度の活用・普及啓発は重要な点である。また、児童虐待が大きな社会問題となっている中、市として体系的かつ横断的な権利擁護システムの構築が必要である。

補論 1 開発地域に着目した分析

< 開発地域に着目した分析 >

開発地域

戦後の都市開発により、新興住宅や団地が建ち、新旧住民の混住する地域社会が形成された。戦前のような親族や地域の古い制約からは解放され自由になった一方で、社会的連帯は薄くなり、人間関係の希薄化、新旧住民のコミュニティー問題、環境問題、防犯・防災等、様々な問題が生じている。また、新興住宅といえども20年以上が経過しているところもあり、新たな問題も発生してきている。

調査の分析

ひとつの学区内に開発地域と古くからの地域が混在していることが多く、開発地域を特定することは難しい。そこで、小学校区の全てが開発地域といえる伴谷東小学校区(旧水口町)と、希望ヶ丘小学校区(旧甲南町)を開発地域のモデル地域とし、開発地域の特徴や課題を把握することとする。

◆開発地域モデル

伴谷東学区と希望ヶ丘学区を合わせた154件を開発地域とする。

開発地域の別(SA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	開発地域(伴谷東+希望ヶ丘)	154	7.7	7.7
2	それ以外の地域	1835	91.5	92.3
	無回答	17	0.8	
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0	1989

◆性別

開発地域の回答は男性74人、女性78人であり、ほぼ同数となっている。市全体と比較すると男性の割合がやや高くなっている。

	上段:度数 下段:%	問1 性別			
		合計	男性	女性	無回答
開 発 地 域 の 別	合計	2006 100.0	866 43.2	1054 52.5	86 4.3
	開発地域(伴谷東+希望ヶ丘)	154 100.0	74 48.1	78 50.6	2 1.3
	それ以外の地域	1835 100.0	786 42.8	971 52.9	78 4.3
	無回答	17 100.0	6 35.3	5 29.4	6 35.3

◆年齢区分

開発地域は「40～64歳」が半数以上を占め、「40歳未満」と合わせると8割以上になる。全体と比較しても若い年齢層の地域となっている。

	上段:度数 下段:%	問2 年齢4区分						
		合計	40歳未満	40～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答	
合計	2006 100.0	418 20.8	945 47.1	370 18.4	262 13.1	11 0.5		
開発地域の別×性別	開発地域	小計	154 100.0	43 27.9	84 54.5	20 13.0	7 4.5	-
		男性	74 100.0	19 25.7	41 55.4	8 10.8	6 8.1	-
		女性	78 100.0	24 30.8	42 53.8	11 14.1	1 1.3	-
		無回答	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-
	それ以外の地域	小計	1835 100.0	373 20.3	856 46.6	349 19.0	252 13.7	5 0.3
		男性	786 100.0	150 19.1	381 48.5	159 20.2	95 12.1	1 0.1
		女性	971 100.0	214 22.0	456 47.0	163 16.8	135 13.9	3 0.3
		無回答	78 100.0	9 11.5	19 24.4	27 34.6	22 28.2	1 1.3
	無回答	小計	17 100.0	2 11.8	5 29.4	1 5.9	3 17.6	6 35.3
		男性	6 100.0	1 16.7	4 66.7	-	1 16.7	-
女性		5 100.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	-	
無回答		6 100.0	-	-	-	-	6 100.0	

◆主な職業

開発地域は、「会社員」が最も多くなっている。全体と比較すると、「自営業主」は少なく、「会社員」と「パート・アルバイト」が多くなっている。

	上段:度数 下段:%	問4 主な職業											
		合計	自営業主 (商店主、 工場主、 農業経営 主など)お よび家族 従事者	会社員(民 間の企業・ 団体の勤 め人)	公務員	農林水産 業	自由業(開 業医、弁 護士、著 述業など)	非正社員 (派遣社 員、契約 社員など)	パート、ア ルバイト	職業には ついてい ない	その他	無回答	
合計	2006 100.0	222 11.1	548 27.3	108 5.4	28 1.4	18 0.9	54 2.7	250 12.5	756 37.7	4 0.2	18 0.9		
開発地域の別×性別	開発地域	小計	154 100.0	9 5.8	57 37.0	7 4.5	-	2 1.3	6 3.9	25 16.2	48 31.2	-	
		男性	74 100.0	5 6.8	40 54.1	6 8.1	-	1 1.4	1 1.4	8 10.8	13 17.6	-	
		女性	78 100.0	4 5.1	16 20.5	1 1.3	-	1 1.3	5 6.4	17 21.8	34 43.6	-	
		無回答	2 100.0	-	1 50.0	-	-	-	-	-	1 50.0	-	
	それ以外の地域	小計	1835 100.0	210 11.4	491 26.8	100 5.4	28 1.5	16 0.9	48 2.6	224 12.2	703 38.3	4 0.2	11 0.6
		男性	786 100.0	116 14.8	338 43.0	50 6.4	22 2.8	10 1.3	21 2.7	25 3.2	199 25.3	3 0.4	2 0.3
		女性	971 100.0	88 9.1	143 14.7	48 4.9	5 0.5	3 0.3	25 2.6	192 19.8	459 47.3	1 0.1	7 0.7
		無回答	78 100.0	6 7.7	10 12.8	2 2.6	1 1.3	3 3.8	2 2.6	7 9.0	45 57.7	-	2 2.6
	無回答	小計	17 100.0	3 17.6	-	1 5.9	-	-	-	1 5.9	5 29.4	-	7 41.2
		男性	6 100.0	2 33.3	-	1 16.7	-	-	-	-	2 33.3	-	1 16.7
女性		5 100.0	1 20.0	-	-	-	-	-	1 20.0	3 60.0	-	-	
無回答		6 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6 100.0	

◆通勤・通学先

開発地域は「甲賀市内」「滋賀県内の別の市町」「京都府内」が上位にあがっている。市全体と比較すると、「滋賀県内の別の市町」は高く、「自宅」と「甲賀市内」は低くなっている。

上段:度数 下段:%		問5 主な通勤・通学先							無回答
		合計	自宅	甲賀市内	滋賀県内の別の市町	京都府内	大阪府内	その他	
合計		1279 100.0	163 12.7	690 53.9	285 22.3	40 3.1	20 1.6	32 2.5	49 3.8
開発地域	小計	110 100.0	5 4.5	49 44.5	36 32.7	9 8.2	5 4.5	4 3.6	2 1.8
	男性	62 100.0	3 4.8	19 30.6	26 41.9	6 9.7	5 8.1	3 4.8	-
	女性	46 100.0	2 4.3	30 65.2	9 19.6	3 6.5	-	1 2.2	1 2.2
	無回答	2 100.0	-	-	1 50.0	-	-	-	1 50.0
開発地域の別×性別	小計	1157 100.0	156 13.5	638 55.1	248 21.4	31 2.7	15 1.3	28 2.4	41 3.5
	男性	601 100.0	86 14.3	283 47.1	168 28.0	22 3.7	9 1.5	17 2.8	16 2.7
	女性	523 100.0	65 12.4	342 65.4	74 14.1	7 1.3	6 1.1	8 1.5	21 4.0
	無回答	33 100.0	5 15.2	13 39.4	6 18.2	2 6.1	-	3 9.1	4 12.1
無回答	小計	12 100.0	2 16.7	3 25.0	1 8.3	-	-	-	6 50.0
	男性	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	-	-	-	-
	女性	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-	-
	無回答	6 100.0	-	-	-	-	-	-	6 100.0

◆家族構成

開発地域の家族構成は、「その他」が最も高く、次いで「65歳以上の高齢者がいる家族」「小学生～高校生がいる家族」の順になっている。市全体と比較すると、開発地域は「65歳以上の高齢者がいる家族」は少なく、「その他」は多くなっている。

上段:度数 下段:%		問6 家族構成						無回答
		合計	一人暮らし 高齢者である	65歳以上の 高齢者が いる家族	小学生～ 高校生が いる家族	就学前の 児童が いる家族	その他	
合計		2006 100.0	28 1.4	1171 58.4	562 28.0	284 14.2	509 25.4	21 1.0
開発地域	小計	154 100.0	2 1.3	50 32.5	44 28.6	24 15.6	53 34.4	2 1.3
	男性	74 100.0	2 2.7	27 36.5	22 29.7	10 13.5	22 29.7	1 1.4
	女性	78 100.0	-	21 26.9	22 28.2	14 17.9	31 39.7	1 1.3
	無回答	2 100.0	-	2 100.0	-	-	-	-
開発地域の別×性別	小計	1835 100.0	25 1.4	1114 60.7	516 28.1	259 14.1	452 24.6	13 0.7
	男性	786 100.0	6 0.8	468 59.5	206 26.2	97 12.3	218 27.7	6 0.8
	女性	971 100.0	17 1.8	587 60.5	292 30.1	152 15.7	219 22.6	6 0.6
	無回答	78 100.0	2 2.6	59 75.6	18 23.1	10 12.8	15 19.2	1 1.3
無回答	小計	17 100.0	1 5.9	7 41.2	2 11.8	1 5.9	4 23.5	6 35.3
	男性	6 100.0	-	1 16.7	1 16.7	-	4 66.7	1 16.7
	女性	5 100.0	1 20.0	5 100.0	1 20.0	1 20.0	-	-
	無回答	6 100.0	-	1 16.7	-	-	-	5 83.3

◆居住歴

開発地域は「転入・転居してきた」が9割を占め、市全体と比較しても圧倒的に高くなっている。

上段:度数 下段:%		問7-1 居住歴			
		合計	親(あるいはその前)の代から	転入・転居してきた	無回答
合計		2006 100.0	1058 52.7	861 42.9	87 4.3
開発地域の別×性別	小計	154 100.0	8 5.2	141 91.6	5 3.2
	男性	74 100.0	4 5.4	67 90.5	3 4.1
	女性	78 100.0	4 5.1	73 93.6	1 1.3
	無回答	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0
	小計	1835 100.0	1044 56.9	714 38.9	77 4.2
	男性	786 100.0	470 59.8	292 37.2	24 3.1
	女性	971 100.0	529 54.5	398 41.0	44 4.5
	無回答	78 100.0	45 57.7	24 30.8	9 11.5
	小計	17 100.0	6 35.3	6 35.3	5 29.4
	男性	6 100.0	3 50.0	3 50.0	-
女性	5 100.0	3 60.0	2 40.0	-	
無回答	6 100.0	-	1 16.7	5 83.3	

◆居住年数

開発地域は、「10～20年未満」は4割と最も多く、3年未満は1割、「3～10年未満」は2割、「20年以上」は25%となっている。市全体と比較して「3～10年未満」「10～20年未満」は高く、「20年以上」は低くなっている。開発地域は居住歴10～20年が多いことがわかる。

上段:度数 下段:%		問7-2 居住年数						
		合計	1年未満	1～3年未満	3～10年未満	10～20年未満	20年以上	無回答
合計		2006 100.0	40 2.0	92 4.6	210 10.5	321 16.0	1288 64.2	55 2.7
開発地域の別×性別	小計	154 100.0	6 3.9	10 6.5	35 22.7	63 40.9	38 24.7	2 1.3
	男性	74 100.0	2 2.7	6 8.1	16 21.6	33 44.6	16 21.6	1 1.4
	女性	78 100.0	4 5.1	4 5.1	19 24.4	29 37.2	21 26.9	1 1.3
	無回答	2 100.0	-	-	-	1 50.0	1 50.0	-
	小計	1835 100.0	34 1.9	82 4.5	174 9.5	256 14.0	1241 67.6	48 2.6
	男性	786 100.0	16 2.0	32 4.1	64 8.1	103 13.1	550 70.0	21 2.7
	女性	971 100.0	16 1.6	48 4.9	104 10.7	143 14.7	639 65.8	21 2.2
	無回答	78 100.0	2 2.6	2 2.6	6 7.7	10 12.8	52 66.7	6 7.7
	小計	17 100.0	-	-	1 5.9	2 11.8	9 52.9	5 29.4
	男性	6 100.0	-	-	-	2 33.3	4 66.7	-
女性	5 100.0	-	-	1 20.0	-	4 80.0	-	
無回答	6 100.0	-	-	-	-	1 16.7	5 83.3	

◆近所づきあいの程度

開発地域は、「簡単な頼みごとをしたり、土産物を分け合うつきあい」が最も多く、次いで「挨拶をする程度のつきあい」が多くなっている。市全体と比較すると、「困りごとの相談をしたり、助け合うようなつきあい」は低く、「挨拶をする程度のつきあい」「ほとんどつきあいはない」が高くなっている。男女別にみると、開発地域の男性のつきあいの程度は低くなっている。また、開発地域を居住年数別にみると、居住年数が浅くなるにつれてつきあいの程度は低くなっている。

これらのことから、開発地域の人間関係は希薄であるといえる。

上段:度数 下段:%		問8 近所づきあい						
		合計	困りごとの相談をしたり、助け合うようなつきあい	簡単な頼みごとをしたり、土産物を分け合うつきあい	立ち話をする程度のつきあい	挨拶をする程度のつきあい	ほとんどつきあいはない	無回答
合計		2006 100.0	397 19.8	890 44.4	345 17.2	300 15.0	57 2.8	17 0.8
開発地域の別×性別	小計	154 100.0	15 9.7	56 36.4	30 19.5	44 28.6	8 5.2	1 0.6
	男性	74 100.0	4 5.4	27 36.5	13 17.6	26 35.1	4 5.4	-
	女性	78 100.0	11 14.1	28 35.9	17 21.8	17 21.8	4 5.1	1 1.3
	無回答	2 100.0	-	1 50.0	-	1 50.0	-	-
	小計	1835 100.0	378 20.6	828 45.1	314 17.1	255 13.9	49 2.7	11 0.6
	男性	786 100.0	143 18.2	358 45.5	128 16.3	131 16.7	19 2.4	7 0.9
	女性	971 100.0	219 22.6	435 44.8	174 17.9	113 11.6	26 2.7	4 0.4
	無回答	78 100.0	16 20.5	35 44.9	12 15.4	11 14.1	4 5.1	-
	小計	17 100.0	4 23.5	6 35.3	1 5.9	1 5.9	-	5 29.4
	男性	6 100.0	2 33.3	3 50.0	1 16.7	-	-	-
女性	5 100.0	1 20.0	3 60.0	-	1 20.0	-	-	
無回答	6 100.0	1 16.7	-	-	-	-	5 83.3	

上段:度数 下段:%		問8 近所づきあい						
		合計	困りごとの相談をしたり、助け合うようなつきあい	簡単な頼みごとをしたり、土産物を分け合うつきあい	立ち話をする程度のつきあい	挨拶をする程度のつきあい	ほとんどつきあいはない	無回答
合計		154 100.0	15 9.7	56 36.4	30 19.5	44 28.6	8 5.2	1 0.6
開発地域	1年未満	6 100.0	-	-	3 50.0	2 33.3	1 16.7	-
	1～3年未満	10 100.0	-	4 40.0	-	6 60.0	-	-
	3～10年未満	35 100.0	2 5.7	12 34.3	4 11.4	14 40.0	3 8.6	-
	10～20年未満	63 100.0	6 9.5	24 38.1	14 22.2	15 23.8	3 4.8	1 1.6
	20年以上	38 100.0	6 15.8	15 39.5	9 23.7	7 18.4	1 2.6	-
	無回答	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-

◆困りごとの相談先

全体と比較して、開発地域は「知人・友人・職場の同僚」に相談することが多く、「近所の人」に相談することは少なくなっている。

上段:度数 下段:%	問9 相談相手											
	合計	家族・親戚	知人・友人・職場の同僚	近所の人	区・自治会等の地域の役員	民生委員児童委員	医師・保健師・ホームヘルパー等の専門職	行政や社会福祉協議会の職員	相談する人がいない	その他	無回答	
合計	2006 100.0	1798 89.6	991 49.4	389 19.4	98 4.9	48 2.4	148 7.4	77 3.8	42 2.1	26 1.3	17 0.8	
開発地域	小計	154 100.0	133 86.4	90 58.4	16 10.4	9 5.8	2 1.3	9 5.8	7 4.5	3 1.9	1 0.6	
	男性	74 100.0	63 85.1	37 50.0	5 6.8	7 9.5	2 2.7	7 9.5	4 5.4	2 2.7	-	
	女性	78 100.0	68 87.2	52 66.7	11 14.1	2 2.6	-	2 2.6	3 3.8	1 1.3	1 1.3	
	無回答	2 100.0	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	-	-	-	
	それ以外の地域	小計	1835 100.0	1655 90.2	896 48.8	369 20.1	89 4.9	46 2.5	138 7.5	70 3.8	39 2.1	25 1.4
男性	786 100.0	686 87.3	365 46.4	137 17.4	58 7.4	23 2.9	67 8.5	42 5.3	25 3.2	18 2.3	5 0.6	
女性	971 100.0	900 92.7	506 52.1	217 22.3	28 2.9	21 2.2	65 6.7	24 2.5	13 1.3	7 0.7	7 0.7	
無回答	78 100.0	69 88.5	25 32.1	15 19.2	3 3.8	2 2.6	6 7.7	4 5.1	1 1.3	-	-	
無回答	小計	17 100.0	10 58.8	5 29.4	4 23.5	-	-	1 5.9	-	-	-	5 29.4
	男性	6 100.0	5 83.3	4 66.7	1 16.7	-	-	1 16.7	-	-	-	-
	女性	5 100.0	4 80.0	1 20.0	3 60.0	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	6 100.0	1 16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	5 83.3

◆情報の入手先

全体と比較して、開発地域は「テレビ・新聞・雑誌」と「情報を必要としていない」が高く、「社会福祉協議会の広報紙」「区・自治会等の地域の役員」は低くなっている。

上段:度数 下段:%	問10 情報の入手先																		
	合計	市広報	社会福祉協議会の広報紙	行政の窓口	社会福祉協議会の窓口	福祉施設	公民館	ボランティア	区・自治会等の地域の役員	民生委員児童委員	家族・親戚	知人・友人・職場の同僚	近所の人	インターネット	テレビ・新聞・雑誌	情報を必要としていない	その他	無回答	
合計	2006 100.0	1424 71.0	806 40.2	166 8.3	90 4.5	118 5.9	81 4.0	64 3.2	219 10.9	55 2.7	585 29.2	437 21.8	319 15.9	130 6.5	860 42.9	80 4.0	33 1.6	27 1.3	
開発地域	小計	154 100.0	108 70.1	53 34.4	12 7.8	2 1.3	6 3.9	1 0.6	1 0.6	5 3.2	2 1.3	25 16.2	34 22.1	21 13.6	8 4.5	70 45.5	14 9.1	2 1.3	
	男性	74 100.0	51 68.9	27 36.5	9 12.2	2 2.7	4 5.4	-	-	3 4.1	2 2.7	15 20.3	18 24.3	10 13.5	3 4.1	33 44.6	8 10.8	-	1 1.4
	女性	78 100.0	55 70.5	26 33.3	3 3.8	-	2 2.6	1 1.3	1 1.3	2 2.6	-	10 12.8	16 20.5	11 14.1	4 5.1	37 47.4	6 7.7	2 2.6	1 1.3
	無回答	2 100.0	2 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 50.0	-	-	-	-
	それ以外の地域	小計	1835 100.0	1308 71.3	752 41.0	153 8.3	87 4.7	112 6.1	79 4.3	61 3.3	213 11.6	53 2.9	557 30.4	399 21.7	296 16.1	122 6.6	786 42.8	66 3.6	31 1.7
男性	786 100.0	537 68.3	321 40.8	78 9.9	39 5.0	46 5.9	28 3.6	19 2.4	125 15.9	30 3.8	233 29.6	135 17.2	121 15.4	72 9.2	327 41.6	41 5.2	17 2.2	6 0.8	
女性	971 100.0	713 73.4	397 40.9	67 6.9	44 4.5	63 6.5	48 4.9	39 4.0	81 8.3	20 2.1	304 31.3	254 26.2	167 17.2	49 5.0	422 43.5	22 2.3	14 1.4	14 1.4	
無回答	78 100.0	58 74.4	34 43.6	8 10.3	4 5.1	3 3.8	3 3.8	3 3.8	7 9.0	3 3.8	20 25.6	10 12.8	8 10.3	1 1.3	37 47.4	3 3.8	-	-	
無回答	小計	17 100.0	8 47.1	1 5.9	1 5.9	1 5.9	-	1 5.9	2 11.8	1 5.9	-	3 17.6	4 23.5	2 11.8	-	4 23.5	-	-	5 29.4
	男性	6 100.0	4 66.7	1 16.7	1 16.7	-	1 16.7	1 16.7	-	1 16.7	-	2 33.3	3 50.0	1 16.7	-	4 66.7	-	-	-
	女性	5 100.0	3 60.0	-	-	1 20.0	-	-	1 20.0	1 20.0	-	1 20.0	1 20.0	1 20.0	-	-	-	-	-
	無回答	6 100.0	1 16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5 83.3

◆ボランティアの参加

開発地域の約1割がボランティア活動に参加し、9割は参加していない。全体と比較して、開発地域は「参加していない」が高くなっている。

	上段:度数 下段:%	問11 ボランティアの参加			
		合計	参加している	参加していない	無回答
合計		2006 100.0	257 12.8	1714 85.4	35 1.7
開発地域	小計	154 100.0	17 11.0	137 89.0	-
	男性	74 100.0	8 10.8	66 89.2	-
	女性	78 100.0	9 11.5	69 88.5	-
	無回答	2 100.0	-	2 100.0	-
開発地域の別×性別	小計	1835 100.0	237 12.9	1565 85.3	33 1.8
	男性	786 100.0	103 13.1	670 85.2	13 1.7
	女性	971 100.0	122 12.6	831 85.6	18 1.9
	無回答	78 100.0	12 15.4	64 82.1	2 2.6
無回答	小計	17 100.0	3 17.6	12 70.6	2 11.8
	男性	6 100.0	2 33.3	4 66.7	-
	女性	5 100.0	-	4 80.0	1 20.0
	無回答	6 100.0	1 16.7	4 66.7	1 16.7

◆参加している理由

全体と比較して、開発地域は「生きがい・やりがいを感じられるから」「地域のために役立つと思うから」「社会奉仕だと思うから」が高く、「自分の成長につながるから」は低くなっている。

上段:度数 下段:%	合計	問13 参加している理由										
		活動自体が楽しいから	生きがい・やりがいを感じられるから	活動を通じて人間関係が広がるから	自分の成長につながると思うから	地域のために役立つと思うから	社会奉仕だと思うから	誘われたり、勧められたりして仕方ないから	職場や学校で参加することになったから	その他	無回答	
合計	257 100.0	82 31.9	85 33.1	152 59.1	104 40.5	137 53.3	95 37.0	13 5.1	15 5.8	11 4.3	3 1.2	
開発地域	小計	17 100.0	5 29.4	7 41.2	10 58.8	6 35.3	10 58.8	7 41.2	-	1 5.9	1 5.9	-
	男性	8 100.0	2 25.0	2 25.0	3 37.5	1 12.5	6 75.0	4 50.0	-	1 12.5	-	-
	女性	9 100.0	3 33.3	5 55.6	7 77.8	5 55.6	4 44.4	3 33.3	-	-	1 11.1	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
開発地域の別×性別	小計	237 100.0	76 32.1	77 32.5	139 58.6	97 40.9	125 52.7	87 36.7	13 5.5	14 5.9	9 3.8	3 1.3
	男性	103 100.0	34 33.0	32 31.1	60 58.3	33 32.0	66 64.1	43 41.7	5 4.9	10 9.7	4 3.9	1 1.0
	女性	122 100.0	39 32.0	38 31.1	69 56.6	56 45.9	51 41.8	39 32.0	8 6.6	4 3.3	5 4.1	2 1.6
	無回答	12 100.0	3 25.0	7 58.3	10 83.3	8 66.7	8 66.7	5 41.7	-	-	-	-
無回答	小計	3 100.0	1 33.3	1 33.3	3 100.0	1 33.3	2 66.7	1 33.3	-	-	1 33.3	-
	男性	2 100.0	-	-	2 100.0	-	1 50.0	-	-	-	1 50.0	-
	女性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-

◆参加していない理由

全体と比較して、開発地域は「体力や健康状態に自信がないから」と「参加したい活動がないから」の項目を除いて全体よりも高くなっている。全体と比較して最も開きの大きい項目は「(仕事や育児、家事などで忙しく)時間がないから」であるが、「どのように参加してよいかわからない」と「活動自体がよくわからない」も高く、広報や情報提供を工夫することによって、ボランティアの参加につながると考えられる。

上段:度数 下段:%	問14 参加していない理由												
	合計	(仕事や育児、家事などで忙しく)時間がないから	参加したい活動がないから	活動自体がよくわからないから	どのように参加してよいかわからないから	体力や健康状態に自信がないから	経済的余裕がないから	人間関係がわずらわしいから	関心がないから	その他	無回答		
合計	1714 100.0	943 55.0	178 10.4	381 22.2	363 21.2	459 26.8	247 14.4	149 8.7	163 9.5	98 5.7	20 1.2		
開発地域の別×性別	開発地域	小計	137 100.0	90 65.7	14 10.2	37 27.0	40 29.2	24 17.5	25 18.2	17 12.4	16 11.7	5 3.6	1 0.7
		男性	66 100.0	41 62.1	7 10.6	11 16.7	14 21.2	12 18.2	10 15.2	6 9.1	12 18.2	2 3.0	1 1.5
		女性	69 100.0	48 69.6	7 10.1	25 36.2	25 36.2	11 15.9	15 21.7	11 15.9	4 5.8	3 4.3	-
		無回答	2 100.0	1 50.0	-	1 50.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-	-
	それ以外の地域	小計	1565 100.0	847 54.1	163 10.4	343 21.9	320 20.4	431 27.5	220 14.1	128 8.2	146 9.3	91 5.8	19 1.2
		男性	670 100.0	359 53.6	92 13.7	165 24.6	149 22.2	160 23.9	99 14.8	55 8.2	85 12.7	32 4.8	9 1.3
		女性	831 100.0	466 56.1	66 7.9	168 20.2	161 19.4	244 29.4	111 13.4	68 8.2	57 6.9	54 6.5	10 1.2
		無回答	64 100.0	22 34.4	5 7.8	10 15.6	10 15.6	27 42.2	10 15.6	5 7.8	4 6.3	5 7.8	-
	無回答	小計	12 100.0	6 50.0	1 8.3	1 8.3	3 25.0	4 33.3	2 16.7	4 33.3	1 8.3	2 16.7	-
		男性	4 100.0	1 25.0	-	-	1 25.0	2 50.0	1 25.0	-	-	-	-
		女性	4 100.0	2 50.0	-	-	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	-
		無回答	4 100.0	3 75.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	-	3 75.0	-	1 25.0	-

◆今後のボランティア活動の発展のために必要なこと

市全体と比較して、開発地域は「活動拠点の確保」「広報・啓発の充実」「職場のボランティア休暇の充実」が高く、「学校での福祉教育の充実」は低くなっている。

上段:度数 下段:%	問15 今後の活動の発展のために										
	合計	相談窓口の充実	専門性のある職員やアドバイザーの配置	活動拠点の確保	広報・啓発の充実	学校での福祉教育の充実	職場のボランティア休暇の充実	その他	無回答		
合計	2006 100.0	642 32.0	759 37.8	643 32.1	833 41.5	447 22.3	428 21.3	91 4.5	185 9.2		
開発地域の別×性別	開発地域	小計	154 100.0	50 32.5	58 37.7	55 35.7	73 47.4	29 18.8	37 24.0	4 2.6	7 4.5
		男性	74 100.0	25 33.8	28 37.8	32 43.2	31 41.9	13 17.6	23 31.1	2 2.7	2 2.7
		女性	78 100.0	24 30.8	29 37.2	22 28.2	42 53.8	16 20.5	13 16.7	2 2.6	4 5.1
		無回答	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	-	-	1 50.0	-	1 50.0
	それ以外の地域	小計	1835 100.0	587 32.0	698 38.0	584 31.8	756 41.2	414 22.6	388 21.1	84 4.6	176 9.6
		男性	786 100.0	248 31.6	290 36.9	262 33.3	355 45.2	160 20.4	176 22.4	50 6.4	49 6.2
		女性	971 100.0	317 32.6	387 39.9	301 31.0	374 38.5	239 24.6	202 20.8	30 3.1	111 11.4
		無回答	78 100.0	22 28.2	21 26.9	21 26.9	27 34.6	15 19.2	10 12.8	4 5.1	16 20.5
	無回答	小計	17 100.0	5 29.4	3 17.6	4 23.5	4 23.5	4 23.5	3 17.6	3 17.6	2 11.8
		男性	6 100.0	1 16.7	-	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7	2 33.3	-
		女性	5 100.0	1 20.0	1 20.0	-	3 60.0	2 40.0	1 20.0	-	1 20.0
		無回答	6 100.0	3 50.0	2 33.3	2 33.3	-	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7

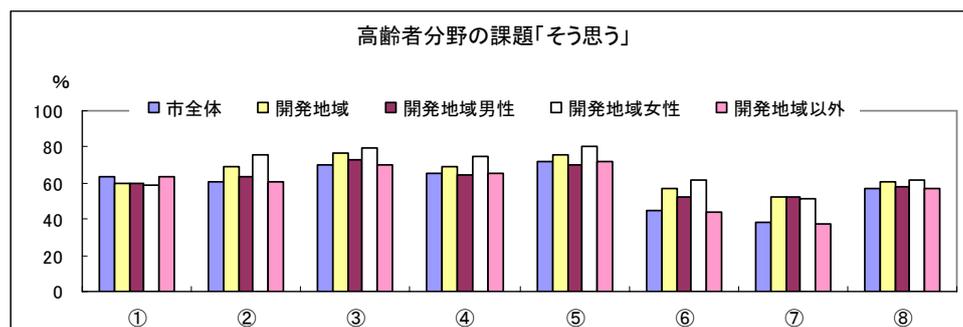
◆分野別の課題

＜高齢者分野＞

- ・「そう思う」の回答割合を市全体と比較すると、開発地域は「②高齢者の孤立化や生活不安、閉じこもり」「⑥高齢者虐待や介護放棄」「⑦高齢者の就労」の項目が高くなっている。
- ・開発地域の男性と女性を比べると、「②高齢者の孤立化や生活不安、閉じこもり」「⑥高齢者虐待や介護放棄」と「⑤老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設」は女性が高くなっている。
- ・開発地域と開発以外の地域では、「⑥高齢者虐待や介護放棄」と「⑦高齢者のつどいや憩いの場」において開発地域は高くなっている。

地域でなんとかしなければならない課題として「そう思う」の回答(単位:%)

高齢者分野の課題	市全体	開発地域	男性	女性	開発地域以外
① 健康づくりや生きがいがづくりの取り組み	63.5	59.7	59.5	59.0	63.9
② 孤立化や生活不安、閉じこもり	61.0	69.5	63.5	75.6	60.5
③ 寝たきりや認知症など的高齢者のいる世帯の介護負担	70.4	76.6	73.0	79.5	70.0
④ 介護に必要な費用	65.3	69.5	64.9	74.4	65.0
⑤ 老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設	72.4	75.3	70.3	80.8	72.3
⑥ 高齢者虐待や介護放棄	44.8	57.1	52.7	61.5	43.9
⑦ 高齢者の就労	38.3	52.6	52.7	51.3	37.3
⑧ 高齢者のつどいや憩いの場	57.1	60.4	58.1	61.5	57.1

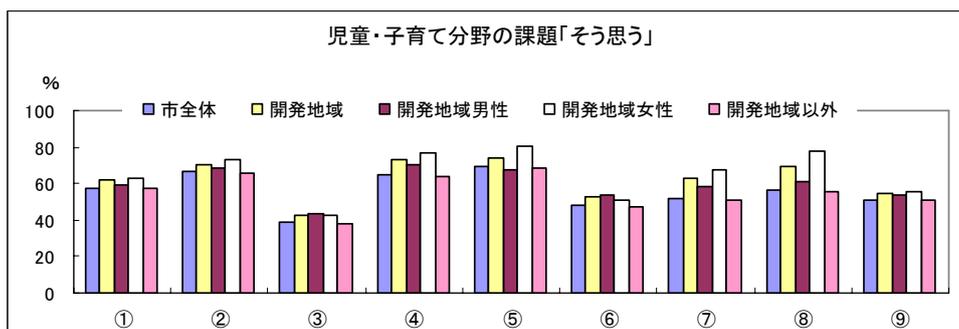


＜児童・子育て分野＞

- ・「そう思う」の回答割合を市全体と比較すると、開発地域は「④子どもの非行・いじめ・不登校・引きこもり」「⑦ひとり親家庭の子育てに関する周囲の理解や支援」「⑧児童虐待や育児放棄」の項目が高くなっている。
- ・男性と女性の回答をみると、「⑤子どもが安心して遊べる場所」と「⑧児童虐待や育児放棄」の項目は女性が高くなっている。

地域でなんとかしなければならない課題として「そう思う」の回答(単位:%)

児童・子育て分野の課題	市全体	開発地域	男性	女性	開発地域以外
① 子育てに関する相談窓口や支援	57.5	61.7	59.5	62.8	57.3
② 働く親の条件にあった保育所や学童保育	66.3	70.8	68.9	73.1	66.0
③ 子どもの学力や進学	38.6	42.9	43.2	42.3	38.4
④ 子どもの非行・いじめ・不登校・引きこもり	64.4	73.4	70.3	76.9	63.7
⑤ 子どもが安心して遊べる場所	69.0	74.0	67.6	80.8	68.7
⑥ 子育てに必要な費用	47.9	53.2	54.1	51.3	47.6
⑦ ひとり親家庭の子育てに関する周囲の理解や支援	51.4	63.0	58.1	67.9	50.6
⑧ 児童虐待や育児放棄	56.7	69.5	60.8	78.2	55.7
⑨ 子どものつどいや憩いの場	51.1	54.5	54.1	55.1	51.0

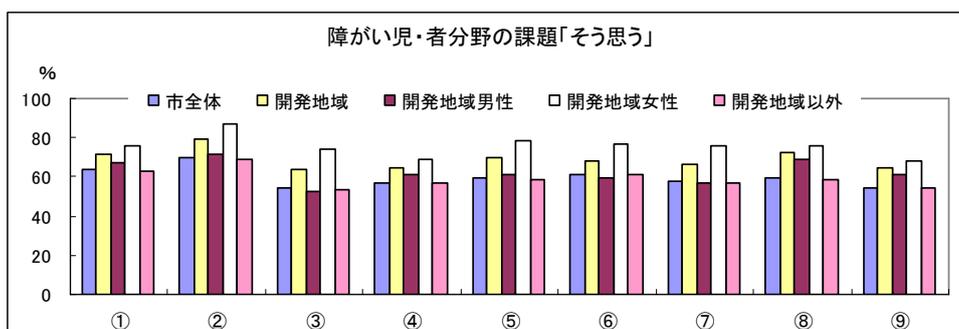


<障がい児・者分野>

- ・「そう思う」の回答割合を市全体と比較すると、開発地域は「②障がい児・者に対する周囲の理解や支援」「⑤障がい児・者に対する相談窓口」「⑧障がい者の就労」の項目が高くなっている。
- ・男性と女性の回答割合をみると、全ての項目において女性のほうが高くなっている。中でも「③障がい児・者と障がいの無い人が地域で共に暮らすこと」は差が大きく開いている。

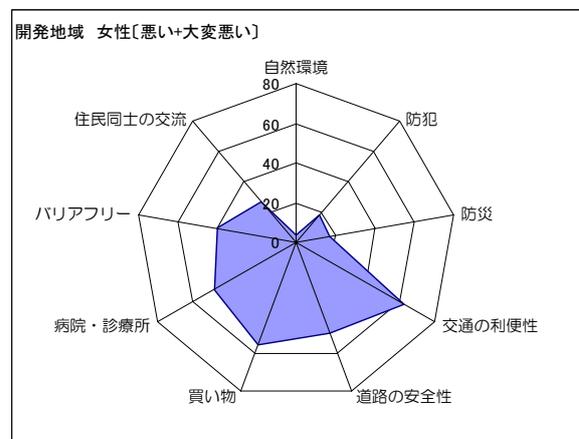
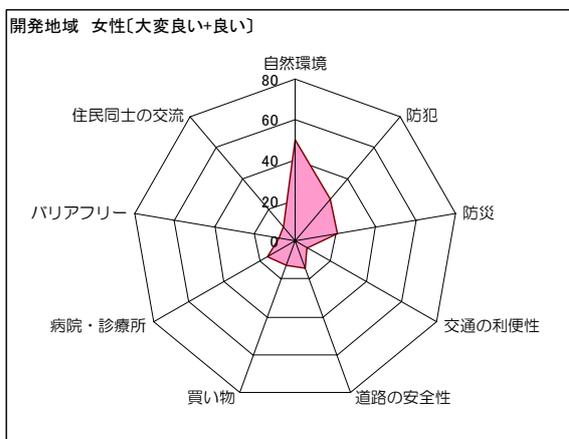
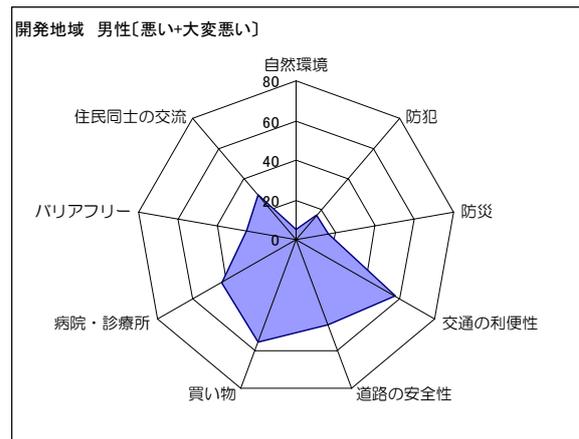
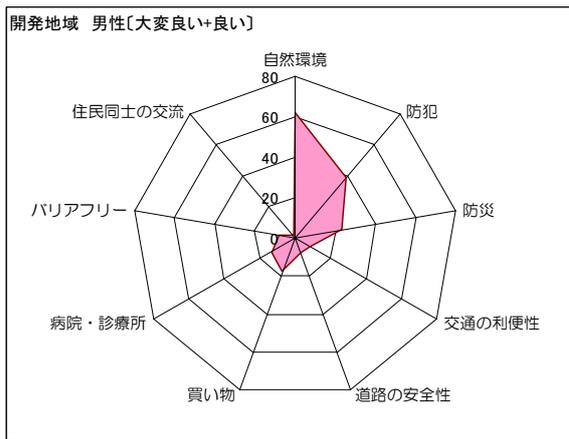
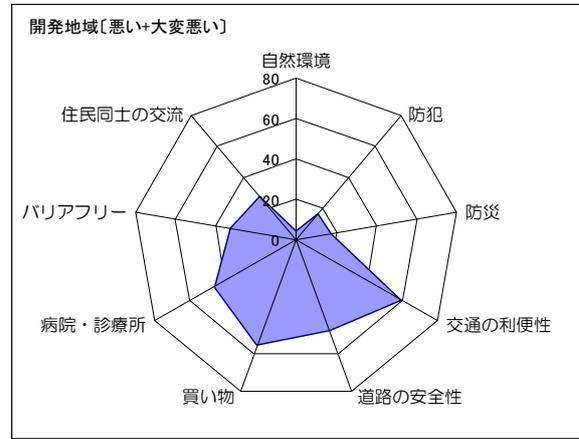
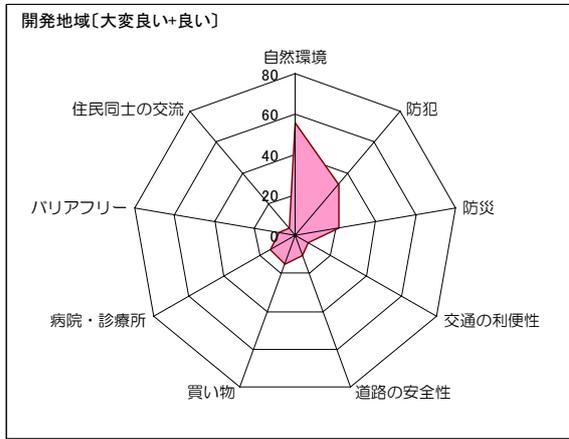
地域でなんとかしなければならない課題として「そう思う」の回答(単位:%)

障がい児・者分野の課題	市全体	開発地域	男性	女性	開発地域以外
① 障がい児・者のいる世帯の介護負担	63.4	71.4	67.6	75.6	62.8
② 障がい児・者に対する周囲の理解や支援	69.5	79.2	71.6	87.2	68.8
③ 障がい児・者と障がいの無い人が地域で共に暮らすこと	54.0	63.6	52.7	74.4	53.1
④ 障がい児・者の社会参加	57.3	64.9	60.8	69.2	56.7
⑤ 障がい児・者に対する相談窓口	59.5	69.5	60.8	78.2	58.7
⑥ 障がい児・者が利用できる身近な生活施設	61.5	68.2	59.5	76.9	61.0
⑦ 障がい児の療育・教育・生活	57.9	66.2	56.8	75.6	57.3
⑧ 障がい者の就労	59.7	72.7	68.9	75.6	58.8
⑨ 障がい児・者のつどいや憩いの場	54.7	64.3	60.8	67.9	54.0

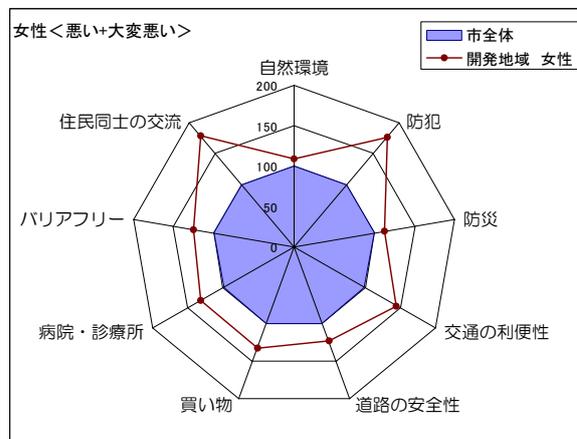
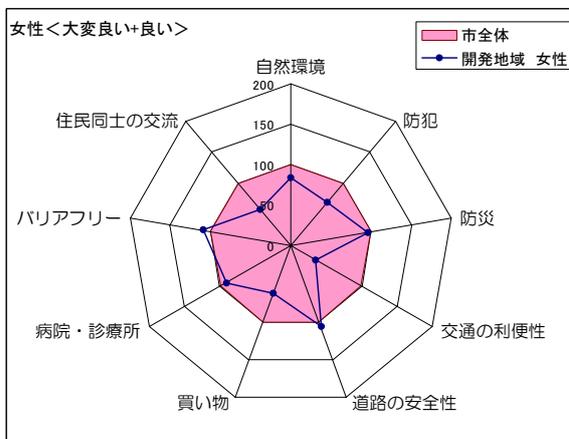
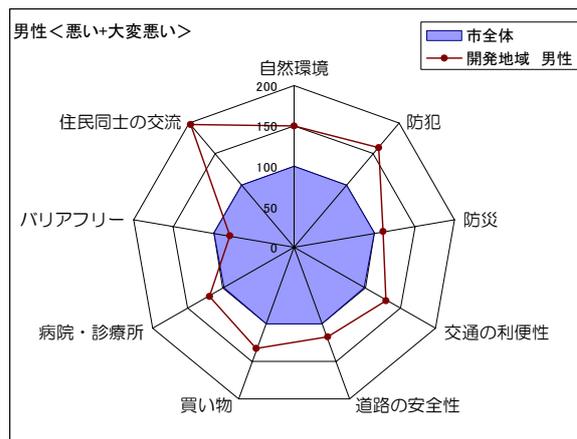
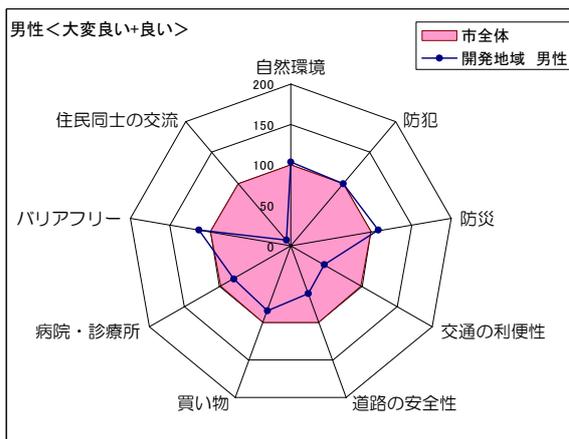
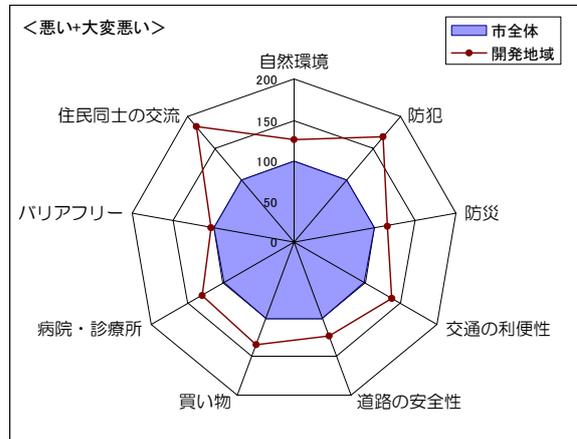
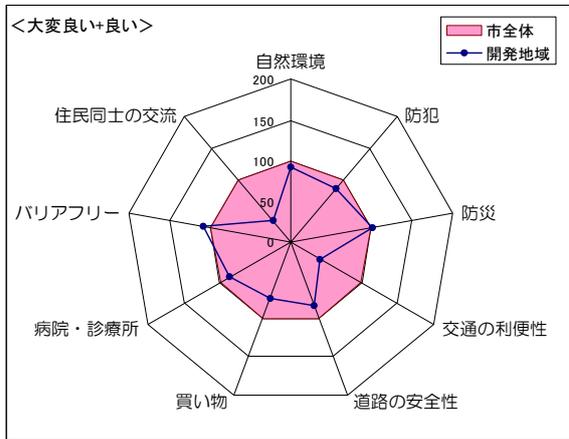


◆生活環境の評価

- ・ 開発地域からみた生活環境は「自然環境」「防犯」は良いが、「交通の利便性」「道路の安全性」「買い物の便利さ」「病院・診療所」は悪い評価となっている。
- ・ 男性と女性では、「自然環境」と「防犯」は男性の方が良い評価となっている。「バリアフリー」は女性の方が悪いと評価している。



- ・ 市全体を100として開発地域の評価を換算してみると、「バリアフリー」はやや良い評価となっている。「バリアフリー」を除いて、他の項目は悪い評価が市全体よりも際立って高くなっている。
- ・ 「住民同士の交流」は男性の方が悪いと評価している。「防犯」と「バリアフリー」は女性の方が悪いと評価している。
- ・ 開発地域の評価は市全体と比較して全体的に低く、開発地域特有の問題が潜んでいることが伺える。



◆男女の参加について

市全体と比較して、開発地域は「①区・自治会・町内会活動」の項目において差が見られた。「男性がもっと参加すべきである」は市全体よりも高く、「女性がもっと参加すべきである」は市全体よりも低くなっている。

<以下、男女の回答を比較>

①区・自治会・町内会活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	220 11.0	402 20.0	887 44.2	387 19.3	149 7.4
開発地域	154 100.0	23 14.9	18 11.7	66 42.9	44 28.6	5 3.2
開発地域 男性	74 100.0	15 20.3	11 14.9	25 33.8	21 28.4	3 4.1
開発地域 女性	78 100.0	8 10.3	7 9.0	40 51.3	22 28.2	2 2.6

②福祉・環境などのボランティア活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	436 21.7	165 8.2	634 31.6	638 31.8	194 9.7
開発地域	154 100.0	28 18.2	13 8.4	43 27.9	69 44.8	5 3.2
開発地域 男性	74 100.0	14 18.9	8 10.8	22 29.7	30 40.5	2 2.7
開発地域 女性	78 100.0	14 17.9	5 6.4	21 26.9	37 47.4	3 3.8

③趣味・スポーツクラブ・各種講座などの活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	133 6.6	105 5.2	420 20.9	290 14.5	1095 54.6
開発地域	154 100.0	7 4.5	8 5.2	29 18.8	29 18.8	82 53.2
開発地域 男性	74 100.0	3 4.1	4 5.4	15 20.3	14 18.9	39 52.7
開発地域 女性	78 100.0	3 3.8	4 5.1	14 17.9	14 17.9	43 55.1

④子育て支援活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	275 13.7	64 3.2	255 12.7	327 16.3	1104 55.0
開発地域	154 100.0	18 11.7	3 1.9	14 9.1	36 23.4	84 54.5
開発地域 男性	74 100.0	8 10.8	1 1.4	7 9.5	19 25.7	39 52.7
開発地域 女性	78 100.0	10 12.8	2 2.6	7 9.0	16 20.5	44 56.4

⑤消費者団体・生活共同組合などの活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	93 4.6	44 2.2	337 16.8	423 21.1	1115 55.6
開発地域	154 100.0	9 5.8	2 1.3	20 13.0	39 25.3	84 54.5
開発地域 男性	74 100.0	5 6.8	1 1.4	9 12.2	20 27.0	39 52.7
開発地域 女性	78 100.0	4 5.1	1 1.3	11 14.1	18 23.1	44 56.4

⑥防犯・防災活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	156 7.8	182 9.1	314 15.7	292 14.6	1100 54.8
開発地域	154 100.0	14 9.1	8 5.2	23 14.9	27 17.5	82 53.2
開発地域 男性	74 100.0	7 9.5	6 8.1	10 13.5	12 16.2	39 52.7
開発地域 女性	78 100.0	7 9.0	2 2.6	11 14.1	15 19.2	43 55.1

⑦国際交流活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	68 3.4	57 2.8	265 13.2	527 26.3	1106 55.1
開発地域	154 100.0	5 3.2	3 1.9	17 11.0	46 29.9	83 53.9
開発地域 男性	74 100.0	2 2.7	2 2.7	7 9.5	24 32.4	39 52.7
開発地域 女性	78 100.0	3 3.8	1 1.3	10 12.8	20 25.6	44 56.4

① 区・自治会活動

「男性が参加すべき」、「女性が参加すべき」ともに男性の方が高い割合になっている。女性は「今のままでよい」が半数を占めている。

② ボランティア活動

「男性が参加すべき」は性差は見られないが、「女性が参加すべき」は男性が高くなっている。

③ 趣味・スポーツ活動

性別による差はみられない。

④ 子育て支援活動

「男性が参加すべき」、「女性が参加すべき」ともに女性の方が高くなっている。男性は「わからない」が高くなっている。

⑤ 消費者団体などの活動

「男性が参加すべき」は男性がやや高くなっている。

⑥ 防犯・防災活動

「女性が参加すべき」は男性の方が高くなっている。

⑦ 国際交流活動

女性は「今のままでよい」が高く、男性は「わからない」が高くなっている。

◆身近な地域で福祉活動を推進していくために必要なこと

全体と比較して、開発地域は際立って高い項目はみられない。全体より低い項目は「住民のボランティア活動を活発にしていく」「区・自治会ごとに地域福祉を推進する住民組織をつくる」「区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく」であり、これらのことから、住民自身が福祉活動を推進することに積極的ではないことが伺える。

上段:度数 下段:%	問19 福祉活動を推進していくために											
	合計	住民のボランティア活動を活発にしていく	区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく	区・自治会ごとに地域福祉を推進する住民組織をつくる	小学校区ごとに地域福祉を推進する住民組織を新しくする	住民懇談会や学習会のような機会をたくさん設けていく	身近な地域で地域住民が気軽に集える施設をたくさんつくる	福祉は行政の責任で行うべきであり、特に住民の活動は思いやらないと思う	その他	よくわからない	無回答	
合計	2006 100	666 33.2	684 34.1	452 22.5	312 15.6	378 18.8	639 31.9	207 10.3	79 3.9	351 17.5	80 4	
開発地域	小計	154 100	42 27.3	50 32.5	26 16.9	26 16.9	27 17.5	47 30.5	18 11.7	11 7.1	25 16.2	3 1.9
	男性	74 100	23 31.1	25 33.8	13 17.6	14 18.9	14 18.9	21 28.4	10 13.5	6 8.1	14 18.9	3 4.1
	女性	78 100	18 23.1	24 30.8	12 15.4	12 15.4	12 15.4	25 32.1	8 10.3	5 6.4	11 14.1	-
	無回答	2 100	1 50	1 50	1 50	-	1 50	1 50	-	-	-	-
それ以外の地域	小計	1835 100	621 33.8	631 34.4	425 23.2	283 15.4	349 19	588 32	186 10.1	64 3.5	323 17.6	74 4
	男性	786 100	264 33.6	304 38.7	218 27.7	146 18.6	158 20.1	215 27.4	104 13.2	33 4.2	121 15.4	19 2.4
	女性	971 100	333 34.3	303 31.2	192 19.8	129 13.3	186 19.2	344 35.4	75 7.7	30 3.1	179 18.4	47 4.8
	無回答	78 100	24 30.8	24 30.8	15 19.2	8 10.3	5 6.4	29 37.2	7 9	1 1.3	23 29.5	8 10.3
無回答	小計	17 100	3 17.6	3 17.6	1 5.9	3 17.6	2 11.8	4 23.5	3 17.6	4 23.5	3 17.6	3 17.6
	男性	6 100	2 33.3	1 16.7	-	3 50	1 16.7	2 33.3	-	-	2 33.3	1 16.7
	女性	5 100	-	1 20	-	-	-	1 20	2 40	1 20	-	1 20
	無回答	6 100	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	3 50	1 16.7	1 16.7

◆市が重点を置くべき福祉施策

全体と比較して、開発地域は「福祉情報の提供」「相談窓口の充実」「各種手当など金銭的な援助」が高くなっている。

上段:度数 下段:%	問20 市が重点を置くべき福祉施策																
	合計	すべての人の人権がまもられるまちづくりの推進	高齢者や障がい者に配慮した道路・建物・駅等の整備	高齢者や障がい者のための福祉施設の充実	子どものための福祉施設の充実	サービス利用手続の簡素化・スピード化	ボランティア団体、NPO等の市民活動への援助	在宅福祉サービスの充実	福祉情報の提供	相談活動の充実	行政と他の機関、団体との連携の強化	福祉の専門的な人材の確保と育成	福祉講座や福祉教育の充実	各種手当など金銭的な援助	その他	無回答	
合計	2006 100.0	938 46.8	975 48.6	880 43.9	665 33.2	753 37.5	392 19.5	766 38.2	614 30.6	425 21.2	512 25.5	650 32.4	331 16.5	708 35.3	32 1.6	84 4.2	
開発地域	小計	154 100.0	60 39.0	77 50.0	62 40.3	52 33.8	57 37.0	28 18.2	59 38.3	42 27.3	37 24.0	53 34.4	25 16.2	65 42.2	1 0.6	4 2.6	
	男性	74 100.0	29 39.2	41 55.4	34 45.9	30 40.5	24 32.4	14 18.9	32 43.2	33 44.6	15 20.3	17 23.0	10 13.5	27 36.5	-	2 2.7	
	女性	78 100.0	31 39.7	34 43.6	27 34.6	22 28.2	33 42.3	13 16.7	27 34.6	25 32.1	27 34.6	20 25.6	15 19.2	38 48.7	1 1.3	2 2.6	
	無回答	2 100.0	-	2 100.0	1 50.0	-	-	-	1 50.0	-	-	-	-	-	-	-	
それ以外の地域	小計	1835 100.0	874 47.6	891 48.6	815 44.4	609 33.2	688 37.5	361 19.7	698 38.0	554 30.2	382 20.8	470 25.6	593 32.3	303 16.5	637 34.7	29 1.6	77 4.2
	男性	786 100.0	361 45.9	415 52.8	348 44.3	253 32.2	299 38.0	165 21.0	286 36.4	249 31.7	167 21.2	222 28.2	247 31.4	114 14.5	262 33.3	12 1.5	24 3.1
	女性	971 100.0	474 48.8	439 45.2	433 44.6	332 34.2	365 37.6	183 18.8	392 40.4	284 29.2	200 20.6	232 23.9	322 33.2	173 17.8	352 36.3	17 1.8	48 4.9
	無回答	78 100.0	39 50.0	37 47.4	34 43.6	24 30.8	24 30.8	13 16.7	20 25.6	21 26.9	15 19.2	16 20.5	24 30.8	16 20.5	23 29.5	-	5 6.4
無回答	小計	17 100.0	4 23.5	7 41.2	3 17.6	4 23.5	8 47.1	3 17.6	9 52.9	2 11.8	1 5.9	5 29.4	4 23.5	3 17.6	6 35.3	2 11.8	3 17.6
	男性	6 100.0	2 33.3	2 33.3	2 33.3	3 50.0	3 50.0	2 33.3	4 66.7	2 33.3	1 16.7	2 33.3	2 33.3	2 33.3	3 50.0	2 33.3	-
	女性	5 100.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	-	3 60.0	-	-	2 40.0	1 20.0	1 20.0	3 60.0	-	1 20.0
	無回答	6 100.0	1 16.7	2 33.3	-	-	3 50.0	1 16.7	2 33.3	-	-	1 16.7	1 16.7	-	-	-	2 33.3

◆社会福祉協議会の認知度

開発地域は、「知っている」「聞いたことはある」はともに35.7%、「知らない」は27.9%となっている。市全体と比較して、「知っている」は低く、「聞いたことはある」「知らない」は高くなっている。開発地域での社会福祉協議会の認知度は市全体よりも低いといえる。

上段:度数 下段:%	問21 社会福祉協議会の認知度					
	合計	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答	
合計	2006 100.0	1038 51.7	607 30.3	324 16.2	37 1.8	
開発地域	小計	154 100.0	55 35.7	55 35.7	43 27.9	1 0.6
	男性	74 100.0	25 33.8	24 32.4	24 32.4	1 1.4
	女性	78 100.0	29 37.2	30 38.5	19 24.4	-
	無回答	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	-
開発地域の別×性別	小計	1835 100.0	978 53.3	544 29.6	280 15.3	33 1.8
	男性	786 100.0	425 54.1	226 28.8	124 15.8	11 1.4
	女性	971 100.0	513 52.8	296 30.5	144 14.8	18 1.9
	無回答	78 100.0	40 51.3	22 28.2	12 15.4	4 5.1
無回答	小計	17 100.0	5 29.4	8 47.1	1 5.9	3 17.6
	男性	6 100.0	2 33.3	4 66.7	-	-
	女性	5 100.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0
	無回答	6 100.0	2 33.3	2 33.3	-	2 33.3

◆知っている、聞いたことがある社協活動

市全体と比較して、開発地域は「在宅福祉サービス関連」はやや高くなっているが、その他の項目は全体と同じ、もしくは低く、なかでも「善意銀行」は3%にとどまっている。

上段:度数 下段:%	合計	問22-1 知っている、聞いたことがあるもの(○+◎印)																	
		在宅福祉サービス関連	ボランティア推進活動	区・自治会単位の福祉活動支援	資金貸付	共同募金活動	福祉関係団体支援事業	当事者活動支援	介護者支援事業	相談事業	地域福祉権利擁護事業	高齢者支援事業	障がい児・者支援事業	善意銀行	福祉用具やその他の器具の貸し出し	障がい者共同作業所運営事業	その他	無回答	
合計	1645 100.0	633 38.5	328 19.9	349 21.2	93 5.7	498 30.3	210 12.8	193 11.7	230 14.0	266 16.2	82 5.0	203 12.3	183 11.1	199 12.1	313 19.0	251 15.3	10 0.6	855 52.0	
開発地域	小計	110 100.0	43 39.1	19 17.3	23 20.9	5 4.5	31 28.2	14 12.7	13 11.8	12 10.9	14 12.7	5 4.5	11 10.0	13 11.8	4 3.6	13 11.8	17 15.5	-	55 50.0
	男性	49 100.0	21 42.9	11 22.4	11 22.4	2 4.1	15 30.6	7 14.3	7 14.3	5 10.2	6 12.2	3 6.1	5 10.2	5 10.2	-	4 8.2	8 16.3	-	24 49.0
	女性	59 100.0	21 35.6	8 13.6	12 20.3	3 5.1	16 27.1	6 10.2	6 10.2	7 11.9	7 11.9	2 3.4	6 10.2	8 13.6	4 6.8	9 15.3	9 15.3	-	31 52.5
	無回答	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	1 50.0	-	-	1 50.0	-	-	-	-	-	-	-	-
開発地域の別×性別	小計	1522 100.0	586 38.5	307 20.2	323 21.2	88 5.8	464 30.5	195 12.8	180 11.8	218 14.3	252 16.6	76 5.0	192 12.6	170 11.2	194 12.7	299 19.6	233 15.3	10 0.7	794 52.2
	男性	651 100.0	251 38.6	122 18.7	156 24.0	37 5.7	209 32.1	92 14.1	74 11.4	71 10.9	109 16.7	32 4.9	81 12.4	59 9.1	83 12.7	116 17.8	99 15.2	2 0.3	321 49.3
	女性	809 100.0	310 38.3	174 21.5	155 19.2	44 5.4	237 29.3	93 11.5	98 12.1	140 17.3	134 16.6	41 5.1	102 12.6	106 13.1	102 12.6	167 20.6	119 14.7	7 0.9	439 54.3
	無回答	62 100.0	25 40.3	11 17.7	12 19.4	7 11.3	18 29.0	10 16.1	8 12.9	7 11.3	9 14.5	3 4.8	9 14.5	5 8.1	9 14.5	16 25.8	15 24.2	1 1.6	34 54.8
無回答	小計	13 100.0	4 30.8	2 15.4	3 23.1	-	3 23.1	1 7.7	-	-	-	1 7.7	-	-	1 7.7	1 7.7	1 7.7	-	6 46.2
	男性	6 100.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	-	1 16.7	-	-	-	-	1 16.7	-	-	-	-	-	-	4 66.7
	女性	3 100.0	1 33.3	-	1 33.3	-	-	1 33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 66.7
	無回答	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	-	2 50.0	-	-	-	-	-	-	1 25.0	1 25.0	1 25.0	-	-	

◆社会福祉協議会活動への期待

市全体と比較して、開発地域は「ボランティア活動の推進」が高くなっている。その他の項目は全体よりもやや低くなっている。また、「とくに期待していない」は開発地域は高くなっている。

		問23 社会福祉協議会活動への期待															
上段:度数 下段:%	合計	高齢者・ 障がい者など への在宅福祉サ ービス事業	介護保 険事業 の強化	介護予 防や健 康づくり 事業	子育て 支援事 業	ボラン ティア活 動の推 進	各種福 祉講座 の開催	何でも 相談で きる身 近な場 所づくり	区・自治 会福祉 活動支 援	当事者 活動支 援・協働	福祉関 係団体 の活動 支援・協 働	NPOや ボラン ティアグ ループ への支 援・協働	幅広い 分野の 市民活 動支援 ・協働	その他	とくに期 待してい ない	無回答	
合計	2006 100.0	1223 61.0	682 34.0	654 32.6	755 37.6	499 24.9	274 13.7	863 43.0	429 21.4	503 25.1	288 14.4	297 14.8	374 18.6	31 1.5	105 5.2	126 6.3	
開発地域	小計	154 100.0	81 52.6	50 32.5	37 24.0	57 37.0	40 26.0	17 11.0	64 41.6	29 18.8	37 24.0	16 10.4	16 18.8	2 1.3	12 7.8	8 5.2	
	男性	74 100.0	39 52.7	27 36.5	20 27.0	28 37.8	24 32.4	10 13.5	27 36.5	17 23.0	20 27.0	7 9.5	7 9.5	1 1.4	7 9.5	6 8.1	
	女性	78 100.0	41 52.6	23 29.5	17 21.8	29 37.2	15 19.2	7 9.0	36 46.2	12 15.4	16 20.5	9 11.5	8 10.3	10 12.8	1 1.3	5 6.4	2 2.6
	無回答	2 100.0	1 50.0	-	-	-	1 50.0	-	1 50.0	-	1 50.0	-	1 50.0	-	-	-	-
	それ以外の地域	小計	1835 100.0	1132 61.7	625 34.1	612 33.4	693 37.8	454 24.7	256 14.0	797 43.4	397 21.6	461 25.1	270 14.7	343 18.7	29 1.6	91 5.0	114 6.2
男性	786 100.0	469 59.7	262 33.3	252 32.1	286 36.4	201 25.6	105 13.4	313 39.8	190 24.2	190 24.2	119 15.1	126 16.0	156 19.8	16 2.0	44 5.6	48 6.1	
女性	971 100.0	618 63.6	337 34.7	335 34.5	383 39.4	239 24.6	136 14.0	446 45.9	192 19.8	253 26.1	138 14.2	144 14.8	172 17.7	13 1.3	43 4.4	59 6.1	
無回答	78 100.0	45 57.7	26 33.3	25 32.1	24 30.8	14 17.9	15 19.2	38 48.7	15 19.2	18 23.1	13 16.7	9 11.5	15 19.2	-	4 5.1	7 9.0	
無回答	小計	17 100.0	10 58.8	7 41.2	5 29.4	5 29.4	5 29.4	1 5.9	2 11.8	3 17.6	5 29.4	2 11.8	2 11.8	2 11.8	-	2 11.8	4 23.5
	男性	6 100.0	5 83.3	3 50.0	3 50.0	2 33.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7	-	1 16.7	-
	女性	5 100.0	3 60.0	3 60.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	-	-	2 40.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	-	-	1 20.0	1 20.0
	無回答	6 100.0	2 33.3	1 16.7	-	1 16.7	2 33.3	-	1 16.7	-	1 16.7	-	-	1 16.7	-	-	3 50.0

<まとめと考察>

開発地域は高齢者が少なく、若年層と中年層が中心になっている。会社勤めをしている人が多く、勤務先は甲賀市外、困りごとの相談は職場関係や友人、情報はテレビ・新聞・雑誌から、といったふうに身近な地域との接点は少ない傾向にある。古くからの地域と比較すると近所づきあいの程度は低く、生活環境の評価においても住民同士の交流は悪いと感じている。また、ボランティア活動への参加も少なく、参加していない理由をみると、「どのように参加してよいかわからない」や「活動自体がよくわからない」の項目が高くなっている。住民同士の交流が少ないために、身近な地域の情報が上手く行き来できず、地域の一員という意識が高まっていないことが伺える。現状では開発地域は地域福祉活動に積極的とはいえないが、広報活動や情報提供のあり方、新旧住人の交流等、工夫することによって開発地域に住んでいる人も地域福祉の担い手に成り得ると考えられる。

●開発地域の声

- ・どこから情報を取り入れたら良いのかわからず、どこでどんな人がどんな事を行っているのか、どんな人にも知れわたるようにしてほしい。その為、水口テレビなどケーブルテレビの範囲をひろげ、情報提供するのはどうでしょうか。他の町と合併したのに、その町の事を何も知らぬまま、ただ合併しただけのように思う。もっとメディアを活かし住民にPRすべきだ！
- ・高齢化社会が急速に進むなか、地域住民の繋がりが最も重要になってくるものと思われます。孤独死等悲惨な事態を招かない為にも、地域・行政等が緊密に連携を図り情報に齟齬をきたさない事が肝心だと思われます。
- ・大津から水口に来たが本当住みにくい！！区費が高過ぎる！！横領された区費は返してもらったのか！？知らない人も沢山いるはずですよ。しょせんこの町は何も変わらないのでは！？と期待していません。
- ・よい組織作りをして活動不発になってしまうような結果にならないようにするのが1番大切なことではないかと思われる。良い組織を永く続ける。尻切れとんぼにならないように。
- ・社協の分野ではないが、防犯活動を強化すべき。防犯パトロールとか、路上駐車のとりにしり強化とか。
- ・よくわからないが今の状況、これからの展望等をわかりやすく住民全員が把握できるシステムにしていき、全体で取り組んでいけるようにして頂きたい。
- ・甲賀病院の待ち時間の長さ、駐車場台数の少なさを解消してほしい。質も高くない気がするので医療レベルの向上(技術・対応共に)期待する。
- ・住み良い環境整備工事が進んでいない。環境を守る活動が見えない。福利・福祉が良いと、住み良い町のイメージが強くなる。市民税が高くなっても住み良い環境のいい町のほうがいい。
- ・最近、信じられないような事件が続発しています。甲賀市も例外ではなく、危険にさらされていると思います。昼夜のパトロールなど、市民を守るために、ボランティアとしてではなく民間業者や高齢者等に委託するなど、市の財政もわかりますが犯罪を未然に防ぐには大事なことだと思います。
- ・ボランティア活動、福祉協議会の活動も必要だが、健康福祉部、社会福祉課があるのだから、現人員(何人いるのか?)でもっと力を入れるべきだ。予算処置も充分とれず、募金に頼っていてはだめだ。庁舎、支所が一体となって取り組まなければならない。合併の効果が出ていない。庁舎、支所の人員配置がどうなっているのか明らかにすべきだ。
- ・高齢者に対する(関連する)ことには設備が整っているよう思うがこれから生きていく若い障がいのある子ども達が、社会に出て生きていくための見通しが何もないように思う。企業での勤めができる軽度の障がいのある子どもでもできる仕事のつながりがあればいい。
- ・最近小さい子どもを狙った事件が多いので学童保育を学校の中に設置してもらって料金をもっと安くして欲しい。
- ・街灯照明施設の充実。明るさこそ防犯、防災の原点と思う。住宅等の内灯点検運動を展開してはどうか。
- ・障がい児(者)の情報が入ってこない。特に軽度の発達障がいがあるにも関わらず、あまり対応されていないように思う。重度障がい児(者)は、今のままでいいと思うが、療育手帳をもらえないような軽度の障がい児(者)にも、もっといろいろと充実した内容のことをしてほしい。障がい児のつどいでも、重度と軽度の子が一緒に集まると、障がいの差がありすぎるため、重度と軽度と分けて行ってもいいのではないかな？
- ・どんな事にも当てはまるが、行なう方と受ける方のお互いの考えを知る事が大事なんですよ。
- ・組や自治会に依存、まくり切りで役所は地域と直接接していない。自治会も強制で無いので入っていません。公報や市の便り等、ゴミカレンダー等、手元に届かない。市民税は払っているのに市民ではないのか？困るので役場へ取りに行き行って貰って来ています。何とかありませんか？
- ・教育に対して様々な取り組みをしてほしいと思う。市民への情報提供がまだまだ充実していないと思う。どんな取り組みがなされているか、人と人の繋がりをまずは市民が知ることによって輪を広げていけたらより良くなると思う。知る機会が多ければボランティア活動の参加等しやすくなるのでは。
- ・甲賀市の方はみんな親切でよい方ばかりですが、まだまだ昔の風習が残っていて、改善すればもっと節約できたり、他のことで助け合うことができたり、差別をせず、楽しく明るい町づくりができると思う。(56件の意見より抜粋)

補論2 子育て家庭に着目した分析

< 子育て家庭に着目した分析 >

子育て家庭

近年、核家族化、地域社会の変化など、子育てをめぐる環境が大きく変化したため、家庭のみでは子育てを負い切れなくなってきたり、さらには虐待などが深刻な問題となっている。かつて家族や地域・集落が担っていた次代の育成を支援する機能を、地域や社会の力を借りて、現代社会にふさわしい形で再構築するとともに、子育てを社会全体で支援していく「新たな支え合いと連帯による子育て支援」の体制をつくり上げていくことが求められている。 (少子化社会対策大綱より抜粋)

調査の分析

家族構成の設問において、「就学前児童のいる家族」あるいは「18歳未満の子どものいる家族」の回答を合わせて「子育て家庭」とし、子育て家庭の特徴や子育て期特有の課題を探る。

◆子育て家庭

子育て家庭は2006件中736件となっている。

子育て家庭の別(SA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	子育て家庭	736	36.7	37.1
2	子育て家庭以外	1250	62.3	62.9
	無回答	20	1.0	
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0	1986

◆性別

子育て家庭の回答者は、男性 293 人、女性 419 人で女性の方が多くなっている。市全体と比較しても子育て家庭は「女性」の割合が高くなっている。

	上段:度数 下段:%	問1 性別			
		合計	男性	女性	無回答
子育て家庭の別	合計	2006 100.0	866 43.2	1054 52.5	86 4.3
	子育て家庭	736 100.0	293 39.8	419 56.9	24 3.3
	子育て家庭以外	1250 100.0	566 45.3	628 50.2	56 4.5
	無回答	20 100.0	7 35.0	7 35.0	6 30.0

◆年齢区分

子育て家庭は「40歳未満」は約3割、「40～64歳」は5割弱あり、合わせて75%が64歳未満となっている。全体と比較すると、子育て世代は「40歳未満」の若年層が多くなっている。

上段:度数 下段:%		問2 年齢4区分						
		合計	40歳未満	40～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答	
子育て家庭の別×性別	合計	2006 100.0	418 20.8	945 47.1	370 18.4	262 13.1	11 0.5	
	子育て家庭	小計	736 100.0	208 28.3	338 45.9	116 15.8	72 9.8	2 0.3
		男性	293 100.0	68 23.2	145 49.5	47 16.0	33 11.3	-
		女性	419 100.0	136 32.5	188 44.9	62 14.8	32 7.6	1 0.2
		無回答	24 100.0	4 16.7	5 20.8	7 29.2	7 29.2	1 4.2
	子育て家庭以外	小計	1250 100.0	209 16.7	600 48.0	252 20.2	185 14.8	4 0.3
		男性	566 100.0	102 18.0	277 48.9	119 21.0	67 11.8	1 0.2
		女性	628 100.0	102 16.2	309 49.2	112 17.8	103 16.4	2 0.3
		無回答	56 100.0	5 8.9	14 25.0	21 37.5	15 26.8	1 1.8
	無回答	小計	20 100.0	1 5.0	7 35.0	2 10.0	5 25.0	5 25.0
		男性	7 100.0	-	4 57.1	1 14.3	2 28.6	-
		女性	7 100.0	1 14.3	2 28.6	1 14.3	3 42.9	-
		無回答	6 100.0	-	1 16.7	-	-	5 83.3

◆旧5町

子育て家庭の多い町は「旧水口町」、最も少ない町は「旧土山町」となっている。

上段:度数 下段:%		問3 旧5町							
		合計	旧水口町	旧甲南町	旧信楽町	旧土山町	旧甲賀町	無回答	
子育て家庭の別×性別	合計	2006 100.0	754 37.6	429 21.4	297 14.8	224 11.2	285 14.2	17 0.8	
	子育て家庭	小計	736 100.0	276 37.5	152 20.7	119 16.2	81 11.0	106 14.4	2 0.3
		男性	293 100.0	100 34.1	67 22.9	48 16.4	28 9.6	49 16.7	1 0.3
		女性	419 100.0	166 39.6	78 18.6	66 15.8	52 12.4	56 13.4	1 0.2
		無回答	24 100.0	10 41.7	7 29.2	5 20.8	1 4.2	1 4.2	-
	子育て家庭以外	小計	1250 100.0	473 37.8	272 21.8	174 13.9	143 11.4	179 14.3	9 0.7
		男性	566 100.0	222 39.2	119 21.0	69 12.2	63 11.1	89 15.7	4 0.7
		女性	628 100.0	230 36.6	140 22.3	100 15.9	71 11.3	83 13.2	4 0.6
		無回答	56 100.0	21 37.5	13 23.2	5 8.9	9 16.1	7 12.5	1 1.8
	無回答	小計	20 100.0	5 25.0	5 25.0	4 20.0	-	-	6 30.0
		男性	7 100.0	2 28.6	2 28.6	2 28.6	-	-	1 14.3
		女性	7 100.0	2 28.6	3 42.9	2 28.6	-	-	-
		無回答	6 100.0	1 16.7	-	-	-	-	5 83.3

◆主な職業

女性の回答をみると、子育ての有無に関わらず「職業にはついていない」が最も多くなっているが、なかでも「40歳未満」の子育てをしている女性の割合が高くなっている。

子育て家庭の女性と、子育て家庭以外の女性の職業を比較すると、子育て家庭の女性のほうが「会社員」の割合は低く、「パート、アルバイト」が高くなっている。

上段:度数 下段:%		問4 主な職業										
		合計	自営業主 (商店主、 工場主、 農業経営 主など)お よび家族 従事者	会社員(民 間の企業・ 団体の勤 め人)	公務員	農林水産 業	自由業(開 業医、弁 護士、著 述業など)	非正社員 (派遣社 員、契約 社員など)	パート、ア ルバイト	職業には ついてい ない	その他	無回答
子育て家庭の別×性別	合計	2006 100.0	222 11.1	548 27.3	108 5.4	28 1.4	18 0.9	54 2.7	250 12.5	756 37.7	4 0.2	18 0.9
子育て家庭	小計	736 100.0	79 10.7	201 27.3	52 7.1	10 1.4	6 0.8	18 2.4	111 15.1	257 34.9	1 0.1	1 0.1
	男性	293 100.0	42 14.3	150 51.2	26 8.9	10 3.4	3 1.0	3 1.0	5 1.7	53 18.1	1 0.3	-
	女性	419 100.0	35 8.4	49 11.7	25 6.0	-	-	15 3.6	104 24.8	190 45.3	-	1 0.2
	無回答	24 100.0	2 8.3	2 8.3	1 4.2	-	3 12.5	-	2 8.3	14 58.3	-	-
	小計	1250 100.0	142 11.4	344 27.5	56 4.5	18 1.4	12 1.0	35 2.8	139 11.1	491 39.3	2 0.2	11 0.9
	男性	566 100.0	80 14.1	226 39.9	31 5.5	12 2.1	8 1.4	19 3.4	28 4.9	159 28.1	1 0.2	2 0.4
	女性	628 100.0	58 9.2	109 17.4	24 3.8	5 0.8	4 0.6	15 2.4	106 16.9	300 47.8	1 0.2	6 1.0
	無回答	56 100.0	4 7.1	9 16.1	1 1.8	1 1.8	-	1 1.8	5 8.9	32 57.1	-	3 5.4
	小計	20 100.0	1 5.0	3 15.0	-	-	-	1 5.0	-	8 40.0	1 5.0	6 30.0
	男性	7 100.0	1 14.3	2 28.6	-	-	-	-	-	2 28.6	1 14.3	1 14.3
	女性	7 100.0	-	1 14.3	-	-	-	-	-	6 85.7	-	-
	無回答	6 100.0	-	-	-	-	-	1 16.7	-	-	-	5 83.3

職業にはついていない 上段:度数 下段:%		問2 年齢4区分						
		合計	40歳未満	40~64歳	65~74歳	75歳以上	無回答	
子育て家庭の別×性別	合計	756 100.0	94 12.4	196 25.9	248 32.8	214 28.3	4 0.5	
	子育て家庭	小計	257 100.0	57 22.2	62 24.1	79 30.7	57 22.2	2 0.8
		男性	53 100.0	4 7.5	7 13.2	22 41.5	20 37.7	-
		女性	190 100.0	53 27.9	54 28.4	52 27.4	30 15.8	1 0.5
		無回答	14 100.0	-	1 7.1	5 35.7	7 50.0	1 7.1
	子育て家庭以外	小計	491 100.0	36 7.3	133 27.1	167 34.0	153 31.2	2 0.4
		男性	159 100.0	12 7.5	26 16.4	69 43.4	52 32.7	-
		女性	300 100.0	22 7.3	104 34.7	82 27.3	90 30.0	2 0.7
		無回答	32 100.0	2 6.3	3 9.4	16 50.0	11 34.4	-
	無回答	小計	8 100.0	1 12.5	1 12.5	2 25.0	4 50.0	-
		男性	2 100.0	-	-	1 50.0	1 50.0	-
		女性	6 100.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	3 50.0	-
		無回答	-	-	-	-	-	-

◆居住歴

子育て家庭の居住歴をみると、「親の代から」が5割以上を占め、「転入・転居してきた」は4割強となっている。市全体とほぼ同じ構成になっている。

上段:度数 下段:%		問7-1 居住歴				
		合計	親(あるいはその前)の代から	転入・転居してきた	無回答	
子育て家庭の別×性別	合計	2006	1058	861	87	
		100.0	52.7	42.9	4.3	
	子育て家庭	小計	736	392	320	24
		100.0	53.3	43.5	3.3	
	男性	293	165	120	8	
		100.0	56.3	41.0	2.7	
	女性	419	211	197	11	
		100.0	50.4	47.0	2.6	
	無回答	24	16	3	5	
		100.0	66.7	12.5	20.8	
	子育て家庭以外	小計	1250	661	535	54
		100.0	52.9	42.8	4.3	
	男性	566	309	241	16	
		100.0	54.6	42.6	2.8	
	女性	628	323	272	33	
	100.0	51.4	43.3	5.3		
無回答	56	29	22	5		
	100.0	51.8	39.3	8.9		
無回答	小計	20	5	6	9	
	100.0	25.0	30.0	45.0		
男性	7	3	1	3		
	100.0	42.9	14.3	42.9		
女性	7	2	4	1		
	100.0	28.6	57.1	14.3		
無回答	6	-	1	5		
	100.0	-	16.7	83.3		

◆居住年数

子育て世代の居住年数は、「20年以上」が最も多く、次いで「10～20年未満」が多くなっている。市全体と比較すると20年未満は高く、「20年以上」は低くなっている。

上段:度数 下段:%		問7-2 居住年数							
		合計	1年未満	1～3年未満	3～10年未満	10～20年未満	20年以上	無回答	
子育て家庭の別×性別	合計	2006	40	92	210	321	1288	55	
		100.0	2.0	4.6	10.5	16.0	64.2	2.7	
	子育て家庭	小計	736	16	54	110	153	386	17
		100.0	2.2	7.3	14.9	20.8	52.4	2.3	
	男性	293	6	20	35	58	167	7	
		100.0	2.0	6.8	11.9	19.8	57.0	2.4	
	女性	419	8	34	72	93	204	8	
		100.0	1.9	8.1	17.2	22.2	48.7	1.9	
	無回答	24	2	-	3	2	15	2	
		100.0	8.3	-	12.5	8.3	62.5	8.3	
	子育て家庭以外	小計	1250	24	37	99	166	895	29
		100.0	1.9	3.0	7.9	13.3	71.6	2.3	
	男性	566	12	18	44	80	400	12	
		100.0	2.1	3.2	7.8	14.1	70.7	2.1	
	女性	628	12	17	52	78	456	13	
	100.0	1.9	2.7	8.3	12.4	72.6	2.1		
無回答	56	-	2	3	8	39	4		
	100.0	-	3.6	5.4	14.3	69.6	7.1		
無回答	小計	20	-	1	1	2	7	9	
	100.0	-	5.0	5.0	10.0	35.0	45.0		
男性	7	-	-	1	-	3	3		
	100.0	-	-	14.3	-	42.9	42.9		
女性	7	-	1	-	-	4	1		
	100.0	-	14.3	-	14.3	57.1	14.3		
無回答	6	-	-	-	1	-	5		
	100.0	-	-	-	16.7	-	83.3		

◆近所づきあいの程度

子育て家庭は、「簡単な頼みごとをしたり、土産物を分け合うつきあい」が最も多く、次いで「困りごとの相談をしたり、助け合うようなつきあい」が多くなっている。市全体と比較すると、「困りごとの相談をしたり、助け合うようなつきあい」は高く、「挨拶をする程度のつきあい」と「ほとんどつきあいはない」は低くなっている。

また、子育て家庭の男性と、子育て家庭でない男性を比較すると、子育て中の男性の方がつきあいの程度は高くなっている。これらことから、子育て家庭は日頃から身近な地域で日常的な交流や対話・協力があるといえる。

上段:度数 下段:%		問8 近所づきあい							
		合計	困りごとの相談をしたり、助け合うようなつきあい	簡単な頼みごとをしたり、土産物を分け合うつきあい	立ち話をする程度のつきあい	挨拶をする程度のつきあい	ほとんどつきあいはない	無回答	
合計		2006 100.0	397 19.8	890 44.4	345 17.2	300 15.0	57 2.8	17 0.8	
子育て家庭の別×性別	子育て家庭	小計	736 100.0	170 23.1	321 43.6	132 17.9	101 13.7	11 1.5	1 0.1
		男性	293 100.0	59 20.1	132 45.1	48 16.4	50 17.1	3 1.0	1 0.3
		女性	419 100.0	107 25.5	177 42.2	81 19.3	46 11.0	8 1.9	-
		無回答	24 100.0	4 16.7	12 50.0	3 12.5	5 20.8	-	-
	子育て家庭以外	小計	1250 100.0	225 18.0	563 45.0	212 17.0	198 15.8	45 3.6	7 0.6
		男性	566 100.0	90 15.9	253 44.7	93 16.4	107 18.9	20 3.5	3 0.5
		女性	628 100.0	122 19.4	286 45.5	110 17.5	85 13.5	21 3.3	4 0.6
		無回答	56 100.0	13 23.2	24 42.9	9 16.1	6 10.7	4 7.1	-
	無回答	小計	20 100.0	2 10.0	6 30.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	9 45.0
		男性	7 100.0	-	3 42.9	1 14.3	-	-	3 42.9
女性		7 100.0	2 28.6	3 42.9	-	-	1 14.3	1 14.3	
無回答		6 100.0	-	-	-	1 16.7	-	5 83.3	

子育て家庭		問8 近所づきあい							
上段:度数 下段:%	合計	困りごとの相談をしたり、助け合うようなつきあい	簡単な頼みごとをしたり、土産物を分け合うつきあい	立ち話をする程度のつきあい	挨拶をする程度のつきあい	ほとんどつきあいはない	無回答		
合計	736 100.0	170 23.1	321 43.6	132 17.9	101 13.7	11 1.5	1 0.1		
開発地域の別×性別	開発地域	小計	58 100.0	5 8.6	24 41.4	12 20.7	16 27.6	1 1.7	
		男性	27 100.0	-	10 37.0	5 18.5	12 44.4	-	
		女性	31 100.0	5 16.1	14 45.2	7 22.6	4 12.9	1 3.2	
		無回答	-	-	-	-	-	-	
	それ以外の地域	小計	676 100.0	164 24.3	297 43.9	120 17.8	84 12.4	10 1.5	1 0.1
		男性	265 100.0	58 21.9	122 46.0	43 16.2	38 14.3	3 1.1	1 0.4
		女性	387 100.0	102 26.4	163 42.1	74 19.1	41 10.6	7 1.8	-
		無回答	24 100.0	4 16.7	12 50.0	3 12.5	5 20.8	-	-
	無回答	小計	2 100.0	1 50.0	-	-	1 50.0	-	-
		男性	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-
女性		1 100.0	-	-	-	1 100.0	-	-	
無回答		-	-	-	-	-	-	-	

また、開発地域に住んでいる子育て家庭についてみると、全体と比較して「困りごとの相談をしたり、助け合うようなつきあい」は際立って低く、「挨拶をする程度のつきあい」が高くなっている。

以上のことから、子育て家庭は比較的近所づきあいが深いのが、開発地域では必ずしもそうでないことが伺える。

◆困りごとの相談先

全体と比較して、子育て家庭は「家族・親族」「知人・友人・職場の同僚」に相談することが多く、「近所の人」はやや少ないが「区・自治会等の地域の役員」はやや多くなっている。

上段:度数 下段:%	問9 相談相手											
	合計	家族・親戚	知人・友人・職場の同僚	近所の人	区・自治会等の地域の役員	民生委員児童委員	医師・保健師・ホームヘルパー等の専門職	行政や社会福祉協議会の職員	相談する人がいない	その他	無回答	
合計	2006 100.0	1798 89.6	991 49.4	389 19.4	98 4.9	48 2.4	148 7.4	77 3.8	42 2.1	26 1.3	17 0.8	
子育て家庭	小計	736 100.0	683 92.8	418 56.8	137 18.6	42 5.7	20 2.7	47 6.4	25 3.4	12 1.6	7 0.4	3
	男性	293 100.0	266 90.8	145 49.5	43 14.7	30 10.2	13 4.4	21 7.2	16 5.5	8 2.7	5 1.7	-
	女性	419 100.0	396 94.5	266 63.5	91 21.7	12 2.9	7 1.7	26 6.2	8 1.9	3 0.7	2 0.5	3
	無回答	24 100.0	21 87.5	7 29.2	3 12.5	-	-	-	1 4.2	1 4.2	-	-
子育て家庭以外	小計	1250 100.0	1107 88.6	568 45.4	249 19.9	55 4.4	27 2.2	101 8.1	50 4.0	30 2.4	19 1.5	5 0.4
	男性	566 100.0	486 85.9	259 45.8	99 17.5	34 6.0	11 1.9	54 9.5	29 5.1	19 3.4	13 2.3	2 0.4
	女性	628 100.0	571 90.9	290 46.2	138 22.0	18 2.9	14 2.2	41 6.5	18 2.9	11 1.8	6 1.0	3 0.5
	無回答	56 100.0	50 89.3	19 33.9	12 21.4	3 5.4	2 3.6	6 10.7	3 5.4	-	-	-
無回答	小計	20 100.0	8 40.0	5 25.0	3 15.0	1 5.0	1 5.0	-	2 10.0	-	-	9 45.0
	男性	7 100.0	2 28.6	2 28.6	1 14.3	1 14.3	1 14.3	-	1 14.3	-	-	3 42.9
	女性	7 100.0	5 71.4	3 42.9	2 28.6	-	-	-	1 14.3	-	-	1 14.3
	無回答	6 100.0	1 16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	5 83.3

◆情報の入手先

全体と比較して、子育て家庭は「市広報」と「知人・友人・職場の同僚」が高くなっている。

上段:度数 下段:%	問10 情報の入手先																		
	合計	市広報	社会福祉協議会の広報紙	行政の窓口	社会福祉協議会の窓口	福祉施設	公民館	ボランティア	区・自治会等の地域の役員	民生委員児童委員	家族・親戚	知人・友人・職場の同僚	近所の人	インターネット	テレビ・新聞・雑誌	情報を必要としない	その他	無回答	
合計	2006 100.0	1424 71.0	806 40.2	166 8.3	90 4.5	118 5.9	81 4.0	64 3.2	219 10.9	55 2.7	585 29.2	437 21.8	319 15.9	130 6.5	860 42.9	80 4.0	33 1.6	27 1.3	
子育て家庭	小計	736 100.0	567 77.0	297 40.4	56 7.6	30 4.1	41 5.6	30 4.1	25 3.4	19 2.6	223 30.3	181 24.6	117 15.9	47 6.4	305 41.4	20 2.7	13 1.8	4 0.5	
	男性	293 100.0	212 72.4	108 36.9	29 9.9	14 4.8	14 4.8	12 4.1	7 2.4	46 15.7	10 3.4	92 31.4	55 18.8	24 8.2	122 41.6	10 3.4	4 1.4	1 0.3	
	女性	419 100.0	338 80.7	178 42.5	25 6.0	14 3.3	25 6.0	16 3.8	15 3.6	26 6.2	7 1.7	125 29.8	122 29.1	66 15.8	22 41.1	172 19.9	8 2.1	9 2.1	3 0.7
	無回答	24 100.0	17 70.8	11 45.8	2 8.3	2 8.3	2 8.3	2 8.3	3 12.5	3 12.5	2 8.3	6 25.0	4 16.7	1 4.2	11 45.8	2 8.3	-	-	
子育て家庭以外	小計	1250 100.0	850 68.0	506 40.5	109 8.7	59 4.7	77 6.2	51 4.1	39 3.1	142 11.4	35 2.8	361 28.9	201 16.1	83 6.6	550 44.0	59 4.7	20 1.6	14 1.1	
	男性	566 100.0	376 66.4	240 42.4	59 10.4	27 4.8	36 6.4	17 3.0	13 2.3	81 14.3	22 3.9	158 27.9	100 17.7	81 14.3	51 42.4	240 6.9	39 2.3	3 0.5	
	女性	628 100.0	430 68.5	243 38.7	44 7.0	30 4.8	40 6.4	33 5.3	26 4.1	57 9.1	12 1.9	189 30.1	149 23.7	113 18.0	31 49.4	285 3.0	7 1.1	11 1.8	
	無回答	56 100.0	44 78.6	23 41.1	6 10.7	2 3.6	1 1.8	1 1.8	-	4 7.1	1 1.8	14 25.0	6 10.7	7 1.8	25 44.6	1 1.8	-	-	
無回答	小計	20 100.0	7 35.0	3 15.0	1 5.0	1 5.0	-	-	-	2 10.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	-	5 25.0	1 5.0	-	9 45.0	
	男性	7 100.0	4 57.1	1 14.3	-	-	-	-	-	1 14.3	-	-	1 14.3	-	2 28.6	-	-	3 42.9	
	女性	7 100.0	3 42.9	2 28.6	1 14.3	1 14.3	-	-	-	1 14.3	1 14.3	-	-	-	2 28.6	1 14.3	-	1 14.3	
	無回答	6 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 16.7	-	-	5 83.3	

◆ボランティアの参加

ボランティア活動に「参加している」子育て家庭は、13.5%、「参加していない」は84.8%となっている。全体と比較すると、子育て家庭は「参加している」はやや高くなっている。

		上段:度数 下段:%	問11 ボランティアの参加				
			合計	参加している	参加していない	無回答	
子育て家庭の別×性別	合計		2006 100.0	257 12.8	1714 85.4	35 1.7	
	子育て家庭	小計		736 100.0	99 13.5	624 84.8	13 1.8
		男性		293 100.0	43 14.7	244 83.3	6 2.0
		女性		419 100.0	51 12.2	363 86.6	5 1.2
		無回答		24 100.0	5 20.8	17 70.8	2 8.3
	子育て家庭以外	小計		1250 100.0	157 12.6	1072 85.8	21 1.7
		男性		566 100.0	70 12.4	490 86.6	6 1.1
		女性		628 100.0	80 12.7	534 85.0	14 2.2
		無回答		56 100.0	7 12.5	48 85.7	1 1.8
	無回答	小計		20 100.0	1 5.0	18 90.0	1 5.0
		男性		7 100.0	-	6 85.7	1 14.3
		女性		7 100.0	-	7 100.0	-
		無回答		6 100.0	1 16.7	5 83.3	-

◆参加している理由

全体と比較して、子育て家庭は「活動自体が楽しいから」と「地域のために役立つと思うから」が高く、「社会奉仕だと思ふから」は低くなっている。

		上段:度数 下段:%	問13 参加している理由											
			合計	活動自体が楽しいから	生きがい・やりがいがあるから	活動を通じて人間関係が広がるから	自分の成長につながると思うから	地域のために役立つと思うから	社会奉仕だと思ふから	誘われたり、勧められたりして仕方ないから	職場や学校で参加することになったから	その他	無回答	
子育て家庭の別×性別	合計		257 100.0	82 31.9	85 33.1	152 59.1	104 40.5	137 53.3	95 37.0	13 5.1	15 5.8	11 4.3	3 1.2	
	子育て家庭	小計		99 100.0	36 36.4	31 31.3	58 58.6	41 41.4	58 58.6	30 30.3	3 3.0	7 7.1	4 4.0	2 2.0
		男性		43 100.0	15 34.9	11 25.6	24 55.8	12 27.9	29 67.4	16 37.2	1 2.3	5 11.6	1 2.3	1 2.3
		女性		51 100.0	20 39.2	17 33.3	30 58.8	25 49.0	24 47.1	11 21.6	2 3.9	2 3.9	3 5.9	1 2.0
		無回答		5 100.0	1 20.0	3 60.0	4 80.0	4 80.0	5 100.0	3 60.0	-	-	-	-
	子育て家庭以外	小計		157 100.0	45 28.7	53 33.8	93 59.2	62 39.5	78 49.7	64 40.8	10 6.4	8 5.1	7 4.5	1 0.6
		男性		70 100.0	21 30.0	23 32.9	41 58.6	22 31.4	44 62.9	31 44.3	4 5.7	6 8.6	4 5.7	-
		女性		80 100.0	22 27.5	26 32.5	46 57.5	36 45.0	31 38.8	31 38.8	6 7.5	2 2.5	3 3.8	1 1.3
		無回答		7 100.0	2 28.6	4 57.1	6 85.7	4 57.1	3 42.9	2 28.6	-	-	-	-
	無回答	小計		1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-
		男性		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		女性		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		無回答		1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-

◆参加していない理由

参加していない理由は、「(仕事や育児、家事などで忙しく)時間がないから」「活動自体がよく分からないから」「どのように参加してよいか分からないから」が上位を占めている。全体と比較すると、子育て家庭は「(仕事や育児、家事などで忙しく)時間がないから」が高くなっている。

上段:度数 下段:%		問14 参加していない理由												
		合計	(仕事や 育児、家 事などで 忙しく)時 間がない から	参加した い活動が ないから	活動自 体がよく わからな いから	どのよ うに参加 してよいか わからな いから	体力や 健康状 態に自信 がないか ら	経済的 余裕がな いから	人間関 係がわ ずらわし いから	関心がな いから	その他	無回答		
合計		1714	943	178	381	363	459	247	149	163	98	20		
		100.0	55.0	10.4	22.2	21.2	26.8	14.4	8.7	9.5	5.7	1.2		
子育て家庭の別×性別	子育て家庭	小計	624	435	68	136	128	104	45	68	25	4		
		100.0	69.7	10.9	21.8	20.5	20.4	16.7	7.2	10.9	4.0	0.6		
		男性	244	159	33	52	49	44	34	15	36	10	1	
		100.0	65.2	13.5	21.3	20.1	18.0	13.9	6.1	14.8	4.1	0.4		
		女性	363	266	35	83	77	77	67	29	30	15	3	
		100.0	73.3	9.6	22.9	21.2	21.2	18.5	8.0	8.3	4.1	0.8		
		無回答	17	10	-	1	2	6	3	1	2	-	-	
		100.0	58.8	-	5.9	11.8	35.3	17.6	5.9	11.8	-	-	-	
		子育て家庭以外	小計	1072	501	109	243	234	326	142	101	95	68	16
		100.0	46.7	10.2	22.7	21.8	30.4	13.2	9.4	8.9	6.3	1.5		
		男性	490	241	66	124	115	127	75	46	61	23	9	
		100.0	49.2	13.5	25.3	23.5	25.9	15.3	9.4	12.4	4.7	1.8		
	女性	534	248	38	109	110	177	60	51	32	40	7		
	100.0	46.4	7.1	20.4	20.6	33.1	11.2	9.6	6.0	7.5	1.3			
	無回答	48	12	5	10	9	22	7	4	2	5	-		
	100.0	25.0	10.4	20.8	18.8	45.8	14.6	8.3	4.2	10.4	-	-		
	無回答	18	7	1	2	1	6	1	3	-	5	-		
	100.0	38.9	5.6	11.1	5.6	33.3	5.6	16.7	-	-	27.8	-		
	無回答	6	1	-	-	-	3	1	-	-	1	-		
	100.0	16.7	-	-	-	-	50.0	16.7	-	-	16.7	-		
	女性	7	2	-	1	-	2	-	-	-	3	-		
	100.0	28.6	-	14.3	-	-	28.6	-	-	-	42.9	-		
	無回答	5	4	1	1	1	1	-	3	-	1	-		
	100.0	80.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	-	60.0	-	20.0	-		

◆今後のボランティア活動の発展のために必要なこと

市全体と比較して、子育て家庭は「相談窓口の充実」は低いが、その他の項目は全体よりも高くなっている。

上段:度数 下段:%		問15 今後の活動の発展のために										
		合計	相談窓口 の充実	専門性 のある職員 やアドバイ ザーの配 置	活動拠点 の確保	広報・啓発 の充実	学校での 福祉教育 の充実	職場のボラ ンティア休 暇の充実	その他	無回答		
合計		2006	642	759	643	833	447	428	91	185		
		100.0	32.0	37.8	32.1	41.5	22.3	21.3	4.5	9.2		
子育て家庭の別×性別	子育て家庭	小計	736	218	287	243	320	212	187	31	53	
		100.0	29.6	39.0	33.0	43.5	28.8	25.4	4.2	7.2		
		男性	293	84	107	103	133	72	80	17	15	
		100.0	28.7	36.5	35.2	45.4	24.6	27.3	5.8	5.1		
		女性	419	129	171	138	178	134	104	11	35	
		100.0	30.8	40.8	32.9	42.5	32.0	24.8	2.6	8.4		
		無回答	24	5	9	2	9	6	3	3	3	
		100.0	20.8	37.5	8.3	37.5	25.0	12.5	12.5	12.5		
		子育て家庭以外	小計	1250	418	462	395	510	233	239	57	130
		100.0	33.4	37.0	31.6	40.8	18.6	19.1	4.6	10.4		
		男性	566	188	208	192	252	102	119	36	34	
		100.0	33.2	36.7	33.9	44.5	18.0	21.0	6.4	6.0		
	女性	628	212	241	183	240	122	112	21	81		
	100.0	33.8	38.4	29.1	38.2	19.4	17.8	3.3	12.9			
	無回答	56	18	13	20	18	9	8	-	15		
	100.0	32.1	23.2	35.7	32.1	16.1	14.3	-	26.8			
	無回答	20	6	10	5	3	2	2	3	2		
	100.0	30.0	50.0	25.0	15.0	10.0	10.0	15.0	10.0			
	男性	7	2	3	1	2	-	1	1	2		
	100.0	28.6	42.9	14.3	28.6	14.3	-	14.3	14.3	28.6		
	女性	7	1	5	2	1	-	-	-	-		
	100.0	14.3	71.4	28.6	14.3	14.3	-	-	-	-		
	無回答	6	3	2	2	-	1	1	2	-		
	100.0	50.0	33.3	33.3	33.3	-	16.7	16.7	33.3	-		

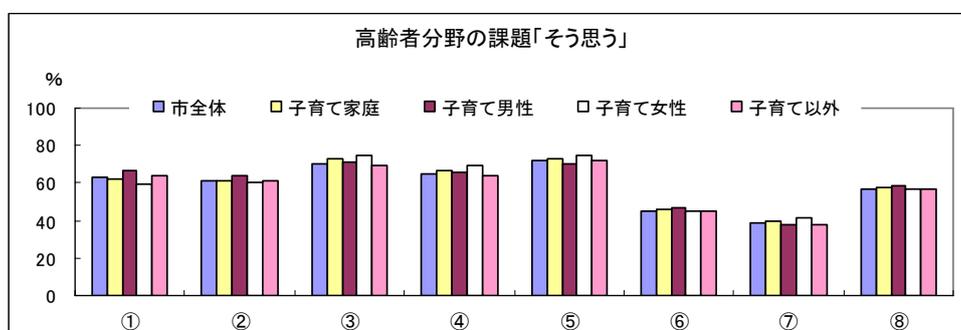
◆分野別の課題

<高齢者分野>

- ・ 高齢者分野の「そう思う」の回答を市全体と比較すると、子育て家庭は「③寝たきりや認知症などの高齢者のいる世帯の介護負担」と「④介護に必要な費用」がやや高くなっている。
- ・ 性別にみると、「①健康づくりや生きがいづくりの取り組み」は男性の方が女性よりも高くなっている。

地域でなんとかしなければならない課題として「そう思う」の回答(単位:%)

高齢者分野の課題	市全体	子育て家庭	男性	女性	子育て家庭以外
① 健康づくりや生きがいづくりの取り組み	63.5	62.5	66.6	59.2	64.2
② 孤立化や生活不安、閉じこもり	61.0	61.5	64.2	60.4	61.0
③ 寝たきりや認知症などの高齢者のいる世帯の介護負担	70.4	72.7	71.0	74.7	69.3
④ 介護に必要な費用	65.3	67.1	65.9	69.2	64.2
⑤ 老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設	72.4	72.6	70.6	74.5	72.2
⑥ 高齢者虐待や介護放棄	44.8	45.5	46.8	45.1	44.6
⑦ 高齢者の就労	38.3	39.8	38.2	41.1	37.7
⑧ 高齢者のつどいや憩いの場	57.1	57.5	59.0	56.6	56.9

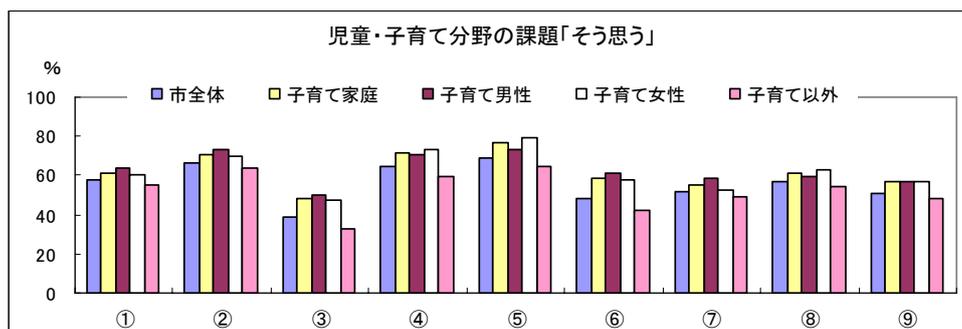


<児童・子育て分野>

- ・ 児童・子育て分野の「そう思う」の回答を市全体と比較すると、「③子どもの学力や進学」「④子どもの非行・いじめ・不登校・ひきこもり」「⑤子どもが安心して遊べる場所」「⑥子育てに必要な費用」の項目が際立って高くなっている。
- ・ 性別にみると、「⑤子どもが安心して遊べる場所」は女性のほうが高くなっている。
- ・ 子育て家庭と子育て家庭以外を比較すると、子育て家庭以外はすべての項目において「そう思う」の割合は低くなっている。

地域でなんとかしなければならない課題として「そう思う」の回答(単位:%)

児童・子育て分野の課題	市全体	子育て家庭	男性	女性	子育て家庭以外
① 子育てに関する相談窓口や支援	57.5	61.4	63.8	60.4	55.4
② 働く親の条件にあった保育所や学童保育	66.3	70.5	73.0	69.7	64.0
③ 子どもの学力や進学	38.6	48.2	50.2	47.7	33.1
④ 子どもの非行・いじめ・不登校・引きこもり	64.4	71.9	71.0	73.0	59.9
⑤ 子どもが安心して遊べる場所	69.0	76.4	73.4	79.2	64.9
⑥ 子育てに必要な費用	47.9	58.6	61.1	57.5	41.9
⑦ ひとり親家庭の子育てに関する周囲の理解や支援	51.4	55.0	58.7	52.5	49.4
⑧ 児童虐待や育児放棄	56.7	61.5	59.7	63.2	54.0
⑨ 子どものつどいや憩いの場	51.1	56.8	57.3	56.6	47.9

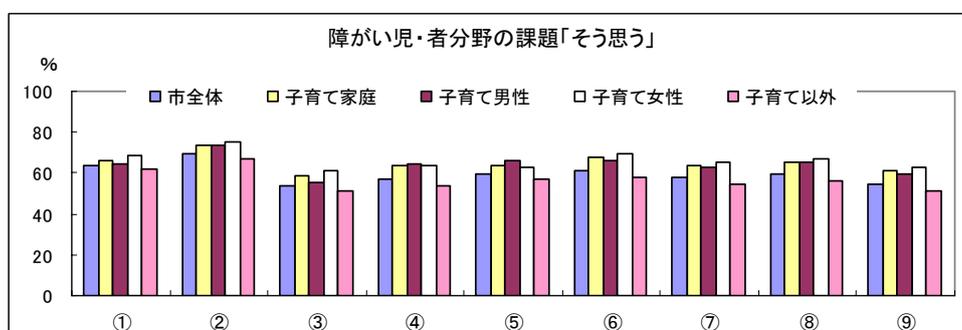


<障がい・児者分野>

- ・ 障がい・児者分野の「そう思う」の回答を市全体と比較すると、すべての項目において市全体よりもやや高くなっている。
- ・ 子育て家庭と子育て家庭以外を比較すると、子育て家庭のほうが「そう思う」が高くなっている。

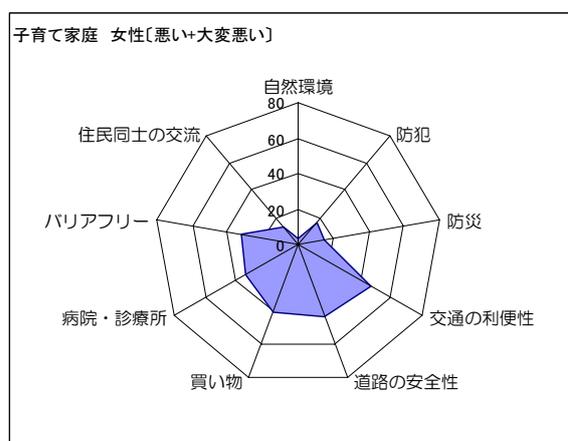
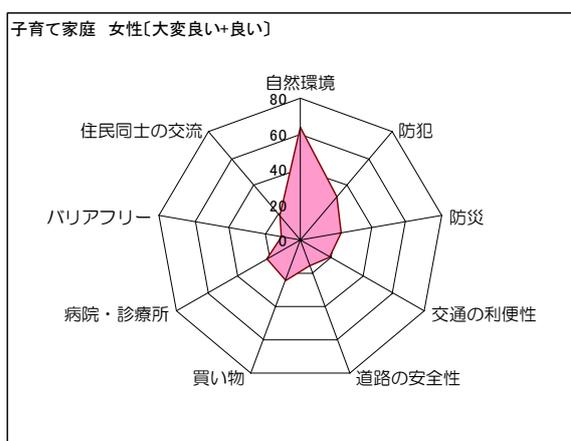
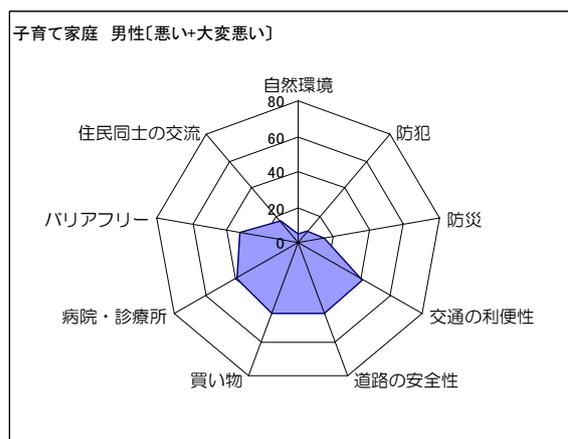
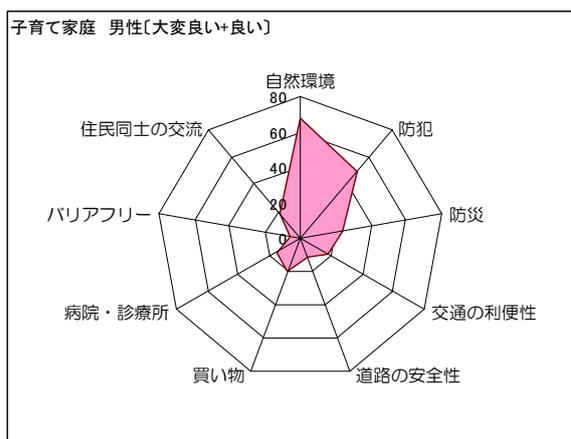
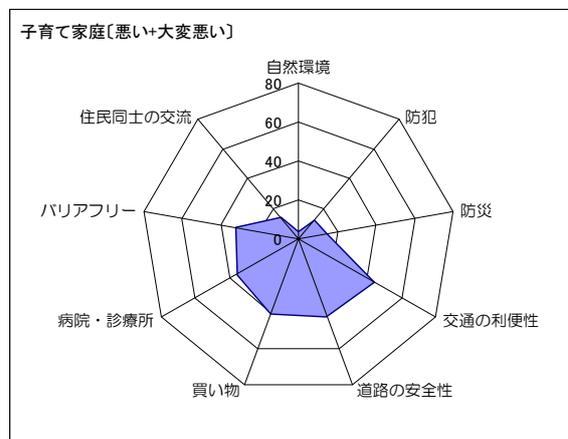
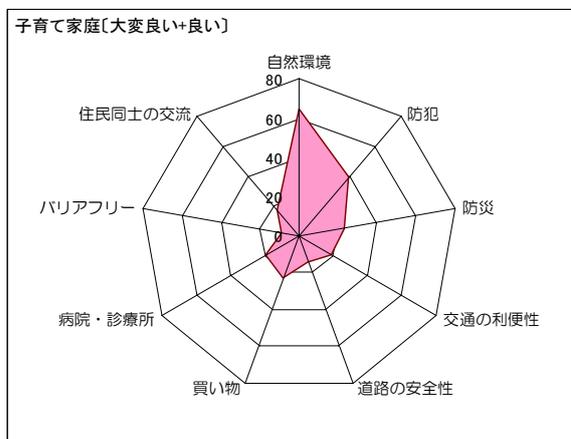
地域でなんとかしなければならない課題として「そう思う」の回答(単位:%)

障がい児・者分野の課題	市全体	子育て家庭	男性	女性	子育て家庭以外
① 障がい児・者のいる世帯の介護負担	63.4	66.3	64.2	68.3	61.9
② 障がい児・者に対する周囲の理解や支援	69.5	73.9	73.4	75.2	67.3
③ 障がい児・者と障がいの無い人が地域で共に暮らすこと	54.0	58.3	55.3	60.9	51.6
④ 障がい児・者の社会参加	57.3	63.6	64.5	63.5	53.7
⑤ 障がい児・者に対する相談窓口	59.5	64.0	66.2	63.2	57.2
⑥ 障がい児・者が利用できる身近な生活施設	61.5	67.5	66.2	69.2	58.1
⑦ 障がい児の療育・教育・生活	57.9	63.7	62.8	65.2	54.9
⑧ 障がい者の就労	59.7	65.6	65.2	66.6	56.6
⑨ 障がい児・者のつどいや憩いの場	54.7	61.1	59.7	63.0	51.0

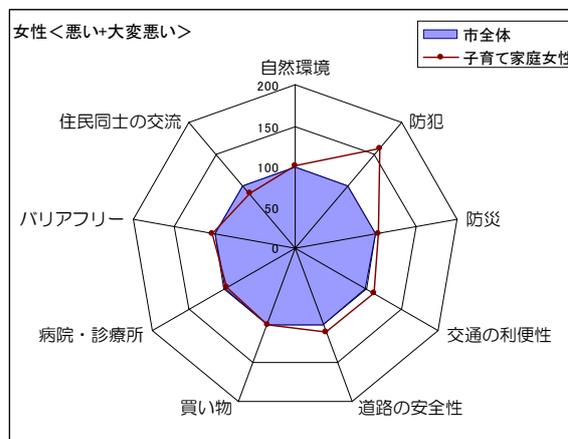
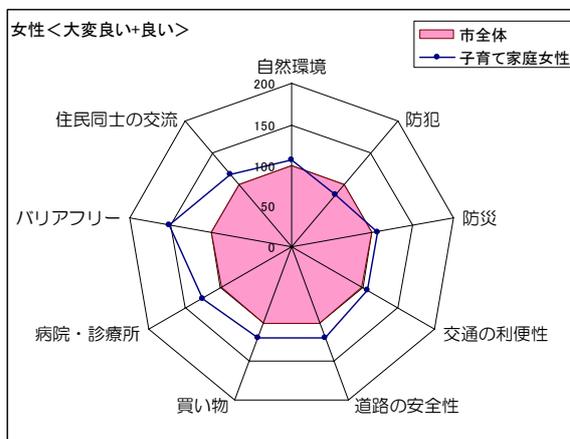
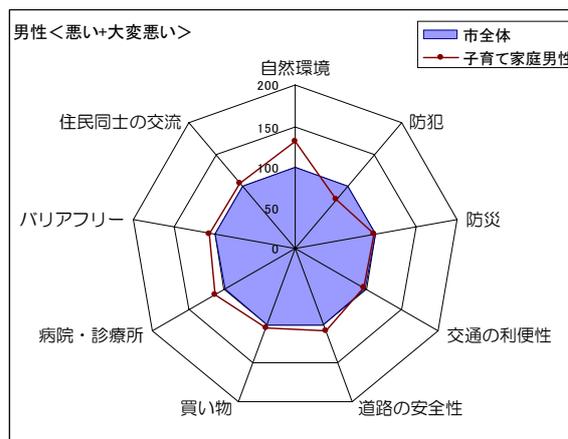
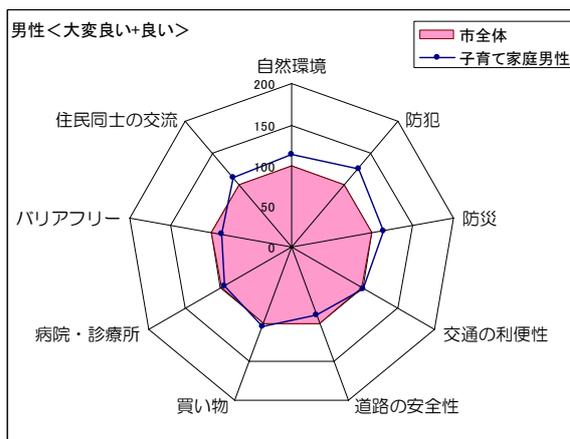
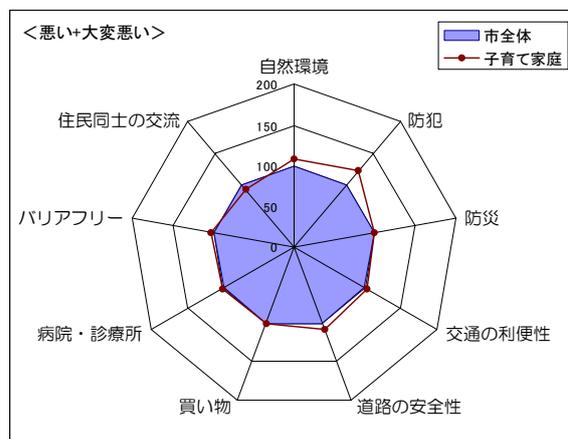
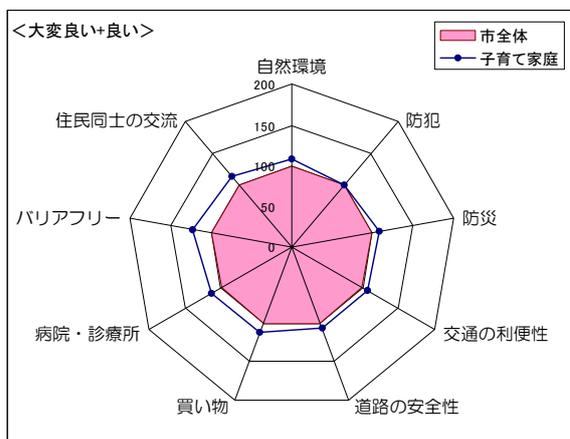


◆生活環境の評価

- ・ 子育て家庭からみた生活環境は、「自然環境」「防犯」は良いが、「交通の利便性」「道路の安全性」「買い物の便利さ」「病院・診療所」は悪い評価となっている。
- ・ 子育て家庭の男性と女性を比較すると、「防犯」は男性の方が良い評価になっている。「病院・診療所」は男性のほうが悪いと評価している。



- ・ 市全体を100として子育て家庭の評価を換算してみると、全体的にやや良い評価となっている。悪い評価は「防犯」が高くなっている。
- ・ 子育て家庭の評価を男女別にみると、男性は「防犯」が良い、「自然環境」は悪いと評価している。女性は「バリアフリー」は良い、「防犯」は悪いと評価している。
- ・ 子育て家庭は性別によって生活環境の評価に違いがみられた。



◆男女の参加について

市全体と子育て家庭を比較すると、「④子育て支援活動」の項目において差がみられた。子育て支援活動には「男性がもっと参加すべきである」が市全体よりも高くなっている。

①区・自治会・町内会活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	220 11.0	402 20.0	887 44.2	387 19.3	149 7.4
子育て家庭	736 100.0	76 10.3	133 18.1	346 47.0	151 20.5	46 6.3
子育て家庭 男性	293 100.0	34 11.6	73 24.9	128 43.7	51 17.4	16 5.5
子育て家庭 女性	419 100.0	40 9.5	56 13.4	208 49.6	97 23.2	25 6.0

②福祉・環境などのボランティア活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	436 21.7	165 8.2	634 31.6	638 31.8	194 9.7
子育て家庭	736 100.0	143 19.4	61 8.3	249 33.8	250 34.0	59 8.0
子育て家庭 男性	293 100.0	52 17.7	27 9.2	101 34.5	97 33.1	28 9.6
子育て家庭 女性	419 100.0	89 21.2	32 7.6	137 32.7	150 35.8	25 6.0

③趣味・スポーツクラブ・各種講座などの活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	133 6.6	105 5.2	420 20.9	290 14.5	1095 54.6
子育て家庭	736 100.0	49 6.7	36 4.9	149 20.2	116 15.8	400 54.3
子育て家庭 男性	293 100.0	24 8.2	17 5.8	63 21.5	43 14.7	153 52.2
子育て家庭 女性	419 100.0	25 6.0	19 4.5	81 19.3	71 16.9	230 54.9

④子育て支援活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	275 13.7	64 3.2	255 12.7	327 16.3	1104 55.0
子育て家庭	736 100.0	132 17.9	23 3.1	94 12.8	98 13.3	399 54.2
子育て家庭 男性	293 100.0	51 17.4	13 4.4	40 13.7	45 15.4	152 51.9
子育て家庭 女性	419 100.0	78 18.6	9 2.1	52 12.4	52 12.4	230 54.9

⑤消費者団体・生活共同組合などの活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	93 4.6	44 2.2	337 16.8	423 21.1	1115 55.6
子育て家庭	736 100.0	45 6.1	14 1.9	117 15.9	162 22.0	401 54.5
子育て家庭 男性	293 100.0	15 5.1	10 3.4	47 16.0	71 24.2	151 51.5
子育て家庭 女性	419 100.0	29 6.9	4 1.0	67 16.0	89 21.2	232 55.4

⑥防犯・防災活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	156 7.8	182 9.1	314 15.7	292 14.6	1100 54.8
子育て家庭	736 100.0	71 9.6	64 8.7	98 13.3	121 16.4	397 53.9
子育て家庭 男性	293 100.0	31 10.6	36 12.3	43 14.7	43 14.7	149 50.9
子育て家庭 女性	419 100.0	39 9.3	27 6.4	52 12.4	76 18.1	231 55.1

⑦国際交流活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	68 3.4	57 2.8	265 13.2	527 26.3	1106 55.1
子育て家庭	736 100.0	29 3.9	19 2.6	93 12.6	203 27.6	398 54.1
子育て家庭 男性	293 100.0	12 4.1	8 2.7	37 12.6	88 30.0	151 51.5
子育て家庭 女性	419 100.0	17 4.1	11 2.6	53 12.6	111 26.5	230 54.9

＜以下、男女の回答を比較＞

①区・自治会活動へは、「男性が参加すべき」「女性が参加すべきが」ともに男性の方が高くなっている。女性は「今のままでよい」が高くなっている。

②ボランティア活動は、「男性が参加すべき」は女性が高く、「女性が参加すべき」は男性が高くなっている。

③趣味・スポーツ活動は、「男性が参加すべき」「女性が参加すべき」どちらも男性の方が高くなっている。

④子育て支援活動には、「男性が参加すべき」は女性がやや高く、「女性が参加すべき」は男性が高くなっている。

⑤消費者団体などの活動は、「男性が参加すべき」は女性が高く、「女性が参加すべき」は男性の方が高くなっている。

⑥防犯・防災活動は、「男性が参加すべき」「女性が参加すべき」のどちらも男性の方が高くなっている。

⑦国際交流活動は、性別による差はみられない。

◆身近な地域で福祉活動を推進していくために必要なこと

全体と比較して、子育て家庭は際立って高い項目はみられないが、「小学校区ごとに地域福祉をみんなでも推進する住民組織を新しくつくる」と「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設をたくさんつくる」の項目がやや高くなっている。このことから、子育て家庭は、既存の資源だけでなく、新しい取り組みを重視しているといえる。

上段:度数 下段:%	問19 福祉活動を推進していくために										
	合計	住民のボランティア活動を活発にしている	区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化している	区・自治会地域福祉を推進する住民組織をつくる	小学校区ごとに地域福祉を推進する住民組織を新しくつくる	住民懇談会や学習会のような機会をたくさん設けていく	身近な地域で地域住民が気軽に集える施設をたくさんつくる	福祉は行政の責任であり、特に住民の活動はいいと思う	その他	よくわからない	無回答
合計	2006 100.0	666 33.2	684 34.1	452 22.5	312 15.6	378 18.8	639 31.9	207 10.3	79 3.9	351 17.5	80 4.0
子育て家庭	小計	736 100.0	227 30.8	228 31.0	154 20.9	125 17.0	122 16.6	238 32.3	66 9.0	122 16.6	27 3.7
	男性	293 100.0	93 31.7	104 35.5	66 22.5	60 20.5	49 16.7	78 26.6	38 13.0	15 5.1	48 16.4
	女性	419 100.0	126 30.1	118 28.2	83 19.8	63 15.0	71 16.9	152 36.3	28 6.7	16 3.8	67 16.0
	無回答	24 100.0	8 33.3	6 25.0	5 20.8	2 8.3	2 8.3	8 33.3	-	1 4.2	7 29.2
	子育て家庭以外	小計	1250 100.0	435 34.8	449 35.9	293 23.4	184 14.7	254 20.3	139 11.1	44 3.5	227 18.2
無回答	男性	566 100.0	195 34.5	223 39.4	163 28.8	103 18.2	123 21.7	157 27.7	76 13.4	24 4.2	88 15.5
	女性	628 100.0	223 35.5	207 33.0	119 18.9	75 11.9	127 20.2	216 34.4	57 9.1	20 3.2	123 19.6
	無回答	56 100.0	17 30.4	19 33.9	11 19.6	6 10.7	4 7.1	22 39.3	6 10.7	-	16 7.1
	小計	20 100.0	4 20.0	7 35.0	5 25.0	3 15.0	2 10.0	6 30.0	2 10.0	3 15.0	2 10.0
	男性	7 100.0	1 14.3	3 42.9	2 28.6	-	-	1 42.9	3 -	-	1 14.3
女性	7 100.0	2 28.6	3 42.9	2 28.6	3 42.9	-	-	2 28.6	-	-	-
無回答	6 100.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	-	1 16.7	1 16.7	2 33.3	3 50.0	1 16.7	1 16.7

◆市が重点を置くべき福祉施策

全体と比較して、子育て家庭は「子どものための福祉施設の充実」と「各種手当など金銭的な援助」が高くなっている。

上段:度数 下段:%	問20 市が重点を置くべき福祉施策																
	合計	すべての人の権利がまもられるまちづくりの推進	高齢者や障がい者がいけるための配慮した道路・建物・駅等の整備	高齢者や障がい者のための福祉施設の充実	子どものための福祉施設の充実	サービス利用の持続化・簡素化・スピード化	ボランティア団体、NPO等の市民活動への援助	在宅福祉サービスの充実	福祉情報の提供	相談活動の充実	行政と他の機関、団体との連携の強化	福祉の専門的な人材の確保と育成	福祉講座や福祉教育の充実	各種手当など金銭的な援助	その他	無回答	
合計	2006 100.0	938 46.8	975 48.6	880 43.9	665 33.2	753 37.5	392 19.5	766 38.2	614 30.6	425 21.2	512 25.5	650 32.4	331 16.5	708 35.3	32 1.6	84 4.2	
子育て家庭	小計	736 100.0	330 44.8	350 47.6	288 39.1	311 42.3	274 37.2	141 19.2	264 35.9	153 20.8	192 26.1	242 32.9	121 16.4	313 42.5	15 2.0	26 3.5	
	男性	293 100.0	122 41.6	151 51.5	119 40.6	119 40.6	108 36.9	57 19.5	99 33.8	91 31.1	61 20.8	89 30.4	93 31.7	36 12.3	118 40.3	3 1.0	7 2.4
	女性	419 100.0	194 46.3	189 45.1	162 38.7	184 43.9	157 37.5	78 18.6	161 38.4	130 31.0	89 21.2	99 23.6	141 33.7	80 19.1	186 44.4	12 2.9	16 3.8
	無回答	24 100.0	14 58.3	10 41.7	7 29.2	8 33.3	9 37.5	6 25.0	4 16.7	7 29.2	3 12.5	4 16.7	8 33.3	5 20.8	9 37.5	-	3 12.5
	子育て家庭以外	小計	1250 100.0	598 47.8	617 49.4	584 46.7	350 28.0	471 37.7	249 19.9	494 39.5	384 30.7	270 21.6	317 25.4	403 32.2	210 16.8	392 31.4	17 1.4
無回答	男性	566 100.0	267 47.2	302 53.4	260 45.9	165 29.2	215 38.0	123 21.7	221 39.0	191 33.7	121 21.4	151 26.7	184 32.5	90 15.9	173 30.6	11 1.9	19 3.4
	女性	628 100.0	306 48.7	286 45.5	296 47.1	169 26.9	241 38.4	118 18.8	257 40.9	179 28.5	137 21.8	154 24.5	203 32.3	109 17.4	206 32.8	6 1.0	35 5.6
	無回答	56 100.0	25 44.6	29 51.8	28 50.0	16 28.6	15 26.8	8 14.3	16 28.6	14 25.0	12 21.4	12 28.6	16 19.6	11 23.2	13 23.2	-	3 5.4
	小計	20 100.0	10 50.0	8 40.0	8 40.0	4 20.0	4 40.0	2 10.0	8 40.0	2 10.0	2 10.0	3 15.0	5 25.0	-	3 15.0	-	1 5.0
	男性	7 100.0	3 42.9	5 71.4	5 71.4	2 28.6	3 42.9	1 14.3	2 28.6	2 28.6	1 14.3	1 14.3	2 28.6	-	1 14.3	-	-
女性	7 100.0	6 85.7	1 14.3	3 42.9	2 28.6	2 28.6	-	4 57.1	-	1 14.3	1 14.3	2 28.6	-	1 14.3	-	-	
無回答	6 100.0	1 16.7	2 33.3	-	-	3 50.0	1 16.7	2 33.3	-	-	1 16.7	1 16.7	-	1 16.7	-	1 16.7	

◆社会福祉協議会の認知度

子育て家庭は、「知っている」は51.9%、「聞いたことはある」は32.2%、「知らない」は14.7%となっている。市全体と比較して、「聞いたことはある」がやや高くなっている。子育て家庭と子育て家庭以外では社会福祉協議会の認知度に差はみられない。

上段:度数 下段:%		問21 社会福祉協議会の認知度					
		合計	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答	
合計		2006 100.0	1038 51.7	607 30.3	324 16.2	37 1.8	
子育て家庭の別×性別	子育て家庭	小計	736 100.0	382 51.9	237 32.2	108 14.7	9 1.2
	男性	293 100.0	149 50.9	92 31.4	47 16.0	5 1.7	
	女性	419 100.0	218 52.0	139 33.2	60 14.3	2 0.5	
	無回答	24 100.0	15 62.5	6 25.0	1 4.2	2 8.3	
	子育て家庭以外	小計	1250 100.0	645 51.6	365 29.2	213 17.0	27 2.2
	男性	566 100.0	299 52.8	159 28.1	101 17.8	7 1.2	
	女性	628 100.0	320 51.0	189 30.1	102 16.2	17 2.7	
	無回答	56 100.0	26 46.4	17 30.4	10 17.9	3 5.4	
	無回答	小計	20 100.0	11 55.0	5 25.0	3 15.0	1 5.0
	男性	7 100.0	4 57.1	3 42.9	-	-	
	女性	7 100.0	5 71.4	-	2 28.6	-	
	無回答	6 100.0	2 33.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7	

◆知っている、聞いたことがある社協活動

知っている、聞いたことがある社会福祉協議会活動は、「在宅福祉サービス関連」「共同募金活動」「区・自治会単位の福祉活動支援」が上位にあがっている。市全体と比較して、有意な差はみられない。

上段:度数 下段:%		問22-1 知っている、聞いたことがあるもの(O+◎印)															無回答				
		合計	在宅福祉サービス関連	ボランティア推進活動	区・自治会単位の福祉活動支援	資金貸付	共同募金活動	福祉関係団体支援事業	当事者活動支援	介護者支援事業	相談事業	地域福祉権利擁護事業	高齢者支援事業	障がい児・者支援事業	善意銀行	福祉用具やその他の器具の貸し出し		障がい者共同作業所運営事業	その他		
合計		1645 100.0	633 38.5	328 19.9	349 21.2	93 5.7	498 30.3	210 12.8	193 11.7	230 14.0	266 16.2	82 5.0	203 12.3	183 11.1	199 12.1	313 19.0	251 15.3	10 0.6	855 52.0		
子育て家庭の別×性別	子育て家庭	小計	619 100.0	234 37.8	129 20.8	138 22.3	37 6.0	183 29.6	74 12.0	74 12.0	85 13.7	99 16.0	26 4.2	68 11.0	76 12.3	78 12.6	112 18.1	85 13.7	3 0.5	325 52.5	
	男性	241 100.0	96 39.8	47 19.5	64 26.6	18 7.5	79 32.8	36 14.9	29 12.0	25 10.4	45 18.7	11 4.6	28 11.6	26 10.8	30 12.4	41 17.0	35 14.5	-	-	115 47.7	
	女性	357 100.0	131 36.7	79 22.1	69 19.3	17 4.8	98 27.5	35 9.8	44 12.3	57 16.0	51 14.3	14 3.9	38 10.6	47 13.2	44 12.3	67 18.8	45 12.6	3 0.8	-	196 54.9	
	無回答	21 100.0	7 33.3	3 14.3	5 23.8	2 9.5	6 28.6	3 14.3	1 4.8	3 14.3	3 14.3	1 4.8	2 9.5	3 14.3	4 19.0	4 19.0	5 23.8	-	-	14 66.7	
	子育て家庭以外	小計	1010 100.0	396 39.2	198 19.6	209 20.7	56 5.5	311 30.8	134 13.3	119 11.8	145 14.4	167 16.5	55 5.4	135 13.4	107 10.6	120 11.9	200 19.8	164 16.2	7 0.7	521 51.6	
	男性	458 100.0	176 38.4	87 19.0	103 22.5	21 4.6	144 31.4	61 13.3	52 11.4	51 11.1	70 15.3	24 5.2	58 12.7	38 8.3	53 11.6	79 17.2	71 15.5	2 0.4	-	230 50.2	
	女性	509 100.0	201 39.5	103 20.2	99 19.4	30 5.9	155 30.5	65 12.8	60 11.8	90 17.7	90 17.7	29 5.7	70 13.8	67 13.2	62 12.2	109 21.4	83 16.3	4 0.8	-	271 53.2	
	無回答	43 100.0	19 44.2	8 18.6	7 16.3	5 11.6	12 27.9	8 18.6	7 16.3	4 9.3	7 16.3	2 4.7	7 16.3	2 4.7	5 11.6	12 27.9	10 23.3	1 2.3	-	20 46.5	
	無回答	小計	16 100.0	3 18.8	1 6.3	2 12.5	-	4 25.0	2 12.5	-	-	-	1 6.3	-	-	1 6.3	1 6.3	2 12.5	-	-	9 56.3
		男性	7 100.0	1 14.3	-	1 14.3	-	2 28.6	2 28.6	-	-	-	1 14.3	-	-	-	-	1 14.3	-	-	4 57.1
		女性	5 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5 100.0
		無回答	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	-	2 50.0	-	-	-	-	-	-	-	1 25.0	1 25.0	1 25.0	-	-	-

◆社会福祉協議会活動への期待

市全体と比較して、子育て家庭は「子育て支援事業」が際立って高く、「幅広い分野の市民活動支援・協働」はやや高くなっている。その他の項目は全体よりもやや低くなっている。

		問23 社会福祉協議会活動への期待																
上段:度数 下段:%	合計	高齢者・障がい者などへの在宅福祉サービス	介護保険事業の強化	介護予防や健康づくり事業	子育て支援事業	ボランティア活動の推進	各種福祉講座の開催	何でも相談できる身近な場所づくり	区・自治会福祉活動支援	当事者活動支援・協働	福祉関係団体の活動支援・協働	NPOやボランティアグループへの支援・協働	幅広い分野の市民活動支援・協働	その他	とくに期待していない	無回答		
合計	2006 100.0	1223 61.0	682 34.0	654 32.6	755 37.6	499 24.9	274 13.7	863 43.0	429 21.4	503 25.1	288 14.4	297 14.8	374 18.6	31 1.5	105 5.2	126 6.3		
子育て家庭の別×性別	子育て家庭	小計	736 100.0	434 59.0	240 32.6	219 29.8	341 46.3	174 23.6	88 12.0	315 42.8	149 20.2	176 23.9	99 13.5	98 13.3	145 19.7	10 1.4	41 5.6	38 5.2
		男性	293 100.0	167 57.0	87 29.7	89 30.4	125 42.7	73 24.9	30 10.2	113 38.6	63 21.5	68 23.2	37 12.6	37 12.6	54 18.4	5 1.7	19 6.5	13 4.4
		女性	419 100.0	254 60.6	145 34.6	119 28.4	206 49.2	96 22.9	50 11.9	195 46.5	80 19.1	99 23.6	57 13.6	58 13.8	88 21.0	5 1.2	20 4.8	24 5.7
		無回答	24 100.0	13 54.2	8 33.3	11 45.8	10 41.7	5 20.8	8 33.3	7 29.2	6 25.0	9 37.5	5 20.8	3 12.5	3 12.5	-	2 8.3	1 4.2
	子育て家庭以外	小計	1250 100.0	777 62.2	435 34.8	433 34.6	409 32.7	321 25.7	185 14.8	542 43.4	277 22.2	325 26.0	189 15.1	199 15.9	225 18.0	21 1.7	63 5.0	86 6.9
		男性	566 100.0	340 60.1	201 35.5	184 32.5	190 33.6	153 27.0	85 15.0	227 40.1	143 25.3	144 25.4	90 15.9	97 17.1	121 21.4	12 2.1	33 5.8	41 7.2
		女性	628 100.0	404 64.3	216 34.4	235 37.4	205 32.6	158 25.2	93 14.8	283 45.1	125 19.9	171 27.2	91 14.5	95 15.1	92 14.6	9 1.4	29 4.6	38 6.1
		無回答	56 100.0	33 58.9	18 32.1	14 25.0	14 25.0	10 17.9	7 12.5	32 57.1	9 16.1	10 17.9	8 14.3	7 12.5	12 21.4	-	1 1.8	7 12.5
	無回答	小計	20 100.0	12 60.0	7 35.0	2 10.0	5 25.0	4 20.0	1 5.0	6 30.0	3 15.0	2 10.0	-	-	4 20.0	-	1 5.0	2 10.0
		男性	7 100.0	6 85.7	4 57.1	2 28.6	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3	2 28.6	-	-	-	1 14.3	-	-	-
		女性	7 100.0	4 57.1	2 28.6	-	3 42.9	1 14.3	-	4 57.1	1 14.3	1 14.3	-	-	2 28.6	-	-	-
		無回答	6 100.0	2 33.3	1 16.7	-	1 16.7	2 33.3	-	1 16.7	-	1 16.7	-	-	1 16.7	-	1 16.7	2 33.3

<まとめと考察>

子育て家庭に着目して分析を行なったところ、子育て家庭は、子育てをしていない家庭よりも地域との交流が深いことがわかった。子育てをしていると、身近な地域での生活が中心になり、育児施設や学校等子どもを通じての人間関係がしやすいからといえる。しかしながら、開発地域の子育て家庭においては、必ずしも近所づきあいが深いとはいえず、人間関係の希薄な環境で子育てをしている家庭もあることが伺えた。

子育て家庭の関心は、子育て環境の改善に集中している。昨今、子どもが犠牲になる事件が相次いでいることから、子どもの安全に対する意識はかなり高くなっている。いかにして子どもの安全を確保するかは優先すべき課題であり、子どもの安全を中心においた基盤整備や組織づくりは地域福祉活動に非常に有効であると考えられる。

●子育て家庭の声

- ・老人や子どもが安心して歩ける町(市)、誰もが安心して暮らせる町(市)を望みます。また外国人の方が多く、その方たちへの援助も必要かと思われま。水口町などはいいいですが信楽や土山のように若者が減っていくようで・・・その土地に住む高齢者の方への配慮(援助)も必要だと思しますので宜しくお願いします。
- ・私が住んでいるところは子どもが遊ぶところがありませんので公園を作ってほしい(公園はあるけどあまりあそぶものがない)。
- ・子どもが小さい時に(未入園時の頃)急用や、私が病気の時(病院に行きたい時など)パッと預けられる所がなくて困った。一時預かりの所(西保近く。いつでもあいている所や親子でいつでもいける所がほしい(何曜日、何時と決めないで))はいっぱいだったり、予約が必要だったり、お金が高く、あまり利用できなかったのを改善してほしい。あのような場所を貴生川地区、伴谷地区など、地区ごとにあれば助かるし、そこで子育ての相談(保育士との立ち話でも)ができるのもっと気持ちに余裕をもって子育てが出来るし、大変感が減り出生率も増えていくと思う。
- ・家庭から離れていく子どもが近年多く見られるようになった。一代二代三代と続いている家庭もまだまだ見られる反面、親と同居し老人の面倒を見ない社会も増え続けている世の中が充満しつつある。このような現象の社会構造をどこかで食い止める社会にしていかななくては。
- ・公民館、保健センター、社協事務所等を一体化した施設を設け、気軽に住民がくつろげる場をつくる。そこには、文化サークルやあらゆるボランティア団体の取組みや作品等を展示紹介できるホールがあり相談窓口があり、軽スポーツやビデオなどを鑑賞でき、喫茶でき話のできるふれあいの場があるとよい。
- ・社会福祉協議会の職員について地元の出身者を使ったほうが良いのではないかと。他の地区から来ている職員は地元の事がわからない人が多いのでサービス及、熱意に欠ける様に思う。市の職員についても適材適所につかう様願います。
- ・甲賀市湖南市で唯一の療育の場であったこじか教室がなくなるという話を聞きました。他の市町村よりより規模も小さくこれから充実させていくべき分野だと思っていましたのに残念である以上にこれからの行政に不安を感じます。高齢者の方が寝たきりにならないためのサービスは数多くある中ハンディを持つ子どもたちを育てる為に必要な事を教えてもらえる市内唯一の施設をなぜなくさなければならないのか教えていただきたい。
- ・高齢者が元気で自立できる様各自自治会(近くで)健康づくりや生きがいづくり、子ども達と一緒に出来る施設を希望します。
- ・よくわからないが今の状況、これからの展望等をわかりやすく住民全員が把握できるシステムにしていき、全体で取り組んでいけるようにして頂きたい。
- ・我が家にも最近子どもが生まれ、楽しい時間を過ごしているが、妻は仕事をやめ子育てをし、収入は減った。現実はお金がたくさんいるし、児童手当月5000円はありがたいが、もう少し上げて欲しい。困っている人を助けてあげるのは当たり前だが、ボランティア活動をしたくても実際時間が全くない。
- ・甲賀市の将来をゆだねる子どもたちが安全に勉強できる環境づくりを望みます。スクールバスを出してください。健やかに成長させるため、医療費を無料にして欲しいです。給食費や諸費も免除して欲しいです。子育てには経済面・物理面・心理面など、成人させるまでにどれだけの力が必要でしょうか。今こそ行政は少子化対策に重点を置いてください。経済状態により、家族不和も生じかねません。そのために子どもを心理的に追いつめ、成長段階に悪影響を及ぼします。他にない条例を作ってください。子どもたちのために子どもが守られている地域に、住みにくいところはないと思います。安心して暮らせる市こそ私たちが願っている姿です。教育関係施設も老いています。学習環境の見直しをお願いします。甲賀市の未来のため、子ども達のことを最優先課題として取り組んでください。
- ・未来の社会を担うお子さんを育児されている父母にもっともっとスポットを当ててほしい。特に片親家族や他府県より来られた身内の少ない核家族で友人も少なく悶々と子育てをされている方も多いのではないかと心配です。
- ・旧5町の政策がどうであったとか、まだまだ新生甲賀市としての動きができていないように思う。市長がいったいどのようなことを今の緊急課題と考えているかがわからない。今、子どもの安全が一番大切であるのに、なぜ市長からの緊急アピールがないのか？もっと市長からの市民へのアピールが必要である。

(291件の意見より抜粋)

補論3 団塊の世代に着目した分析

< 団塊の世代に着目した分析 >

団塊の世代

第二次大戦後、数年間のベビーブームに生まれた世代のことをいう。作家・経済評論家の堺屋太一^{さかいやたいち}氏が命名し、「昭和22年から26年頃に生まれた人々」という定義をした。その著書によると、「日本民族は終戦直後の昭和22年から24年にかけて、空前絶後の大増殖を行った。この3年間に生まれた日本人は、その直前よりも20%、直後よりも26%も多いのである。」と述べられている。人口分析等においては、より狭義の22年から24年(1947年～1949年)の3年間に生まれた人を団塊の世代とすることが多い。

また、団塊の世代では昭和22年生まれが最も多く、2007年から定年を迎え始める(2007年問題ともいわれている)。会社を退職した団塊の世代は「アクティブシニア」とも呼ばれ、高齢者の新しい生き方や価値観に大きな影響を与える“若手”になることから、さまざまな分野に影響を与える存在として注目されている。

調査の分析

上記の定義を受けて、本調査においても団塊の世代に着目した分析を行なうこととした。分析に際して、55～59歳を「団塊の世代」、55歳未満を「団塊より下の世代」、60歳以上を「団塊より上の世代」と3つに区分した。また、分析は、①市全体と団塊世代の比較、②団塊世代の男女の比較、③団塊世代の男性とそれ以外の男性との違い に注目しておこなった。

◆団塊の世代は全体の11%

団塊の世代は2006件中227件となっている。

団塊の世代(SA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	団塊より下の世代(55歳未満)	937	46.7	47.0
2	団塊の世代(55～59歳)	227	11.3	11.4
3	団塊より上の世代(60歳以上)	831	41.4	41.7
	無回答	11	0.5	
	サンプル数(%ベース)	2006	100.0	1995

◆性別

回答者の団塊世代は男性111人、女性112人であり、ほぼ半数となっている。3区分の中でもっとも男性の比率の高い世代となっている。

上段:度数 下段:%		問1 性別			
		合計	男性	女性	無回答
合計		2006 100.0	866 43.2	1054 52.5	86 4.3
団塊世代の別	団塊より下の世代 (55歳未満)	937 100.0	402 42.9	519 55.4	16 1.7
	団塊の世代 (55～59歳)	227 100.0	111 48.9	112 49.3	4 1.8
	団塊より上の世代 (60歳以上)	831 100.0	352 42.4	420 50.5	59 7.1
	無回答	11 100.0	1 9.1	3 27.3	7 63.6

◆旧5町

全体と比較して、団塊の世代は「旧水口町」は低く、「旧甲南町」「旧信楽町」は高い割合となっている。

上段:度数 下段:%		問3 旧5町							
		合計	旧水口町	旧甲南町	旧信楽町	旧土山町	旧甲賀町	無回答	
合計		2006 100.0	754 37.6	429 21.4	297 14.8	224 11.2	285 14.2	17 0.8	
団塊の世代×性別	団塊より下の世代	小計	937 100.0	393 41.9	194 20.7	145 15.5	90 9.6	112 12.0	3 0.3
		男性	402 100.0	176 43.8	87 21.6	57 14.2	35 8.7	45 11.2	2 0.5
		女性	519 100.0	212 40.8	103 19.8	85 16.4	53 10.2	65 12.5	1 0.2
		無回答	16 100.0	5 31.3	4 25.0	3 18.8	2 12.5	2 12.5	-
	団塊の世代	小計	227 100.0	71 31.3	54 23.8	37 16.3	26 11.5	36 15.9	3 1.3
		男性	111 100.0	30 27.0	26 23.4	20 18.0	10 9.0	23 20.7	2 1.8
		女性	112 100.0	39 34.8	26 23.2	17 15.2	16 14.3	13 11.6	1 0.9
		無回答	4 100.0	2 50.0	2 50.0	-	-	-	-
	団塊より上の世代	小計	831 100.0	290 34.9	180 21.7	114 13.7	107 12.9	135 16.2	5 0.6
		男性	352 100.0	118 33.5	75 21.3	42 11.9	46 13.1	69 19.6	2 0.6
		女性	420 100.0	147 35.0	92 21.9	65 15.5	53 12.6	60 14.3	3 0.7
		無回答	59 100.0	25 42.4	13 22.0	7 11.9	8 13.6	6 10.2	-
無回答	小計	11 100.0	-	1 9.1	1 9.1	1 9.1	2 18.2	6 54.5	
	男性	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-	
	女性	3 100.0	-	-	1 33.3	1 33.3	1 33.3	-	
	無回答	7 100.0	-	1 14.3	-	-	-	6 85.7	

◆主な職業

主な職業は、団塊世代の男性は「会社員」が最も高く、男性は約6割となっている。団塊世代の女性は「職業にはついていない」「パート・アルバイト」が高くなっている。市全体と比較して、団塊の世代は「会社員」の割合が高く、「職業にはついていない」は低くなっている。

上段:度数 下段:%		問4 主な職業											
		合計	自営業主 (商店主、 工場主、 農業経営 主など)お よび家族 従事者	会社員(民 間の企業・ 団体の動 め人)	公務員	農林水産 業	自由業(開 業医、弁 護士、著 述業など)	非正社員 (派遣社 員、契約 社員など)	パート、ア ルバイト	職業には ついてい ない	その他	無回答	
合計		2006 100.0	222 11.1	548 27.3	108 5.4	28 1.4	18 0.9	54 2.7	250 12.5	756 37.7	4 0.2	18 0.9	
団塊の世代×性別	団塊より下の世代	小計	937 100.0	84 9.0	401 42.8	91 9.7	1 0.1	9 1.0	39 4.2	156 16.6	152 16.2	-	4 0.4
	男性	402 100.0	44 10.9	268 66.7	44 10.9	1 0.2	5 1.2	12 3.0	7 1.7	19 4.7	-	2 0.5	
	女性	519 100.0	39 7.5	128 24.7	46 8.9	-	2 0.4	25 4.8	147 28.3	130 25.0	-	2 0.4	
	無回答	16 100.0	1 6.3	5 31.3	1 6.3	-	2 12.5	2 12.5	2 12.5	3 18.8	-	-	
	団塊の世代	小計	227 100.0	31 13.7	95 41.9	16 7.0	3 1.3	5 2.2	4 1.8	33 14.5	40 17.6	-	-
	男性	111 100.0	16 14.4	69 62.2	13 11.7	2 1.8	4 3.6	1 0.9	2 1.8	4 3.6	-	-	
	女性	112 100.0	15 13.4	24 21.4	3 2.7	1 0.9	1 0.9	3 2.7	30 26.8	35 31.3	-	-	
	無回答	4 100.0	-	2 50.0	-	-	-	-	1 25.0	1 25.0	-	-	
	団塊より上の世代	小計	831 100.0	107 12.9	51 6.1	1 0.1	24 2.9	4 0.5	11 1.3	61 7.3	560 67.4	4 0.5	8 1.0
	男性	352 100.0	63 17.9	40 11.4	-	19 5.4	2 0.6	9 2.6	24 6.8	191 54.3	3 0.9	1 0.3	
	女性	420 100.0	39 9.3	7 1.7	-	4 1.0	1 0.2	2 0.5	33 7.9	328 78.1	1 0.2	5 1.2	
	無回答	59 100.0	5 8.5	4 6.8	1 1.7	1 1.7	1 1.7	-	4 6.8	41 69.5	-	2 3.4	
無回答	小計	11 100.0	-	1 9.1	-	-	-	-	-	4 36.4	-	6 54.5	
男性	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
女性	3 100.0	-	-	-	-	-	-	-	3 100.0	-	-	-	
無回答	7 100.0	-	-	-	-	-	-	-	1 14.3	-	-	6 85.7	

◆家族構成

団塊の世代の家族構成は、「その他」の割合が約半数、「65歳以上の高齢者がいる家族」が約4割となっている。市全体と比較すると、「その他」の割合は2倍以上と高く、高齢者や18歳未満の子どものない核家族世帯が多いといえる。

上段:度数 下段:%		問6 家族構成							
		合計	一人暮らし 高齢者で ある	65歳以上 の高齢者 がいる家 族	小学生～ 高校生が いる家族	就学前の 児童がい る家族	その他	無回答	
合計		2006 100.0	28 1.4	1171 58.4	562 28.0	284 14.2	509 25.4	21 1.0	
団塊の世代×性別	団塊より下の世代	小計	937 100	- -	391 42	371 40	195 21	269 29	5 1
		男性	402 100.0	- -	174 43.3	149 37.1	73 18.2	127 31.6	2 0.5
		女性	519 100.0	- -	211 40.7	215 41.4	120 23.1	136 26.2	2 0.4
		無回答	16 100.0	- -	6 37.5	7 43.8	2 12.5	6 37.5	1 6.3
	団塊の世代	小計	227 100.0	- -	88 38.8	14 6.2	16 7.0	120 52.9	2 0.9
		男性	111 100.0	- -	42 37.8	9 8.1	5 4.5	59 53.2	1 0.9
		女性	112 100.0	- -	43 38.4	5 4.5	10 8.9	60 53.6	1 0.9
		無回答	4 100.0	- -	3 75.0	- -	1 25.0	1 25.0	- -
	団塊より上の世代	小計	831 100.0	28 3.4	686 82.6	175 21.1	73 8.8	120 14.4	9 1.1
		男性	352 100.0	8 2.3	279 79.3	71 20.2	29 8.2	58 16.5	5 1.4
		女性	420 100.0	18 4.3	356 84.8	94 22.4	37 8.8	54 12.9	4 1.0
		無回答	59 100.0	2.0 3.4	51.0 86.4	10.0 16.9	7.0 11.9	8.0 13.6	- -
無回答	小計	11 100.0	- -	6 54.5	2 18.2	- -	- -	5 45.5	
	男性	1 100.0	- -	1 100.0	- -	- -	- -	- -	
	女性	3 100.0	- -	3 100.0	1 33.3	- -	- -	- -	
	無回答	7 100.0	- -	2 28.6	1 14.3	- -	- -	5 71.4	

◆居住歴

団塊の世代の居住歴をみると、「親の代から」が「転入・転居してきた」よりもやや高い割合となっている。全体と比較すると、団塊の世代は「転入・転居してきた」がやや多いといえる。

上段:度数 下段:%		問7-1 居住歴			
		合計	親(あるいはその前)の代から	転入・転居してきた	無回答
合計		2006 100.0	1058 52.7	861 42.9	87 4.3
団塊より下の世代	小計	937 100.0	465 49.6	459 49.0	13 1.4
	男性	402 100.0	219 54.5	179 44.5	4 1.0
	女性	519 100.0	236 45.5	276 53.2	7 1.3
	無回答	16 100.0	10 62.5	4 25.0	2 12.5
団塊の世代	小計	227 100.0	115 50.7	109 48.0	3 1.3
	男性	111 100.0	58 52.3	52 46.8	1 0.9
	女性	112 100.0	54 48.2	56 50.0	2 1.8
	無回答	4 100.0	3 75.0	1 25.0	- -
団塊より上の世代	小計	831 100.0	475 57.2	291 35.0	65 7.8
	男性	352 100.0	199 56.5	131 37.2	22 6.3
	女性	420 100.0	244 58.1	140 33.3	36 8.6
	無回答	59 100.0	32 54.2	20 33.9	7 11.9
無回答	小計	11 100.0	3 27.3	2 18.2	6 54.5
	男性	1 100.0	1 100.0	- -	- -
	女性	3 100.0	2 66.7	1 33.3	- -
	無回答	7 100.0	- -	1 14.3	6 85.7

◆居住年数

団塊の世代の居住年数は、「20年以上」が75%を占めている。市全体と比較しても、団塊の世代は「20年以上」が高くなっている。

上段:度数 下段:%		問7-2 居住年数							
		合計	1年未満	1~3年 未満	3~10年 未満	10~20 年未満	20年以上	無回答	
合計		2006	40	92	210	321	1288	55	
		100	2	5	11	16	64	3	
団塊の世代×性別	団塊より下の世代	小計	937	34	77	156	212	451	7
			100.0	3.6	8.2	16.6	22.6	48.1	0.7
		男性	402	16	35	58	80	212	1
			100.0	4.0	8.7	14.4	19.9	52.7	0.2
	女性	519	18	41	96	130	230	4	
		100.0	3.5	7.9	18.5	25.0	44.3	0.8	
	無回答	16	-	1	2	2	9	2	
		100.0	-	6.3	12.5	12.5	56.3	12.5	
	団塊の世代	小計	227	1	3	16	34	171	2
			100.0	0.4	1.3	7.0	15.0	75.3	0.9
		男性	111	-	1	5	20	84	1
			100.0	-	0.9	4.5	18.0	75.7	0.9
	女性	112	1	2	11	13	84	1	
		100.0	0.9	1.8	9.8	11.6	75.0	0.9	
	無回答	4	-	-	-	1	3	-	
		100.0	-	-	-	25.0	75.0	-	
団塊より上の世代	小計	831	4	12	38	75	662	40	
		100.0	0.5	1.4	4.6	9.0	79.7	4.8	
	男性	352	2	2	17	38	273	20	
		100.0	0.6	0.6	4.8	10.8	77.6	5.7	
女性	420	1	9	17	29	348	16		
	100.0	0.2	2.1	4.0	6.9	82.9	3.8		
無回答	59	1	1	4	8	41	4		
	100.0	1.7	1.7	6.8	13.6	69.5	6.8		
無回答	小計	11	1	-	-	-	4	6	
		100.0	9.1	-	-	-	36.4	54.5	
	男性	1	-	-	-	-	1	-	
		100.0	-	-	-	-	100.0	-	
女性	3	-	-	-	-	2	1		
	100.0	-	-	-	-	66.7	33.3		
無回答	7	1	-	-	-	1	5		
	100.0	14.3	-	-	-	14.3	71.4		

◆近所づきあいの程度

団塊の世代は、「簡単な頼みごとをしたり、土産物を分け合うつきあい」が5割以上あり、「困りごとの相談をしたり、助け合うようなつきあい」と合わせると67.4%と高い割合になっている。

団塊世代を男女別に見ると、男性は、困りごとの相談は約1割と高くはないが、簡単な頼みごとは6割近くあり、合わせると約7割と高い割合になっている。団塊世代の女性は困りごとの相談と簡単な頼みごとを合わせて64%となっており、団塊世代では男性のほうが近所づきあいがあるという結果がでている。

団塊より上の世代はさらに近所づきあいの程度は高くなっているが、団塊より下の世代は低くなっている。これらのことから、団塊の世代は地域づくりの担い手になり得ることが伺える。

上段:度数 下段:%		問8 近所づきあい						無回答	
		合計	困りごとの 相談をした り、助け合 うようなつ きあい	簡単な頼 みごとをし たり、土産 物を分け 合うつきあ い	立ち話をす る程度 のつきあ い	挨拶をする 程度 のつきあ い	ほとんどつ きあいはな い		
合計		2006 100.0	397 19.8	890 44.4	345 17.2	300 15.0	57 2.8	17 0.8	
団塊の世代×性別	団塊より下の世代	小計	937 100.0	164 17.5	333 35.5	174 18.6	213 22.7	47 5.0	6 0.6
		男性	402 100.0	60 14.9	135 33.6	70 17.4	113 28.1	22 5.5	2 0.5
		女性	519 100.0	103 19.8	191 36.8	102 19.7	94 18.1	25 4.8	4 0.8
		無回答	16 100.0	1 6.3	7 43.8	2 12.5	6 37.5	-	-
	団塊の世代	小計	227 100.0	32 14.1	121 53.3	43 18.9	29 12.8	1 0.4	1 0.4
		男性	111 100.0	14 12.6	65 58.6	16 14.4	15 13.5	-	1 0.9
		女性	112 100.0	18 16.1	54 48.2	25 22.3	14 12.5	1 0.9	-
		無回答	4 100.0	-	2 50.0	2 50.0	-	-	-
	団塊より上の世代	小計	831 100.0	198 23.8	434 52.2	127 15.3	58 7.0	9 1.1	5 0.6
		男性	352 100.0	75 21.3	187 53.1	56 15.9	29 8.2	1 0.3	4 1.1
		女性	420 100.0	108 25.7	220 52.4	64 15.2	23 5.5	4 1.0	1 0.2
		無回答	59 100.0	15 25.4	27 45.8	7 11.9	6 10.2	4 6.8	-
無回答	小計	11 100.0	3 27.3	2 18.2	1 9.1	-	-	5 45.5	
	男性	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	
	女性	3 100.0	2 66.7	1 33.3	-	-	-	-	
	無回答	7 100.0	1 14.3	-	1 14.3	-	-	5 71.4	

◆困りごとの相談先

全体と比較して、団塊の世代は「知人・友人・職場の同僚」に相談することが多く、「民生委員児童委員」に相談することは少なくなっている。

上段:度数 下段:%	問9 相談相手											
	合計	家族・親戚	知人・友人・職場の同僚	近所の人	区・自治会等の地域の役員	民生委員児童委員	医師・保健師・ホームヘルパー等の専門職	行政や社会福祉協議会の職員	相談する人がいない	その他	無回答	
合計	2006 100.0	1798 89.6	991 49.4	389 19.4	98 4.9	48 2.4	148 7.4	77 3.8	42 2.1	26 1.3	17 0.8	
団塊より下の世代	小計	937 100.0	823 87.8	673 71.8	149 15.9	34 3.6	4 0.4	37 3.9	27 2.9	21 2.2	9 1.0	4 0.4
	男性	402 100.0	333 82.8	259 64.4	45 11.2	22 5.5	3 0.7	14 3.5	12 3.0	16 4.0	7 1.7	-
	女性	519 100.0	477 91.9	403 77.6	102 19.7	12 2.3	1 0.2	22 4.2	15 2.9	4 0.8	2 0.4	4 0.8
	無回答	16 100.0	13 81.3	11 68.8	2 12.5	-	-	1 6.3	-	1 6.3	-	-
団塊の世代	小計	227 100.0	203 89.4	124 54.6	42 18.5	8 3.5	2 0.9	18 7.9	9 4.0	5 2.2	4 1.8	1 0.4
	男性	111 100.0	99 89.2	54 48.6	24 21.6	4 3.6	1 0.9	11 9.9	6 5.4	3 2.7	2 1.8	1 0.9
	女性	112 100.0	100 89.3	67 59.8	18 16.1	3 2.7	1 0.9	7 6.3	2 1.8	2 1.8	2 1.8	-
	無回答	4 100.0	4 100.0	3 75.0	-	1 25.0	-	-	1 25.0	-	-	-
団塊より上の世代	小計	831 100.0	766 92.2	193 23.2	197 23.7	56 6.7	42 5.1	92 11.1	41 4.9	16 1.9	13 1.6	7 0.8
	男性	352 100.0	321 91.2	93 26.4	74 21.0	39 11.1	21 6.0	49 13.9	28 8.0	8 2.3	9 2.6	4 1.1
	女性	420 100.0	392 93.3	88 21.0	110 26.2	15 3.6	19 4.5	38 9.0	10 2.4	8 1.9	4 1.0	3 0.7
	無回答	59 100.0	53 89.8	12 20.3	13 22.0	2 3.4	2 3.4	5 8.5	3 5.1	-	-	-
無回答	小計	11 100.0	6 54.5	1 9.1	1 9.1	-	-	1 9.1	-	-	-	5 45.5
	男性	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-	-	-	-
	女性	3 100.0	3 100.0	1 33.3	1 33.3	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	7 100.0	2 28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	5 71.4

◆情報の入手先

全体と比較して、団塊の世代は「テレビ・新聞・雑誌」「社会福祉協議会の広報紙」「知人・友人・職場の同僚」が高くなっている。「家族・親族」は3区分の中で最も低い割合となっている。

上段:度数 下段:%	問10 情報の入手先																		
	合計	市広報	社会福祉協議会の広報紙	行政の窓口	社会福祉協議会の窓口	福祉施設	公民館	ボランティア	区・自治会等の地域の役員	民生委員児童委員	家族・親戚	知人・友人・職場の同僚	近所の人	インターネット	テレビ・新聞・雑誌	情報を必要としない	その他	無回答	
合計	2006 100.0	1424 71.0	806 40.2	166 8.3	90 4.5	118 5.9	81 4.0	64 3.2	219 10.9	55 2.7	585 29.2	437 21.8	319 15.9	130 6.5	860 42.9	80 4.0	33 1.6	27 1.3	
団塊より下の世代	小計	937 100.0	647 69.1	297 31.7	69 7.4	18 1.9	49 5.2	29 3.1	12 1.3	59 6.3	6 0.6	238 25.4	104 11.1	96 10.2	366 39.1	62 6.6	22 2.3	8 0.9	
	男性	402 100.0	247 61.4	107 26.6	33 8.2	7 1.7	21 5.2	8 2.0	3 0.7	39 9.7	4 1.0	101 25.1	82 20.4	40 10.0	155 38.6	41 10.2	11 2.7	2 0.5	
	女性	519 100.0	390 75.1	182 35.1	35 6.7	10 1.9	27 5.2	21 4.0	9 1.7	20 3.9	2 0.4	134 25.8	171 32.9	63 12.1	46 8.9	203 39.1	19 3.7	11 2.1	6 1.2
	無回答	16 100.0	10 62.5	8 50.0	1 6.3	1 6.3	1 6.3	-	-	-	-	3 18.8	3 18.8	1 6.3	1 50.0	8 12.5	2 12.5	-	-
団塊の世代	小計	227 100.0	159 70.0	105 46.3	24 10.6	12 5.3	19 8.4	8 3.5	13 5.7	26 11.5	5 2.2	55 24.2	60 26.4	30 13.2	121 48.9	111 48.9	9 4.0	1 0.4	4 1.8
	男性	111 100.0	78 70.3	50 45.0	11 9.9	3 2.7	7 6.3	4 3.6	4 3.6	20 18.0	4 3.6	34 30.6	26 23.4	16 14.4	9 8.1	54 48.6	5 4.5	1 0.9	2 1.8
	女性	112 100.0	78 69.6	54 48.2	13 11.6	9 8.0	12 10.7	4 3.6	8 7.1	6 5.4	1 0.9	20 17.9	33 29.5	14 12.5	2 1.8	55 49.1	4 3.6	-	2 1.8
	無回答	4 100.0	3 75.0	1 25.0	-	-	-	-	1 25.0	-	-	1 25.0	1 25.0	-	1 25.0	2 50.0	-	-	-
団塊より上の世代	小計	831 100.0	612 73.6	402 48.4	73 8.8	60 7.2	50 6.0	44 5.3	39 4.7	133 16.0	44 5.3	290 34.9	121 14.6	182 21.9	22 2.6	381 45.8	9 1.1	10 1.2	10 1.2
	男性	352 100.0	266 75.6	191 54.3	44 12.5	31 8.8	22 6.3	17 4.8	13 3.7	69 19.6	24 6.8	115 32.7	48 13.6	76 21.6	17 4.8	155 44.0	3 0.9	5 1.4	3 0.9
	女性	420 100.0	300 71.4	186 44.3	22 5.2	26 6.2	26 6.2	24 5.7	24 5.7	57 13.6	17 4.0	159 37.9	67 16.0	99 23.6	5 1.2	199 47.4	5 1.2	5 1.2	7 1.7
	無回答	59 100.0	46 78.0	25 42.4	7 11.9	3 5.1	2 3.4	3 5.1	2 3.4	7 11.9	3 5.1	16 27.1	6 10.2	7 11.9	-	27 45.8	1 1.7	-	-
無回答	小計	11 100.0	6 54.5	2 18.2	-	-	-	-	-	1 9.1	-	2 18.2	-	3 27.3	-	2 18.2	-	-	5 45.5
	男性	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性	3 100.0	3 100.0	1 33.3	-	-	-	-	-	1 33.3	-	2 66.7	-	3 100.0	-	2 66.7	-	-	-
	無回答	7 100.0	2 28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5 71.4

◆ボランティアの参加

団塊の世代の1割強がボランティア活動に参加している。全体と比較して、団塊の世代は「参加している」がやや多くなっている。ボランティアの参加・不参加は、団塊の世代が境目になっているといえる。

上段:度数 下段:%		問11 ボランティアの参加				
		合計	参加している	参加していない	無回答	
合計		2006 100.0	257 12.8	1714 85.4	35 1.7	
団塊の世代×性別	団塊より下の世代	小計	937 100.0	92 9.8	835 89.1	10 1.1
		男性	402 100.0	45 11.2	352 87.6	5 1.2
		女性	519 100.0	46 8.9	468 90.2	5 1.0
		無回答	16 100.0	1 6.3	15 93.8	- -
	団塊の世代	小計	227 100.0	31 13.7	194 85.5	2 0.9
		男性	111 100.0	15 13.5	95 85.6	1 0.9
		女性	112 100.0	15 13.4	96 85.7	1 0.9
		無回答	4 100.0	1 25.0	3 75.0	- -
	団塊より上の世代	小計	831 100.0	133 16.0	676 81.3	22 2.6
		男性	352 100.0	53 15.1	292 83.0	7 2.0
		女性	420 100.0	70 16.7	337 80.2	13 3.1
		無回答	59 100.0	10 16.9	47 79.7	2 3.4
無回答	小計	11 100.0	1 9.1	9 81.8	1 9.1	
	男性	1 100.0	-	1 100.0	-	
	女性	3 100.0	-	3 100.0	-	
	無回答	7 100.0	1 14.3	5 71.4	1 14.3	

◆参加している理由

全体と比較して、団塊の世代は「地域のために役立つと思うから」「自分の成長につながると思うから」「活動を通じて人間関係が広がるから」「社会奉仕だと思うから」が高くなっている。

上段:度数 下段:%	問13 参加している理由											
	合計	活動自 体が楽し いから	生きが い・やり がいが感 じられる から	活動を通 じて人間 関係が 広がるか ら	自分の 成長につ ながると 思うから	地域のた めに役立 つと思う から	社会奉 仕だと思 うから	誘われた り、勤め られたり して仕方 ないから	職場や 学校で参 加すること になっている から	その他	無回答	
合計	257 100.0	82 31.9	85 33.1	152 59.1	104 40.5	137 53.3	95 37.0	13 5.1	15 5.8	11 4.3	3 1.2	
団塊より下の世代	小計	92 100.0	27 29.3	20 21.7	45 48.9	36 39.1	43 46.7	25 27.2	7 7.6	12 13.0	8 8.7	-
	男性	45 100.0	13 28.9	10 22.2	21 46.7	14 31.1	25 55.6	17 37.8	3 6.7	8 17.8	2 4.4	-
	女性	46 100.0	14 30.4	10 21.7	23 50.0	21 45.7	17 37.0	8 17.4	4 8.7	4 8.7	6 13.0	-
	無回答	1 100.0	-	-	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-
団塊の世代	小計	31 100.0	5 16.1	8 25.8	19 61.3	15 48.4	22 71.0	13 41.9	2 6.5	2 6.5	3 9.7	-
	男性	15 100.0	-	2 13.3	9 60.0	5 33.3	10 66.7	5 33.3	1 6.7	2 13.3	3 20.0	-
	女性	15 100.0	5 33.3	5 33.3	9 60.0	9 60.0	11 73.3	7 46.7	1 6.7	-	-	-
	無回答	1 100.0	-	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-
団塊より上の世代	小計	133 100.0	49 36.8	56 42.1	87 65.4	52 39.1	71 53.4	56 42.1	4 3.0	1 0.8	-	3 2.3
	男性	53 100.0	23 43.4	22 41.5	35 66.0	15 28.3	38 71.7	25 47.2	1 1.9	1 1.9	-	1 1.9
	女性	70 100.0	23 32.9	28 40.0	44 62.9	31 44.3	27 38.6	27 38.6	3 4.3	-	-	2 2.9
	無回答	10 100.0	3 30.0	6 60.0	8 80.0	6 60.0	6 60.0	4 40.0	-	-	-	-
無回答	小計	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-
	男性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-

◆参加していない理由

全体と比較して団塊の世代は「(仕事や育児、家事などで忙しく)時間がないから」と「経済的余裕がないから」の回答が高くなっている。

上段:度数 下段:%		問14 参加していない理由											
		合計	(仕事や 育児、家 事などで 忙しく)時 間がない から	参加した い活動が ないから	活動自 体がよく わからな いから	どのよう に参加し てよいか わからな いから	体力や 健康状 態に自信 がないか ら	経済的 余裕がな いから	人間関 係がわ ずらわし いから	関心がな いから	その他	無回答	
合計		1714 100.0	943 55.0	178 10.4	381 22.2	363 21.2	459 26.8	247 14.4	149 8.7	163 9.5	98 5.7	20 1.2	
団塊の世代×性別	団塊より下の世代	小計	835 100.0	630 75.4	87 10.4	242 29.0	227 27.2	84 10.1	154 18.4	84 10.1	110 13.2	18 2.2	4 0.5
		男性	352 100.0	255 72.4	44 12.5	98 27.8	94 26.7	26 7.4	63 17.9	30 8.5	63 17.9	12 3.4	2 0.6
		女性	468 100.0	364 77.8	43 9.2	141 30.1	129 27.6	57 12.2	87 18.6	52 11.1	45 9.6	6 1.3	2 0.4
		無回答	15 100.0	11 73.3	-	3 20.0	4 26.7	1 6.7	4 26.7	2 13.3	2 13.3	-	-
	団塊の世代	小計	194 100.0	123 63.4	16 8.2	43 22.2	44 22.7	38 19.6	38 19.6	18 9.3	19 9.8	10 5.2	-
		男性	95 100.0	64 67.4	11 11.6	22 23.2	19 20.0	14 14.7	18 18.9	13 13.7	17 17.9	2 2.1	-
		女性	96 100.0	56 58.3	5 5.2	19 19.8	24 25.0	23 24.0	19 19.8	5 5.2	2 2.1	8 8.3	-
		無回答	3 100.0	3 100.0	-	2 66.7	1 33.3	1 33.3	1 33.3	-	-	-	-
	団塊より上の世代	小計	676 100.0	186 27.5	73 10.8	94 13.9	89 13.2	334 49.4	54 8.0	43 6.4	34 5.0	69 10.2	16 2.4
		男性	292 100.0	81 27.7	44 15.1	56 19.2	51 17.5	134 45.9	28 9.6	17 5.8	17 5.8	20 6.8	8 2.7
		女性	337 100.0	96 28.5	24 7.1	32 9.5	32 9.5	175 51.9	21 6.2	23 6.8	15 4.5	44 13.1	8 2.4
		無回答	47 100.0	9 19.1	5 10.6	6 12.8	6 12.8	25 53.2	5 10.6	3 6.4	2 4.3	5 10.6	-
無回答	小計	9 100.0	4 44.4	2 22.2	2 22.2	3 33.3	3 33.3	1 11.1	4 44.4	-	1 11.1	-	
	男性	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	1 100.0	-	-	-	
	女性	3 100.0	-	1 33.3	1 33.3	2 66.7	1 33.3	-	-	-	-	-	
	無回答	5 100.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	-	3 60.0	-	1 20.0	-	

◆今後のボランティア活動の発展のために必要なこと

団塊の世代は「専門性のある職員やアドバイザーの配置」「広報・啓発の充実」「相談窓口の充実」が上位にあがっている。全体と比較して「専門性のある職員やアドバイザーの配置」や「相談窓口の充実」の割合が高く、ボランティア活動を発展させるためには専門機関の充実が必要と考えている。

上段:度数 下段:%		問15 今後の活動の発展のために									
		合計	相談窓口 の充実	専門性 のある職員 やアドバイ ザーの配 置	活動拠点 の確保	広報・啓発 の充実	学校での 福祉教育 の充実	職場のボラ ンティア休 暇の充実	その他	無回答	
合計		2006 100.0	642 32.0	759 37.8	643 32.1	833 41.5	447 22.3	428 21.3	91 4.5	185 9.2	
団塊の世代×性別	団塊より下の世代	小計	937 100.0	251 26.8	358 38.2	341 36.4	441 47.1	268 28.6	302 32.2	47 5.0	28 3.0
	男性	402 100.0	98 24.4	145 36.1	141 35.1	176 43.8	98 24.4	138 34.3	26 6.5	10 2.5	
	女性	519 100.0	150 28.9	207 39.9	195 37.6	261 50.3	164 31.6	159 30.6	18 3.5	17 3.3	
	無回答	16 100.0	3 18.8	6 37.5	5 31.3	4 25.0	6 37.5	5 31.3	3 18.8	1 6.3	
	団塊の世代	小計	227 100.0	86 37.9	103 45.4	68 30.0	98 43.2	39 17.2	53 23.3	10 4.4	14 6.2
	男性	111 100.0	35 31.5	45 40.5	37 33.3	56 50.5	21 18.9	30 27.0	8 7.2	7 6.3	
	女性	112 100.0	48 42.9	55 49.1	29 25.9	42 37.5	16 14.3	21 18.8	2 1.8	7 6.3	
	無回答	4 100.0	3 75.0	3 75.0	2 50.0	-	2 50.0	2 50.0	-	-	
	団塊より上の世代	小計	831 100.0	301 36.2	294 35.4	231 27.8	294 35.4	139 16.7	72 8.7	32 3.9	141 17.0
	男性	352 100.0	141 40.1	128 36.4	118 33.5	155 44.0	55 15.6	32 9.1	19 5.4	34 9.7	
	女性	420 100.0	143 34.0	154 36.7	98 23.3	116 27.6	77 18.3	36 8.6	12 2.9	91 21.7	
	無回答	59 100	17 28.8	12 20.3	15 25.4	23 39.0	7 11.9	4 6.8	1 1.7	16 27.1	
	無回答	小計	11 100.0	4 36.4	4 36.4	3 27.3	-	1 9.1	1 9.1	2 18.2	2 18.2
	男性	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-
	女性	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	-	-	-	-	-	1 33.3
	無回答	7 100.0	3 42.9	3 42.9	2 28.6	-	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3

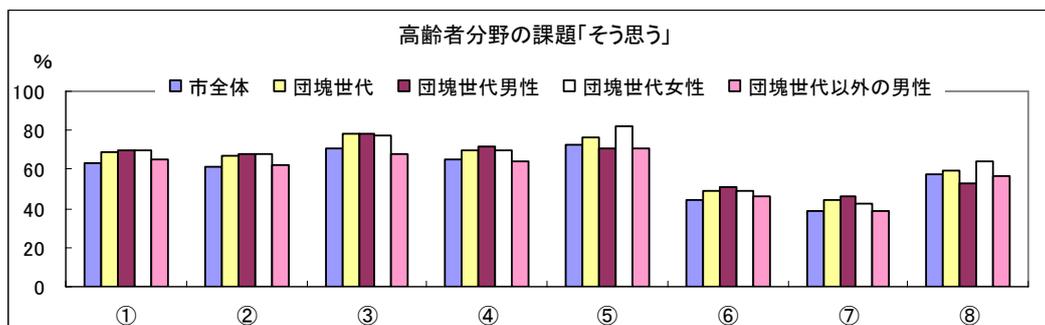
◆分野別の課題

<高齢者分野>

- ・市全体と比較すると、すべての項目において団塊の世代は「そう思う」の回答が高くなっている。
- ・団塊世代の男性と団塊世代以外の男性を比較すると、「③高齢者のいる世帯の介護負担」の項目において団塊世代が高くなっている。
- ・団塊世代の男性と女性を比較すると、「⑤高齢者が安心して利用できる施設」と「⑧高齢者のつどいや憩いの場」の項目では、男性と女性で割合に差があり、男性のほうが低くなっている。

地域で何とかしなければならない課題として「そう思う」の回答(単位:%)

高齢者分野の課題	市全体	団塊世代	団塊世代		団塊世代以外の男性
			男性	女性	
① 健康づくりや生きがいづくりの取り組み	63.5	69.2	69.4	69.6	65.3
② 孤立化や生活不安、閉じこもり	61.0	67.0	67.6	67.9	62.1
③ 高齢者のいる世帯の介護負担	70.4	78.0	78.4	77.7	68.2
④ 介護に必要な費用	65.3	70.0	72.1	69.6	64.0
⑤ 高齢者が安心して利用できる施設	72.4	76.2	71.2	82.1	71.1
⑥ 高齢者虐待や介護放棄	44.8	49.3	50.5	49.1	46.4
⑦ 高齢者の就労	38.3	44.5	45.9	42.0	38.8
⑧ 高齢者のつどいや憩いの場	57.1	59.0	53.2	64.3	56.4

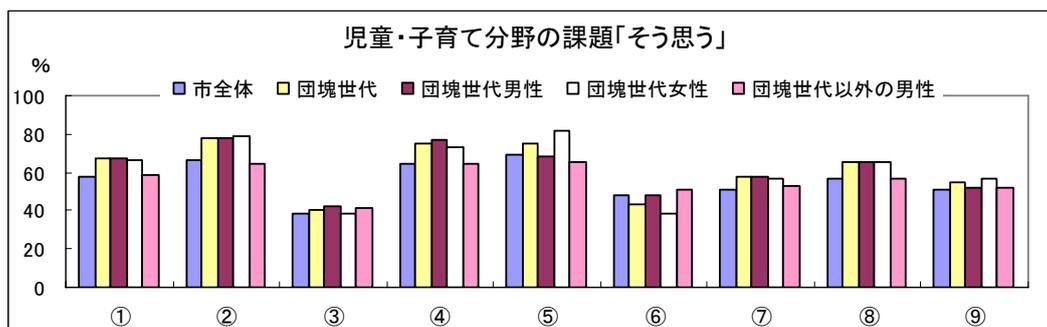


<児童・子育て分野>

- ・児童・子育て分野の「そう思う」の回答を市全体と比較すると、団塊の世代は全ての項目において市全体を上回っている。
- ・団塊世代の男性と団塊世代以外の男性を比較すると、「②働く親の条件にあった保育所や学童保育」と「④子どもの非行・いじめ・不登校・引きこもり」の項目は団塊世代の男性が際立って高くなっている(12ポイント以上)。
- ・団塊世代の男性を団塊世代の女性と比較すると、「⑤子どもが安心して遊べる場所」は男性の方が低く、「⑥子育てに必要な費用」は男性が高くなっている。

地域で何とかしなければならない課題として「そう思う」の回答(単位:%)

児童・子育て分野の課題	市全体	団塊世代	団塊世代		団塊世代以外の男性
			男性	女性	
① 子育てに関する相談窓口や支援	57.5	67.0	67.6	66.1	58.3
② 働く親の条件にあった保育所や学童保育	66.3	78.0	77.5	78.6	64.9
③ 子どもの学力や進学	38.6	40.1	42.3	38.4	41.5
④ 子どもの非行・いじめ・不登校・引きこもり	64.4	74.9	76.6	73.2	64.2
⑤ 子どもが安心して遊べる場所	69.0	74.9	68.5	81.3	65.6
⑥ 子育てに必要な費用	47.9	43.2	47.7	38.4	51.3
⑦ ひとり親家庭の子育てに関する周囲の理解や支援	51.4	57.7	57.7	57.1	53.0
⑧ 児童虐待や育児放棄	56.7	65.2	65.8	65.2	56.8
⑨ 子どものつどいや憩いの場	51.1	55.1	52.3	57.1	52.1

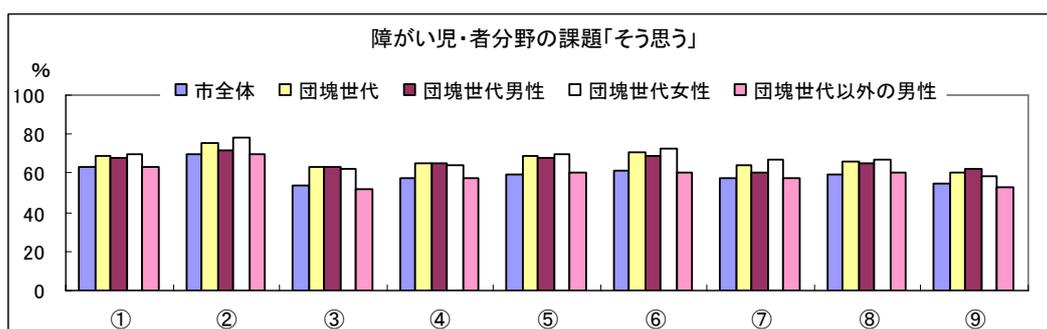


<障がい児・者分野>

- ・ 障がい児・者分野の「そう思う」の回答を市全体と比較すると、団塊の世代は全ての項目において市全体よりも高い割合となっている。
- ・ 団塊世代の男性と団塊世代以外の男性を比較すると、全ての項目において団塊世代の男性の回答がやや高くなっている。
- ・ 団塊世代の男性と女性では、大きな差はみられない。「②障がい児・者に対する周囲の理解や支援」は男性がやや低くなっている。

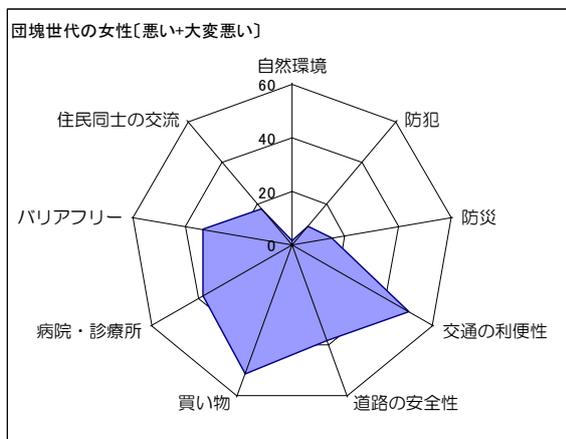
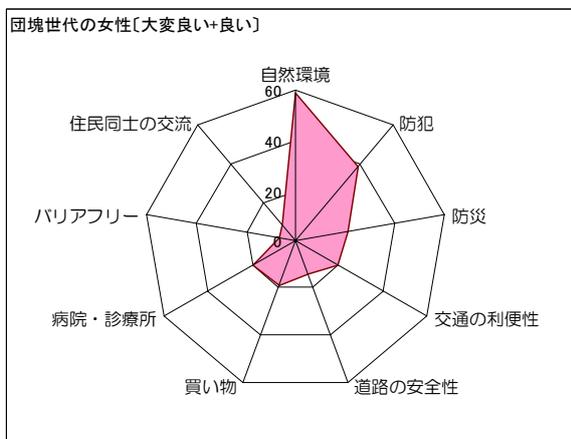
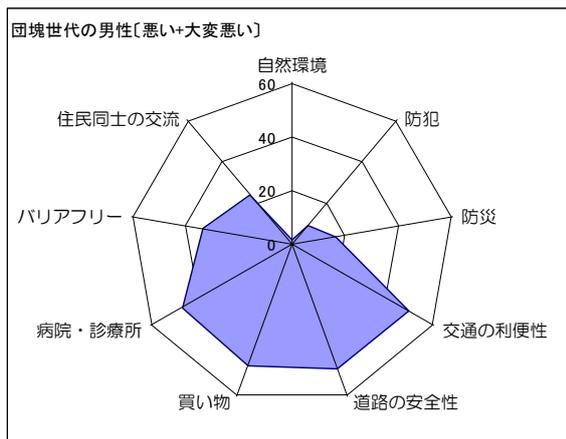
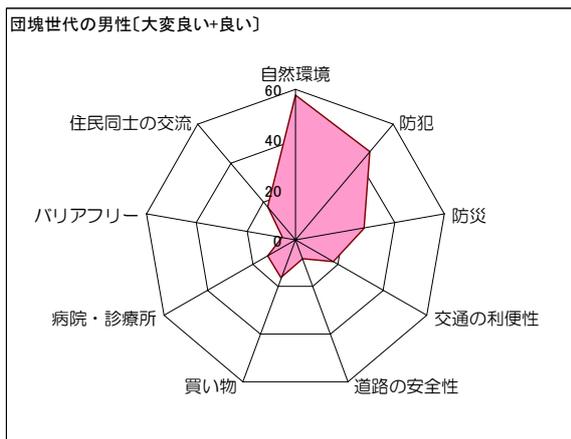
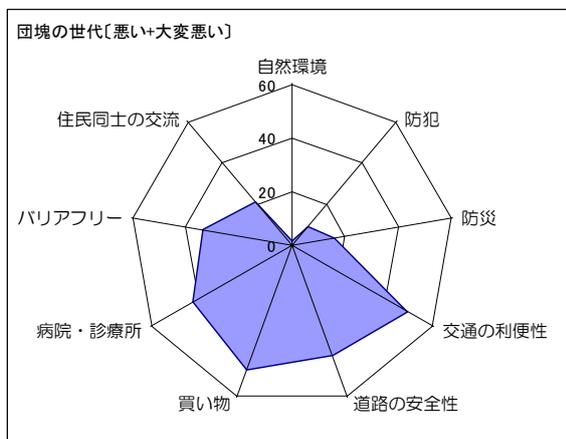
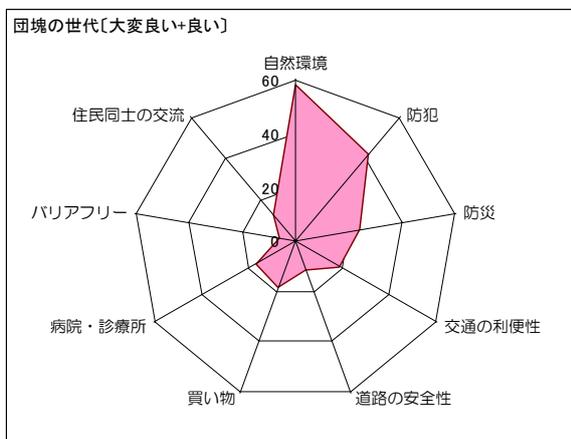
地域で何とかしなければならない課題として「そう思う」の回答(単位:%)

障がい児・者分野の課題	市全体	団塊世代	団塊世代		団塊世代以外の男性
			男性	女性	
① 障がい児・者のいる世帯の介護負担	63.4	68.7	67.6	69.6	62.9
② 障がい児・者に対する周囲の理解や支援	69.5	75.3	72.1	78.6	69.5
③ 障がい児・者と障がいの無い人が地域で共に暮らすこと	54.0	63.0	63.1	62.5	51.8
④ 障がい児・者の社会参加	57.3	64.8	64.9	64.3	57.6
⑤ 障がい児・者に対する相談窓口	59.5	68.7	67.6	69.6	60.0
⑥ 障がい児・者が利用できる身近な生活施設	61.5	70.5	68.5	72.3	60.4
⑦ 障がい児の療育・教育・生活	57.9	63.9	60.4	67.0	57.9
⑧ 障がい者の就労	59.7	66.1	64.9	67.0	60.3
⑨ 障がい児・者のつどいや憩いの場	54.7	60.8	62.2	58.9	53.1

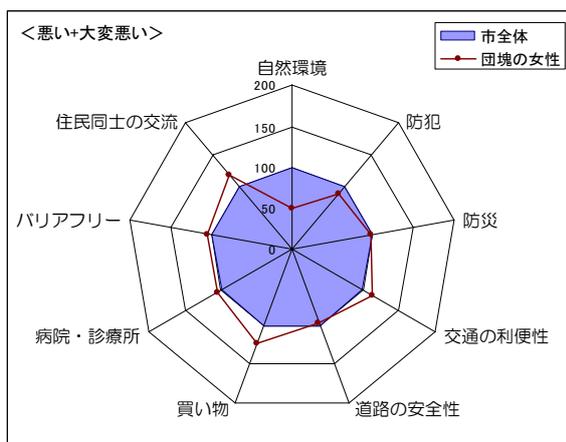
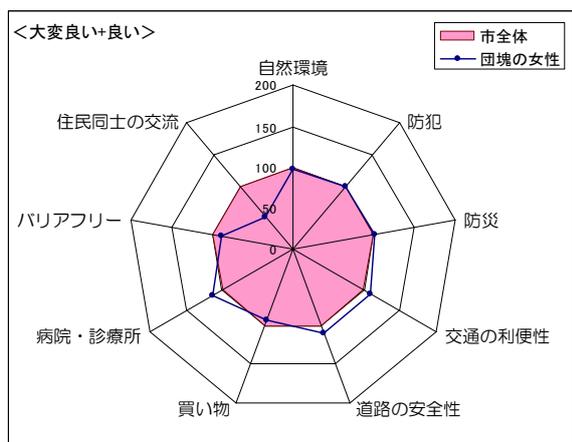
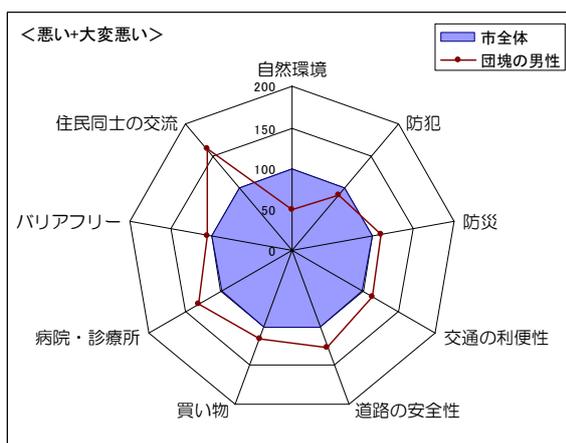
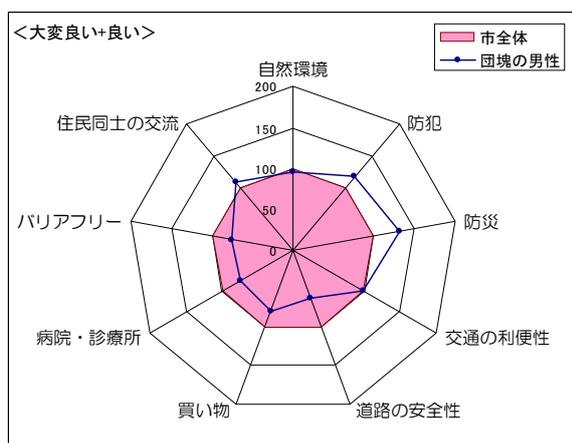
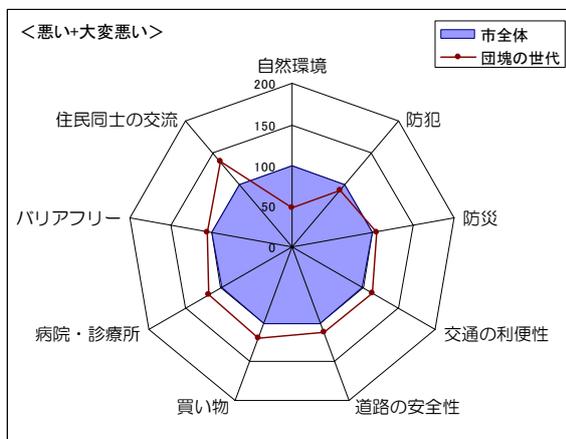
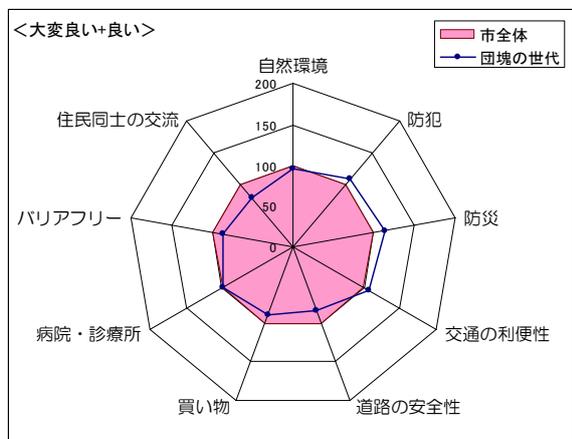


◆生活環境の評価

- ・ 団塊の世代からみた生活環境は「自然環境」「防犯」は良いが、「交通の利便性」「道路の安全性」「買い物物の便利さ」「病院・診療所」は悪い評価となっている。
- ・ 団塊世代の男性と女性を比較すると、「住民同士の交流」は男性のほうが良い評価になっている。また、「道路の安全性」は男性のほうが悪いと評価している。



- ・ 市全体を100として団塊世代の評価を換算してみると、「防犯」「防災」は良い評価が高くなっている。悪い評価では、「自然環境」と「防犯」を除く項目において市全体よりも高くなっている。
- ・ 団塊世代の男性と女性を比較すると、「防犯」「防災」は男性のほうが良い評価になっている。また、「住民同士の交流」「病院・診療所」は男性のほうが悪い評価になっている。



◆男女の参加について

市全体と団塊世代を比較すると、「①区・自治会・町内会活動」と「②福祉・環境などのボランティア活動」の項目において回答割合に差がみられた。区・自治会活動には「女性がもっと参加すべきである」が高く、ボランティア活動には「男性がもっと参加すべきである」が高くなっている。

①区・自治会・町内会活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	220 11.0	402 20.0	887 44.2	387 19.3	149 7.4
団塊の世代	227 100.0	22 9.7	65 28.6	105 46.3	29 12.8	7 3.1
団塊世代の男性	112 100.0	11 9.8	22 19.6	59 52.7	16 14.3	4 3.6
団塊世代の女性	111 100.0	10 9.0	43 38.7	45 40.5	11 9.9	3 2.7

②福祉・環境などのボランティア活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	436 21.7	165 8.2	634 31.6	638 31.8	194 9.7
団塊の世代	227 100.0	70 30.8	18 7.9	59 26.0	75 33.0	11 4.8
団塊世代の男性	112 100.0	33 29.5	6 5.4	31 27.7	38 33.9	6 5.4
団塊世代の女性	111 100.0	36 32.4	12 10.8	28 25.2	34 30.6	5 4.5

③趣味・スポーツクラブ・各種講座などの活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	133 6.6	105 5.2	420 20.9	290 14.5	1095 54.6
団塊の世代	227 100.0	16 7.0	12 5.3	39 17.2	38 16.7	124 54.6
団塊世代の男性	112 100.0	8 7.1	8 7.1	16 14.3	21 18.8	61 54.5
団塊世代の女性	111 100.0	8 7.2	4 3.6	20 18.0	16 14.4	63 56.8

④子育て支援活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	275 13.7	64 3.2	255 12.7	327 16.3	1104 55.0
団塊の世代	227 100.0	32 14.1	7 3.1	29 12.8	34 15.0	125 55.1
団塊世代の男性	112 100.0	18 16.1	1 0.9	14 12.5	17 15.2	62 55.4
団塊世代の女性	111 100.0	13 11.7	5 4.5	14 12.6	16 14.4	63 56.8

⑤消費者団体・生活共同組合などの活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	93 4.6	44 2.2	337 16.8	423 21.1	1115 55.6
団塊の世代	227 100.0	16 7.0	3 1.3	40 17.6	43 18.9	125 55.1
団塊世代の男性	112 100.0	10 8.9	0 0.0	17 15.2	24 21.4	61 54.5
団塊世代の女性	111 100.0	6 5.4	3 2.7	21 18.9	17 15.3	64 57.7

⑥防犯・防災活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	156 7.8	182 9.1	314 15.7	292 14.6	1100 54.8
団塊の世代	227 100.0	15 6.6	21 9.3	38 16.7	29 12.8	125 55.1
団塊世代の男性	112 100.0	9 8.0	7 6.3	17 15.2	18 16.1	62 55.4
団塊世代の女性	111 100.0	4 3.6	14 12.6	19 17.1	11 9.9	63 56.8

⑦国際交流活動	合計	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない	無回答
市全体	2006 100.0	68 3.4	57 2.8	265 13.2	527 26.3	1106 55.1
団塊の世代	227 100.0	6 2.6	7 3.1	34 15.0	58 25.6	123 54.2
団塊世代の男性	112 100.0	3 2.7	1 0.9	14 12.5	34 30.4	60 53.6
団塊世代の女性	111 100.0	2 1.8	6 5.4	20 18.0	21 18.9	63 56.8

<以下、団塊男性に着目>

①区・自治会活動

団塊世代の男性は「今のままでよい」が半数以上を占めている。「女性がもっと参加すべき」は低くなっている。

②ボランティア活動

団塊世代の男性は市全体よりも「男性が参加すべき」が高くなっている。「女性がもっと参加すべき」は低くなっている。

③趣味・スポーツ活動

団塊世代の男性は「女性がもっと参加すべき」が市全体よりも高くなっている。

④子育て支援活動

団塊世代の男性は「女性がもっと参加すべき」は低く、「男性がもっと参加すべき」が高くなっている。

⑤消費者団体活動

団塊世代の男性は市全体よりも「男性がもっと参加すべき」が高くなっている。

⑥防犯・防災活動

団塊世代の男性は、市全体よりも「女性がもっと参加すべき」は低くなっている。

⑦国際交流活動

団塊世代の男性は、「わからない」が高くなっている。

◆身近な地域で福祉活動を推進していくために必要なこと

全体と比較して、団塊の世代は「住民のボランティア活動を活発にしてい」「区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化してい」「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設をたくさんつくる」の項目が高くなっている。団塊世代の男性は、「区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化してい」と「小学校区ごとに地域福祉をみんなで推進する住民組織を新しくつくる」が特に高くなっている。

上段:度数 下段:%		問19 福祉活動を推進していくために											
		合計	住民のボランティア活動を活発にしてい	区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化してい	区・自治会ごとに地域福祉を推進する住民組織をつくる	小学校区ごとに地域福祉をみんなで推進する住民組織を新しくつくる	住民懇談会や学習会のような機会をたくさん設けていく	身近な地域で地域住民が気軽に集える施設をたくさんつくる	福祉は行政の責任で行うべきであり、特に住民の活動はいらぬと思う	その他	よくわからない	無回答	
合計	2006 100.0	666 33.2	684 34.1	452 22.5	312 15.6	378 18.8	639 31.9	207 10.3	79 3.9	351 17.5	80 4.0		
団塊の世代×性別	団塊より下の世代	小計	937 100.0	266 28.4	249 26.6	156 16.6	116 12.4	141 15.0	282 30.1	101 10.8	47 5.0	175 18.7	21 2.2
		男性	402 100.0	109 27.1	105 26.1	80 19.9	56 13.9	55 13.7	100 24.9	57 14.2	20 5.0	81 20.1	6 1.5
		女性	519 100.0	150 28.9	142 27.4	71 13.7	58 11.2	86 16.6	175 33.7	43 8.3	26 5.0	92 17.7	14 2.7
		無回答	16 100.0	7 43.8	2 12.5	5 31.3	2 12.5	-	7 43.8	1 6.3	1 6.3	2 12.5	1 6.3
	団塊の世代	小計	227 100.0	86 37.9	80 35.2	65 28.6	35 15.4	42 18.5	82 36.1	27 11.9	7 3.1	33 14.5	6 2.6
		男性	111 100.0	37 33.3	42 37.8	39 35.1	25 22.5	18 16.2	35 31.5	17 15.3	5 4.5	14 12.6	3 2.7
		女性	112 100.0	47 42.0	35 31.3	23 20.5	10 8.9	23 20.5	44 39.3	10 8.9	2 1.8	18 16.1	3 2.7
		無回答	4 100.0	2 50.0	3 75.0	3 75.0	-	1 25.0	3 75.0	-	-	1 25.0	-
	団塊より上の世代	小計	831 100.0	311 37.4	353 42.5	229 27.6	161 19.4	194 23.3	272 32.7	77 9.3	22 2.6	139 16.7	52 6.3
		男性	352 100.0	143 40.6	182 51.7	112 31.8	82 23.3	100 28.4	103 29.3	39 11.1	14 4.0	41 11.6	14 4.0
		女性	420 100.0	153 36.4	151 36.0	109 26.0	73 17.4	89 21.2	149 35.5	32 7.6	8 1.9	78 18.6	31 7.4
		無回答	59 100.0	15 25.4	20 33.9	8 13.6	6 10.2	5 8.5	20 33.9	6 10.2	-	20 33.9	7 11.9
無回答	小計	11 100.0	3 27.3	2 18.2	2 18.2	-	1 9.1	3 27.3	2 18.2	3 27.3	4 36.4	1 9.1	
	男性	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-	1 100.0	-	
	女性	3 100.0	1 33.3	-	1 33.3	-	-	2 66.7	-	-	2 66.7	-	
	無回答	7 100.0	2 28.6	1 14.3	1 14.3	-	1 14.3	1 14.3	1 14.3	3 42.9	1 14.3	1 14.3	

◆市が重点を置くべき福祉施策

全体と比較して、団塊の世代は「サービス利用手続きの簡素化・スピード化」「行政と他の機関、団体との連携の強化」「各種手当など金銭的な援助」の項目において、高い割合となっている。団塊世代の男性は、「ボランティア段代、NPO等の市民活動への援助」や「在宅福祉サービスの充実」も高くなっている。

		問20 市が重点を置くべき福祉施策																
上段:度数	下段:%	合計	すべての人が 人権が まもられ るまちづ くりの推 進	高齢者 や障が い者に 配慮した 道路・建 物・駅等 の整備	高齢者 や障が い者の ための 福祉施 設の充 実	子ども のための 福祉施 設の充 実	サービ ス利用 手続 の簡 素化・ スピー ド化	ボラン ティア 団体、 NPO 等の 市民活 動への 援助	在宅福 祉サー ビスの 充実	福祉情 報の提 供	相談活 動の充 実	行政と 他の機 関、団 体の連 携の強 化	福祉の 専門的 な人材 の確保 と育成	福祉講 座や福 祉教育 の充実	各種手 当など 金銭的 な援助	その他	無回答	
合計	2006 100.0	938 46.8	975 48.6	880 43.9	665 33.2	753 37.5	392 19.5	766 38.2	614 30.6	425 21.2	512 25.5	650 32.4	331 16.5	708 35.3	32 1.6	84 4.2		
団塊の世代×性別	団塊より下の世代	小計	937 100.0	392 41.8	428 45.7	361 38.5	333 35.5	361 38.5	164 17.5	342 36.5	305 32.6	186 19.9	224 23.9	303 32.3	154 16.4	401 42.8	20 2.1	18 1.9
		男性	402 100.0	161 40.0	194 48.3	155 38.6	126 31.3	147 36.6	68 16.9	135 33.6	125 31.1	70 17.4	101 25.1	122 30.3	52 12.9	157 39.1	6 1.5	9 2.2
		女性	519 100.0	222 42.8	226 43.5	199 38.3	201 38.7	205 39.5	93 17.9	203 39.1	176 33.9	112 21.6	120 23.1	177 34.1	100 19.3	237 45.7	14 2.7	9 1.7
		無回答	16 100.0	9 56.3	8 50.0	7 43.8	6 37.5	9 56.3	3 18.8	4 25.0	4 25.0	4 25.0	3 18.8	4 25.0	2 12.5	7 43.8	-	-
	団塊の世代	小計	227 100.0	99 43.6	106 46.7	103 45.4	59 26.0	92 40.5	51 22.5	90 39.6	71 31.3	54 23.8	73 32.2	74 32.6	32 14.1	68 30.0	2 0.9	7 3.1
		男性	111 100.0	49 44.1	57 51.4	49 44.1	29 26.1	46 41.4	28 25.2	48 43.2	37 33.3	28 25.2	38 34.2	36 32.4	17 15.3	36 32.4	2 1.8	3 2.7
		女性	112 100.0	48 42.9	46 41.1	50 44.6	29 25.9	45 40.2	22 19.6	41 36.6	33 29.5	25 22.3	35 31.3	37 33.0	14 12.5	31 27.7	-	4 3.6
		無回答	4 100.0	2 50.0	3 75.0	4 100.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	-	1 25.0	1 25.0	1 25.0	-	-
	団塊より上の世代	小計	831 100.0	443 53.3	437 52.6	414 49.8	271 32.6	296 35.6	174 20.9	331 39.8	237 28.5	183 22.0	213 25.6	270 32.5	144 17.3	237 28.5	9 1.1	57 6.9
		男性	352 100.0	181 51.4	206 58.5	179 50.9	130 36.9	132 37.5	84 23.9	138 39.2	121 34.4	84 23.9	101 28.7	120 34.1	56 15.9	98 27.8	5 1.4	14 4.0
		女性	420 100.0	234 55.7	204 48.6	211 50.2	124 29.5	150 35.7	80 19.0	178 42.4	100 23.8	89 21.2	99 23.6	131 31.2	75 17.9	124 29.5	4 1.0	38 9.0
		無回答	59 100.0	28 47.5	27 45.8	24 40.7	17 28.8	14 23.7	10 16.9	15 25.4	16 27.1	10 16.9	13 22.0	19 32.2	13 22.0	15 25.4	-	5 8.5
無回答	小計	11 100.0	4 36.4	4 36.4	2 18.2	2 18.2	4 36.4	3 27.3	3 27.3	1 9.1	2 18.2	2 18.2	3 27.3	1 9.1	2 18.2	1 9.1	2 18.2	
	男性	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-
	女性	3 100.0	2 66.7	-	1 33.3	1 33.3	-	-	1 33.3	-	-	1 33.3	-	-	1 33.3	-	-	-
	無回答	7 100.0	1 14.3	3 42.9	-	-	3 42.9	1 14.3	2 28.6	-	-	1 14.3	1 14.3	-	-	-	2 28.6	

◆社会福祉協議会の認知度

団塊の世代は、「知っている」は55.5%、「聞いたことはある」は33.0%、合わせると88.5%になり、市全体と比較して、社会福祉協議会の認知度は高いことがわかる。

上段:度数 下段:%	問21 社会福祉協議会の認知度					
	合計	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答	
合計	2006 100.0	1038 51.7	607 30.3	324 16.2	37 1.8	
団塊より下の世代	小計	937 100.0	404 43.1	292 31.2	238 25.4	3 0.3
	男性	402 100.0	158 39.3	123 30.6	118 29.4	3 0.7
	女性	519 100.0	237 45.7	164 31.6	118 22.7	-
	無回答	16 100.0	9 56.3	5 31.3	2 12.5	-
団塊の世代	小計	227 100.0	126 55.5	75 33.0	22 9.7	4 1.8
	男性	111 100.0	59 53.2	34 30.6	15 13.5	3 2.7
	女性	112 100.0	65 58.0	39 34.8	7 6.3	1 0.9
	無回答	4 100.0	2 50.0	2 50.0	-	-
団塊より上の世代	小計	831 100.0	503 60.5	236 28.4	64 7.7	28 3.4
	男性	352 100.0	234 66.5	97 27.6	15 4.3	6 1.7
	女性	420 100.0	239 56.9	124 29.5	39 9.3	18 4.3
	無回答	59 100.0	30 50.8	15 25.4	10 16.9	4 6.8
無回答	小計	11 100.0	5 45.5	4 36.4	-	2 18.2
	男性	1 100.0	1 100.0	-	-	-
	女性	3 100.0	2 66.7	1 33.3	-	-
	無回答	7 100.0	2 28.6	3 42.9	-	2 28.6

◆知っている、聞いたことがある社協活動

市全体と比較して、団塊の世代は「福祉関係団体支援事業」「相談事業」「高齢者支援事業」「善意銀行」「福祉用具やその他器具の貸し出し」「障がい者共同作業所運営事業」において高い認知になっている。団塊世代を性別に見ると、男性の方が全体的に活動内容の認知は低い割合になっている。

上段:度数 下段:%	合計	問22-1 知っている、聞いたことがあるもの(○+◎印)																無回答	
		在宅福祉サー ビス関 連	ボラン ティア推 進活動	区・自治 会単位 の福祉 活動支 援	資金貸 付	共同募 金活動	福祉関 係団体 支援事 業	当事者 活動支 援	介護者 支援事 業	相談事 業	地域福 祉権利 擁護事 業	高齢者 支援事 業	障がい 児・者支 援事業	善意銀 行	福祉用 具やそ の他器 具の貸 し出し	障がい 者共同 作業所 運営事 業	その他		
合計	1645 100	633 38.5	328 19.9	349 21.2	93 5.7	498 30.3	210 12.8	193 11.7	230 14.0	266 16.2	82 5.0	203 12.3	183 11.1	199 12.1	313 19.0	251 15.3	10 0.6	855 52.0	
団塊より下の世代	小計	696 100.0	269 38.6	133 19.1	123 17.7	29 4.2	206 29.6	74 10.6	66 9.5	81 11.6	99 14.2	30 4.3	53 7.6	87 12.5	71 10.2	106 15.2	81 11.6	4 0.6	350 50.3
	男性	281 100.0	116 41.3	47 16.7	53 18.9	12 4.3	91 32.4	35 12.5	23 8.2	18 6.4	41 14.6	10 3.6	18 6.4	20 7.1	30 10.7	37 13.2	30 10.7	-	126 44.8
	女性	401 100.0	147 36.7	85 21.2	68 17.0	16 4.0	111 27.7	38 9.5	42 10.5	61 15.2	57 14.2	19 4.7	34 8.5	66 16.5	39 9.7	66 16.5	48 12.0	4 1.0	216 53.9
	無回答	14 100.0	6 42.9	1 7.1	2 14.3	1 7.1	4 28.6	1 7.1	1 7.1	2 14.3	1 7.1	1 7.1	1 7.1	1 7.1	2 14.3	3 21.4	3 21.4	-	8 57.1
団塊の世代	小計	201 100.0	72 35.8	40 19.9	46 22.9	16 8.0	57 28.4	31 15.4	26 12.9	33 16.4	39 19.4	10 5.0	32 15.9	28 13.9	35 17.4	50 24.9	39 19.4	-	108 53.7
	男性	93 100.0	27 29.0	15 16.1	19 20.4	8 8.6	26 28.0	12 12.9	12 12.9	11 11.8	12 12.9	5 5.4	13 14.0	11 11.8	15 16.1	17 18.3	18 19.4	-	54 58.1
	女性	104 100.0	43 41.3	23 22.1	26 25.0	7 6.7	29 27.9	16 15.4	13 12.5	21 20.2	24 23.1	5 4.8	19 18.3	16 15.4	18 17.3	31 29.8	20 19.2	-	54 51.9
	無回答	4 100.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	3 75.0	1 25.0	1 25.0	3 75.0	-	-	1 25.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	-	-
団塊より上の世代	小計	739 100.0	290 39.2	154 20.8	179 24.2	48 6.5	233 31.5	105 14.2	101 13.7	116 15.7	128 17.3	42 5.7	118 16.0	68 9.2	92 12.4	156 21.1	130 17.6	6 0.8	392 53.0
	男性	331 100.0	130 39.3	72 21.8	96 29.0	19 5.7	108 32.6	52 15.7	46 13.9	47 14.2	62 18.7	21 6.3	55 16.6	33 10.0	38 11.5	66 19.9	59 17.8	2 0.6	168 50.8
	女性	363 100.0	142 39.1	74 20.4	74 20.4	24 6.6	113 31.1	46 12.7	49 13.5	65 17.9	60 16.5	19 5.2	55 15.2	32 8.8	49 13.5	79 21.8	60 16.5	3 0.8	199 54.8
	無回答	45 100.0	18 40.0	8 17.8	9 20.0	5 11.1	12 26.7	7 15.6	6 13.3	4 8.9	6 13.3	2 4.4	8 17.8	3 6.7	5 11.1	11 24.4	11 24.4	1 2.2	25 55.6
無回答	小計	9 100.0	2 22.2	1 11.1	1 11.1	-	2 22.2	-	-	-	-	-	-	-	1 11.1	1 11.1	1 11.1	-	5 55.6
	男性	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0
	女性	3 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3 100.0
	無回答	5 100.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	-	2 40.0	-	-	-	-	-	-	-	1 20.0	1 20.0	1 20.0	-	1 20.0

◆社会福祉協議会活動への期待

市全体と比較して、団塊の世代は「介護保険事業の強化」「ボランティア活動の推進」「区・自治会福祉活動支援」「当事者活動支援・協働」「NPO やボランティアグループへの支援・協働」の項目が高くなっている。

		問23 社会福祉協議会活動への期待																
上段:度数 下段:%	合計	高齢者・障がい者などへの在宅福祉サービス事業	介護保険事業の強化	介護予防や健康づくり事業	子育て支援事業	ボランティア活動の推進	各種福祉講座の開催	何でも相談できる身近な場所づくり	区・自治会福祉活動支援	当事者活動支援・協働	福祉関係団体の活動支援・協働	NPOやボランティアグループへの支援・協働	幅広い分野の市民活動支援・協働	その他	とくに期待していない	無回答		
合計	2006 100.0	1223 61.0	682 34.0	654 32.6	755 37.6	499 24.9	274 13.7	863 43.0	429 21.4	503 25.1	288 14.4	297 14.8	374 18.6	31 1.5	105 5.2	126 6.3		
団塊の世代×性別	団塊より下の世代	小計	937 100.0	522 55.7	281 30.0	408 24.3	185 19.7	110 11.7	339 36.2	125 13.3	225 24.0	106 11.3	119 12.7	161 17.2	17 1.8	64 6.8	44 4.7	
		男性	402 100.0	209 52.0	113 28.1	87 21.6	149 37.1	78 19.4	41 10.2	130 32.3	58 14.4	82 20.4	45 11.2	50 12.4	68 16.9	9 2.2	35 8.7	22 5.5
		女性	519 100.0	302 58.2	160 30.8	137 26.4	252 48.6	107 20.6	67 12.9	205 39.5	66 12.7	140 27.0	60 11.6	68 13.1	93 17.9	8 1.5	27 5.2	21 4.0
		無回答	16 100.0	11 68.8	8 50.0	4 25.0	7 43.8	-	2 -	4 25.0	1 6.3	3 18.8	1 6.3	1 -	-	-	2 12.5	1 6.3
	団塊の世代	小計	227 100.0	142 62.6	92 40.5	81 35.7	73 32.2	68 30.0	37 16.3	101 44.5	55 24.2	66 29.1	30 13.2	46 20.3	43 18.9	4 1.8	11 4.8	15 6.6
		男性	111 100.0	64 57.7	45 40.5	41 36.9	31 27.9	33 29.7	16 14.4	47 42.3	27 24.3	33 29.7	17 15.3	25 22.5	26 23.4	3 2.7	6 5.4	10 9.0
		女性	112 100.0	76 67.9	46 41.1	39 34.8	40 35.7	33 29.5	20 17.9	51 45.5	28 25.0	31 27.7	13 11.6	20 17.9	17 15.2	1 0.9	5 4.5	4 3.6
		無回答	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	3 75.0	-	2 50.0	-	1 25.0	-	-	-	1 25.0
	団塊より上の世代	小計	831 100.0	555 66.8	307 36.9	342 41.2	272 32.7	243 29.2	125 15.0	418 50.3	248 29.8	209 25.2	151 18.2	132 15.9	168 20.2	10 1.2	29 3.5	64 7.7
		男性	352 100.0	239 67.9	133 37.8	146 41.5	135 38.4	116 33.0	58 16.5	163 46.3	122 34.7	96 27.3	64 18.2	59 16.8	82 23.3	5 1.4	11 3.1	22 6.3
		女性	420 100.0	283 67.4	157 37.4	177 42.1	122 29.0	114 27.1	55 13.1	223 53.1	112 26.7	99 23.6	75 17.9	65 15.5	71 16.9	5 1.2	16 3.8	37 8.8
		無回答	59 100.0	33 55.9	17 28.8	19 32.2	15 25.4	13 22.0	12 20.3	32 54.2	14 23.7	14 23.7	12 20.3	8 13.6	15 25.4	-	2 3.4	5 8.5
無回答	小計	11 100.0	4 100.0	2 100.0	3 100.0	2 100.0	3 100.0	2 100.0	5 100.0	1 100.0	3 100.0	1 100.0	-	2 18.2	-	1 27.3	3 27.3	
	男性	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	
	女性	3 100.0	1 33.3	-	1 33.3	-	1 33.3	1 33.3	3 100.0	-	1 33.3	-	-	1 33.3	-	1 33.3	-	
	無回答	7 100.0	2 28.6	1 14.3	1 14.3	1 14.3	2 28.6	-	1 14.3	-	1 14.3	-	-	1 14.3	-	-	3 42.9	

＜まとめと考察＞

団塊の世代は会社勤めをしている人が多く、困りごとの相談や情報の入手は職場関係や友人が多くなっている。しかし、近所づきあいの程度をみると、団塊世代の約7割は近所づきあいがあり、性別では女性よりも男性の方が高い割合になっている。団塊の世代は子育てを経験してきた世代でもあることから、子育てを通じて地域とのつながりが形成されてきたといえる。また、定年を迎えた団塊世代（特に男性）がどのような生き方、働き方、活動を望んでいるのかは個人によって様々である。おそらく、定年後も何らかの形で働きたいと就労意欲は高く、多くの人は現役時代に培った経験や技術を活かしたいのではないだろうか。「働きたい、活動したい」という意欲を満たせる環境が身近な地域にあれば、定年を迎えた団塊世代は地域福祉の担い手として充分に力を発揮できると思われる。したがって、定年を迎える前から定年後の生活について考える機会を作り、地域で活躍できる選択肢を広げておくことはこれからの地域福祉活動にとって意味があると思われる。

●団塊の世代の声

- その年代によって参加したくなるような企画のふれあい参加できるものを取り組んでもらえたらいいと思います。
- 次の介助される年代50～60歳台の趣味を生かせるような企画があったら、ボケるのを遅らせられるかなと思ったりします。会社を退職する前(元気のある内)に次にやる事を見つけられたら。
- 今後(20年先)は老人社会になり、高齢者が安心して暮らせるよう、支援を期待します。
- 大勢の人たちがボランティアへ進んで活動されている事を知り私も出来る事があれば…と思います。これから仕事を置いた後考えようと思います。
- 福祉関係の事については実感していない事が多いので回答しにくかったです。地域の事、特に伝統的な行事や、住民参加の行事が年々少なくなり、青年が地域に住まない現状をどのように打破していくのか、親世代の意識も改革していかなければならないと思います。住みよさ日本一をめざす市政を。偏った福祉にならないよう。
- 毎日凶悪な事件が報道されています。幼い子どもを殺したり命の大切さを知らない殺人者がうろろうしていると思うとゾッとします。そんな時私は昔人間で親から又先人達から人間生活のマナーを教えて頂いて頭のどこかに残ってます。今時の若人は(自分の子どもも含めて)あまり辛気臭い話をきってしまいます。人それぞれにもよると思いますが…。もっと昔ながらの事を未来の若人にどんどん伝えていけたらと思います。
- 高齢者や障がい者の多くは特別視される事を願っていない。したがってこれらの人達が一般社会で仕事出来る・仕事しやすい環境を整えるべきである。
- 市の公共機関をフルに活用できる様に各機関所在地の地図を作って欲しい事と、町から市になっての、以前の町同士の交流会を盛んにして市全体の大きな『福祉の市』としての大きな輪を作ることが必要だと思います。地位や名誉を欲するボランティアさんがいますが、広い心を持った方達の活躍を望みます。民生委員児童委員の人格の見直しをしてください。
- 子どものいない夫婦が年老いて他県から引っ越してきて近所のふれあいも無く一人になったらと不安を抱きます。買い物も不便、病院へ行くのも大変です。住民の健康促進は充実していると考えます。家族のいない年寄りが住むマンション(施設ではなく)集合住宅。プライバシーは守られキッチン・リビングは大きなフロアで談話したりしてゆったりと人生を送ればいいなあと考えます。
- 今後、高齢化がますます進みます。私もあと数年すれば仲間入りです。在宅福祉サービス関連の事業を充実したものにしたいと思います。何事についても地域の団結は大事と考えます。
- 過疎地の可能性が高い地域での少子化対策。健康老人(精神的、肉体的)でいられるような活動。若い両親が安心して働けるように学校終了後の学童保育の設立。
- 公立甲賀病院の移転問題はどうなっているのか？病院側は移転を理由に設備や内容のUPをストップしているようなところがあるように思う。移転地も住民にとって不便な所では、高齢者が行きにくくなるので考えるべきである。車を運転できる人ばかりではないという事。
- 防犯・防災活動は最も重要であるから大いに強化しなければならない。
- 30年以上前には「縁台交流」があったと思う。近所の人々が夕方になるとどこからともなく集まり、世間話やゲームをしたり、時に飲食など楽しい交流ができていたと思い出します。今風の「縁台交流」や「井戸端会議」が復活できればまちづくりに大いに役立つと思います。
- お金を出すのが福祉だとは思いません。多くの市民参加のボランティア活動を推進してください。20年前、母が認知症になり仕事と大変な事がありました。今は私病院も多くなり、あの時のような大変な事は無くなったと思いますが、分からない事がたくさんあると思います。心の支援も出来るといいと思います。
- 現在はインフラ、福祉等は行政の仕事のようになってきているが、住民、地域との連携をもっと密にし、互いが行うものであるとの認識を高めるべく取り組む事が必要であると存じます。
- 社会の最小単位は家庭です。まず家庭を守り隣近所と良い関係をつくって行くことから始まります。身近なところから自分の出来る”人の役に立つ事”を実行する事が大切だと考えます。

(77件の意見より抜粋)

甲賀市民の暮らしと地域福祉に関する意識調査

調査へのご協力をお願い

市民の皆様方には、日頃から甲賀市ならびに甲賀市社会福祉協議会へのご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さてこの度、甲賀市においては、市の地域福祉を推進するために地域福祉計画の策定に取り組むことになりました。また、この計画は、住民参加の重視という共通の考え方に立って、甲賀市社会福祉協議会の地域福祉活動計画と一体的に策定していくことにしています。

そこで、計画の策定に先立って市民の皆様方に地域福祉に関する率直なお考えやご意見をお伺いするための住民意識調査を実施し、計画策定の基礎資料として活用していきたいと考えております。今回、市内にお住まいの20歳以上の方の中から5,000人を無作為に選ばせていただき、そのお一人としてあなた様にご協力をお願いすることになりました。調査結果は無記名で、お答えはすべて統計的に処理され、お名前が出たりしてご迷惑をおかけすることは一切ありません。

今回の調査は、合併後の地域福祉に関する最初の本格的な調査となりますので、お忙しいところ誠に恐縮ですが、この住民意識調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成17年12月

甲賀市
甲賀市社会福祉協議会

ご記入にあたっての注意点

- 1 回答は、封筒の宛名の方ご本人がご回答ください。
- 2 設問には、平成17年12月1日現在の内容でお答えください。
- 3 回答は、設問の指示にしたがって、該当する番号に○をおつけください。ただし設問によっては具体的な内容を記述していただく場合があります。
- 4 本調査へのご質問・お問い合わせは、下記のところまでご連絡ください。

【問い合わせ先】

甲賀市 健康福祉部 社会福祉課

TEL:65-0700

FAX:63-4085

E-mail:koka253000@city.koka.shiga.jp

甲賀市社会福祉協議会

TEL:62-8085

FAX:63-2021

E-mail:info@kokashakyo.or.jp

ご記入いただいた調査票は、12月15日（木）までに
同封の返信用封筒で無記名にてご投函ください。（切手は不要です）

【問11】あなたは現在、ボランティア活動に参加していますか。どちらかに○をつけてください。

※ここでいうボランティア活動とは、たとえば自治会活動や女性会・子ども会活動などのような地域にある組織で行う活動ではなく、個人の自発性・自主性に基づいて行われる活動をいいます。

1. 参加している →問12、13へ

2. 参加していない →問14へ

【問12】問11でボランティア活動に「参加している」と答えた方にお聞きします。それはどのような活動ですか。活動の内容を具体的にお書きください。

ボランティア活動の内容 ⇒

【問13】問11で「参加している」と答えた方にお聞きします。あなたが、ボランティア活動に参加している理由として、自分の気持ちに近いと思うものすべてに○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 活動自体が楽しいから | 2. 生きがい・やりがいを感じるから |
| 3. 活動を通じて人間関係が広がるから | 4. 自分の成長につながると思うから |
| 5. 地域のために役立つと思うから | 6. 社会奉仕だと思うから |
| 7. 誘われたり、勧められたりして仕方ないから | 8. 職場や学校で参加することになっているから |
| 9. その他() | |

【問14】問11でボランティア活動に「参加していない」と答えた方にお聞きします。あなたが、ボランティア活動に参加していない理由として、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. (仕事や育児、家事などで忙しく)時間がないから
2. 参加したい活動がないから
3. 活動自体がよくわからないから
4. どのように参加してよいかわからないから
5. 体力や健康状態に自信がないから
6. 経済的余裕がないから
7. 人間関係がわずらわしいから
8. 関心がないから
9. その他()

【問15】すべての方にお聞きします。今後、ボランティア活動をさらに発展させるために、どのような基盤整備や活動が必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 相談窓口の充実
2. 専門性のある職員やアドバイザーの配置
3. 活動拠点の確保
4. 広報・啓発の充実
5. 学校での福祉教育の充実
6. 職場のボランティア休暇の充実
7. その他()

暮らしの課題や福祉ニーズとその対応についておたずねします。

【問16】あなたのお住まいの身近な地域で、次の課題について、日頃から何とかしなければならないと思っていますか。以下の項目について、あてはまる番号に○をつけてください。

項 目		そう思う	思わない	どちらとも いえない
高齢者分野の課題	① 高齢者の健康づくりや生きがいがづくりの取り組み	1	2	3
	② 高齢者の孤立化や生活不安、閉じこもり	1	2	3
	③ 寝たきりや認知症など的高齢者のいる世帯の介護負担	1	2	3
	④ 介護に必要な費用	1	2	3
	⑤ 老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設	1	2	3
	⑥ 高齢者虐待や介護放棄	1	2	3
	⑦ 高齢者の就労	1	2	3
	⑧ 高齢者のつどいや憩いの場	1	2	3
児童・子育て分野の課題	① 子育てに関する相談窓口や支援	1	2	3
	② 働く親の条件にあった保育所や学童保育	1	2	3
	③ 子どもの学力や進学	1	2	3
	④ 子どもの非行・いじめ・不登校・引きこもり	1	2	3
	⑤ 子どもが安心して遊べる場所	1	2	3
	⑥ 子育てに必要な費用	1	2	3
	⑦ ひとり親家庭の子育てに関する周囲の理解や支援	1	2	3
	⑧ 児童虐待や育児放棄	1	2	3
	⑨ 子どものつどいや憩いの場	1	2	3
障がい児・者分野の課題	① 障がい児・者のいる世帯の介護負担	1	2	3
	② 障がい児・者に対する周囲の理解や支援	1	2	3
	③ 障がい児・者と障がいの無い人が地域で共に暮らすこと	1	2	3
	④ 障がい児・者の社会参加	1	2	3
	⑤ 障がい児・者に対する相談窓口	1	2	3
	⑥ 障がい児・者が利用できる身近な生活施設	1	2	3
	⑦ 障がい児の療育・教育・生活	1	2	3
	⑧ 障がい者の就労	1	2	3
	⑨ 障がい児・者のつどいや憩いの場	1	2	3
その他 高齢者、児童・子育て、障がい児・者に関わることで、身近な地域で何とかしなければならないとお考えの課題があればその内容をお書きください。				

【問17】あなたは、お住まいの小学校区の生活環境をどのようにお考えですか。

以下の各項目について、あてはまる番号に○をつけてください。

項 目	大変良い	良 い	ふつう	悪 い	大変悪い
① 自然環境の豊かさ	1	2	3	4	5
② 防犯(犯罪の少なさ)	1	2	3	4	5
③ 防災(防災組織や避難所)	1	2	3	4	5
④ 交通の利便性	1	2	3	4	5
⑤ 道路の安全性・歩きやすさ	1	2	3	4	5
⑥ 買い物の便利さ	1	2	3	4	5
⑦ 病院・診療所の利用し易さ	1	2	3	4	5
⑧ 公的施設等のバリアフリー	1	2	3	4	5
⑨ 住民同士のふれあいや交流	1	2	3	4	5

【問18】あなたは、地域活動への男性や女性の参加をどのようにお考えですか。

以下の各項目について、あてはまる番号に○をつけてください。

項 目	男性がもっと参加すべきである	女性がもっと参加すべきである	今のままでよい	わからない
① 区・自治会・町内会活動	1	2	3	4
② 福祉・環境などのボランティア活動	1	2	3	4
③ 趣味・スポーツクラブ・各種講座などの活動	1	2	3	4
④ 子育て支援活動	1	2	3	4
⑤ 消費者団体・生活協同組合などの活動	1	2	3	4
⑥ 防犯・防災活動	1	2	3	4
⑦ 国際交流活動	1	2	3	4

【問19】今後、地域において住民自身が福祉活動を推進していくにはどのようにすればよいと思いますか。あなたのお考えに近いものすべてに○をつけてください。

1. 住民のボランティア活動を活発にしていく
2. 区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく
3. 区・自治会ごとに地域福祉を推進する住民組織をつくる
4. 小学校区ごとに地域福祉をみんなで推進する住民組織を新しくつくる
5. 住民懇談会や学習会のような機会をたくさん設けていく
6. 身近な地域で地域住民が気軽に集える施設をたくさんつくる
7. 福祉は行政の責任で行うべきであり、特に住民の活動はいらないと思う
8. その他()
9. よくわからない

【問20】 今後、甲賀市が重点を置くべき福祉施策について、次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. すべての人の人権がまもられるまちづくりの推進
2. 高齢者や障がい者に配慮した道路・建物・駅等の整備
3. 高齢者や障がい者のための福祉施設の充実
4. 子どものための福祉施設の充実
5. サービス利用手続きの簡素化・スピード化
6. ボランティア団体、NPO※等の市民活動への援助
7. 在宅福祉サービスの充実
8. 福祉情報の提供
9. 相談活動の充実
10. 行政と他の機関、団体との連携の強化
11. 福祉の専門的な人材の確保と育成
12. 福祉講座や福祉教育の充実
13. 各種手当など金銭的な援助
14. その他()

※NPO: 「Non-Profit Organization」の略で、民間非営利活動組織(団体)。市民が自主的に組織・運営する営利を目的としない市民活動組織。

社会福祉協議会についておたずねします。

※ 社会福祉協議会は、社会福祉法に位置づけられた地域福祉を推進する団体で、住民が主体となった身近な地域の支えあい活動やボランティア活動、福祉教育の推進、暮らしの困りごとに関する相談、各種在宅福祉サービス等を行っています。社会福祉法人として、公的(甲賀市など)な支援を受けながらも民間組織として独立した団体です。

【問21】 あなたは、社会福祉協議会をご存知ですか。1つに○をつけてください。

1. 知っている →問22へ
2. 聞いたことはある(名前は知っているが、どのような事業・活動をしているか知らない) →問22へ
3. 知らない →問23へ

【問22】 問21で「知っている」「聞いたことはある」と答えた方におたずねします。それほどのような事業、活動ですか。知っている、聞いたことがあるものすべてに○印を、参加(利用)したものには◎をつけてください。

1. 在宅福祉サービス関連 (ホームヘルパー・デイサービス・ケアプラン作成・在宅介護支援センター・訪問看護・移動入浴・配食サービス・移送サービス・ガイドヘルパー派遣など)
2. ボランティア推進活動 (ボランティア登録・ボランティア紹介・福祉講座・体験学習など)
3. 区・自治会単位の福祉活動支援 (ふれあいきいきサロン・地区懇談会・地区福祉支援など)
4. 資金貸付 (生活福祉資金・小口資金など)
5. 共同募金活動
6. 福祉関係団体支援事業
7. 当事者活動支援 (障がい者・高齢者・介護者など)
8. 介護者支援事業 (介護者の集い・一日旅行・介護者サロンなど)
9. 相談事業 (心配ごと相談・法律相談・その他専門相談など)
10. 地域福祉権利擁護事業※

※地域福祉権利擁護事業: 認知性高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が充分でない人に対して、福祉サービスの利用に関する相談・助言、必要な手続や利用料の支払いに関する支援等の事業。

11. 高齢者支援事業（独居高齢者つどいなど）
12. 障がい児・者支援事業（サマーホリデースクール・その他つどいなど）
13. 善意銀行※
14. 福祉用具やその他器具の貸し出し
15. 障がい者共同作業所運営事業
16. その他(具体的に)

※善意銀行:「人に役に立つことをしたい」と思う方から『善意のお金』『善意の品物』の寄付をいただき、これらの「善意」を必要に応じて福祉のいろんな分野で有効に活用する事業。

【問23】 すべての方にお聞きします。あなたは社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 高齢者・障がい者などへの在宅福祉サービス事業
2. 介護保険事業の強化
3. 介護予防や健康づくり事業
4. 子育て支援事業
5. ボランティア活動の推進
6. 各種福祉講座の開催
7. 何でも相談できる身近な場所づくり
8. 区・自治会福祉活動(ふれあいいきいきサロンや地域福祉活動・組織化)支援
9. 当事者(障がい・高齢・介護者など)活動支援・協働
10. 福祉関係団体の活動支援・協働
11. NPOやボランティアグループへの支援・協働
12. 幅広い分野の市民活動支援・協働
13. その他()
14. とくに期待していない

【問24】 最後に、今後甲賀市を住みよいまちにしていくためには、どのようなことに取り組む必要があると思いますか。あなたのご意見やご要望について、ご自由にお書きください。

長時間アンケートにご協力いただきありがとうございました。

この調査の結果は、「甲賀市地域福祉計画・甲賀市地域福祉活動計画策定のための市民アンケート調査報告」として公表するとともに、甲賀市ホームページ (<http://www.city.koka.shiga.jp/>) に掲載し、市民の皆様の貴重なご意見として、計画策定の参考にさせていただきます。

「甲賀市民の暮らしと地域福祉に関する意識調査」
のまとめ

平成18年6月発行

編集・発行

甲賀市健康福祉部社会福祉課

TEL : 0748-65-0700

FAX : 0748-63-4085

甲賀市社会福祉協議会

TEL : 0748-62-8085

FAX : 0748-63-2021